

河合町
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
報告書

令和3年3月

河 合 町

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収状況	1
4. 報告書の留意点・見方	1
第2章 リスクの発生状況	2
1. 運動器機能の低下	2
2. 転倒リスク	4
3. 閉じこもり傾向	6
4. 低栄養状態	8
5. 口腔機能の低下	10
6. 認知機能の低下	12
7. うつ傾向	14
8. IADL（手段的自立度）の低下	16
9. 生活機能全般の低下	18
10. 知的能動性の低下	21
11. 社会的役割の低下	23
12. 生活機能総合評価の低下者	25
13. 事業対象者	27
第3章 調査結果	29
1. 回答者の属性	29
2. 家族や生活状況について	32
3. からだを動かすことについて	55
4. 食べることについて	69
5. 毎日の生活について	82
6. 地域での活動について	108
7. たすけあいについて	130
8. 健康について	154
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	172
10. その他高齢者福祉施策などについて	179
第4章 資料	191
1. 調査票	191

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、本町にお住まいの65歳以上の要支援1・2の方、介護予防・生活支援サービス事業対象者（以下「事業対象者」と記載します。）及び要介護認定を受けていない方から無作為に選んだ1,000人の皆様を対象に、現在の心身の状況や、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対するお考えをお聞かせいただき、令和2年度に策定する「河合町高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の基礎資料として活用するために実施したものです。

2. 調査方法

（1）調査対象

町内在住の要支援1・2の方、事業対象者及び要介護認定を受けていない方から1,000人を無作為抽出

（2）調査期間

令和2年9月7日～令和2年9月30日

（3）調査方法

郵送配布・郵送回収

3. 回収状況

図表 1-3-1 回収状況

配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,000人	720件	720件	72.0%

4. 報告書の留意点・見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方をしているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、不明なものや無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

第2章 リスクの発生状況

本調査では、要介護状態になる前の高齢者に対し、地域の課題や必要なサービス等を把握するため、回答結果から運動器機能の低下や転倒リスク等、要介護状態になるリスクの判定をしています。

1. 運動器機能の低下

下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

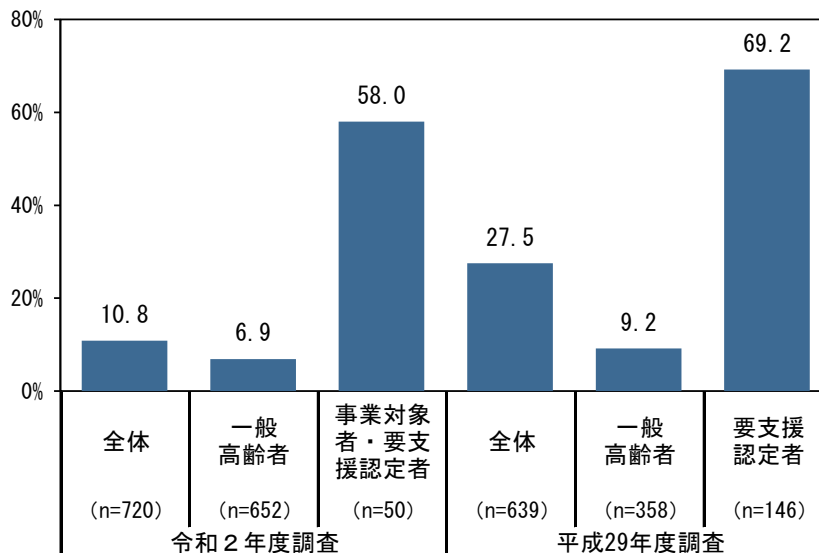
図表 2-1-1 運動器機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問2(3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

運動器機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で10.8%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が6.9%、事業対象者・要支援認定者が58.0%となっています。

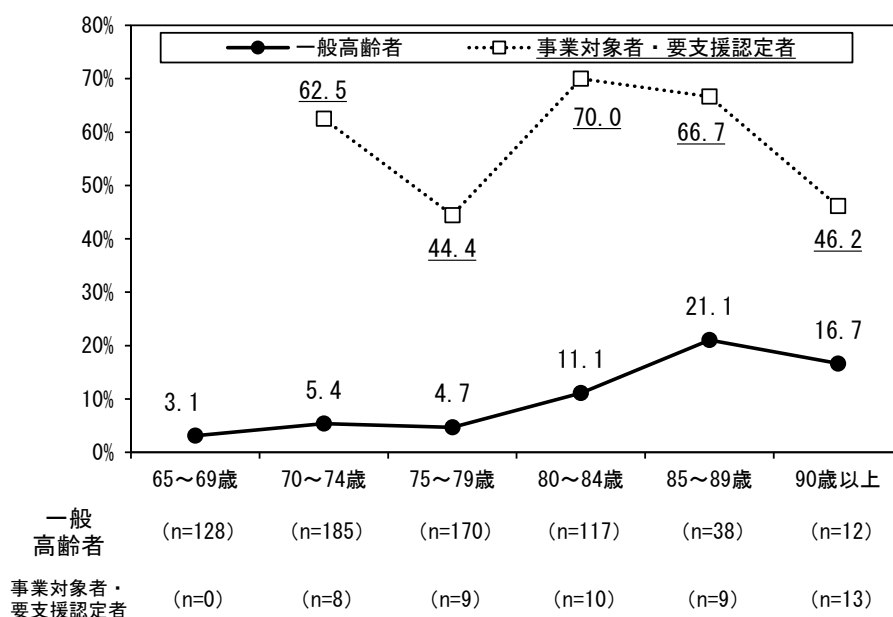
平成29年度調査と比較すると、一般高齢者における該当者の割合(6.9%)は、平成29年度調査(9.2%)より2.3ポイント減少しています。

図表 2-1-2 運動器機能の低下 該当者の割合



認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では 89 歳以下で年齢が上がるにつれて概ね割合が増加しており、85～89 歳が 21.1%で最も高くなっています。

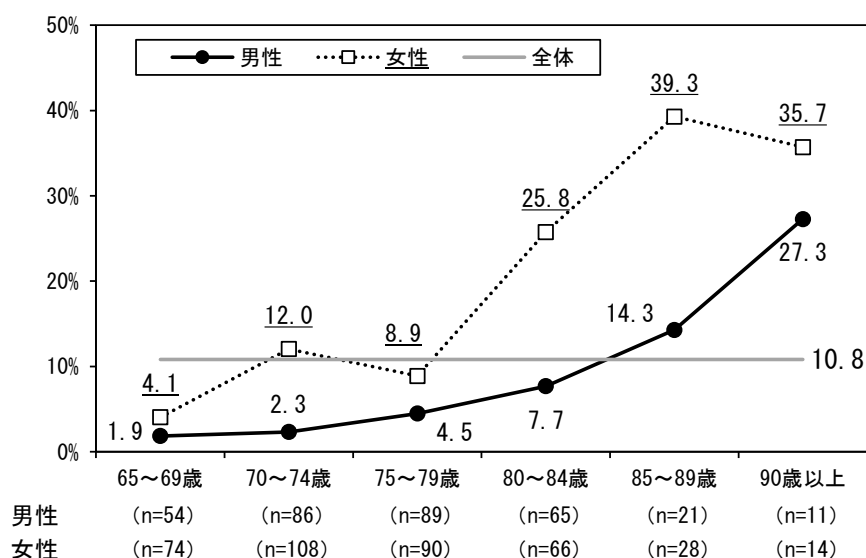
図表 2-1-3 運動器機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階層で女性の割合が男性よりも高くなっています。

また、男性では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90 歳以上が 27.3%で最も高く、女性では、75～79 歳から 80～84 歳で大きく増加し、85～89 歳が 39.3%で最も高くなっています。

図表 2-1-4 運動器機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



2. 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

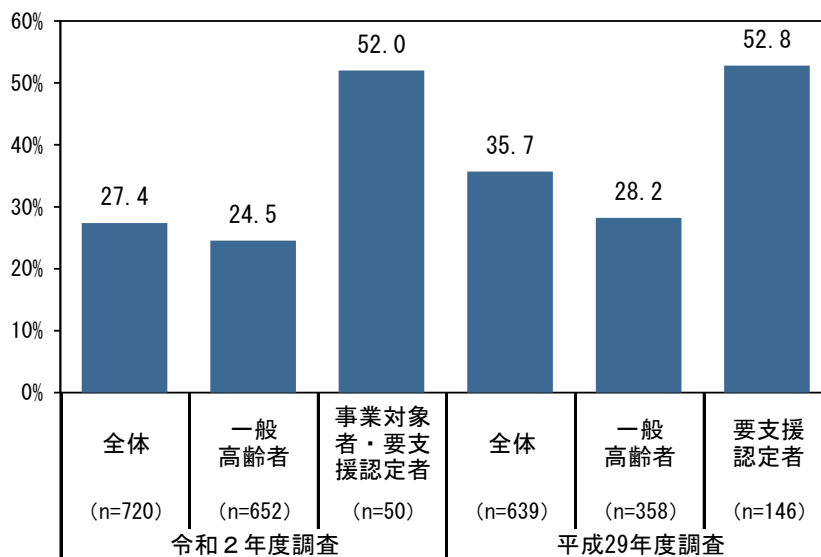
図表 2-2-1 転倒リスクを判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

転倒リスクがあると判定された高齢者の割合は、全体で27.4%で、認定状況別でみると、一般高齢者が24.5%、事業対象者・要支援認定者が52.0%となっています。

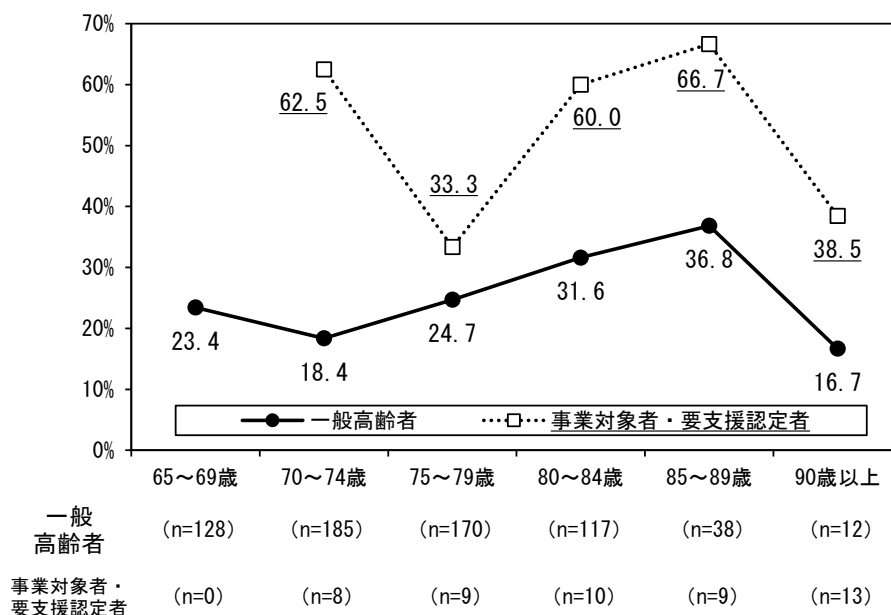
平成29年度調査と比較すると、一般高齢者における該当者の割合(24.5%)は、平成29年度調査(28.2%)より3.7ポイント減少しています。

図表 2-2-2 転倒リスク 該当者の割合



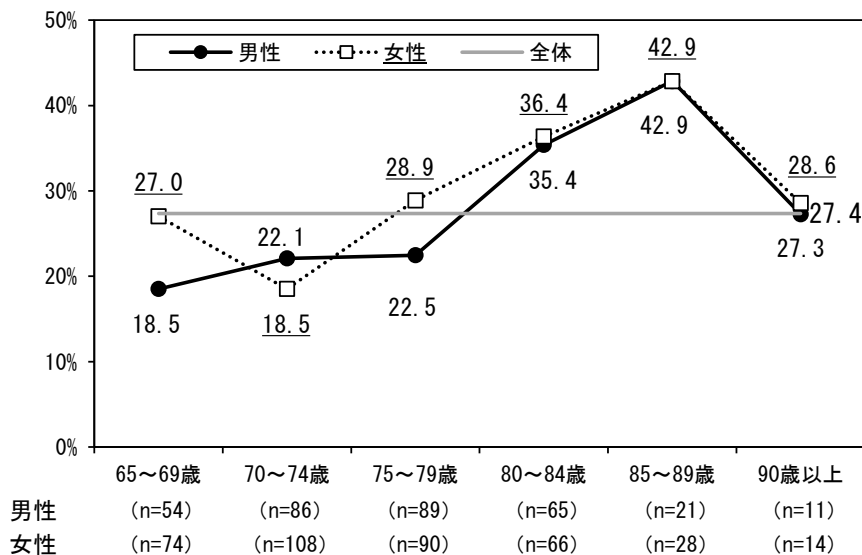
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では70～89歳で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85～89歳が36.8%で最も高くなっています。

図表 2-2-3 転倒リスク 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性・女性いずれも85～89歳が最も高く、男性・85～89歳、女性・85～89歳いずれも42.9%となっています。

図表 2-2-4 転倒リスク 該当者の割合 性別・年齢別



3. 閉じこもり傾向

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向のある高齢者として判定しました。

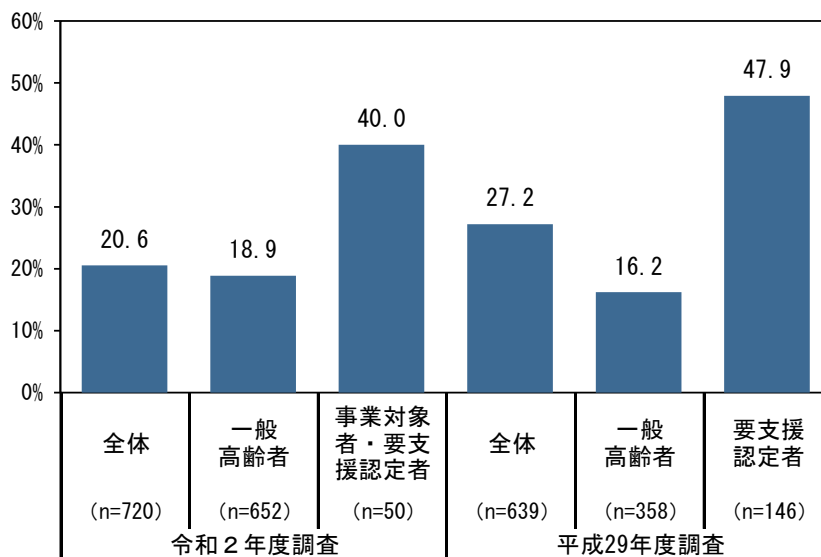
図表 2-3-1 閉じこもり傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

閉じこもり傾向と判定された高齢者の割合は、全体で20.6%で、認定状況別でみると、一般高齢者が18.9%、事業対象者・要支援認定者が40.0%となっています。

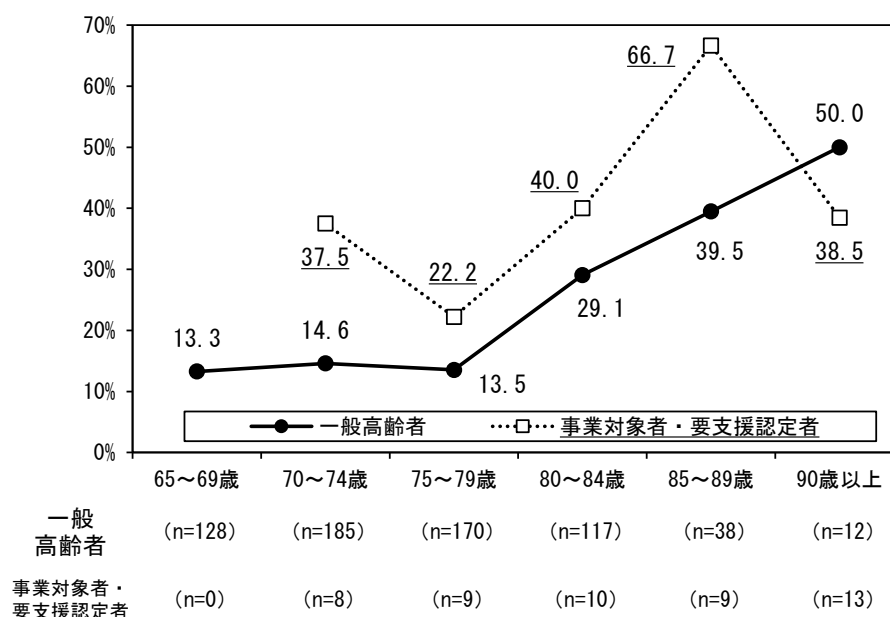
平成29年度調査と比較すると、一般高齢者における該当者の割合(18.9%)は、平成29年度調査(16.2%)より2.7ポイント増加しています。

図表 2-3-2 閉じこもり傾向 該当者の割合



認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が50.0%で最も高くなっています。

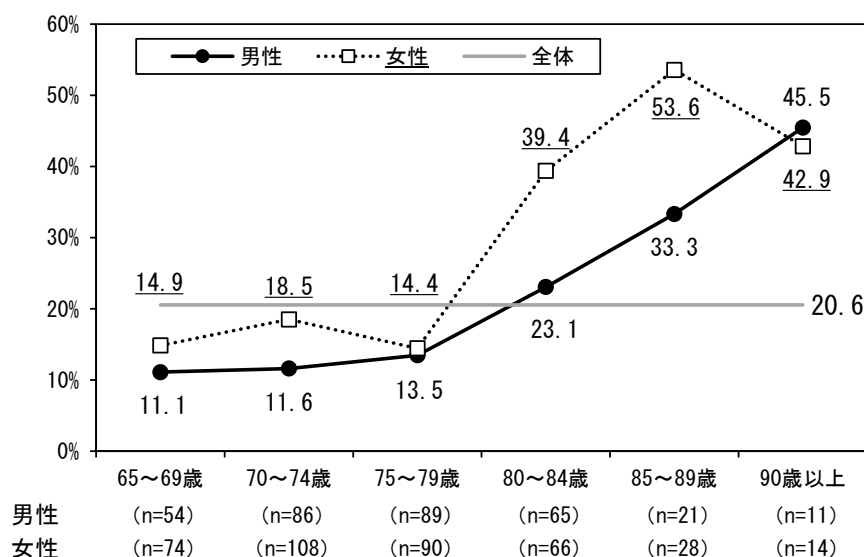
図表 2-3-3 閉じこもり傾向 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、89歳以下で女性の割合が男性よりも高くなっています。

また、男性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が45.5%で最も高く、女性では85～89歳が53.6%で最も高くなっています。

図表 2-3-4 閉じこもり傾向 該当者の割合 性別・年齢別



4. 低栄養状態

下記の2設問について、2設問ともに該当した場合、低栄養状態にある高齢者として判定しました。

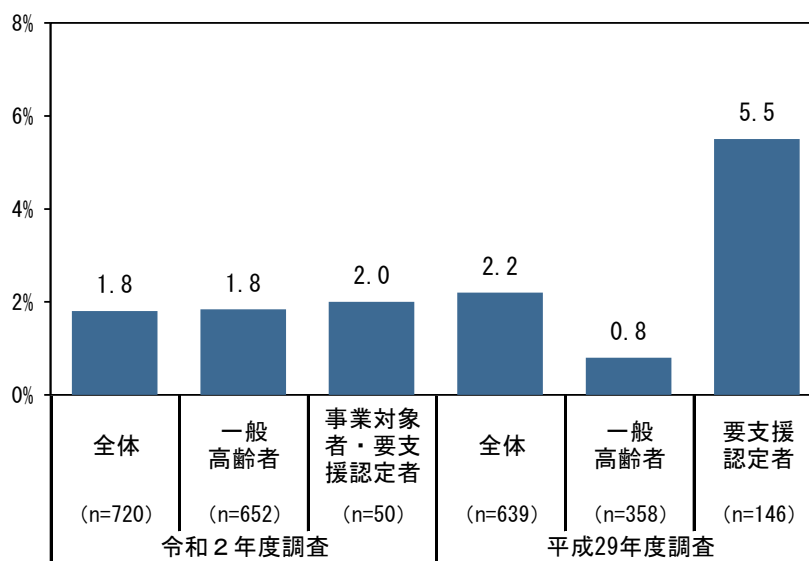
図表 2-4-1 低栄養状態を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出されるBMI (体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)})が18.5以下
問3 (7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

低栄養状態にあると判定された高齢者の割合は、全体で1.8%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が1.8%、事業対象者・要支援認定者が2.0%となっています。

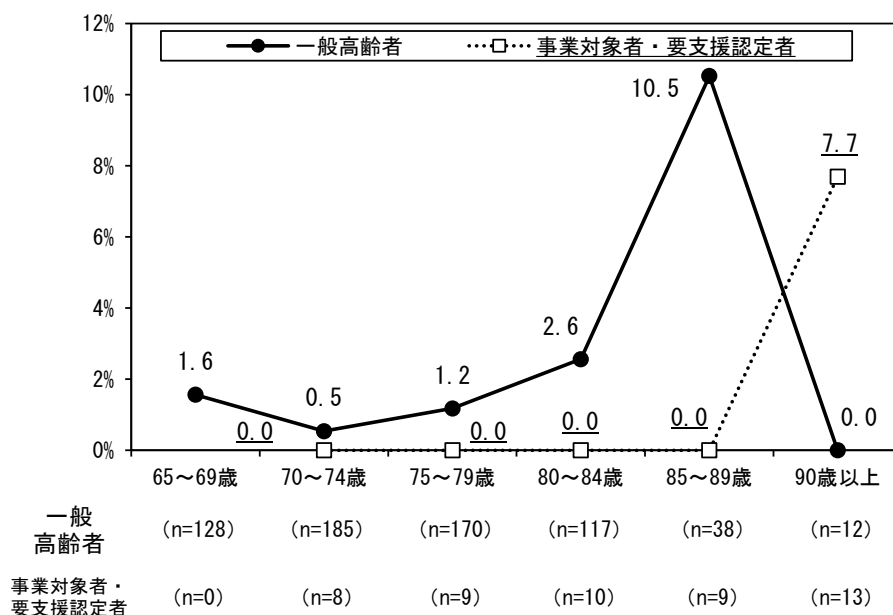
平成29年度調査と比較すると、一般高齢者における該当者の割合(1.8%)は、平成29年度調査(0.8%)より1.0ポイント増加しています。

図表 2-4-2 低栄養状態 該当者の割合



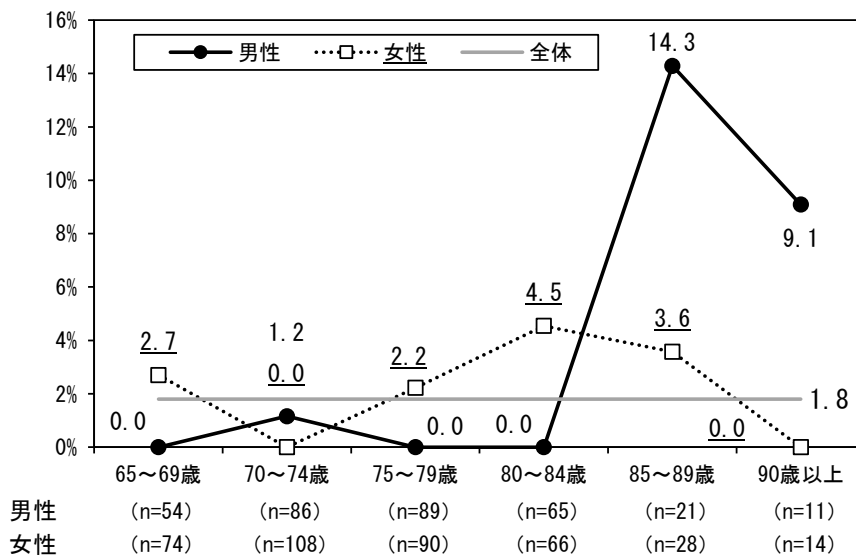
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では85～89歳が10.5%で最も高くなっています。

図表 2-4-3 低栄養状態 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では85～89歳が14.3%で最も高く、女性では80～84歳が4.5%で最も高くなっています。

図表 2-4-4 低栄養状態 該当者の割合 性別・年齢別



5. 口腔機能の低下

下記の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能の低下している高齢者として判定しました。

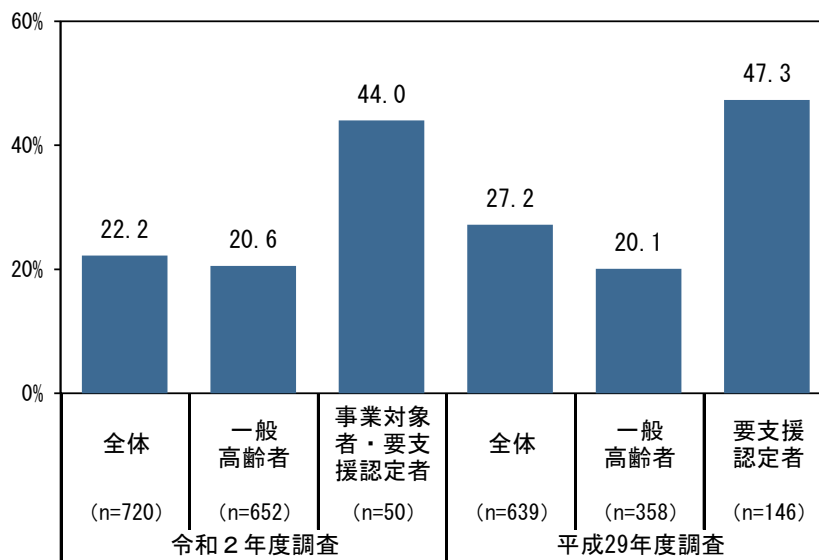
図表 2-5-1 口腔機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問3 (4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

口腔機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で 22.2%で、認定状況別でみると、一般高齢者が 20.6%、事業対象者・要支援認定者が 44.0%となっています。

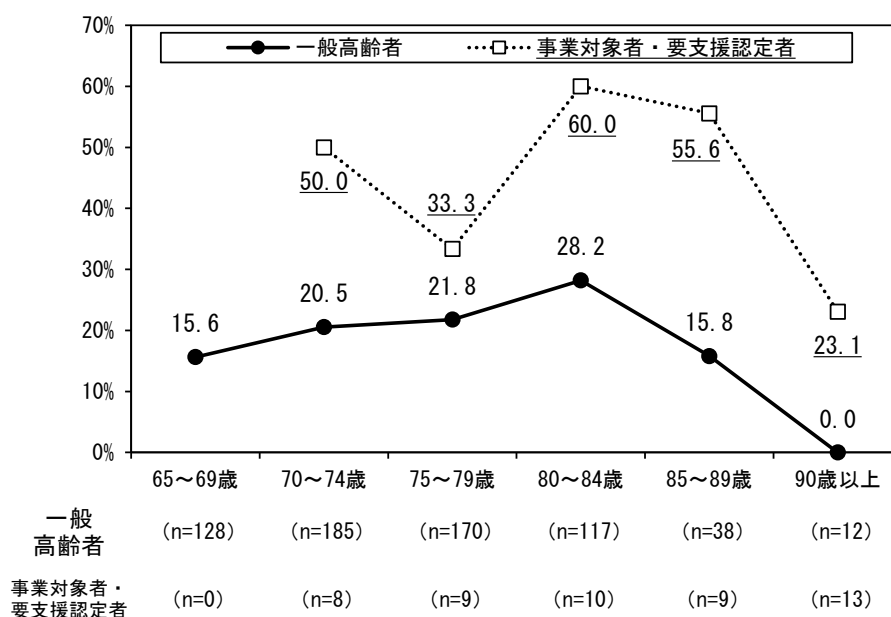
平成29年度調査と比較すると、一般高齢者における該当者の割合に大きな差は見られません。

図表 2-5-2 口腔機能の低下 該当者の割合



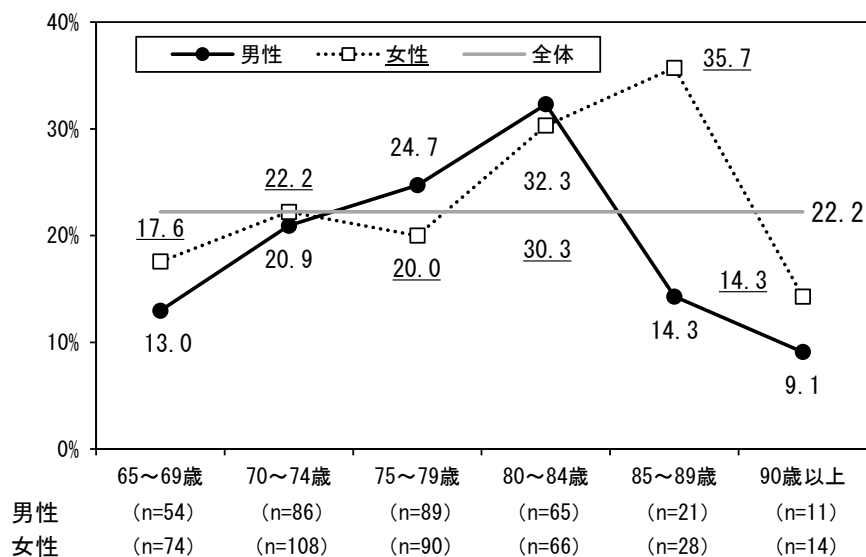
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では84歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、80～84歳が28.2%で最も高くなっています。

図表 2-5-3 口腔機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性は80～84歳が32.3%で最も高く、女性は85～89歳が35.7%で最も高くなっています。

図表 2-5-4 口腔機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



6. 認知機能の低下

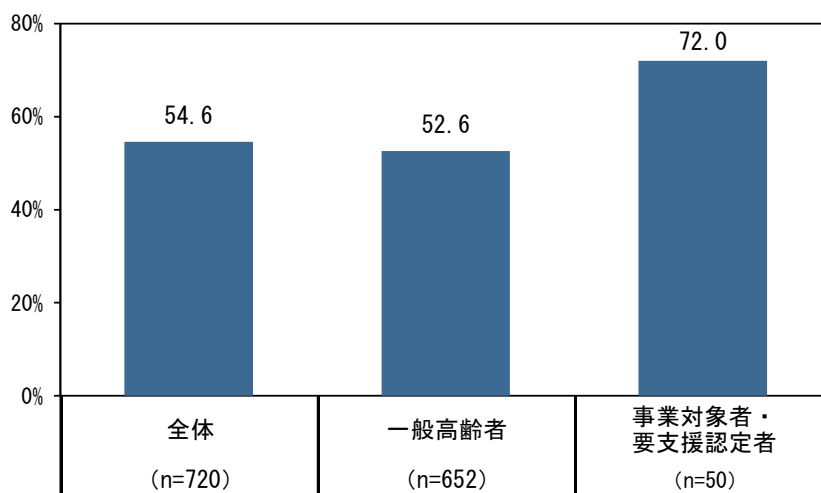
下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-6-1 認知機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問4 (2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4 (3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

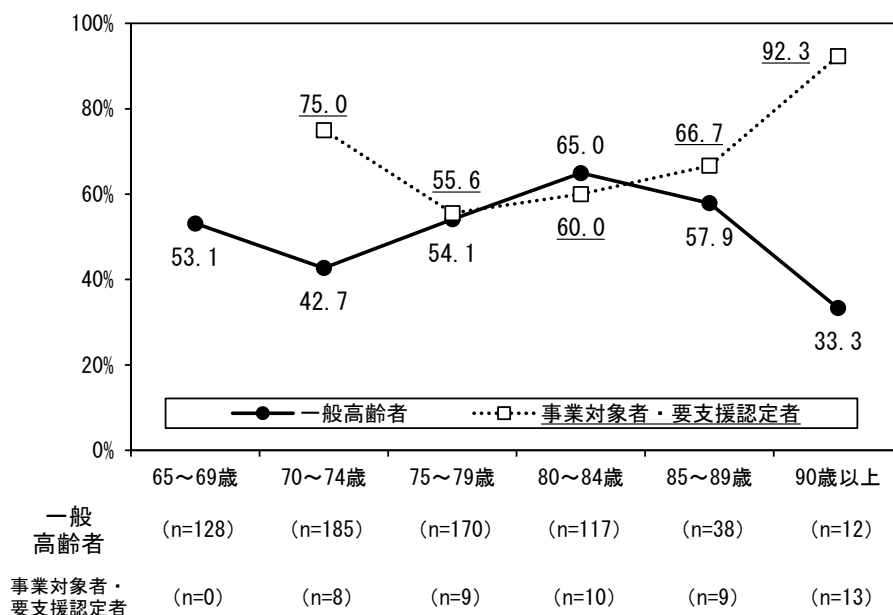
認知機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で 54.6%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が 52.6%、事業対象者・要支援認定者が 72.0%となっています。

図表 2-6-2 認知機能の低下 該当者の割合



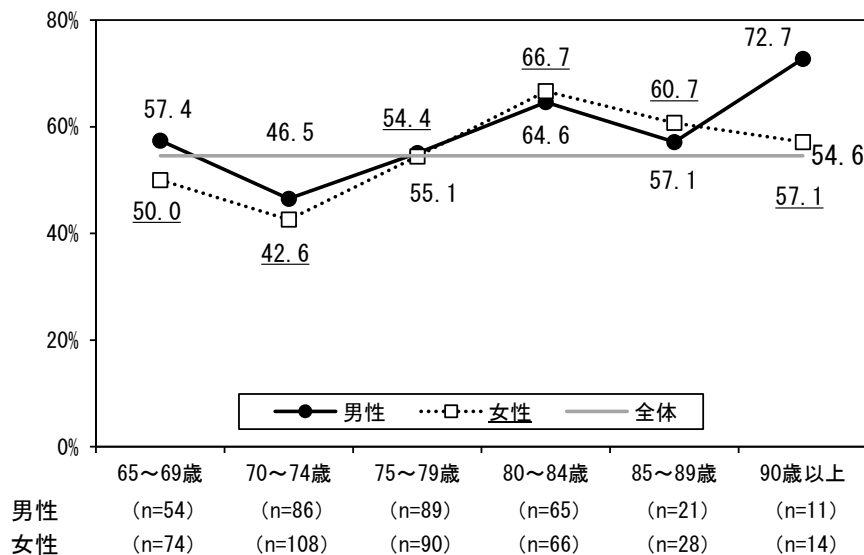
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では80～84歳が65.0%で最も高くなっています。

図表 2-6-3 認知機能の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、男性では90歳以上が72.7%で最も高く、女性では80～84歳が66.7%で最も高くなっています。

図表 2-6-4 認知機能の低下 該当者の割合 性別・年齢別



7. うつ傾向

下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

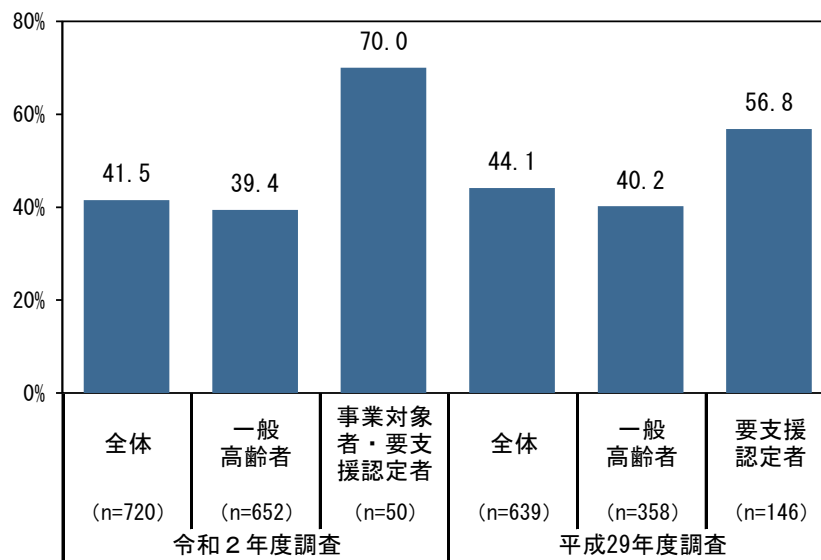
図表 2-7-1 うつ傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

うつ傾向と判定された高齢者の割合は、全体で41.5%で、認定状況別でみると、一般高齢者が39.4%、事業対象者・要支援認定者が70.0%となっています。

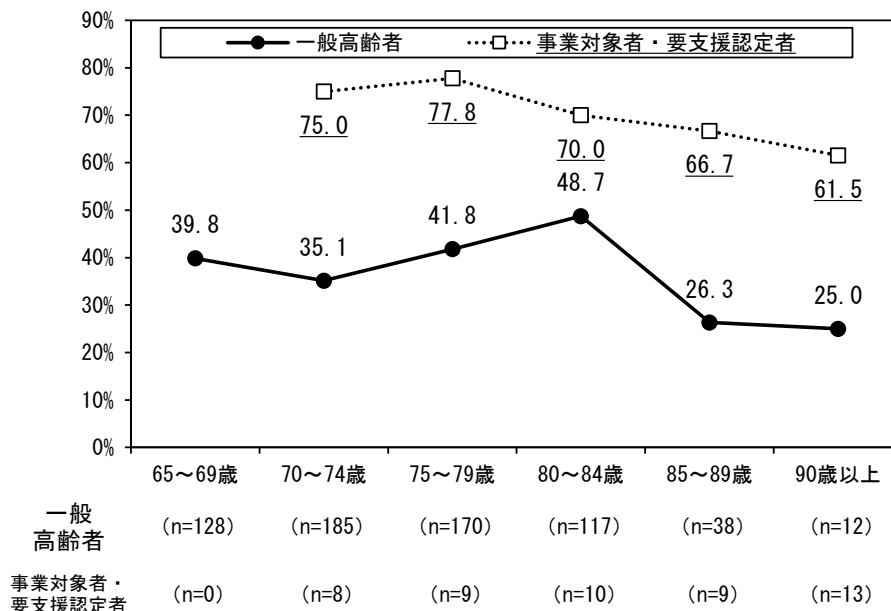
平成29年度調査と比較すると、全体における該当者の割合(41.5%)は、平成29年度調査(44.1%)より2.6ポイント減少しています。

図表 2-7-2 うつ傾向 該当者の割合



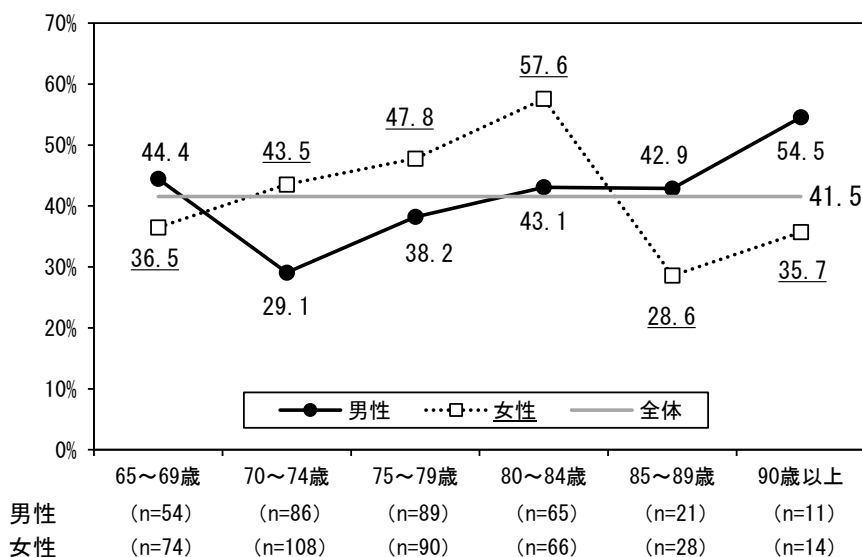
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、70歳以上の年齢階層で事業対象者・要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっており、一般高齢者では、80～84歳が48.7%で最も高くなっています。

図表 2-7-3 うつ傾向 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、男性では90歳以上が54.5%で最も高く、女性では80～84歳が57.6%で最も高くなっています。

図表 2-7-4 うつ傾向 該当者の割合 性別・年齢別



8. IADL（手段的自立度）の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADLが低下している高齢者として判定しました。

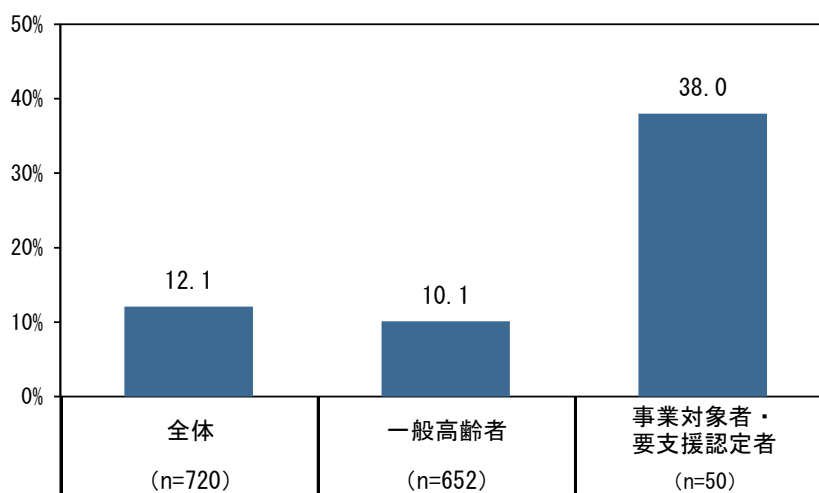
IADL（手段的自立度）とは、買い物や洗濯、掃除等の家事全般や、金銭管理や服薬管理、外出して乗り物に乗ること、趣味のための活動などの自立度のことで、食事を摂ることや排せつ、入浴などの日常生活動作（ADL）より複雑で高次の動作を行える自立度の程度のことです。

図表 2-8-1 IADLの低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4（4）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4（6）	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

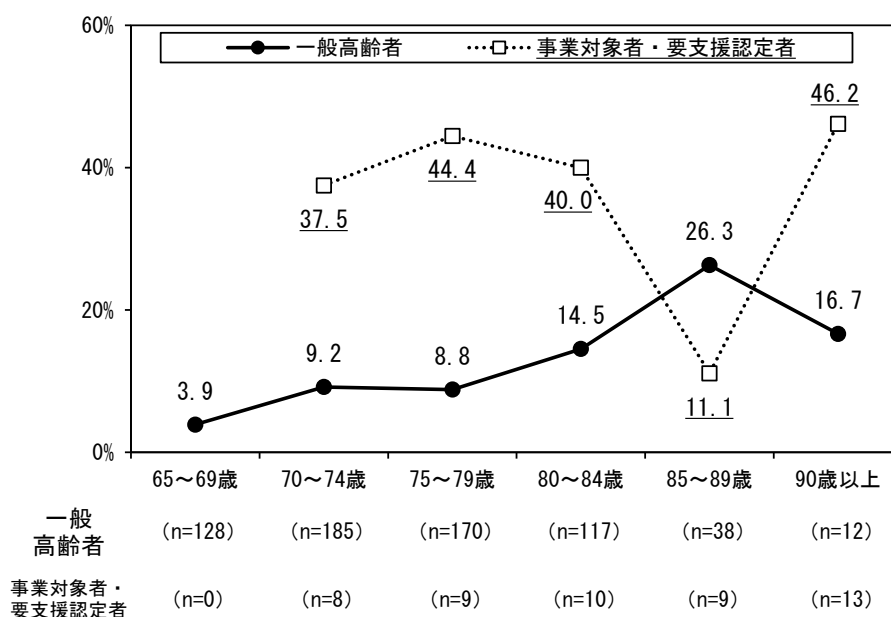
IADLが低下していると判定された高齢者の割合は、全体で12.1%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が10.1%、事業対象者・要支援認定者が38.0%となっています。

図表 2-8-2 IADLの低下 該当者の割合



認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では 89 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85～89 歳が 26.3%で最も高くなっています。

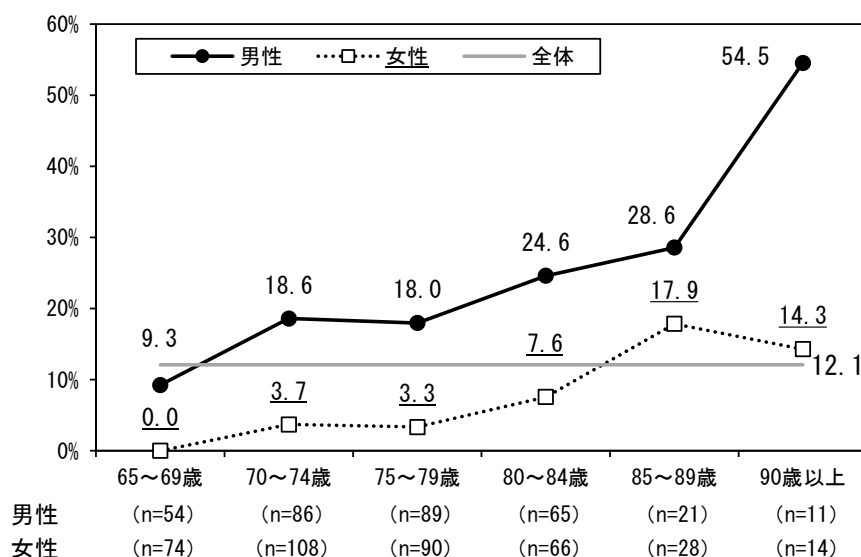
図表 2-8-3 IADLの低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階層で男性の割合が女性より高くなっています。

また、男性では 90 歳以上が 54.5%で最も高く、女性では 85～89 歳が 17.9%で最も高くなっています。

図表 2-8-4 IADLの低下 該当者の割合 性別・年齢別



9. 生活機能全般の低下

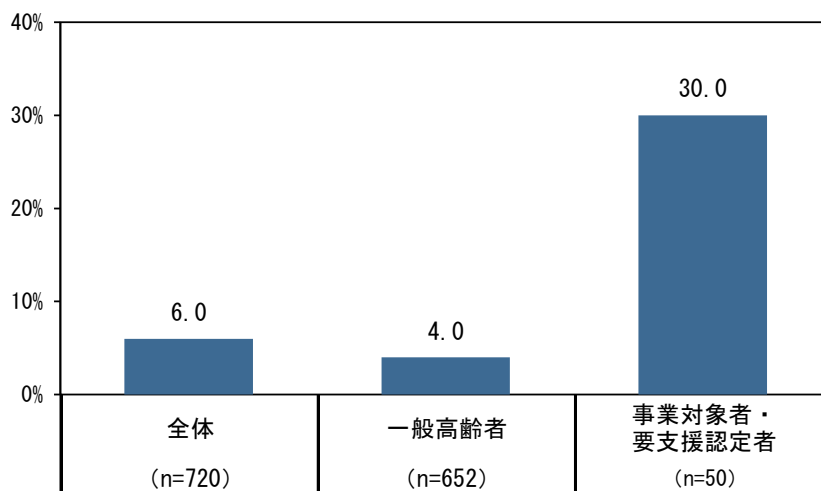
下記の 20 設問について、各設問に該当する選択肢を回答した場合を 1 点として、20 点満点で評価し、10 点以上の場合、生活機能全般が低下している高齢者として判定しました。

図表 2-9-1 生活機能全般の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問 2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
問 2 (3)	15 分位続けて歩いていますか	「3. できない」
問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 「2. 1 度ある」
問 2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」
問 2 (6)	週に 1 回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週 1 回」
問 2 (7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 「2. 減っている」
問 3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下
問 3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問 3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問 3 (4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問 3 (7)	6 か月間で 2～3 kg 以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問 4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
問 4 (2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問 4 (3)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」
問 4 (4)	バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」
問 4 (5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「3. できない」
問 4 (8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「3. できない」
問 4 (14)	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問 4 (15)	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」

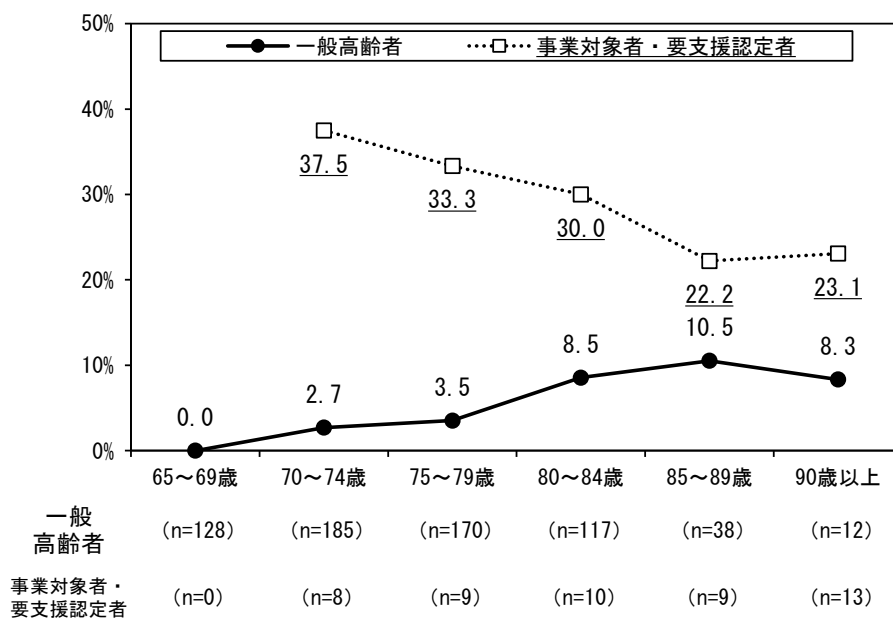
生活機能全般が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で6.0%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が4.0%、事業対象者・要支援認定者が30.0%となっています。

図表 2-9-2 生活機能全般の低下 該当者の割合



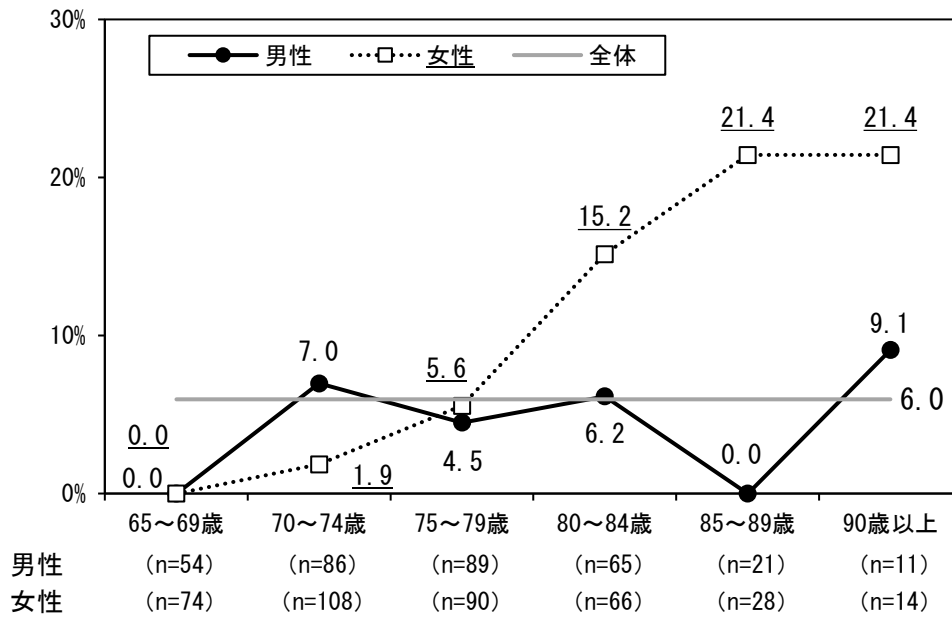
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、85～89歳が10.5%で最も高くなっています。

図表 2-9-3 生活機能全般の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、男性では90歳以上が9.1%で最も高く、女性では年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、85～89歳、90歳以上がいずれも21.4%で最も高くなっています。

図表 2-9-4 生活機能全般の低下 該当者の割合 性別・年齢別



10. 知的能動性の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、知的能動性の低下している高齢者として判定しました。

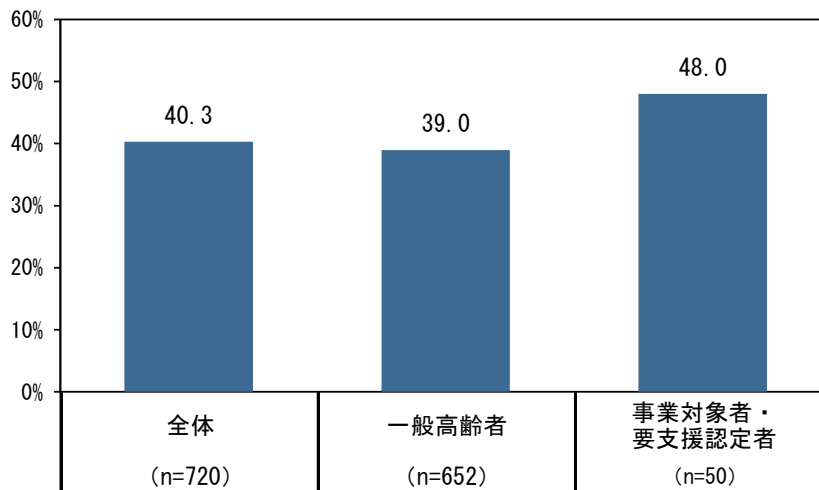
知的能動性とは、書類などを書くことや、本や新聞を読むこと、物事に対する関心など、高齢者の知的活動の自立度の程度のことです。

図表 2-10-1 知的能動性の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4(9)	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	「1. はい」
問4(10)	新聞を読んでいますか	「1. はい」
問4(11)	本や雑誌を読んでいますか	「1. はい」
問4(13)	健康についての記事や番組に関心がありますか	「1. はい」

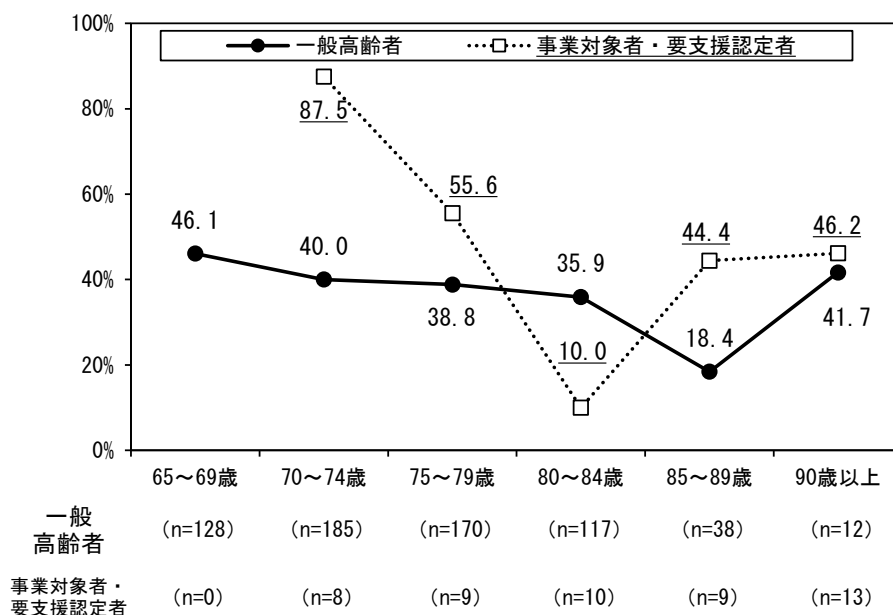
知的能動性が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で40.3%で、認定状況別でみると、一般高齢者が39.0%、事業対象者・要支援認定者が48.0%となっています。

図表 2-10-2 知的能動性の低下 該当者の割合



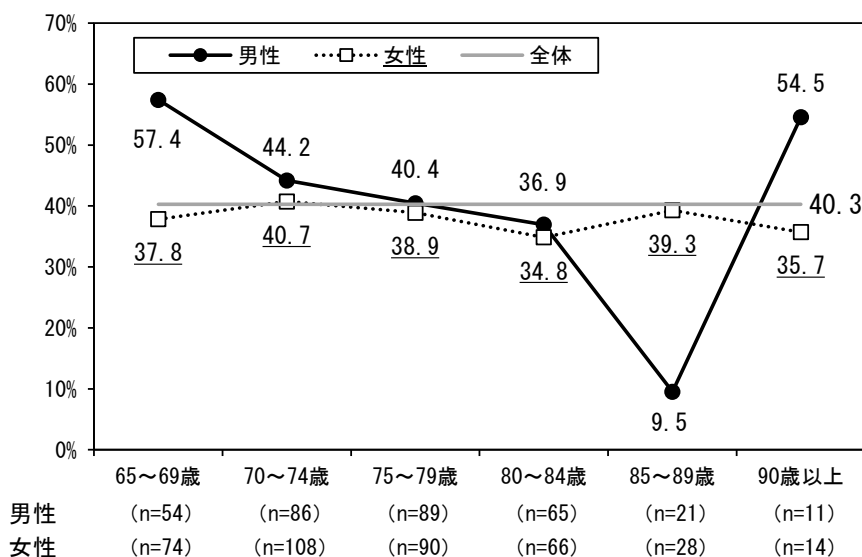
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では65～69歳が46.1%で最も高くなっています。

図表 2-10-3 知的能動性の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、85～89歳を除く全ての年齢階層で男性の割合が女性より高くなっており、男性では65～69歳が57.4%で最も高く、女性では70～74歳が40.7%で最も高くなっています。

図表 2-10-4 知的能動性の低下 該当者の割合 性別・年齢別



11. 社会的役割の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の4設問について、該当する選択肢が回答された場合を1点として、4点満点で評価し、3点以下の場合、社会的役割の低下している高齢者として判定しました。

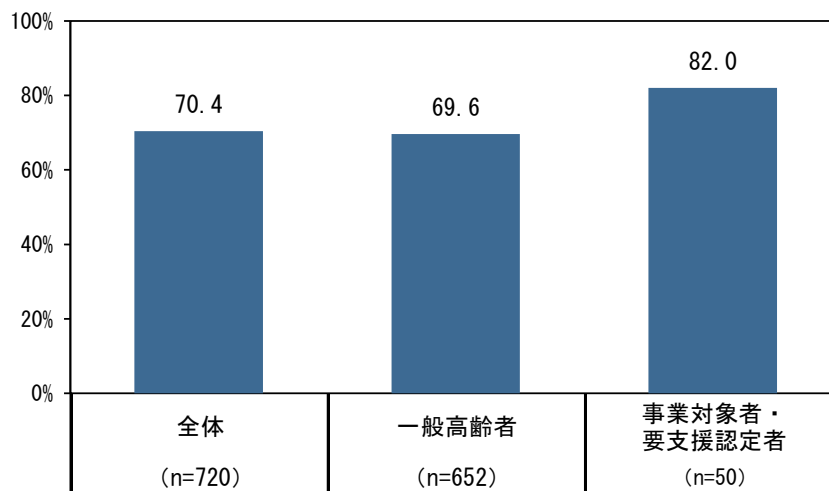
社会的役割とは、友人宅を訪問することや家族や友人からの相談に応じることなど、高齢者の他者との関わりの程度や社会活動の自立度の程度のことです。

図表 2-11-1 社会的役割の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4 (14)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問4 (15)	家族や友人の相談にのっていますか	「1. はい」
問4 (16)	病人を見舞うことができますか	「1. はい」
問4 (17)	若い人に自分から話しかけることがありますか	「1. はい」

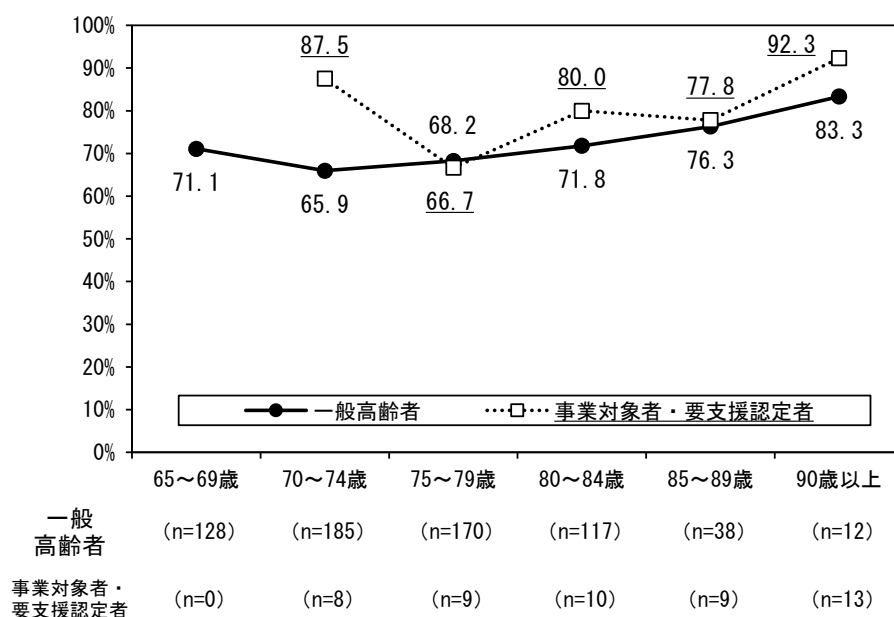
社会的役割が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で70.4%で、認定状況別で見ると、一般高齢者が69.6%、事業対象者・要支援認定者が82.0%となっています。

図表 2-11-2 社会的役割の低下 該当者の割合



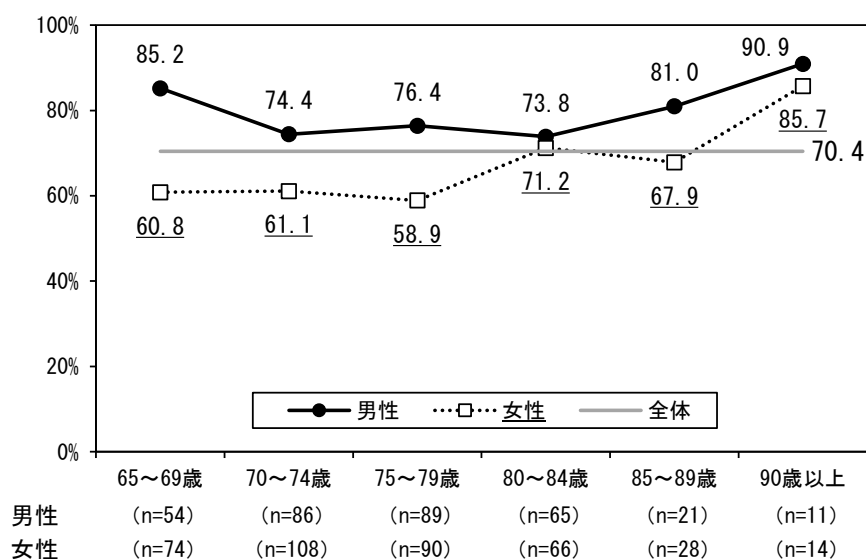
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が83.3%で最も高くなっています。

図表 2-11-3 社会的役割の低下 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階層で男性の割合が女性より高くなっており、男性では90歳以上が90.9%で最も高く、女性では90歳以上が85.7%で最も高くなっています。

図表 2-11-4 社会的役割の低下 該当者の割合 性別・年齢別

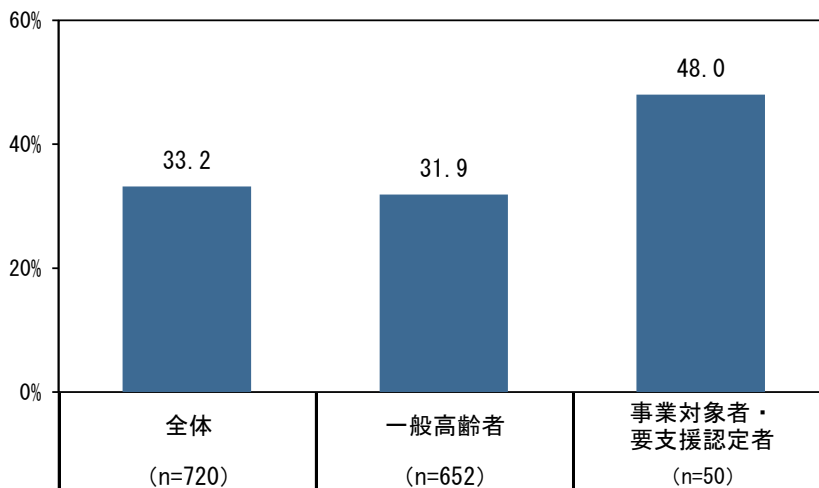


12. 生活機能総合評価の低下者

IADL（手段的自立度）に知的能動性、社会的役割を加えた老研式活動能力指標 13 項目で、13 点満点で評価し、11 点以上を「高い」、9・10 点を「やや高い」、8 点以下を「低い」とし、10 点以下を「低下者」として判定しました。

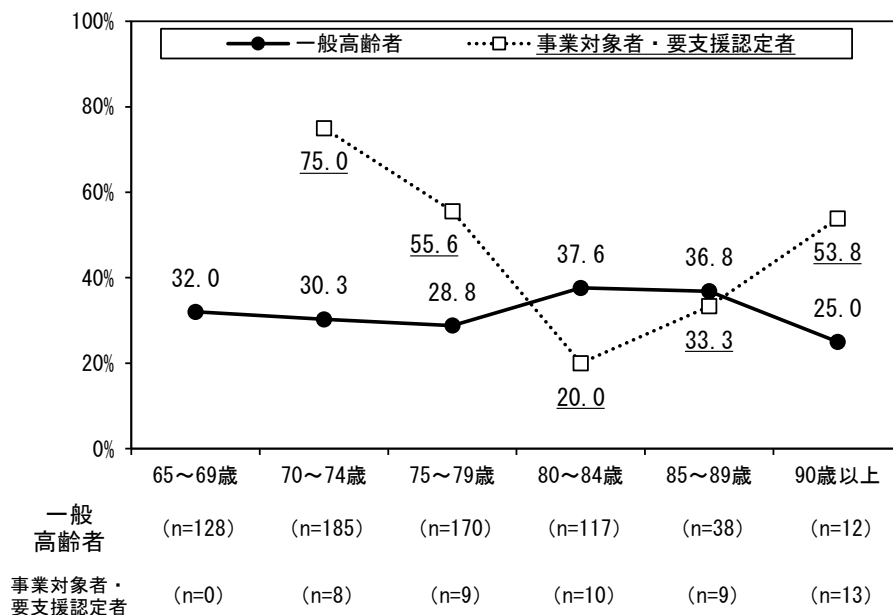
生活機能総合評価で低下者と判定された高齢者の割合は、全体で 33.2% で、認定状況別でみると、一般高齢者が 31.9%、事業対象者・要支援認定者が 48.0% となっています。

図表 2-12-1 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合



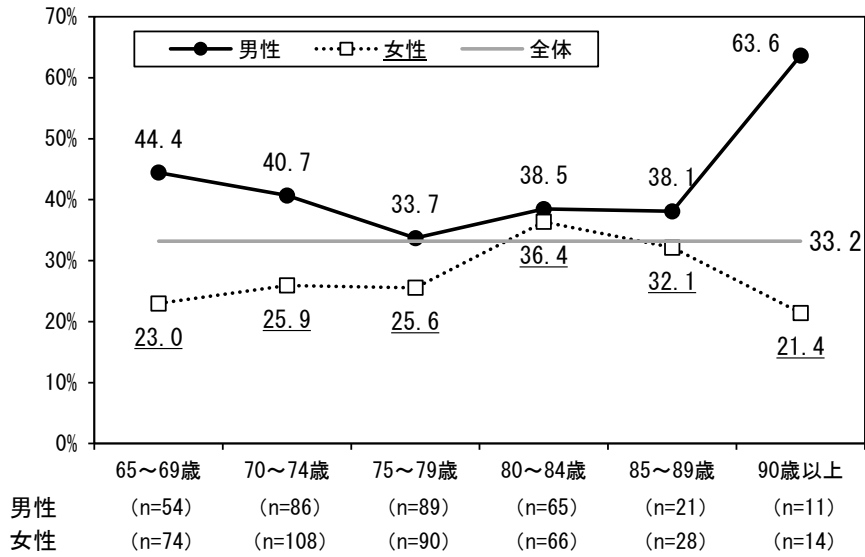
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では 80～84 歳が 37.6% で最も高くなっています。

図表 2-12-2 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、全ての年齢階層で男性の割合が女性より高くなっており、男性では90歳以上が63.6%で最も高く、女性では80～84歳が36.4%で最も高くなっています。

図表 2-12-3 生活機能総合評価の低下者 該当者の割合 性別・年齢別

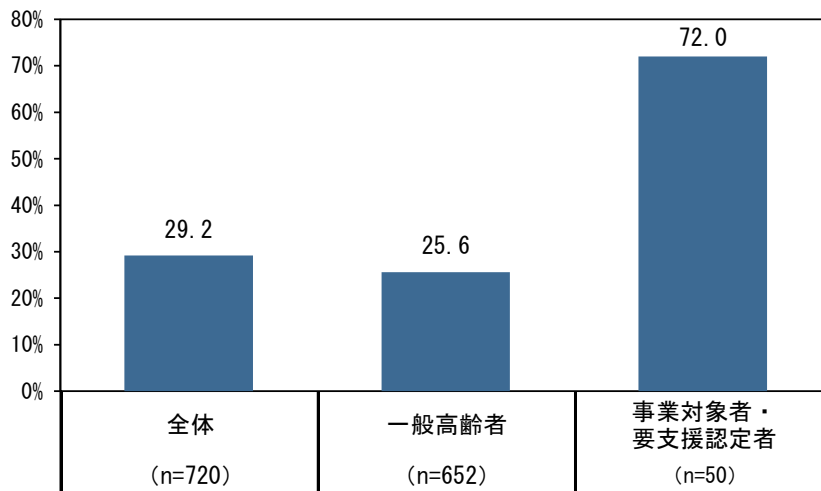


13. 事業対象者

運動器機能の低下、低栄養状態、口腔機能の低下、生活機能全般の低下のいずれかに該当している場合、事業対象者として判定しました。

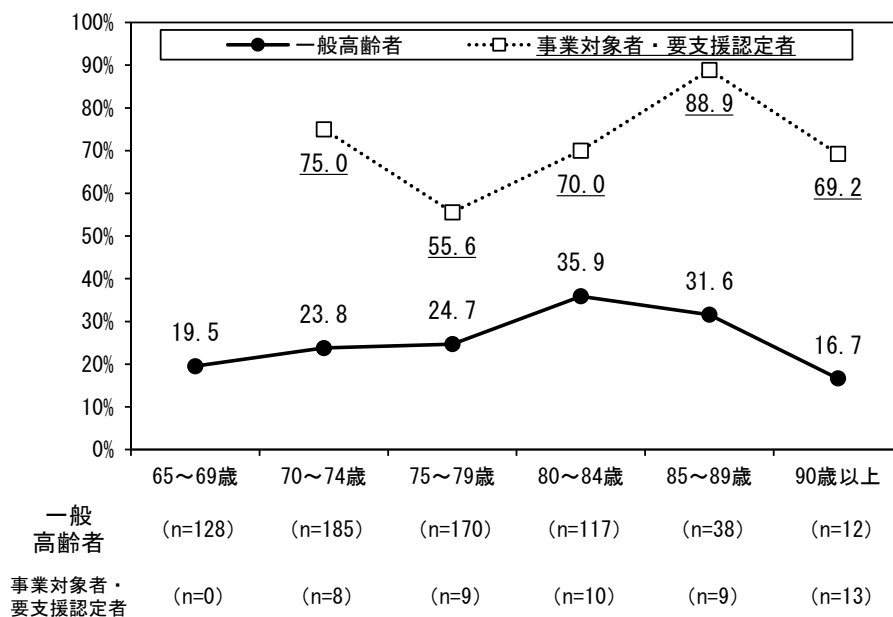
事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で 29.2% で、認定状況別でみると、一般高齢者が 25.6%、事業対象者・要支援認定者が 72.0% となっています。

図表 2-13-1 事業対象者 該当者の割合



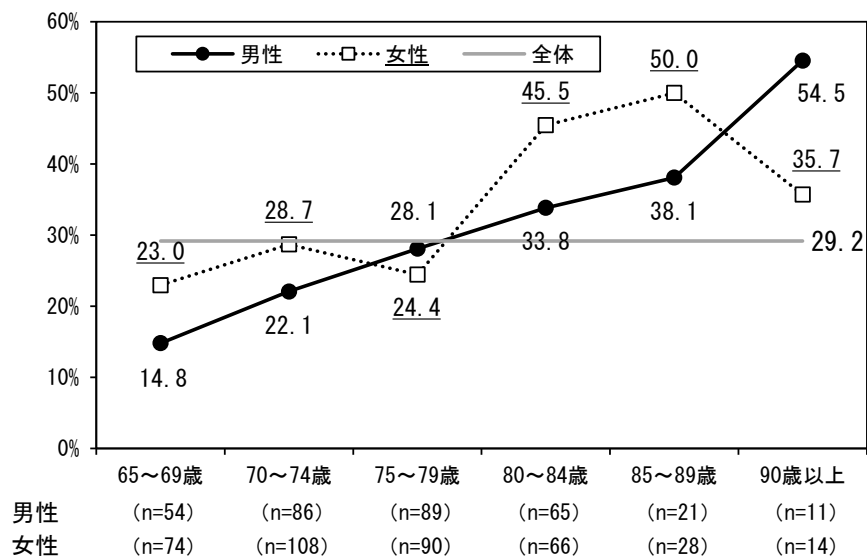
認定状況別・年齢別にみると、該当者の割合は、一般高齢者では 84 歳以下で年齢が上がるにつれて割合が増加しており、80~84 歳が 35.9% で最も高くなっています。

図表 2-13-2 事業対象者 該当者の割合 認定状況別・年齢別



性別・年齢別にみると、該当者の割合は、75～79歳、90歳以上を除く全ての年齢階層で女性の割合が男性よりも高くなっており、男性では90歳以上が54.5%で最も高く、女性では85～89歳が50.0%で最も高くなっています。

図表 2-13-3 事業対象者 該当者の割合 性別・年齢別



第3章 調査結果

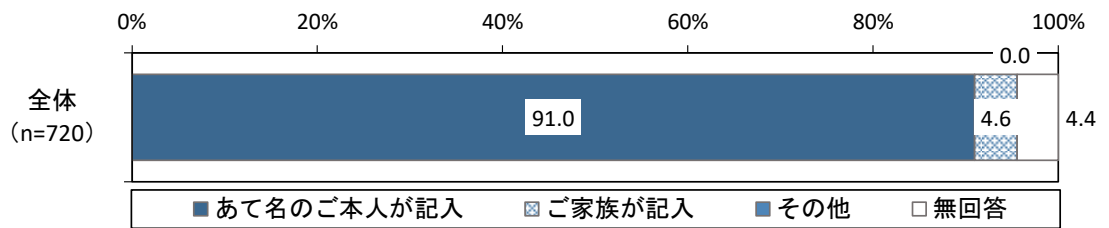
1. 回答者の属性

(1) 回答者

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

回答者については、「あて名のご本人が記入」が91.0%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が4.6%なっています。

図表 3-1-1 回答者

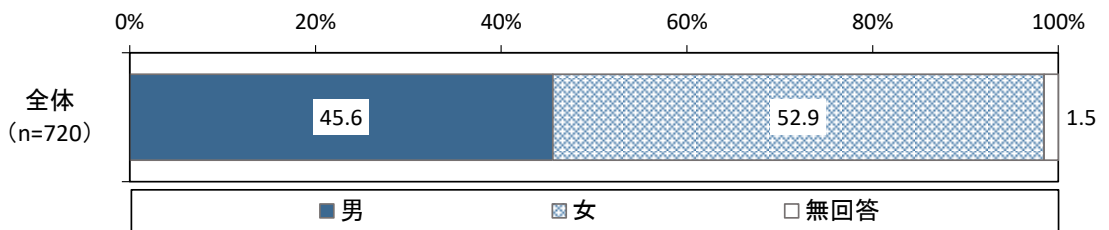


(2) 性別

あて名のご本人様の性別をお答えください。

性別については、「男性」が45.6%、「女性」が52.9%となっています。

図表 3-1-2 性別

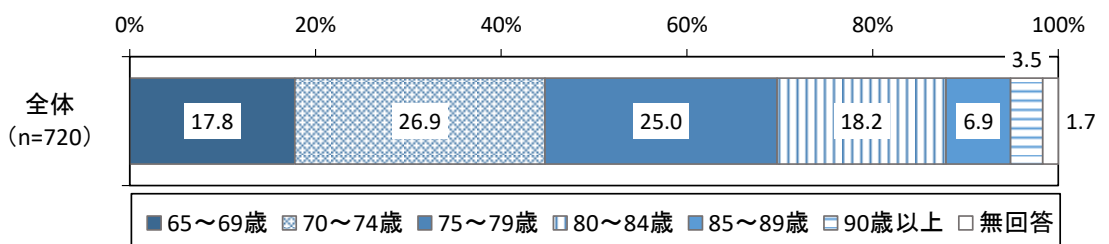


(3) 年齢

あて名のご本人様の年齢をお答えください。

年齢については、「70～74歳」が26.9%で最も高く、次いで「75～79歳」が25.0%、「80～84歳」が18.2%と続いています。

図表 3-1-3 年齢

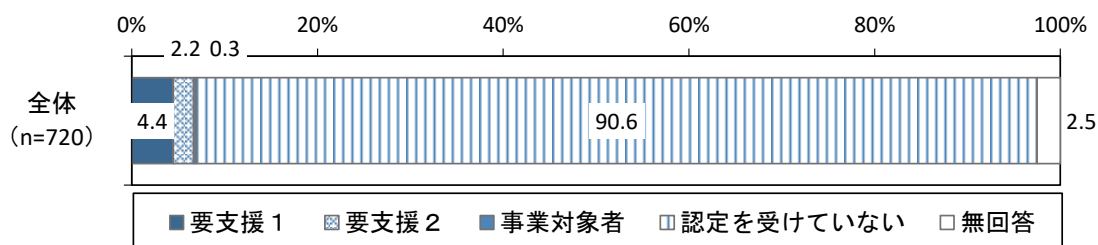


(4) 認定状況

あて名のご本人様の要介護認定の有無をお答えください。

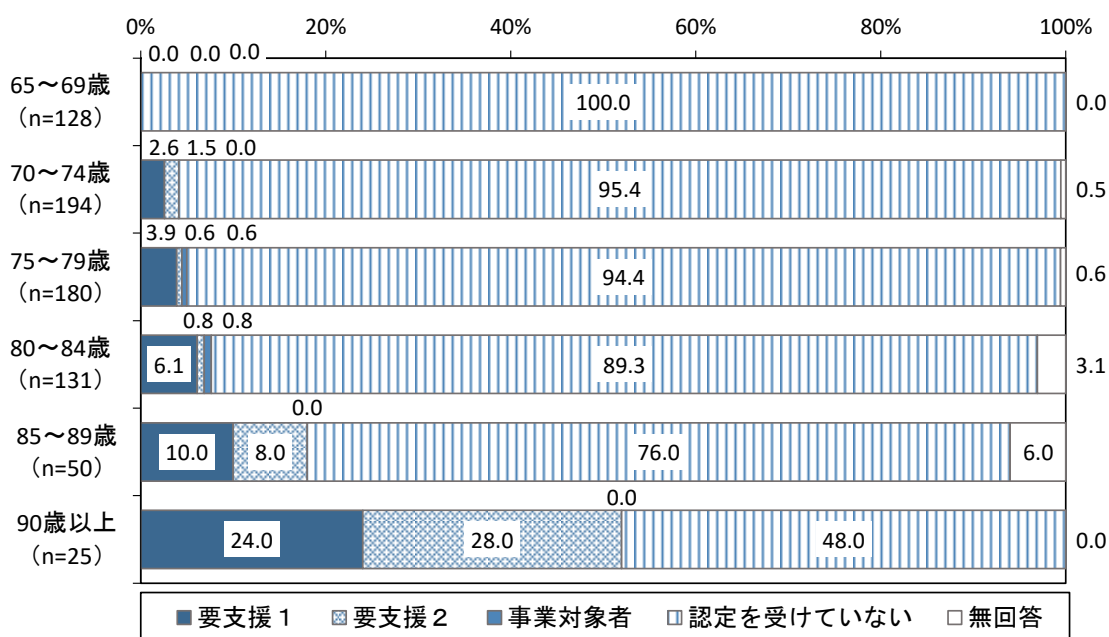
認定状況については、「認定を受けていない」が90.6%で最も高く、次いで「要支援1」が4.4%、「要支援2」が2.2%と続いています。

図表 3-1-4 認定状況



年齢別にみると、『事業対象者・要支援認定者』（「要支援1」、「要支援2」と「事業対象者」の合計）は年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が52.0%で最も高くなっています。

図表 3-1-5 認定状況 年齢別

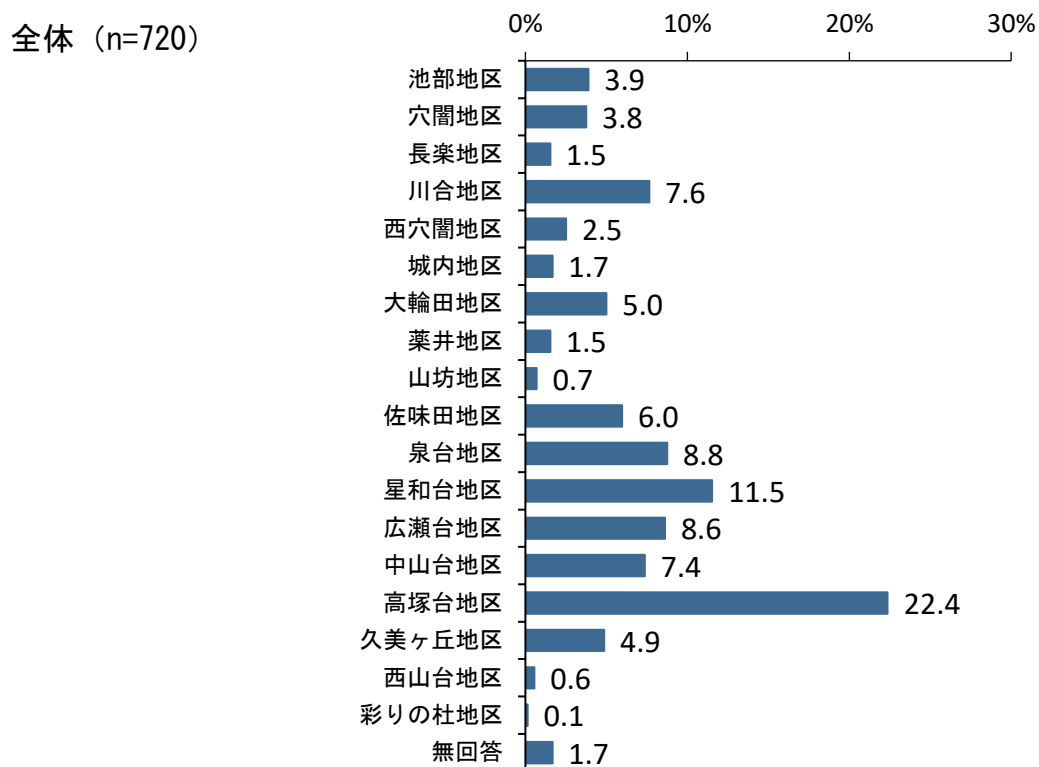


(5) 居住地区

あて名のご本人様のお住いの地区をお答えください。

居住地区については、「高塚台地区」が 22.4%で最も高く、次いで「星和台地区」が 11.5%、「泉台地区」が 8.8%と続いています。

図表 3-1-6 居住地区



2. 家族や生活状況について

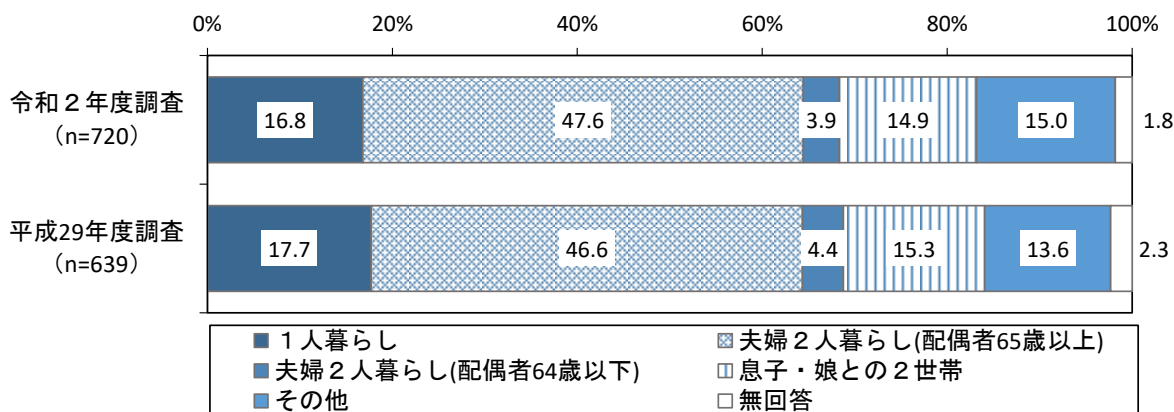
(1) 家族構成

問1 (1) 家族構成をお教えてください (1つに〇)

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が47.6%で最も高く、次いで「1人暮らし」が16.8%、「その他」が15.0%と続いています。

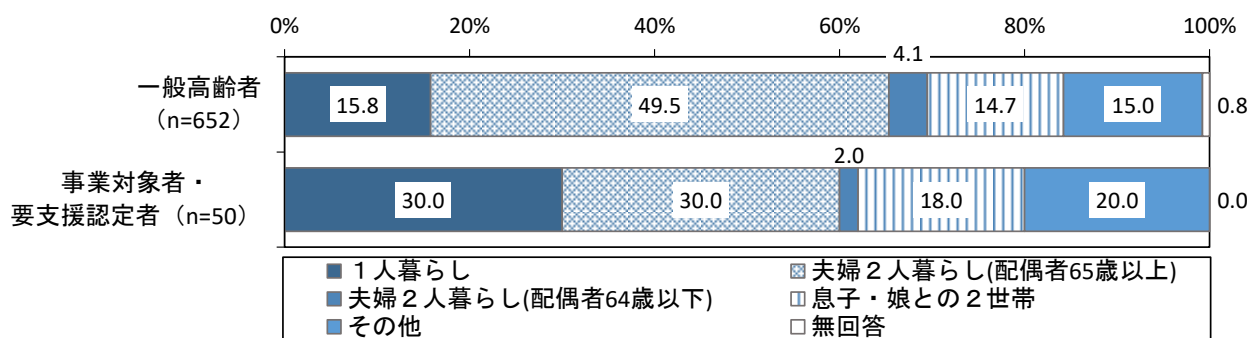
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-2-1 家族構成



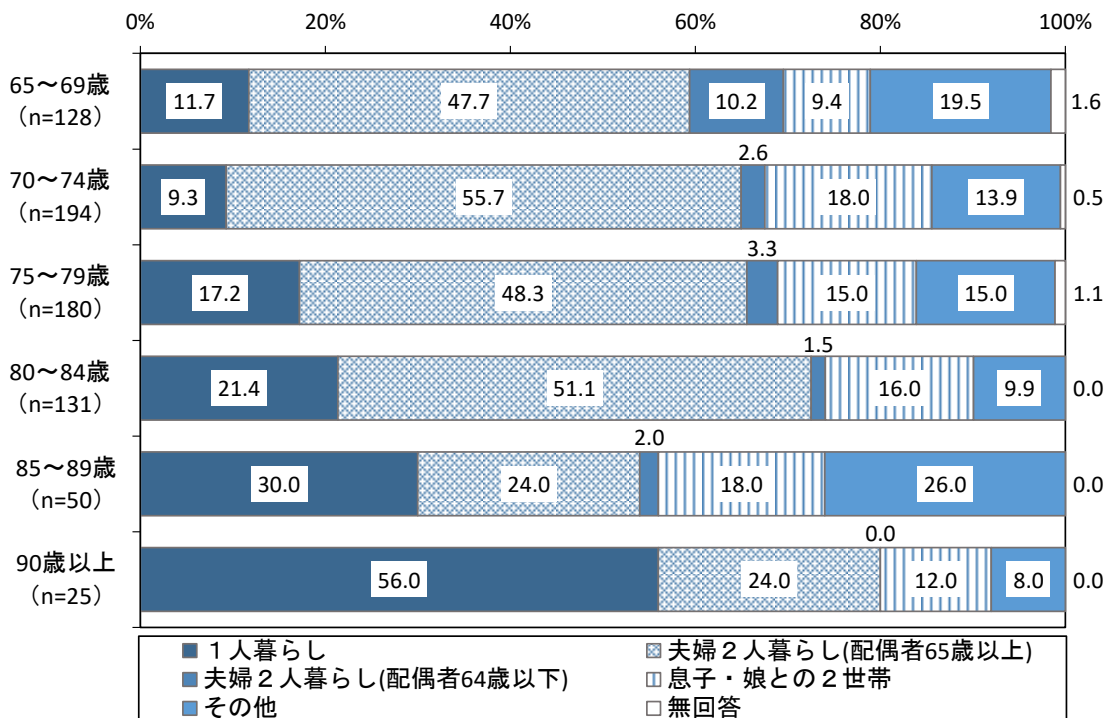
認定状況別で見ると、一般高齢者では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が49.5%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「1人暮らし」、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」がいずれも30.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-2 家族構成 認定状況別



年齢別でみると、「1人暮らし」では、70歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が56.0%で最も高く、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」では、70～74歳が55.7%で最も高くなっています。

図表 3-2-3 家族構成 年齢別



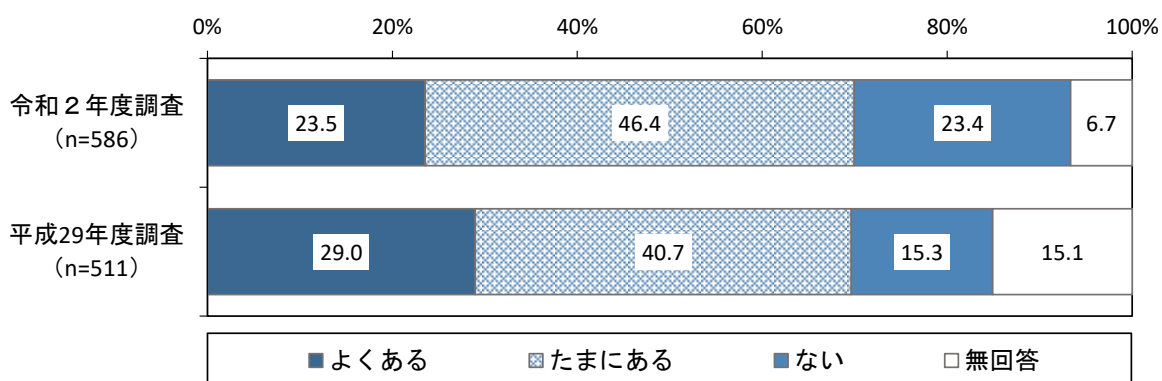
(2) 日中に一人になることがあるか

問1(1) ①	【問1(1)において「1人暮らし」以外の方(家族など同居されている方)のみ】日中、一人になることがありますか(1つに〇)
------------	--

日中に一人になることがあるかについては、「たまにある」が46.4%で最も高く、次いで「よくある」が23.5%、「ない」が23.4%となっており、『ある』(「よくある」と「たまにある」の合計)は69.9%となっています。

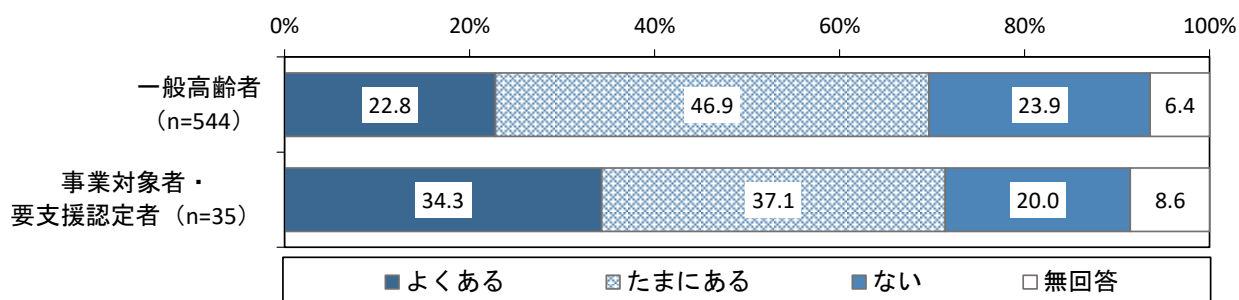
平成29年度調査と比較すると、「ない」(23.4%)では、平成29年度調査(15.3%)よりも8.1ポイント増加しています。

図表 3-2-4 日中に一人になることがあるか



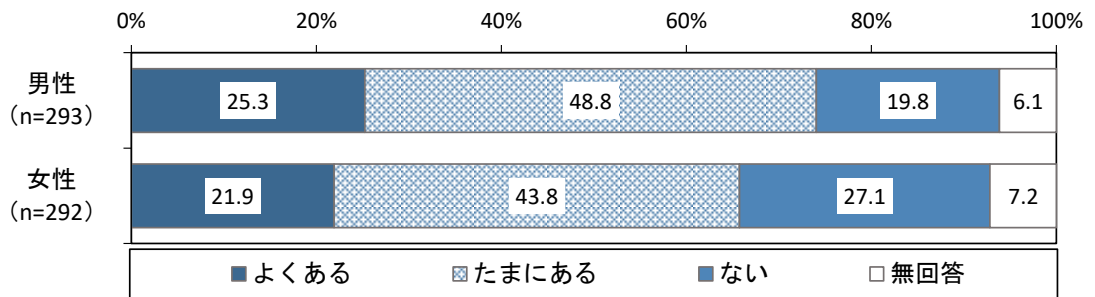
認定状況別でみると、「よくある」では、事業対象者・要支援認定者が34.3%で、一般高齢者(22.8%)よりも11.5ポイント高くなっています。

図表 3-2-5 日中に一人になることがあるか 認定状況別



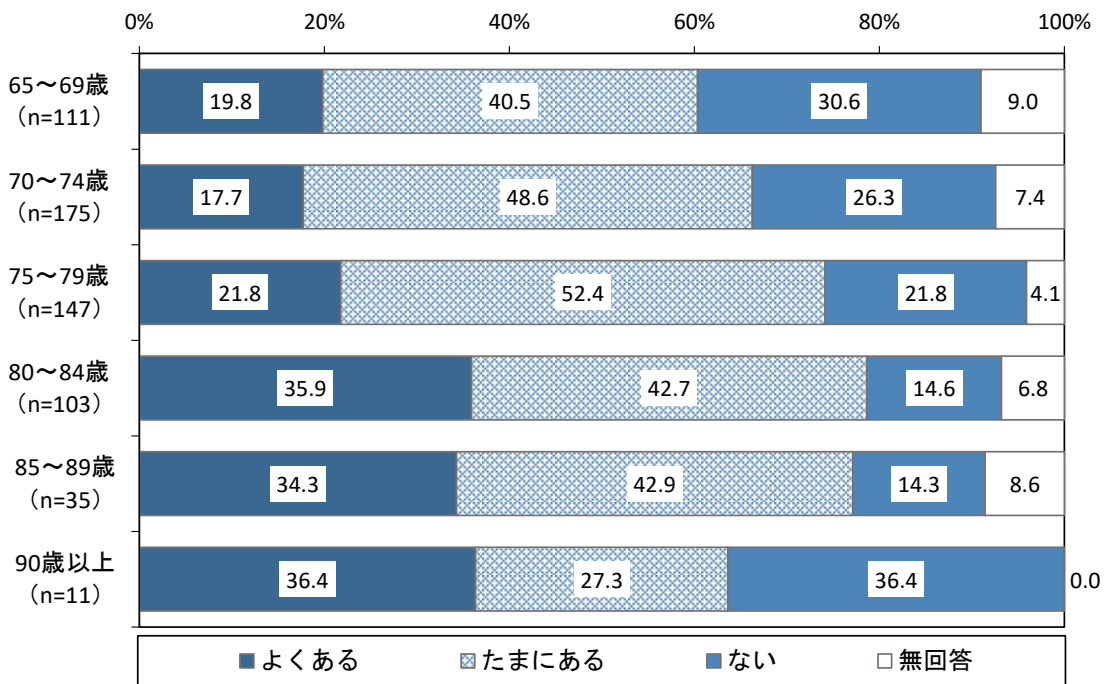
性別でみると、『ある』では、男性が74.1%で、女性（65.7%）よりも8.4ポイント高くなっています。

図表 3-2-6 日中に一人になることがあるか 性別



年齢別でみると、『ある』では、84歳以下で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、80～84歳が78.6%で最も高く、「ない」では、90歳以上が36.4%で最も高くなっています。

図表 3-2-7 日中に一人になることがあるか 年齢別



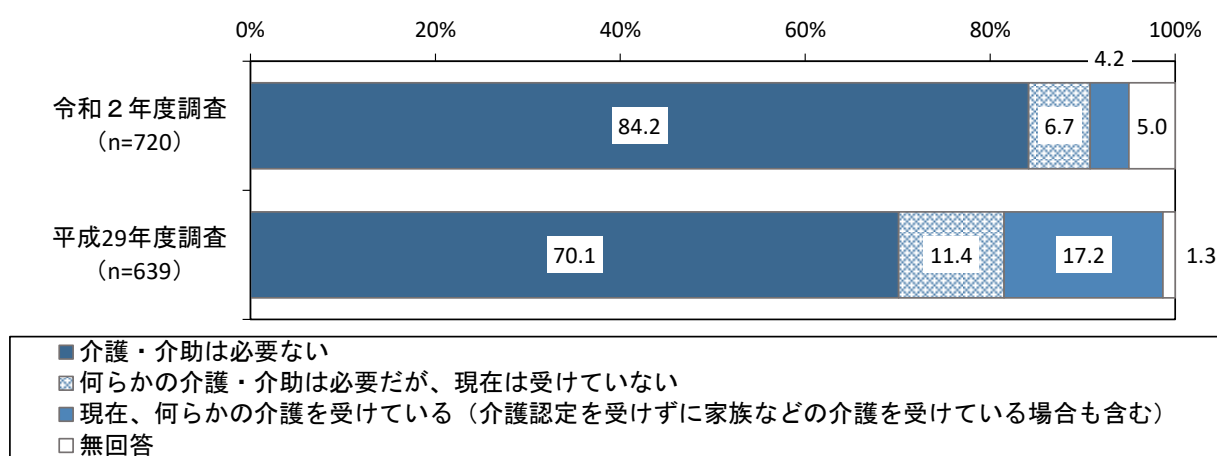
(3) 普段の生活で介護・介助が必要か

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (1つに○)

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が84.2%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.7%、「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が4.2%となっており、何らかの介護・介助が必要な人の割合 (「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」の合計) は10.9%となっています。

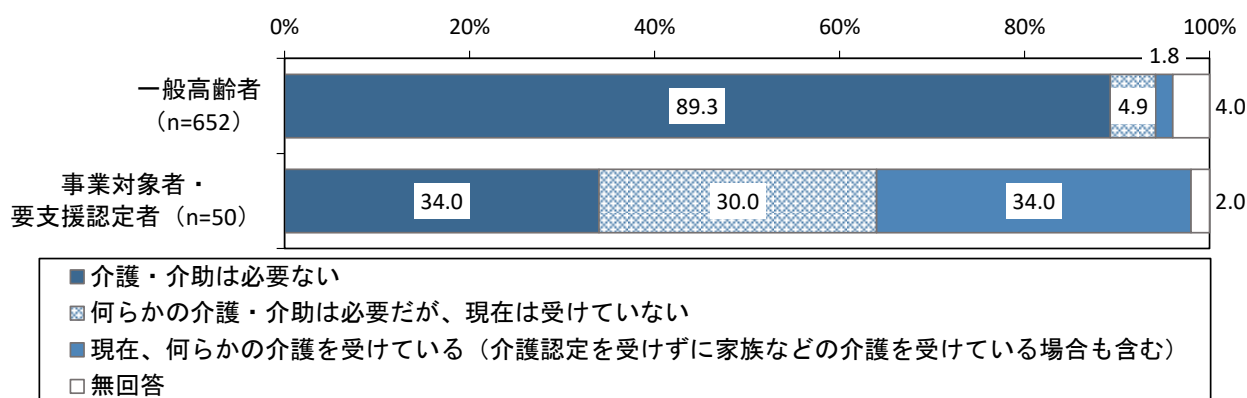
平成29年度調査と比較すると、何らかの介護・介助が必要な人の割合 (10.9%) は、平成29年度調査 (28.6%) よりも17.7ポイント減少しています。

図表 3-2-8 普段の生活で介護・介助が必要か



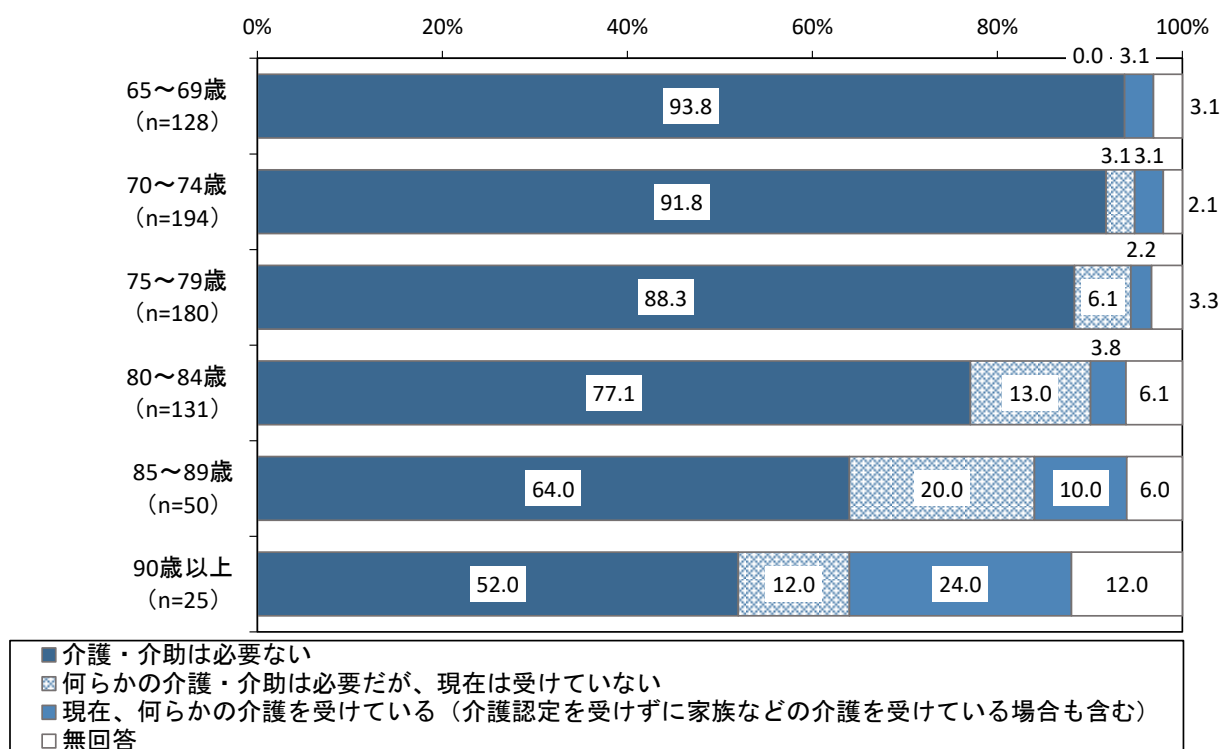
認定状況別でみると、何らかの介護・介助が必要な人の割合は、一般高齢者で6.7%、事業対象者・要支援認定者で64.0%となっています。

図表 3-2-9 普段の生活で介護・介助が必要か 認定状況別



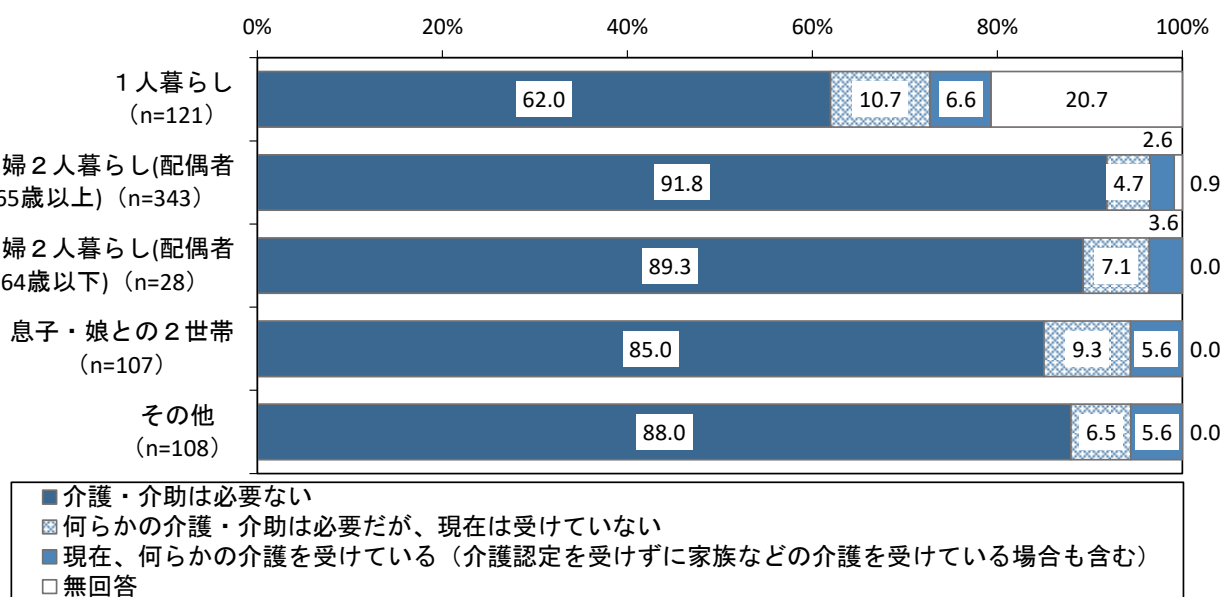
年齢別でみると、何らかの介護・介助が必要な人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上が36.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-10 普段の生活で介護・介助が必要か 年齢別



家族構成別でみると、何らかの介護・介助が必要な人の割合は、1人暮らしが17.3%で最も高くなっています。

図表 3-2-11 普段の生活で介護・介助が必要か 家族構成別



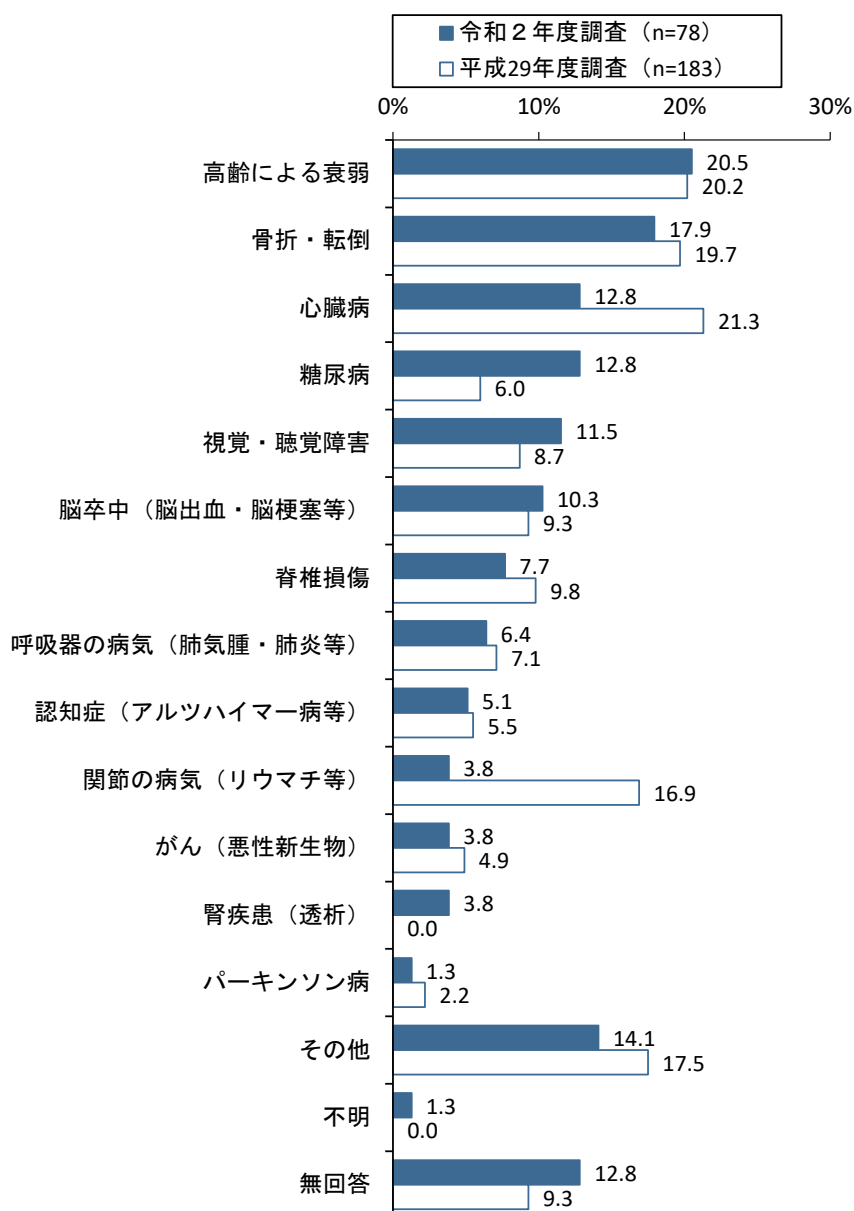
(4) 介護・介助が必要になった主な原因

問1(2)	【問1(2)において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
①	① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が20.5%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.9%、「その他」が14.1%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「糖尿病」(12.8%)が平成29年度調査(6.0%)よりも6.8ポイント高く、最も増加した項目となっており、「関節の病気(リウマチ等)」(3.8%)が平成29年度調査(16.9%)よりも13.1ポイント低く、最も減少した項目となっています。

図表 3-2-12 介護・介助が必要になった主な原因



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「高齢による衰弱」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「糖尿病」、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が高く、事業対象者・要支援認定者では次いで「骨折・転倒」、「その他」が高くなっています。

性別でみると、男性では「高齢による衰弱」が30.3%で最も高く、女性では「骨折・転倒」が26.7%で最も高くなっています。

年齢別でみると、「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」では、85～89歳がいずれも40.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-13 介護・介助が必要になった主な原因 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	高齢による衰弱	骨折・転倒	心臓病	糖尿病	視覚・聴覚障害	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	脊椎損傷	呼吸器の病気（肺炎等）	認知症（アルツハイマー病等）	関節の病気（リウマチ等）
全体		78	20.5	17.9	12.8	12.8	11.5	10.3	7.7	6.4	5.1	3.8
平成29年度調査		183	20.2	19.7	21.3	6.0	8.7	9.3	9.8	7.1	5.5	16.9
認定別	一般高齢者	44	18.2	13.6	13.6	15.9	11.4	15.9	4.5	2.3	2.3	4.5
	事業対象者・要支援認定者	32	25.0	21.9	12.5	9.4	12.5	3.1	9.4	12.5	9.4	3.1
性別	男性	33	30.3	6.1	9.1	12.1	12.1	24.2	9.1	15.2	9.1	3.0
	女性	45	13.3	26.7	15.6	13.3	11.1	0.0	6.7	0.0	2.2	4.4
年齢別	65～69歳	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	70～74歳	12	8.3	8.3	0.0	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3	8.3
	75～79歳	15	0.0	0.0	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0
	80～84歳	22	27.3	27.3	13.6	22.7	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	4.5
	85～89歳	15	40.0	40.0	13.3	6.7	6.7	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0
	90歳以上	9	33.3	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	22.2	0.0

		合計	がん（悪性新生物）	腎疾患（透析）	パーキンソン病	その他	不明	無回答
全体		78	3.8	3.8	1.3	14.1	1.3	12.8
平成29年度調査		183	4.9	0.0	2.2	17.5	0.0	9.3
認定別	一般高齢者	44	2.3	4.5	2.3	9.1	2.3	18.2
	事業対象者・要支援認定者	32	3.1	3.1	0.0	21.9	0.0	6.3
性別	男性	33	6.1	6.1	0.0	12.1	3.0	6.1
	女性	45	2.2	2.2	2.2	15.6	0.0	17.8
年齢別	65～69歳	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	12	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7
	75～79歳	15	6.7	0.0	0.0	13.3	6.7	33.3
	80～84歳	22	4.5	4.5	0.0	9.1	0.0	0.0
	85～89歳	15	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	13.3
	90歳以上	9	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

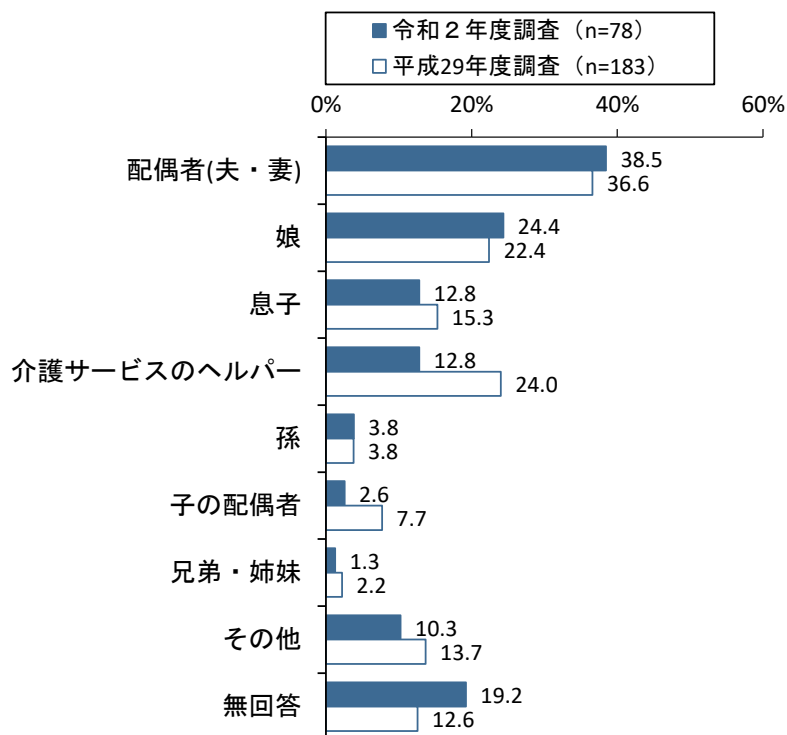
(5) 誰から介護、介助を受けているか

問1 (2)	【問1 (2) において「介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
②	② 主にどなたの介護、介助を受けていますか (いくつでも)

誰から介護・介助を受けているかについては、「配偶者(夫・妻)」が38.5%で最も高く、次いで「娘」が24.4%、「息子」、「介護サービスのヘルパー」がいずれも12.8%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「介護サービスのヘルパー」(12.8%)が平成29年度調査(24.0%)よりも11.2ポイント低く、最も減少した項目となっています。

図表 3-2-14 誰から介護・介助を受けているか



認定状況別で見ると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「配偶者（夫・妻）」の割合が最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「配偶者（夫・妻）」が60.6%で最も高く、女性では「娘」が37.8%で最も高くなっています。

年齢別で見ると、65～79歳、85～89歳では「配偶者（夫・妻）」の割合が最も高く、80～84歳では「配偶者（夫・妻）」、「娘」、「息子」の割合が同率で最も高く、90歳以上では「介護サービスのヘルパー」の割合が最も高くなっています。

図表 3-2-15 誰から介護・介助を受けているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者（夫・妻）	娘	息子	介護サービスのヘルパー	孫	子の配偶者	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体		78	38.5	24.4	12.8	12.8	3.8	2.6	1.3	10.3	19.2
平成29年度調査		183	36.6	22.4	15.3	24.0	3.8	7.7	2.2	13.7	12.6
認定別	一般高齢者	44	43.2	18.2	15.9	6.8	4.5	2.3	2.3	11.4	20.5
	事業対象者・要支援認定者	32	34.4	31.3	6.3	18.8	3.1	3.1	0.0	9.4	18.8
性別	男性	33	60.6	6.1	6.1	15.2	3.0	6.1	0.0	18.2	6.1
	女性	45	22.2	37.8	17.8	11.1	4.4	0.0	2.2	4.4	28.9
年齢別	65～69歳	4	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	70～74歳	12	66.7	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7
	75～79歳	15	40.0	20.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	13.3	26.7
	80～84歳	22	31.8	31.8	31.8	13.6	0.0	0.0	0.0	13.6	9.1
	85～89歳	15	20.0	13.3	0.0	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	33.3
	90歳以上	9	22.2	22.2	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2

※網掛け■は最も割合が高いもの

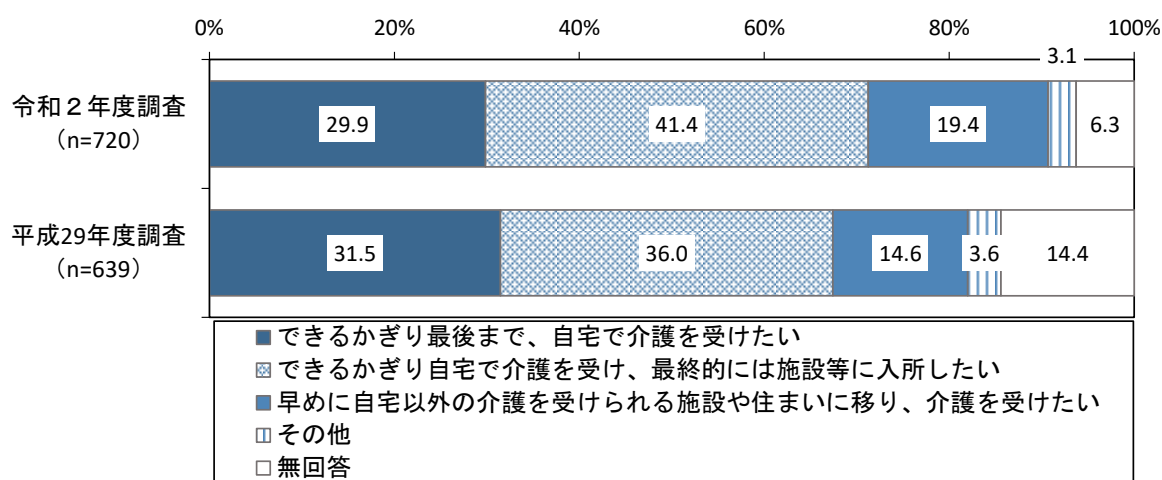
(6) 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか

問1 (3)	もし、あなた自身に介護が必要になった場合、あなたはどこで介護を受けたいですか (1つに○)
--------	---

介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいと思うかについては、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」が41.4%で最も高く、次いで「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」が29.9%、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」が19.4%と続いています。

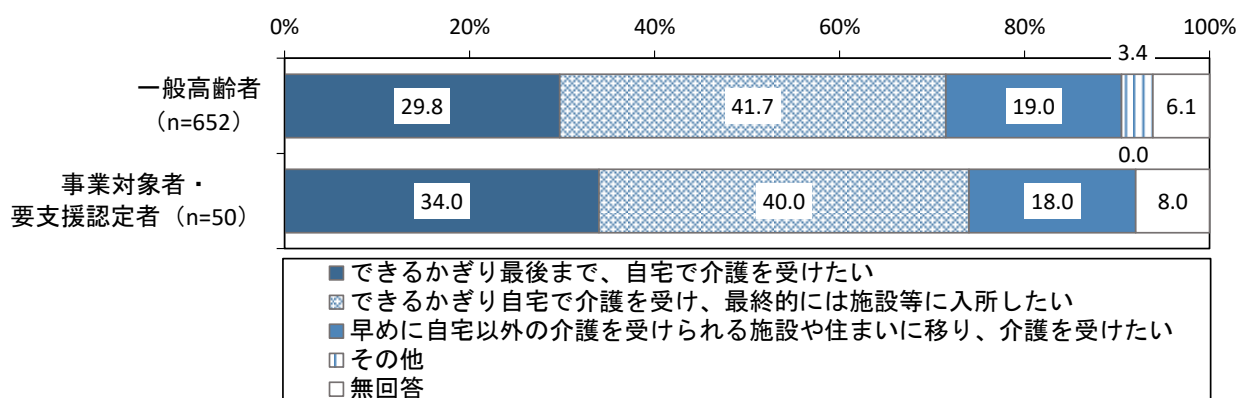
平成29年度調査と比較すると、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」(41.4%)が平成29年度調査(36.0%)よりも5.1ポイント増加しています。

図表 3-2-16 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか



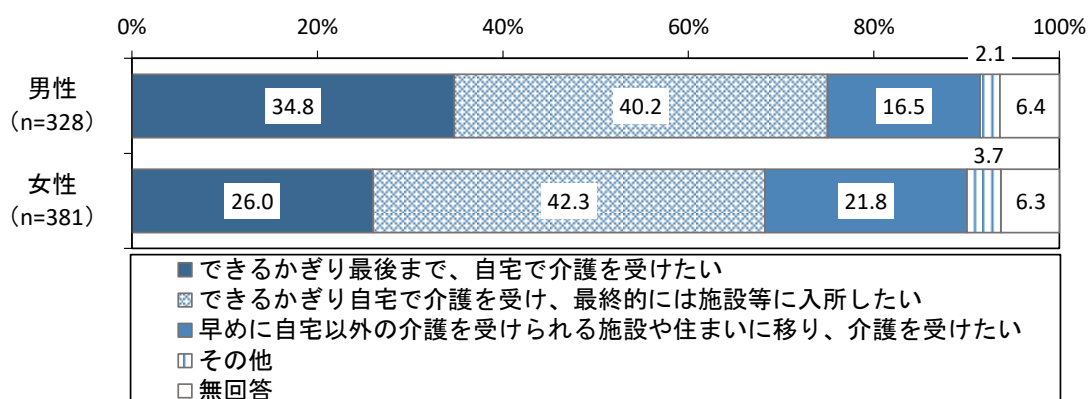
認定状況別でみると、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」では、事業対象者・要支援認定者が34.0%で、一般高齢者(29.8%)よりも4.2ポイント高くなっています。

図表 3-2-17 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか 認定状況別



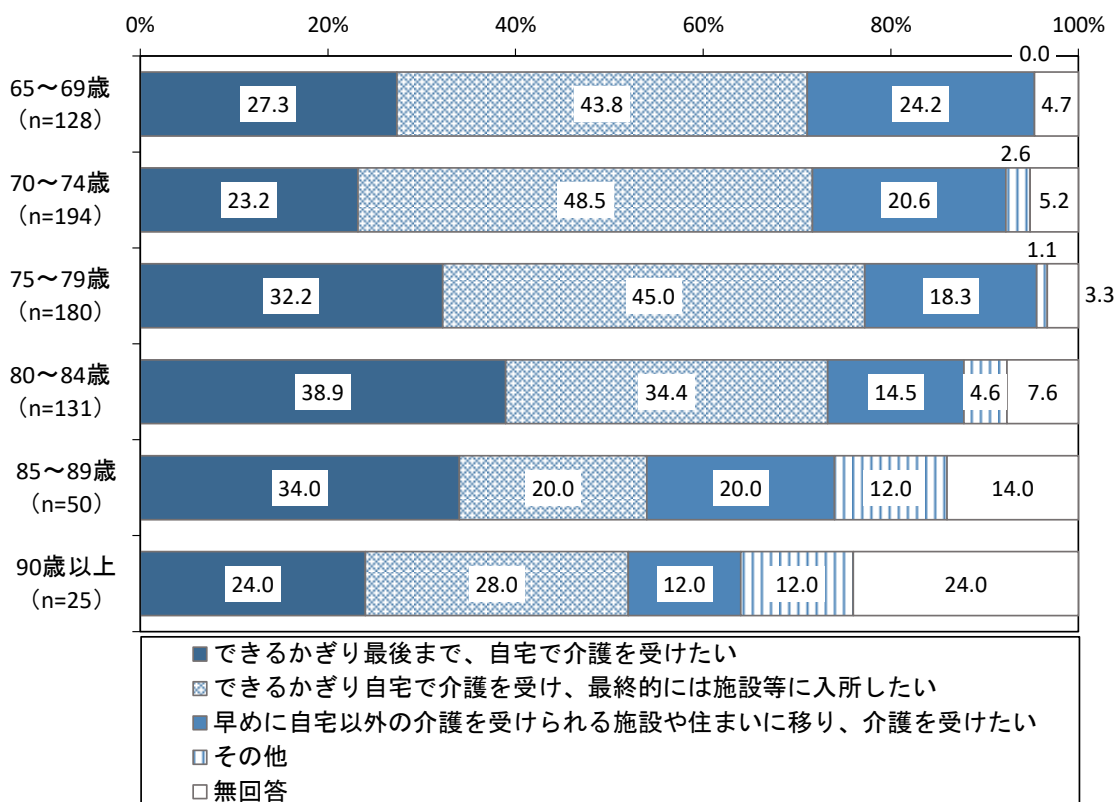
性別でみると、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」では、男性が34.8%で、女性（26.0%）よりも8.8ポイント高くなっています。

図表 3-2-18 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか 性別



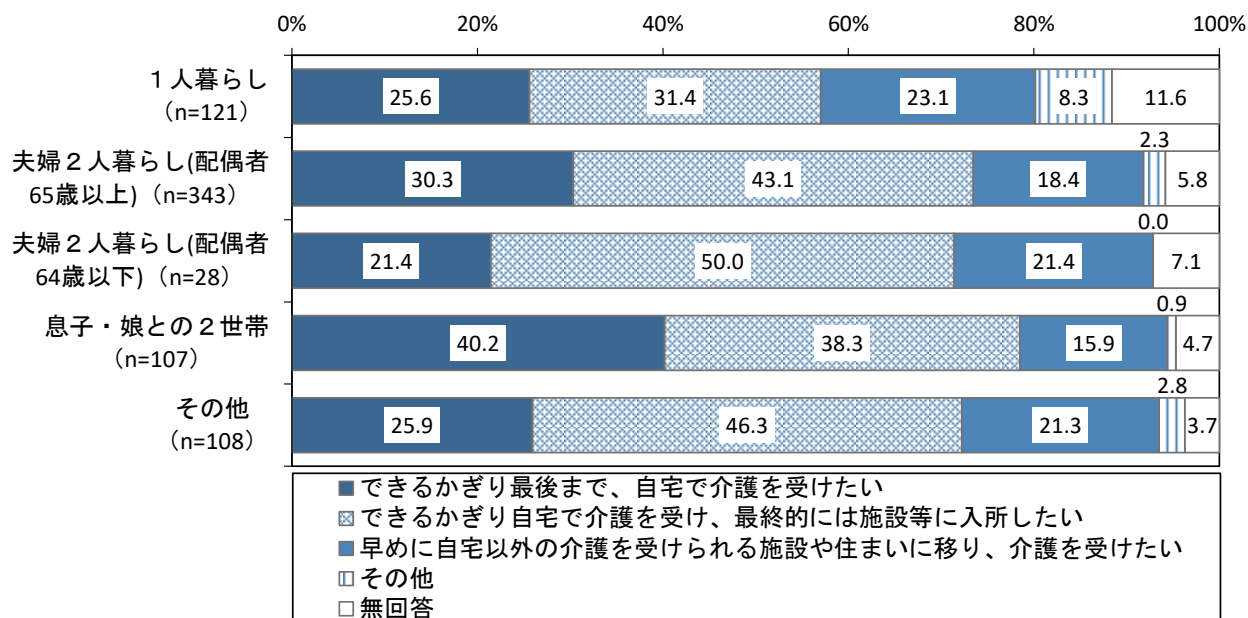
年齢別でみると、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」では、80～84歳が38.9%で最も高く、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」では、70～74歳が48.5%で最も高く、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」では、65～69歳が24.2%で最も高くなっています。

図表 3-2-19 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか 年齢別



家族構成別でみると、「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」では、息子・娘との2世帯が40.2%で最も高く、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」では、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)が50.0%で最も高く、「早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい」では、1人暮らしが23.1%で最も高くなっています。

図表 3-2-20 介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいか 家族構成別



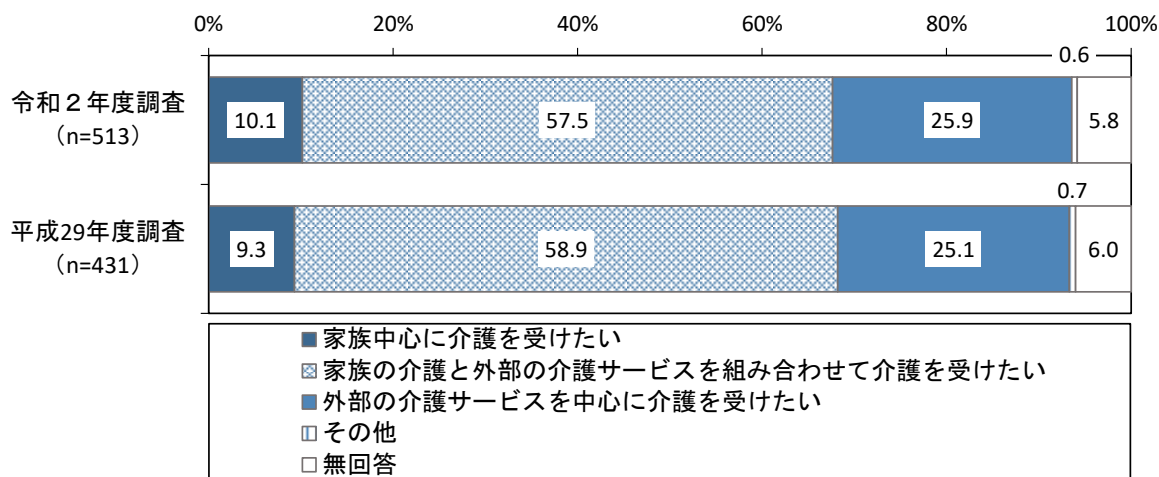
(7) 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいか

問1 (3) ①	<p>【問1 (3) において「できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい」、「できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい」（自宅で介護を受けたい）の方のみ】</p> <p>① どのような介護を希望しますか（1つに○） （現在何らかの介護を受けている方は、希望するものを選んでください）</p>
-------------	---

将来、自宅で介護を受けるとしたら、どのような介護を受けたいと思うかについては、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」が57.5%で最も高く、次いで「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」が25.9%、「家族中心に介護を受けたい」が10.1%と続いています。

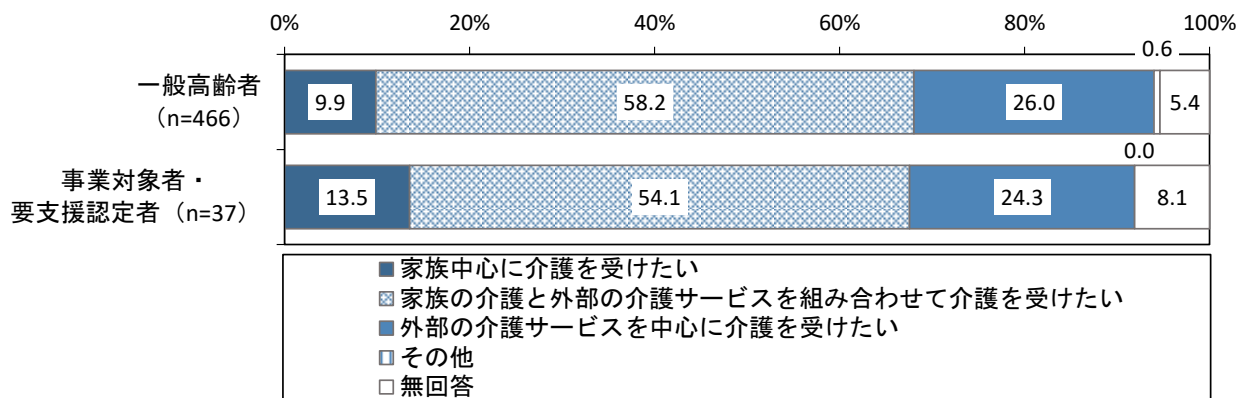
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-2-21 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいと思うか



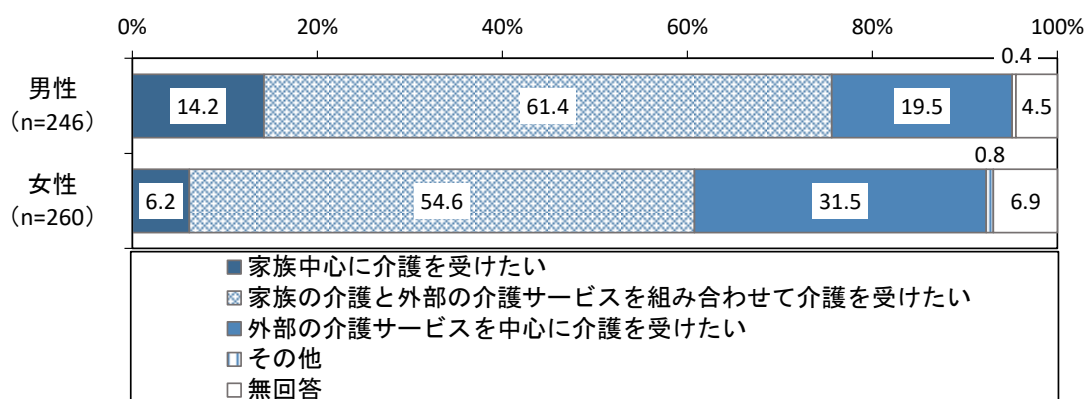
認定状況別でみると、「家族中心に介護を受けたい」では、事業対象者・要支援認定者が13.5%で、一般高齢者（9.9%）よりも3.6ポイント高くなっています。

図表 3-2-22 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいか 認定状況別



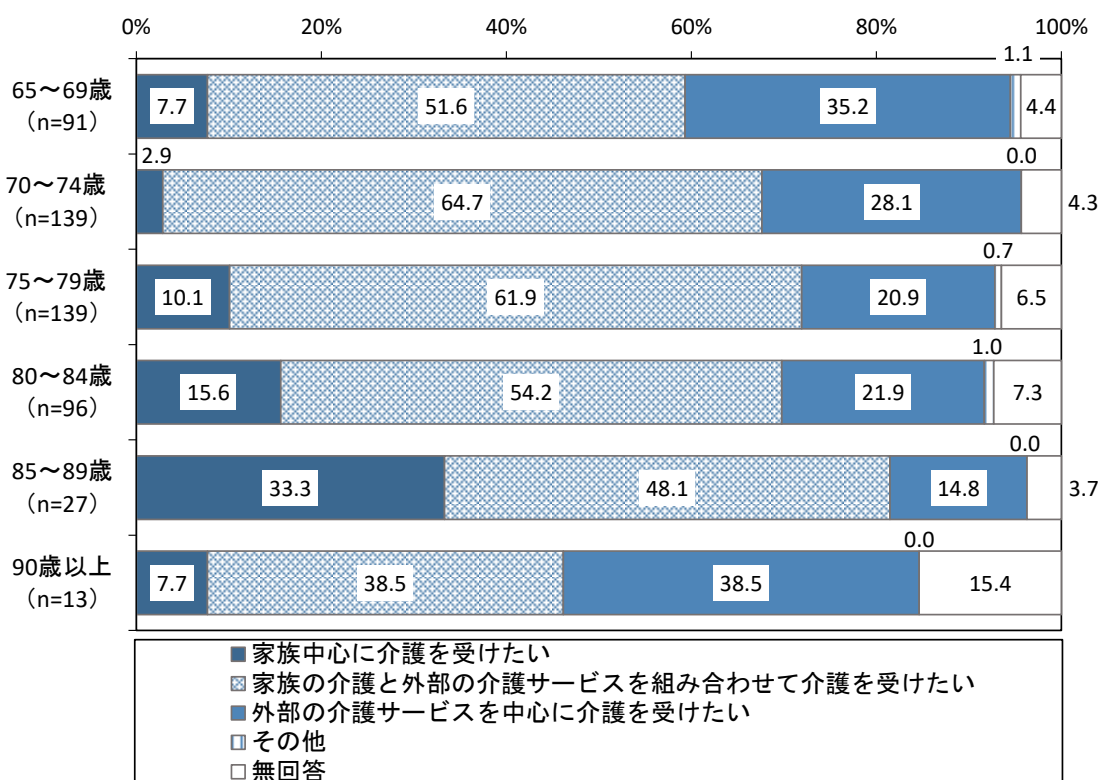
性別でみると、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」では、女性が31.5%で、男性(19.5%)よりも12.0ポイント高くなっています。

図表 3-2-23 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいか 性別



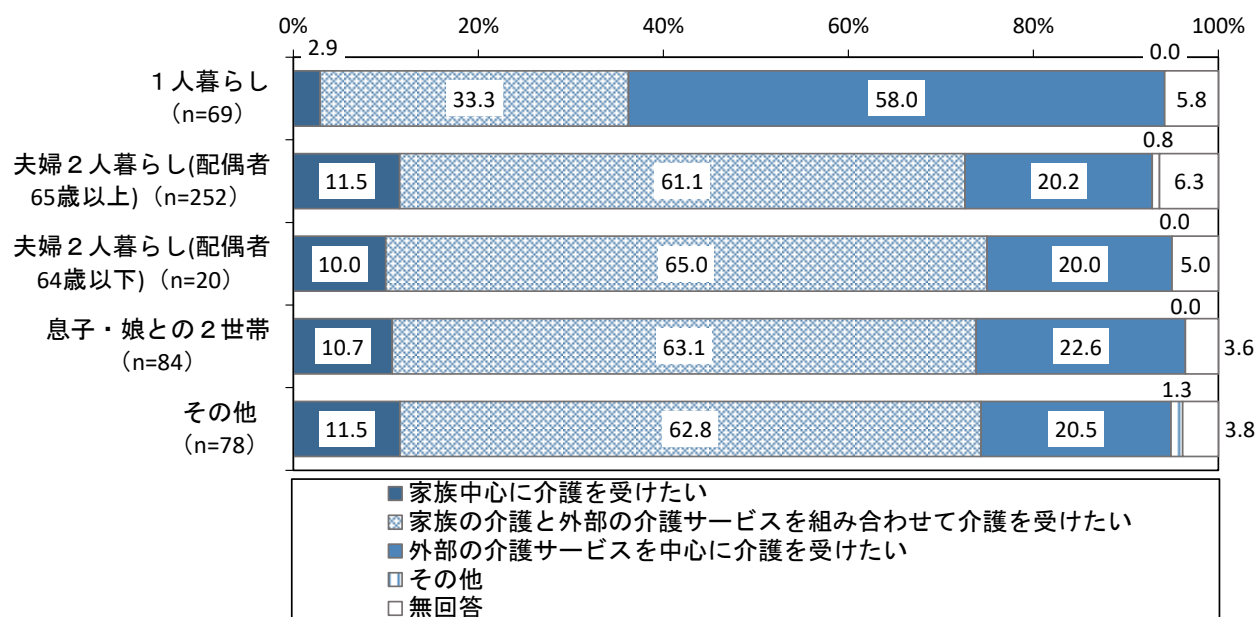
年齢別でみると、「家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい」では、70～74歳が64.7%で最も高く、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」では、90歳以上が38.5%で最も高く、「家族中心に介護を受けたい」では、85～89歳が33.3%で最も高くなっています。

図表 3-2-24 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいか 年齢別



家族構成別でみると、「外部の介護サービスを中心に介護を受けたい」では、1人暮らしが58.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-25 介護が必要になった場合、自宅でどのような介護を受けたいか 家族構成別



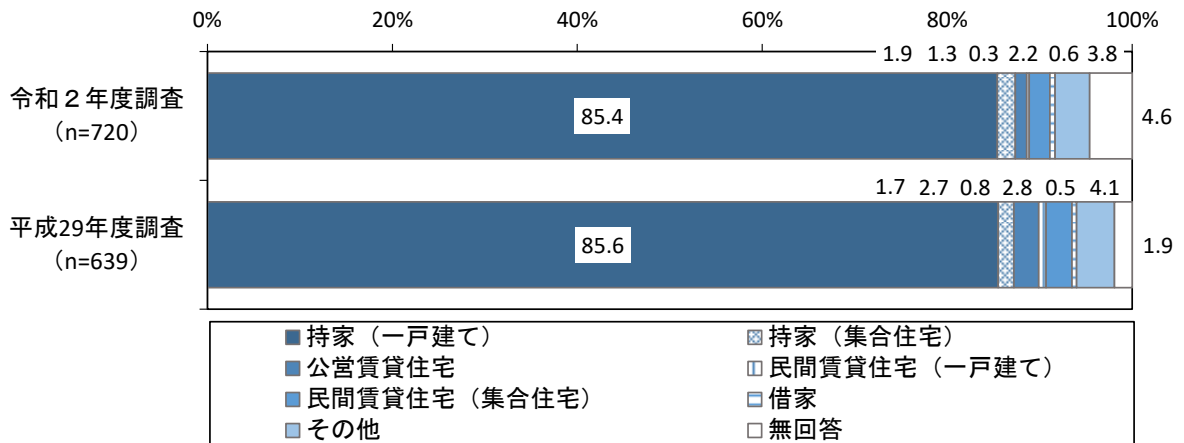
(8) 住居形態

問1 (4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (1つに〇)

住居形態については、「持家 (一戸建て)」が 85.4%で最も高く、次いで「その他」が 3.8%、「民間賃貸住宅 (集合住宅)」が 2.2%と続いています。

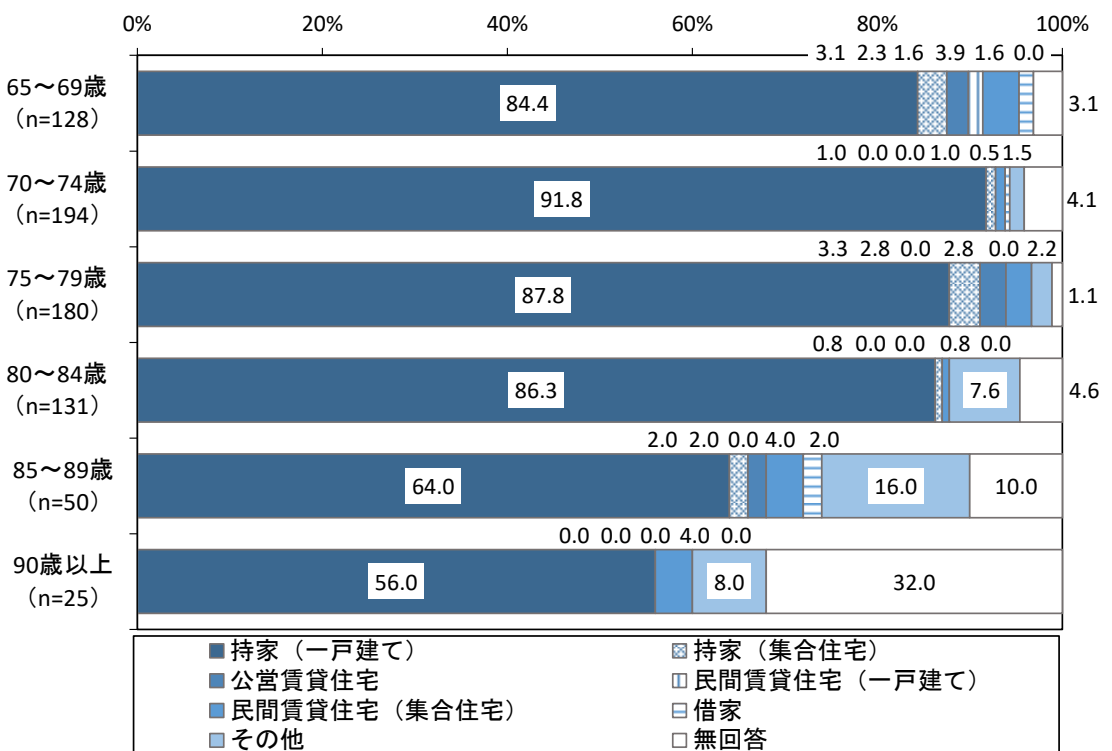
平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-2-26 住居形態



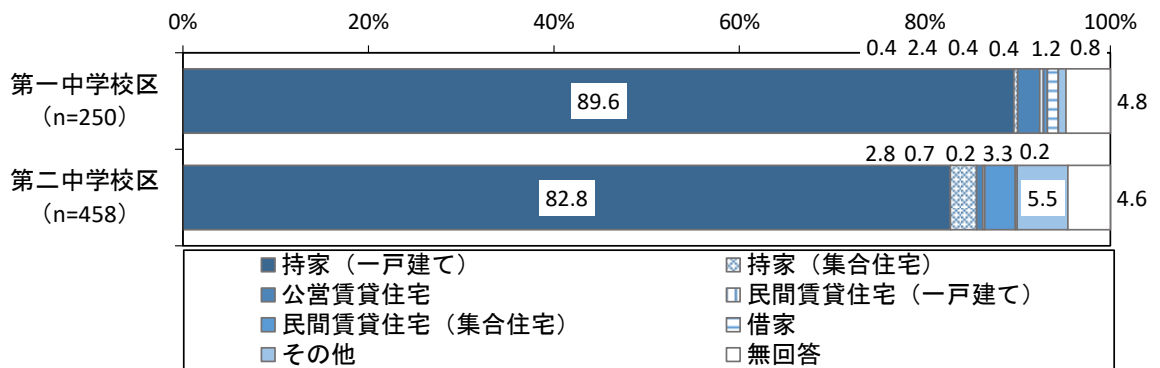
年齢別でみると、「持家 (一戸建て)」では、70～74 歳が 91.8%で最も高く、「その他」では、85～89 歳が 16.0%で最も高くなっています。

図表 3-2-27 住居形態 年齢別



中学校区別でみると、「持家(一戸建て)」では、第一中学校区が 89.6%で、第二中学校区(82.8%)よりも 6.8 ポイント高くなっています。

図表 3-2-28 住居形態 中学校区別



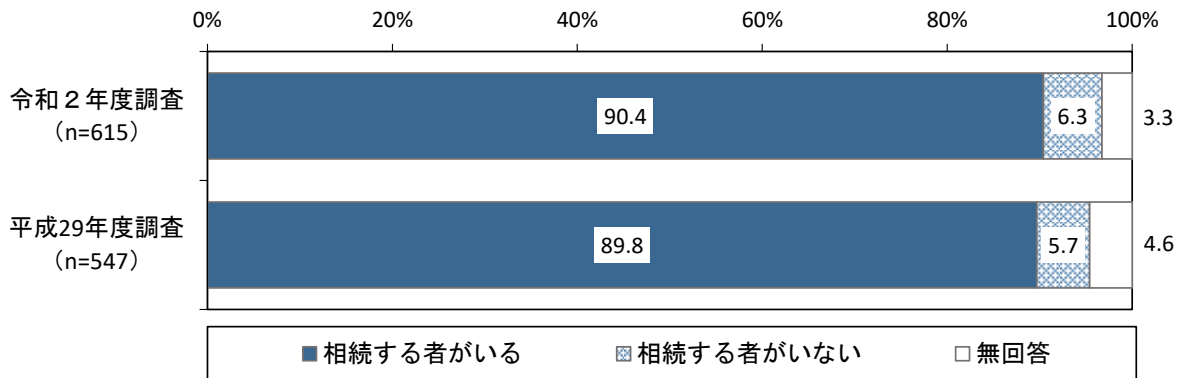
(9) 持ち家の相続について

問1(4)	【問1(4)において「持家(一戸建て)」の方のみ】
①	① 持ち家の相続については、次のどれにあたりますか(1つに○)

持ち家の相続については、「相続する者がいる」が 90.4%、「相続する者がいない」が 6.3%となっています。

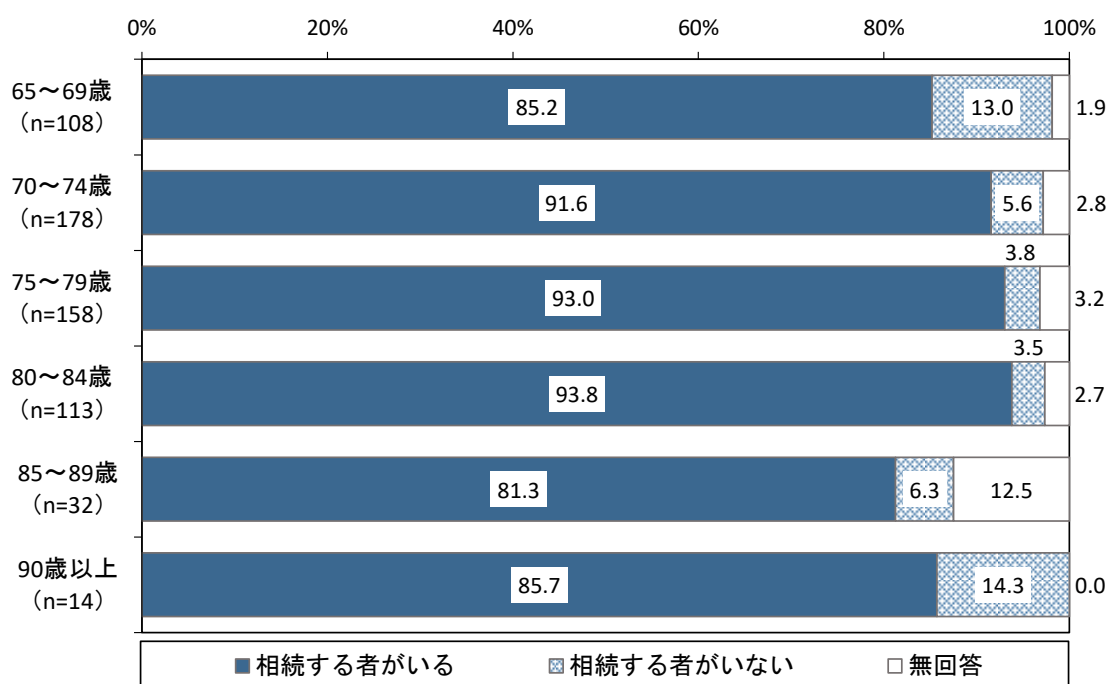
平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-2-29 持ち家の相続について



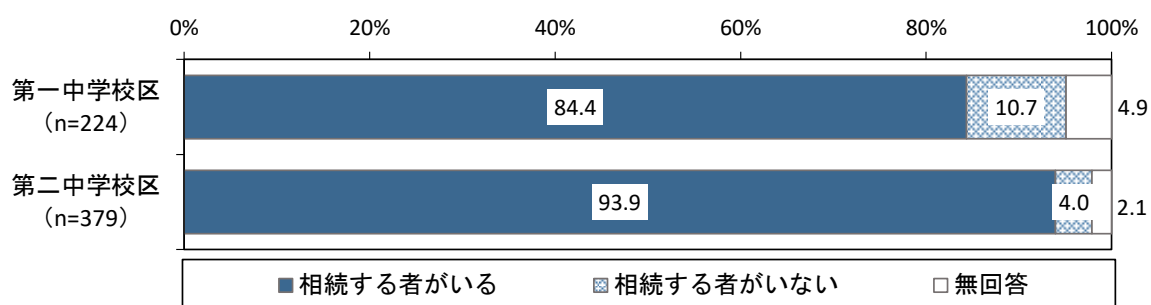
年齢別でみると、「相続する者がいる」では、80～84歳が93.8%で最も高く、「相続する者がいない」では、90歳以上が14.3%で最も高くなっています。

図表 3-2-30 持ち家の相続について 年齢別



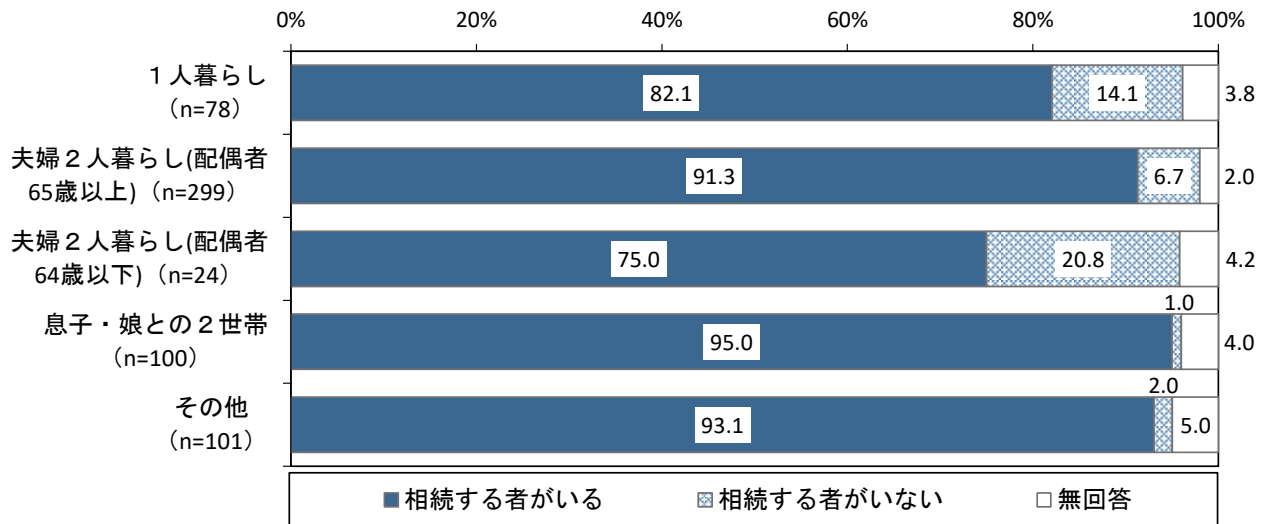
中学校区別でみると、「相続する者がいない」では、第一中学校区が10.7%で、第二中学校区(4.0%)よりも6.7ポイント高くなっています。

図表 3-2-31 持ち家の相続について 中学校区別



家族構成別でみると、「相続する者がいる」では、息子・娘との2世帯が95.0%で最も高く、「相続する者がいない」では、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)が20.8%で最も高くなっています。

図表 3-2-32 持ち家の相続について 家族構成別



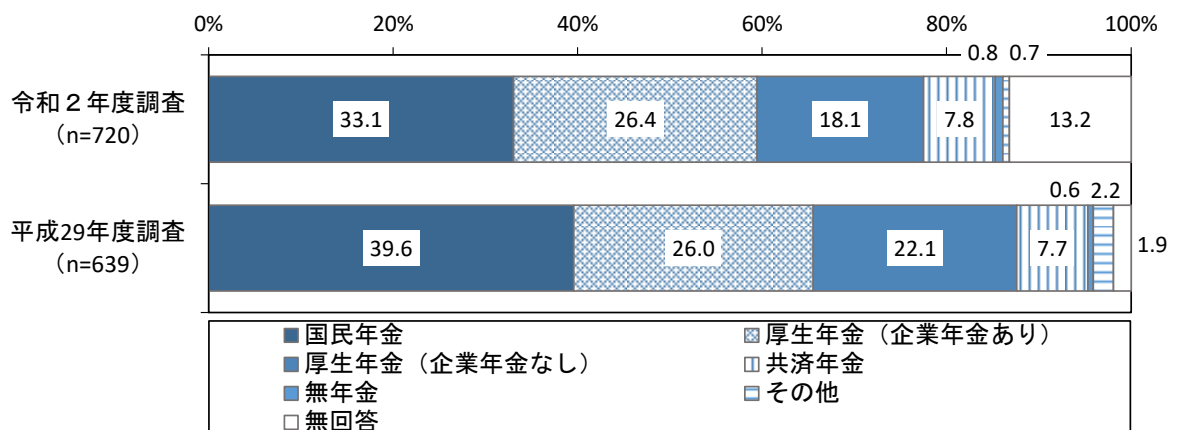
(10) 年金の種類

問1 (5) 年金の種類は次のどれですか (1つに○)

年金の種類については、「国民年金」が33.1%で最も高く、次いで「厚生年金(企業年金あり)」が26.4%、「厚生年金(企業年金なし)」が18.1%と続いています。

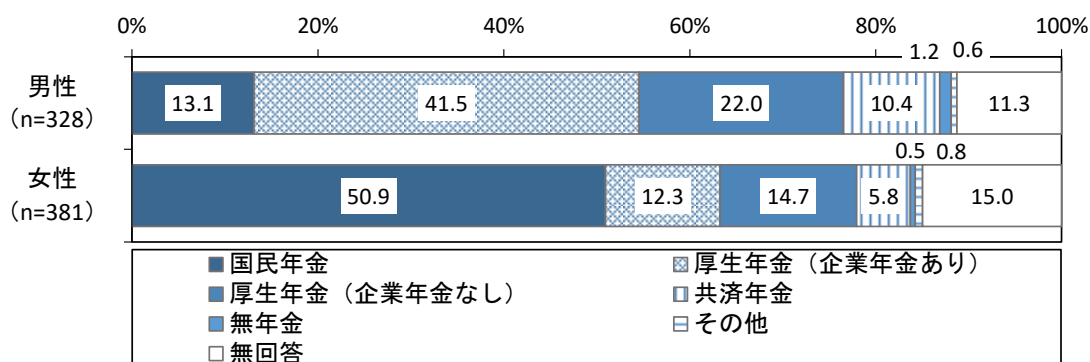
平成29年度調査と比較すると、「国民年金」(33.1%)では、平成29年度調査(39.6%)よりも6.5ポイント減少しています。

図表 3-2-33 年金の種類



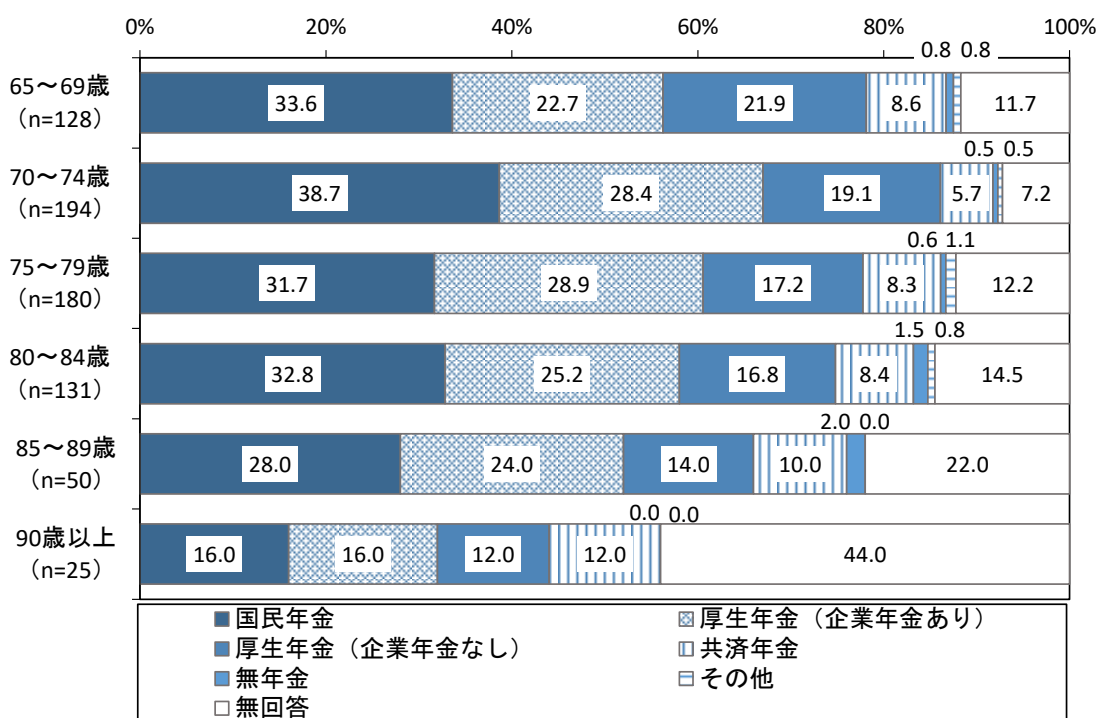
性別でみると、男性では「厚生年金（企業年金あり）」が41.5%で最も高く、女性では「国民年金」が50.9%で最も高くなっています。

図表 3-2-34 年金の種類 性別



年齢別でみると、89歳以下の年齢階層で「国民年金」の割合が最も高く、90歳以上では、「国民年金」、「厚生年金（企業年金あり）」が同率で最も高くなっています。

図表 3-2-35 年金の種類 年齢別



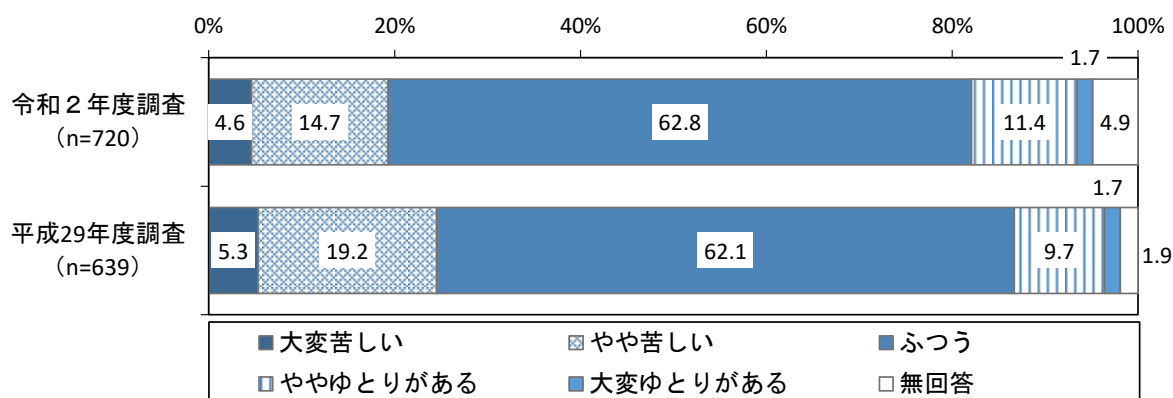
(11) 経済的にみた現在の暮らしの状況

問1 (6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (1つに○)

経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が62.8%で最も高く、次いで「やや苦しい」が14.7%、「ややゆとりがある」が11.4%と続いています。

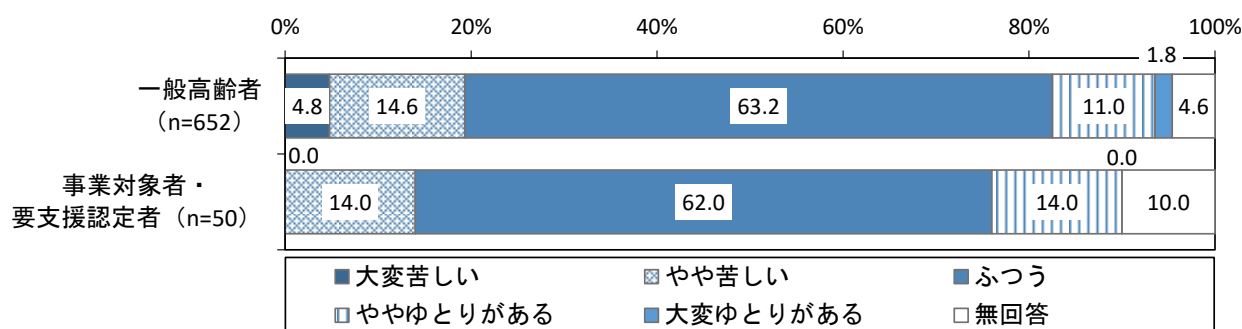
平成29年度調査と比較すると、『苦しい』(「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計) (19.3%) が平成29年度調査 (24.5%) より5.2ポイント減少しています。

図表 3-2-36 経済的にみた現在の暮らしの状況



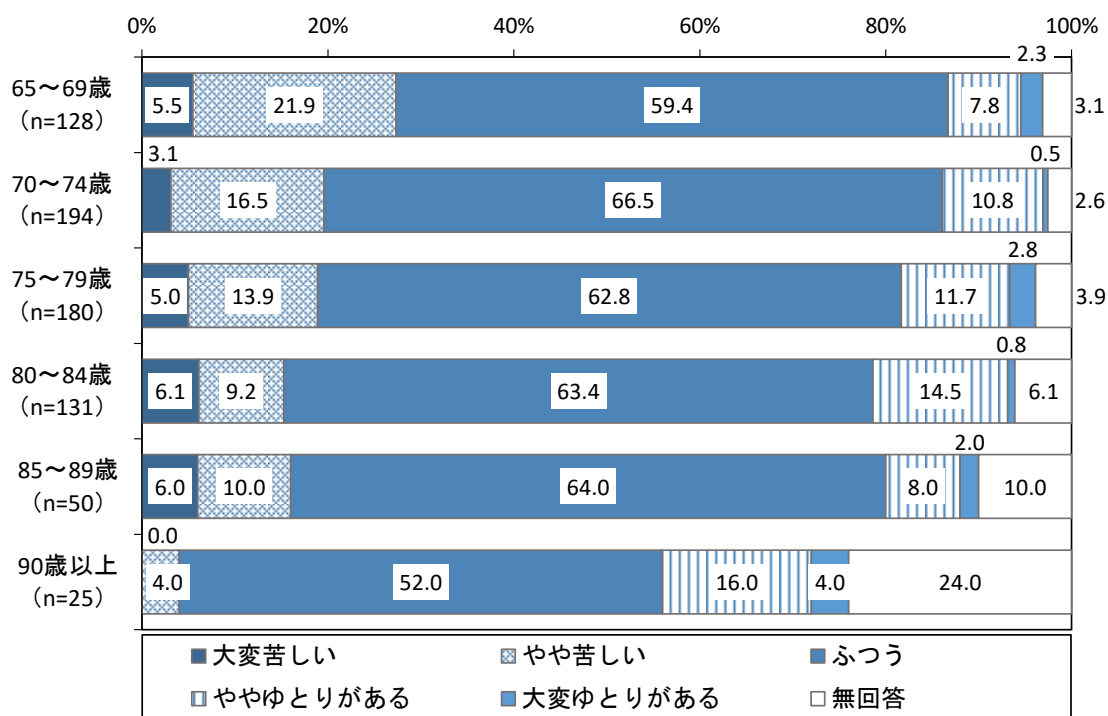
認定状況別でみると、『苦しい』では、一般高齢者が19.4%で、事業対象者・要支援認定者(14.0%)よりも5.4ポイント高くなっています。

図表 3-2-37 経済的にみた現在の暮らしの状況 認定状況別



年齢別でみると、『苦しい』では、年齢が上がるにつれて概ね割合が低くなっており、65～69歳が27.4%で最も高くなっています。

図表 3-2-38 経済的にみた現在の暮らしの状況 年齢別



3. からだを動かすことについて

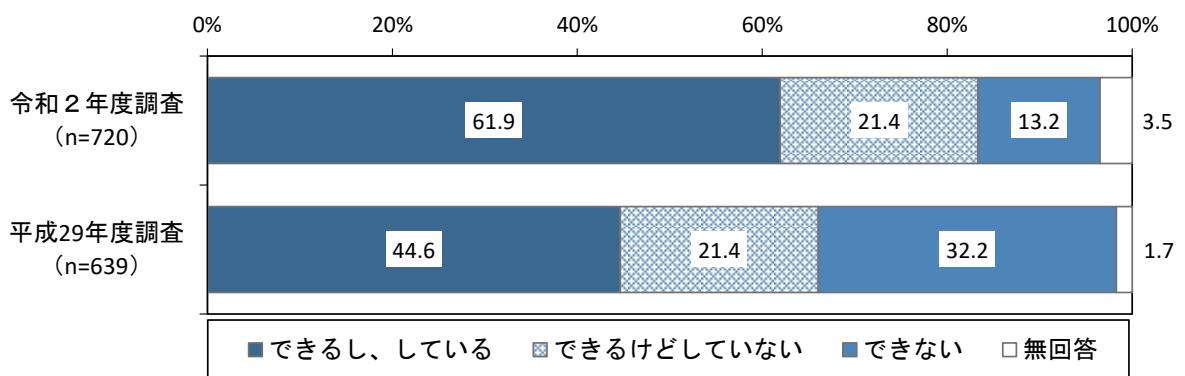
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(1つに〇)
-------	-----------------------------

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が61.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が21.4%、「できない」が13.2%となっています。

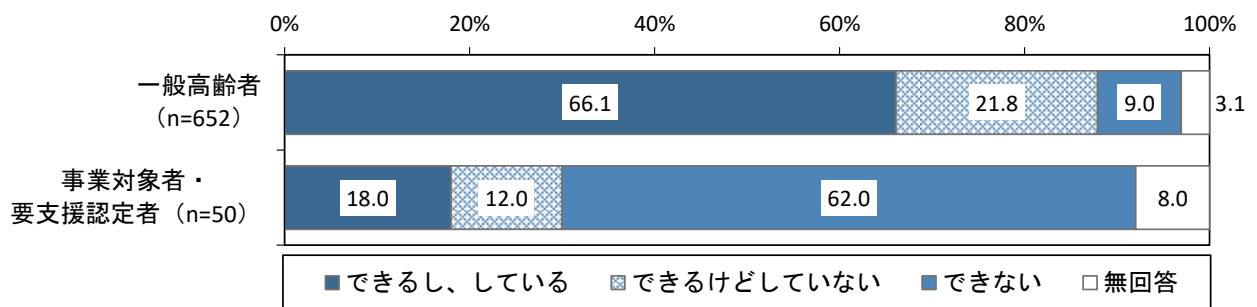
平成29年度調査と比較すると、「できるし、している」(61.9%)では、平成29年度調査(44.6%)よりも17.3ポイント増加しています。

図表 3-3-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



認定状況別で見ると、一般高齢者では「できるし、している」が66.1%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「できない」が62.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-2 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 認定状況別



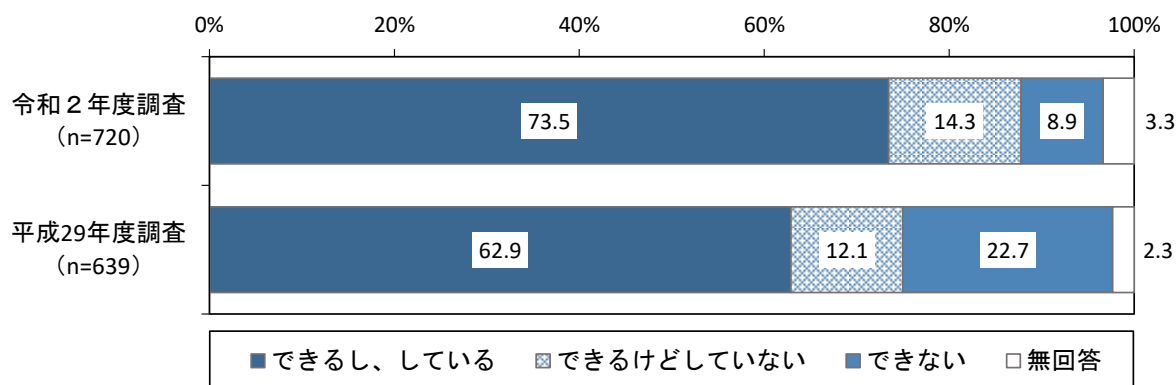
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (1つに○)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が73.5%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.3%、「できない」が8.9%となっています。

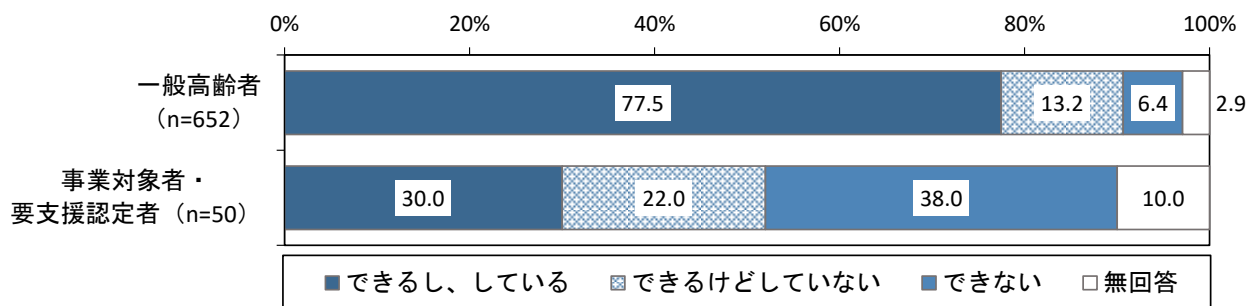
平成29年度調査と比較すると、「できるし、している」(73.5%)では、平成29年度調査(62.9%)よりも10.6ポイント増加しています。

図表 3-3-3 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



認定状況別で見ると、一般高齢者では「できるし、している」が77.5%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「できない」が38.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-4 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 認定状況別



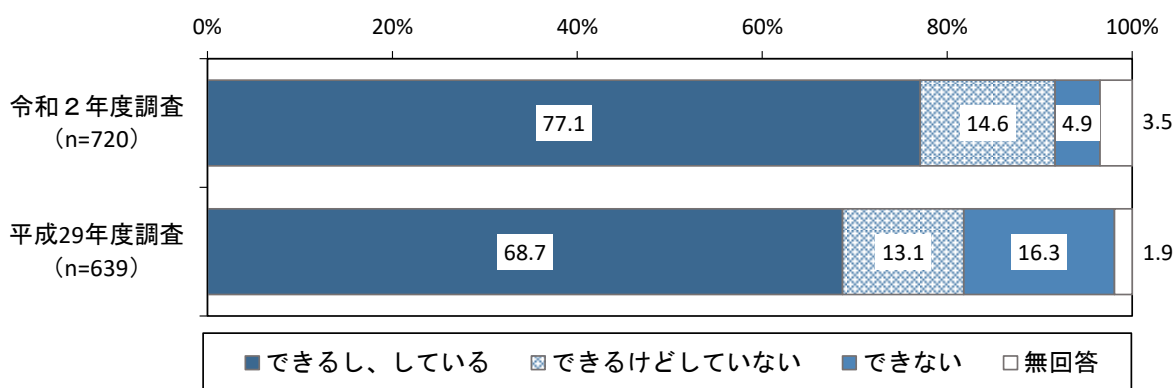
(3) 15分位続けて歩いているか

問2(3) 15分位続けて歩いていますか(1つに○)

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が77.1%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.6%、「できない」が4.9%となっています。

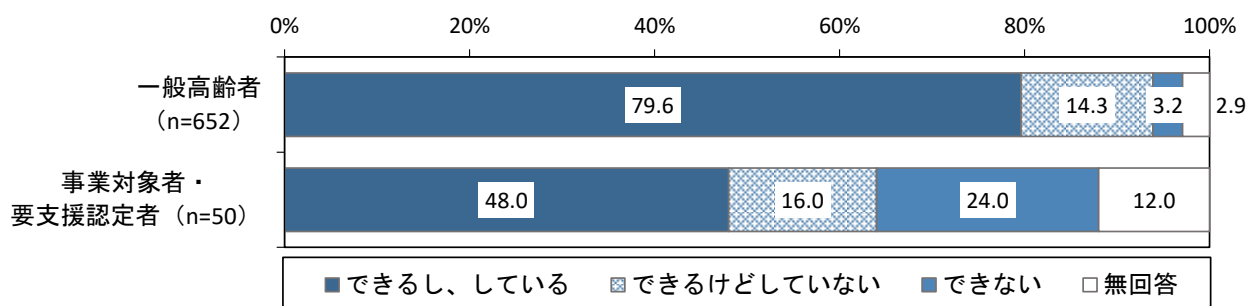
平成29年度調査と比較すると、「できるし、している」(77.1%)では、平成29年度調査(68.7%)よりも8.4ポイント増加しています。

図表 3-3-5 15分位続けて歩いているか



認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が79.6%、事業対象者・要支援認定者が48.0%となっています。

図表 3-3-6 15分位続けて歩いているか 認定状況別

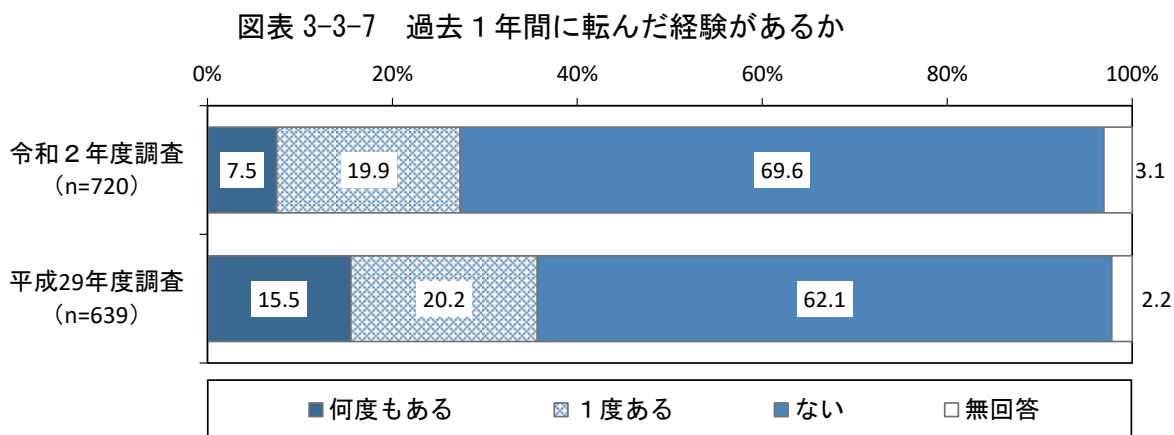


(4) 過去1年間に転んだ経験があるか

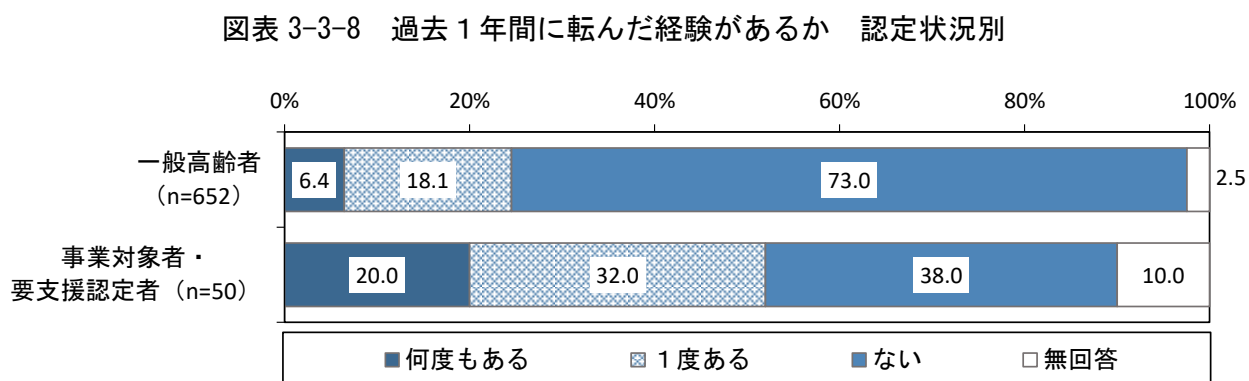
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか(1つに○)
-------	-------------------------

過去1年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が69.6%で最も高く、次いで「1度ある」が19.9%、「何度もある」が7.5%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「ない」(69.6%)では、平成29年度調査(62.1%)よりも7.5ポイント増加しています。



認定状況別でみると、「ない」では、一般高齢者が73.0%、事業対象者・要支援認定者が38.0%となっています。



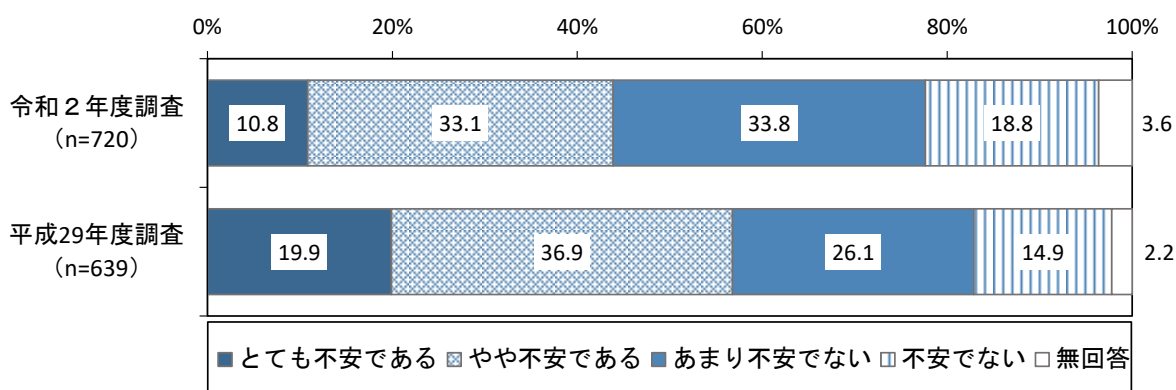
(5) 転倒に対する不安は大きいか

問2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (1つに〇)

転倒に対する不安は大きいかについては、「あまり不安でない」が33.8%で最も高く、次いで「やや不安である」が33.1%、「不安でない」が18.8%と続いています。

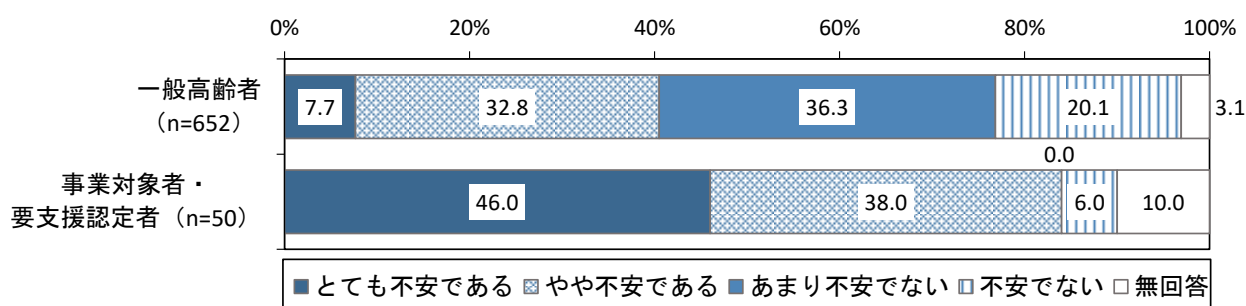
平成29年度調査と比較すると、『不安でない』(「あまり不安でない」と「不安でない」の合計) (52.6%) では、平成29年度調査 (41.0%) よりも11.6ポイント増加しています。

図表 3-3-9 転倒に対する不安は大きいか



認定状況別でみると、一般高齢者では「あまり不安でない」が36.3%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「とても不安である」が46.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-10 転倒に対する不安は大きいか 認定状況別

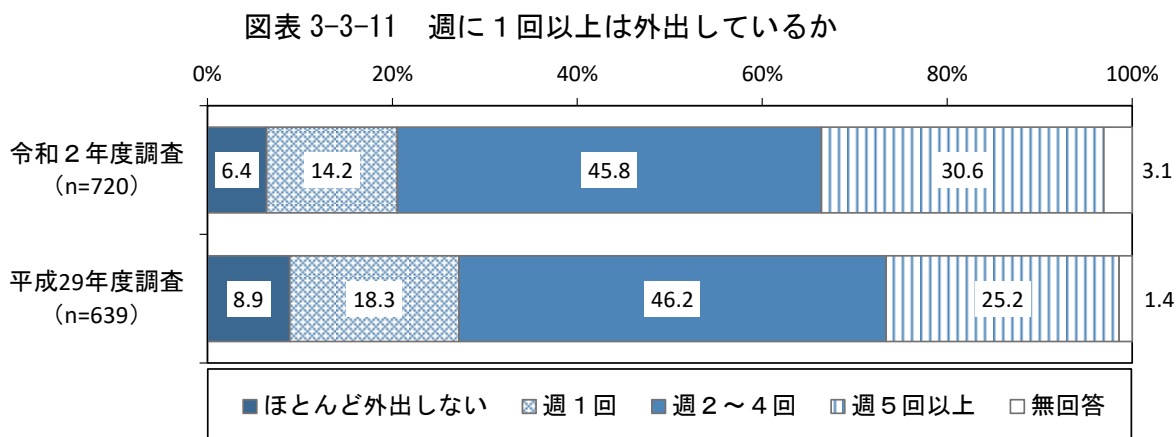


(6) 週に1回以上は外出しているか

問2(6)	週に1回以上は外出していますか(1つに○)
-------	-----------------------

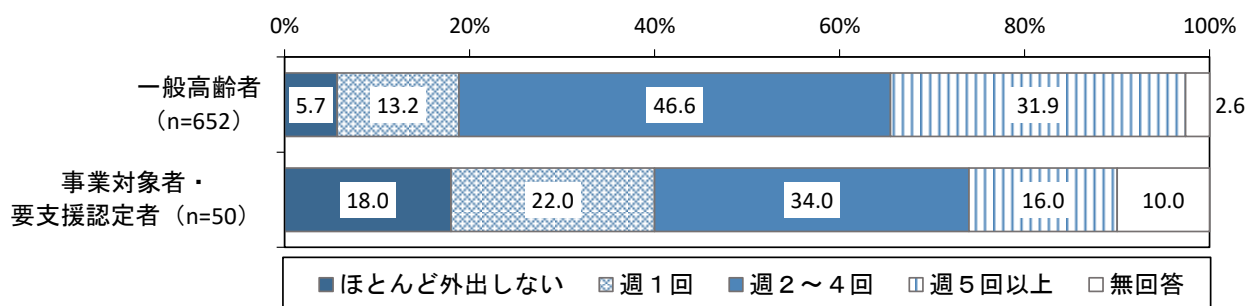
週に1回以上は外出しているかについては、「週2～4回」が45.8%で最も高く、次いで「週5回以上」が30.6%、「週1回」が14.2%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「週5回以上」(30.6%)では、平成29年度調査(25.2%)よりも5.4ポイント増加しています。



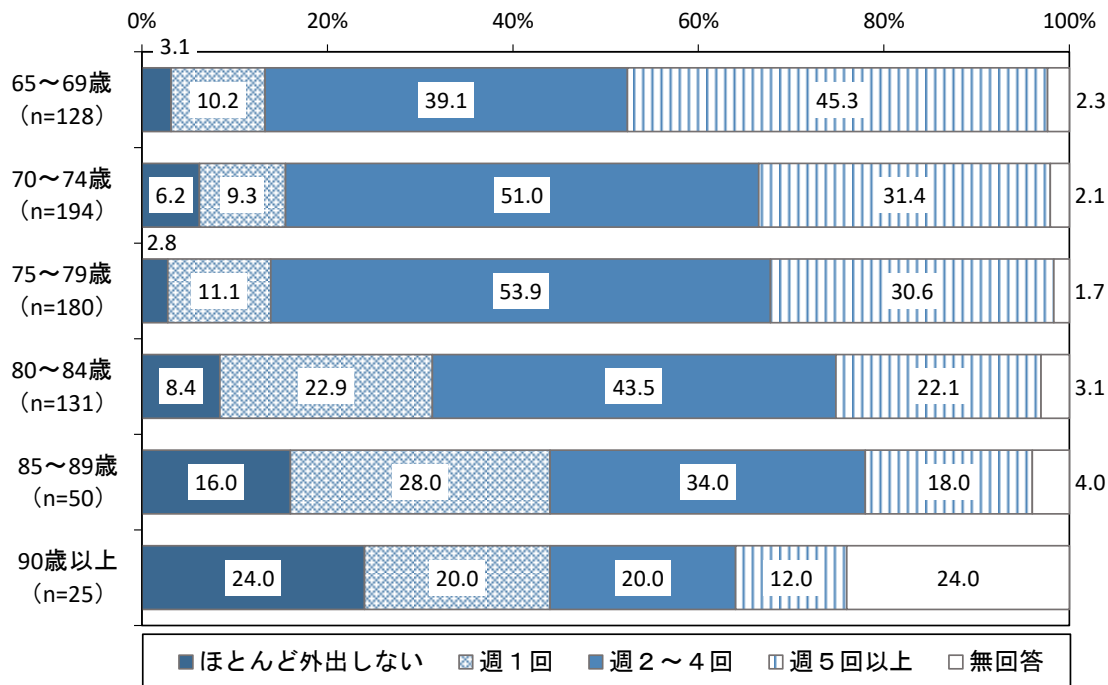
認定状況別でみると、『週1回以下』(「ほとんど外出しない」と「週1回」の合計)では、一般高齢者が18.9%、事業対象者・要支援認定者が40.0%となっています。

図表 3-3-12 週に1回以上は外出しているか 認定状況別



年齢別でみると、「週5回以上」では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が45.3%で最も高く、「ほとんど外出しない」では、90歳以上が24.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-13 週に1回以上は外出しているか 年齢別



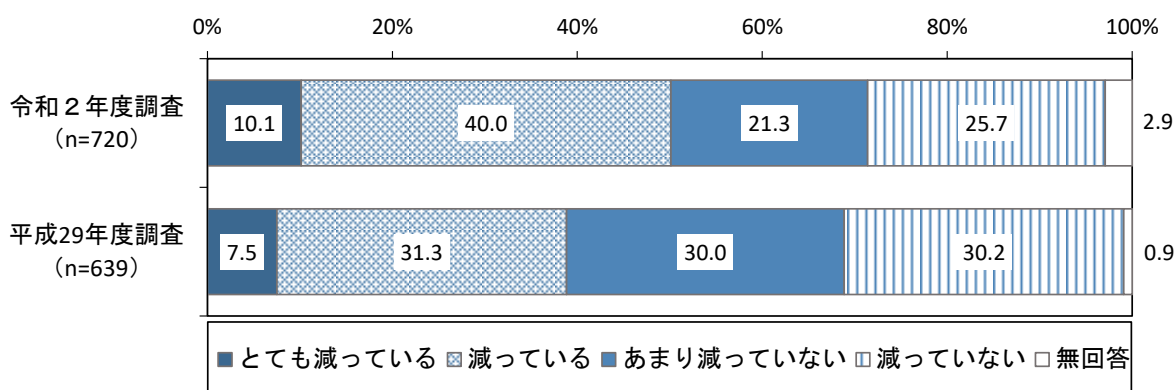
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

問2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (1つに○)

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っている」が40.0%で最も高く、次いで「減っていない」が25.7%、「あまり減っていない」が21.3%と続いています。

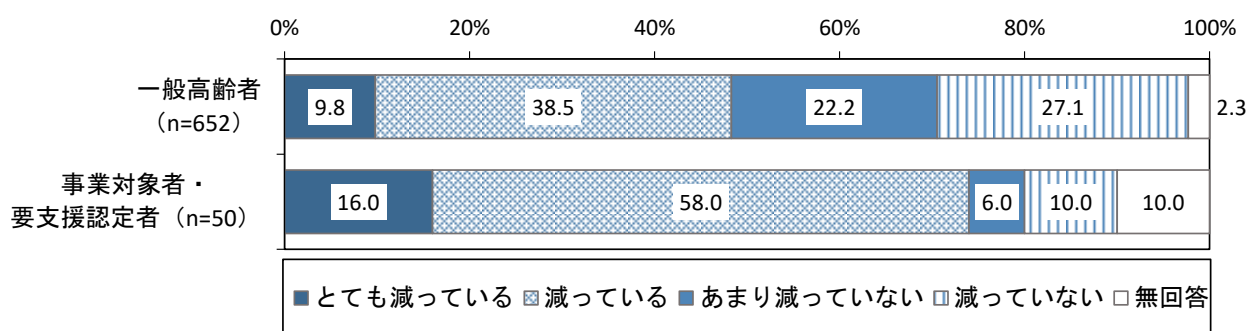
平成29年度調査と比較すると、『減っている』(「とても減っている」と「減っている」の合計)(50.1%)では、平成29年度調査(38.8%)よりも11.3ポイント増加しています。

図表 3-3-14 昨年と比べて外出の回数が減っているか



認定状況別でみると、『減っている』では、一般高齢者が48.3%、事業対象者・要支援認定者が74.0%となっています。

図表 3-3-15 昨年と比べて外出の回数が減っているか 認定状況別



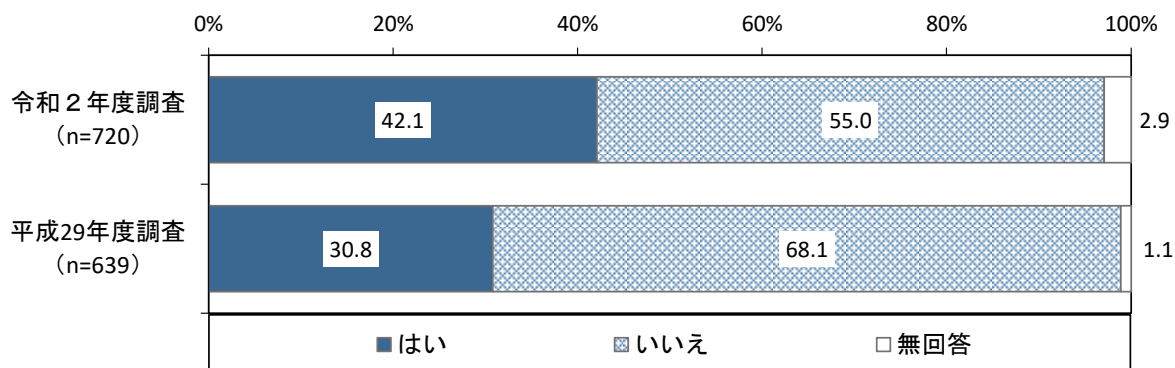
(8) 外出を控えているか

問2 (8)	外出を控えていますか (1つに○) (新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛前の状況をご回答ください)
--------	--

外出を控えているかについては、「はい」が42.1%、「いいえ」が55.0%となっています。

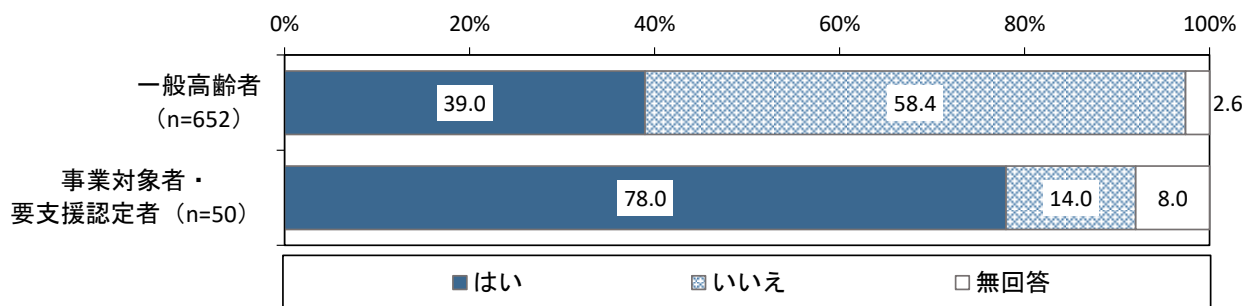
平成29年度調査と比較すると、「はい」(42.1%)では、平成29年度調査(30.8%)よりも11.3ポイント増加しています。

図表 3-3-16 外出を控えているか



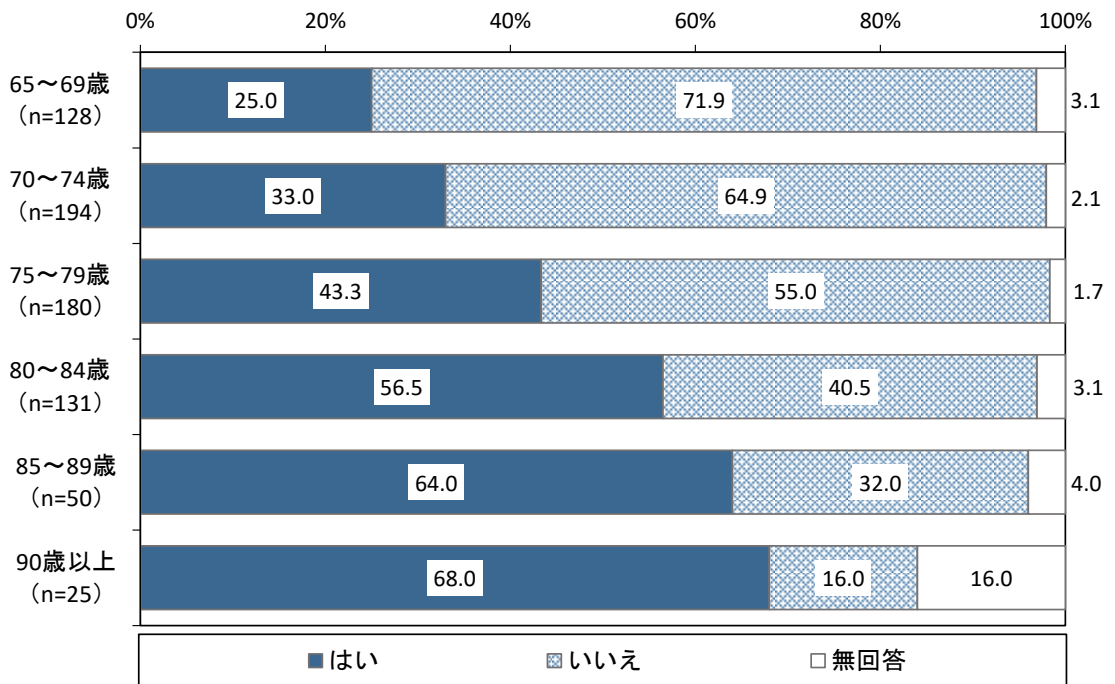
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が39.0%、事業対象者・要支援認定者が78.0%となっています。

図表 3-3-17 外出を控えているか 認定状況別



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が68.0%で最も高くなっています。

図表 3-3-18 外出を控えているか 年齢別



(9) 外出を控えている理由

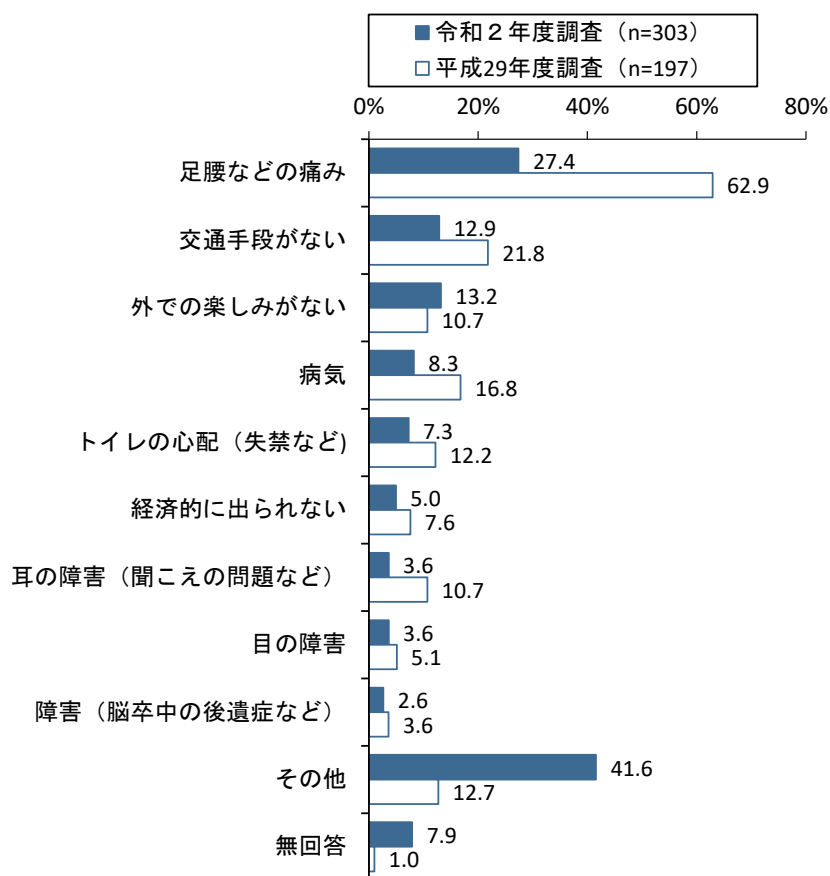
問2(8)	【問2(8)で「はい」(外出を控えている)の方のみ】
①	① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

外出を控えている理由については、「その他」が41.6%で最も高く、次いで「足腰などの痛み」が27.4%、「外での楽しみがない」が13.2%と続いています。

また、その他の理由として、「新型コロナウイルス感染症のため」(87件)、「熱中症対策のため」(3件)、「家族の介護のため」(3件)等があげられています。

平成29年度調査と比較すると、「外での楽しみがない」、「その他」が平成29年度調査より割合が増加しています。

図表 3-3-19 外出を控えている理由



認定状況別で見ると、一般高齢者では「その他」が44.9%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「足腰などの痛み」が61.5%で最も高くなっています。

性別で見ると、「外での楽しみがない」では、男性が19.0%で、女性（9.9%）よりも9.1ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、85～89歳では「足腰などの痛み」の割合が最も高く、それ以外の年齢階層では「その他」の割合が最も高くなっています。

図表 3-3-20 外出を控えている理由 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	足腰などの痛み	交通手段がない	外での楽しみがない	病気	トイレの心配（失禁など）	経済的に出られない	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	障害（脳卒中の後遺症など）	その他	無回答
全体		303	27.4	12.9	13.2	8.3	7.3	5.0	3.6	3.6	2.6	41.6	7.9
平成29年度調査		197	62.9	21.8	10.7	16.8	12.2	7.6	10.7	5.1	3.6	12.7	1.0
認定別	一般高齢者	254	22.4	10.2	13.4	8.3	6.7	5.1	2.0	2.8	2.4	44.9	8.7
	事業対象者・要支援認定者	39	61.5	28.2	15.4	5.1	10.3	2.6	15.4	10.3	5.1	20.5	2.6
性別	男性	116	25.0	10.3	19.0	9.5	10.3	7.8	4.3	5.2	6.0	41.4	2.6
	女性	182	29.7	14.8	9.9	7.1	5.5	2.7	3.3	2.7	0.5	40.7	11.5
年齢別	65～69歳	32	15.6	9.4	15.6	6.3	0.0	3.1	0.0	3.1	3.1	37.5	12.5
	70～74歳	64	25.0	9.4	17.2	7.8	7.8	7.8	1.6	1.6	4.7	40.6	6.3
	75～79歳	78	23.1	12.8	11.5	7.7	7.7	5.1	2.6	2.6	1.3	51.3	6.4
	80～84歳	74	27.0	10.8	9.5	9.5	5.4	5.4	5.4	6.8	2.7	40.5	12.2
	85～89歳	32	56.3	25.0	12.5	6.3	21.9	0.0	6.3	6.3	3.1	25.0	0.0
	90歳以上	17	35.3	23.5	23.5	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	41.2	5.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

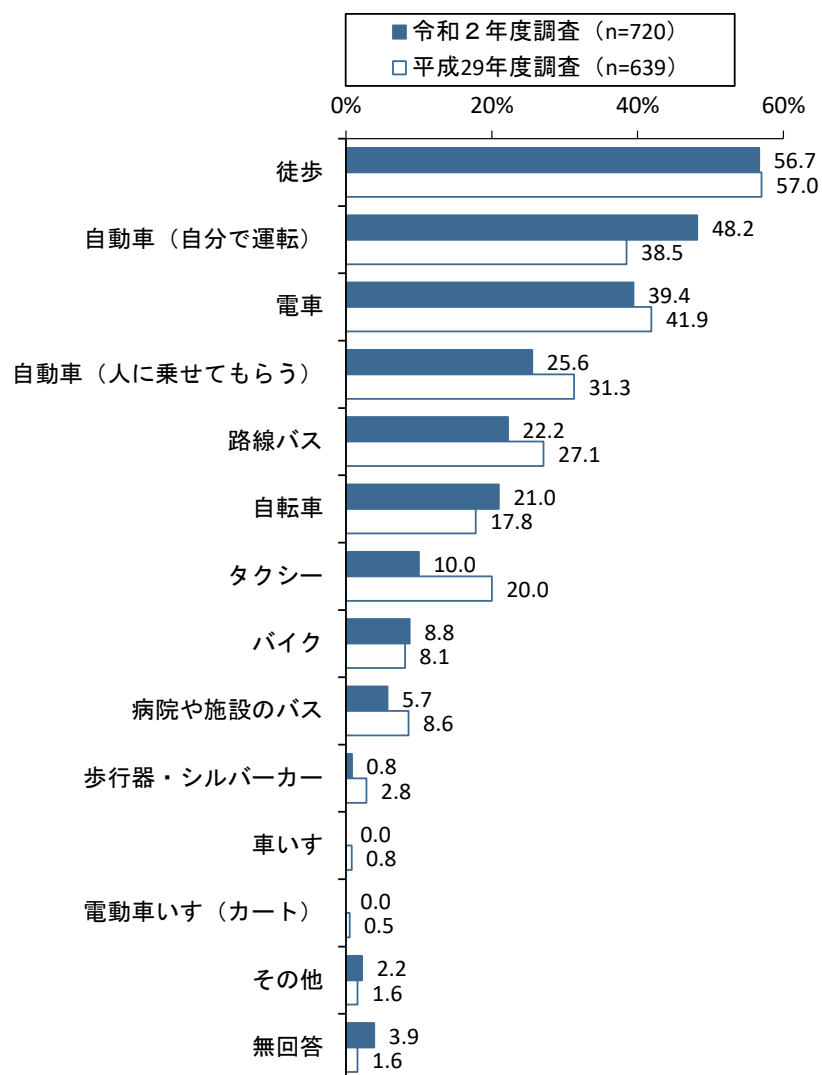
(10) 外出する際の移動手段

問2(9) 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

外出する際の移動手段については、「徒歩」が56.7%で最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」が48.2%、「電車」が39.4%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「自動車(自分で運転)」(48.2%)が平成29年度調査(38.5%)よりも9.7ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 3-3-21 外出する際の移動手段



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「徒歩」の割合が最も高く、「自動車(自分で運転)」では、一般高齢者が50.6%で、事業対象者・要支援認定者(16.0%)よりも34.6ポイント高くなっています。

性別でみると、男性では「自動車(自分で運転)」が67.7%で最も高く、女性では「徒歩」が57.2%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～74歳では「自動車(自分で運転)」の割合が最も高く、75歳以上では「徒歩」の割合が最も高くなっています。

図表 3-3-22 外出する際の移動手段 属性別

単位：実数(人)、構成比(%)

		合計	徒歩	自動車 (自分で運転)	電車	自動車 (人に乗せてもら う)	路線バス	自転車	タクシー	バイク	病院や施設 のバス	歩行器・ シルバーカー
全体		720	56.7	48.2	39.4	25.6	22.2	21.0	10.0	8.8	5.7	0.8
平成29年度調査		639	57.0	38.5	41.9	31.3	27.1	17.8	20.0	8.1	8.6	2.8
認定別	一般高齢者	652	57.7	50.6	40.8	23.9	21.8	22.5	8.0	9.2	4.4	0.3
	事業対象者・要支援認定者	50	46.0	16.0	22.0	42.0	26.0	2.0	30.0	2.0	18.0	6.0
性別	男性	328	56.1	67.7	37.8	11.6	19.8	20.1	4.3	11.0	3.0	0.3
	女性	381	57.2	31.0	41.2	38.1	24.4	21.8	14.4	6.6	7.9	0.8
年齢別	65～69歳	128	56.3	66.4	43.0	27.3	17.2	25.0	3.9	12.5	0.0	0.0
	70～74歳	194	51.0	55.7	39.2	26.8	16.5	25.3	4.1	10.3	1.0	0.0
	75～79歳	180	61.1	49.4	40.6	22.8	21.7	22.2	8.3	8.9	1.7	0.0
	80～84歳	131	61.8	40.5	39.7	24.4	29.0	15.3	12.2	6.9	9.9	0.8
	85～89歳	50	54.0	10.0	32.0	34.0	36.0	12.0	32.0	0.0	22.0	4.0
	90歳以上	25	48.0	0.0	28.0	20.0	28.0	0.0	36.0	0.0	44.0	8.0

		合計	車 い す	電動 車 い す (カー ト)	そ の 他	無 回 答
全体		720	0.0	0.0	2.2	3.9
平成29年度調査			0.8	0.5	1.6	1.6
認定別	一般高齢者	652	0.0	0.0	1.5	3.8
	事業対象者・要支援認定者	50	0.0	0.0	8.0	6.0
性別	男性	328	0.0	0.0	1.2	3.0
	女性	381	0.0	0.0	2.4	4.7
年齢別	65～69歳	128	0.0	0.0	0.8	2.3
	70～74歳	194	0.0	0.0	1.5	5.2
	75～79歳	180	0.0	0.0	2.2	2.2
	80～84歳	131	0.0	0.0	1.5	5.3
	85～89歳	50	0.0	0.0	2.0	4.0
	90歳以上	25	0.0	0.0	12.0	8.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

4. 食べることについて

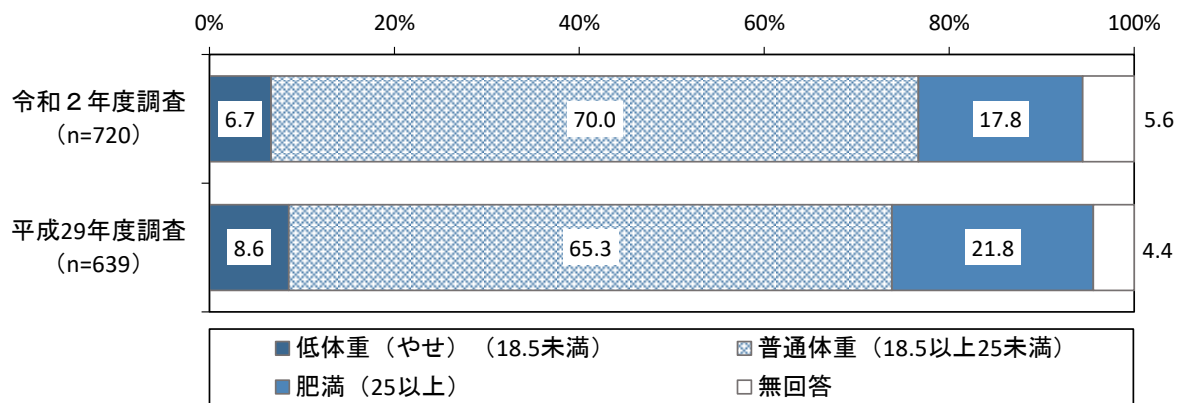
(1) BMI

問3(1)	身長・体重(数値を記入)
-------	--------------

BMI(身長・体重より算出)については、「普通体重(18.5以上25未満)」が70.0%で最も高く、次いで「肥満(25以上)」が17.8%、「低体重(やせ)(18.5未満)」が6.7%となっています。

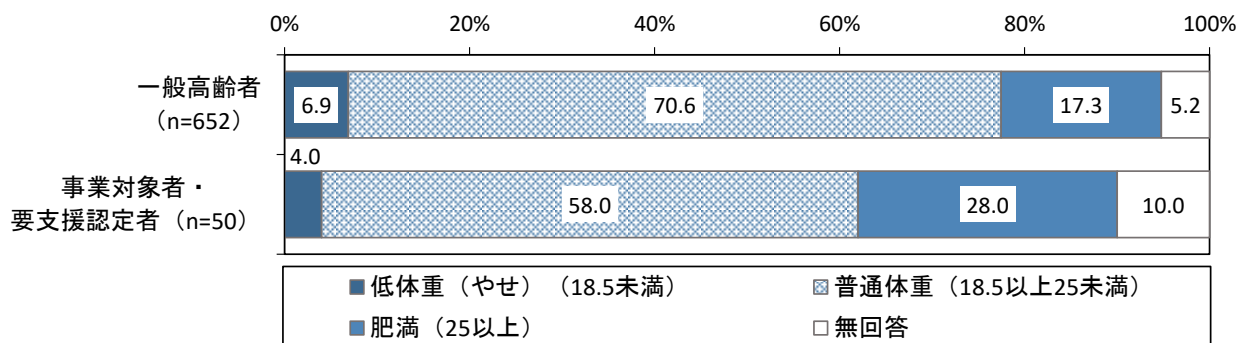
平成29年度調査と比較すると、「肥満(25以上)」(17.8%)では、平成29年度調査(21.8%)よりも4.0ポイント減少しています。

図表3-4-1 BMI



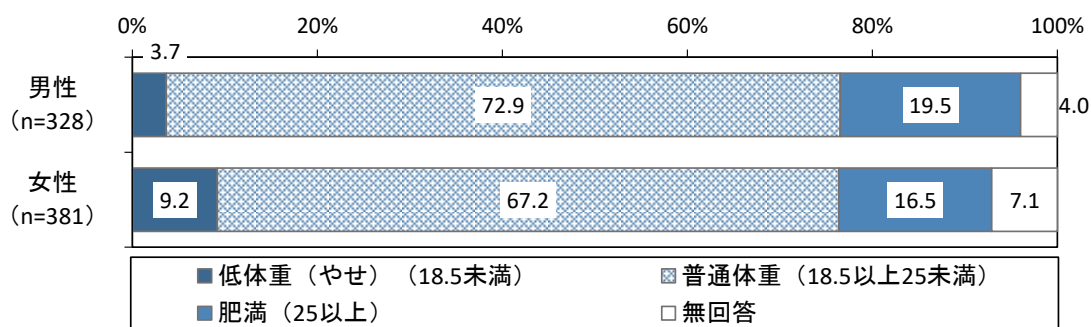
認定状況別で見ると、「肥満(25以上)」では、事業対象者・要支援認定者が28.0%で、一般高齢者(17.3%)よりも10.7ポイント高くなっています。

図表3-4-2 BMI 認定状況別



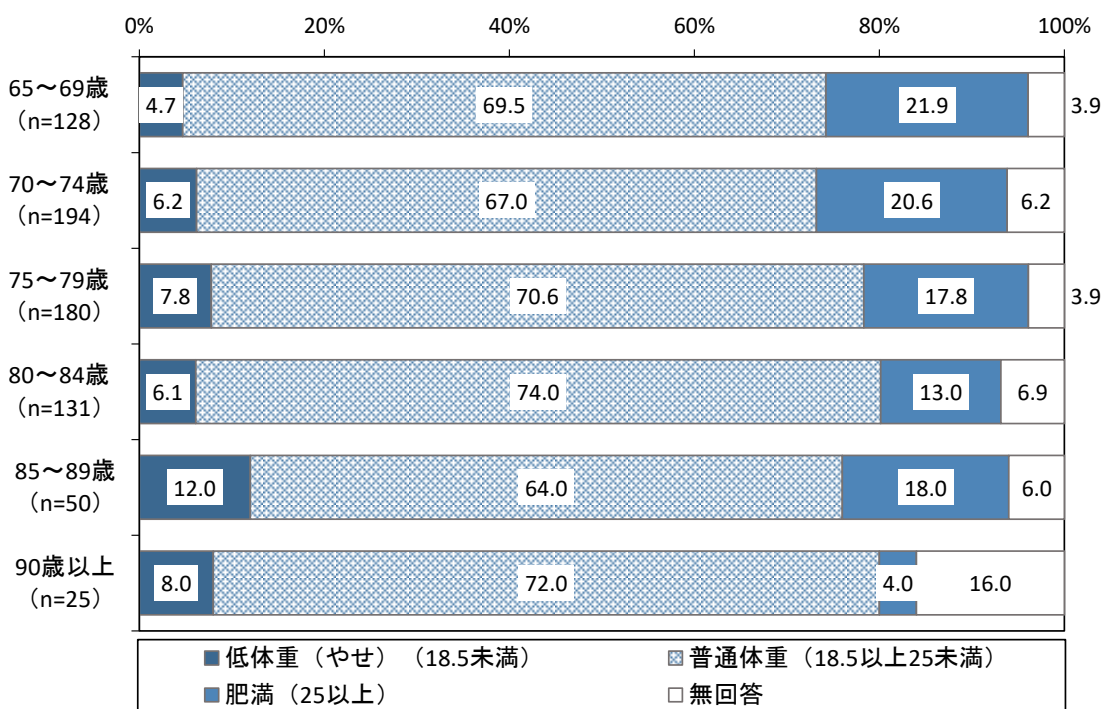
性別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、女性が9.2%で、男性（3.7%）よりも5.5ポイント高くなっています。

図表 3-4-3 BMI 性別



年齢別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、85～89歳が12.0%で最も高く、「肥満（25以上）」では、65～69歳が21.9%で最も高くなっています。

図表 3-4-4 BMI 年齢別



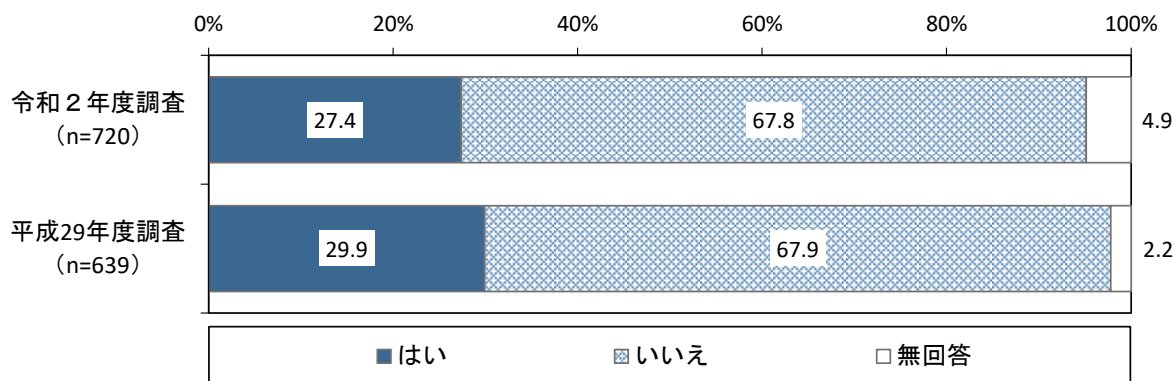
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (1つに○)

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が 27.4%、「いいえ」が 67.8%となっています。

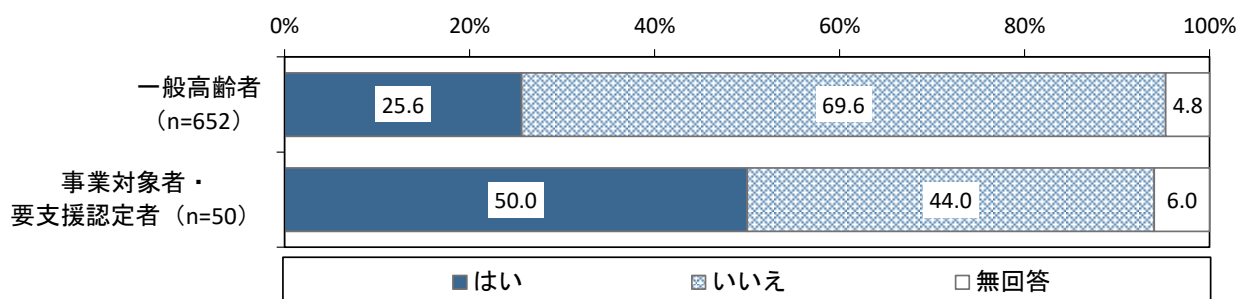
平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-5 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が 25.6%、事業対象者・要支援認定者が 50.0%となっています。

図表 3-4-6 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 認定状況別



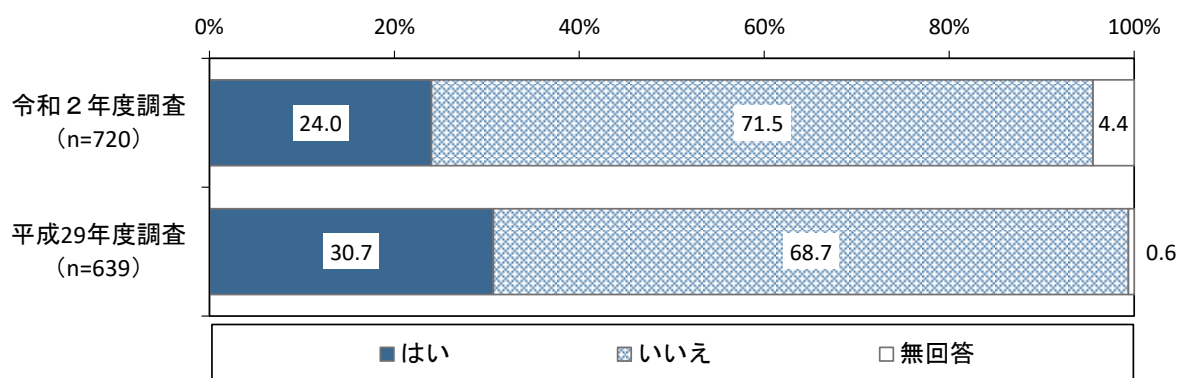
(3) お茶や汁物等でむせることがあるか

問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか (1つに○)
--------	---------------------------

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が24.0%、「いいえ」が71.5%となっています。

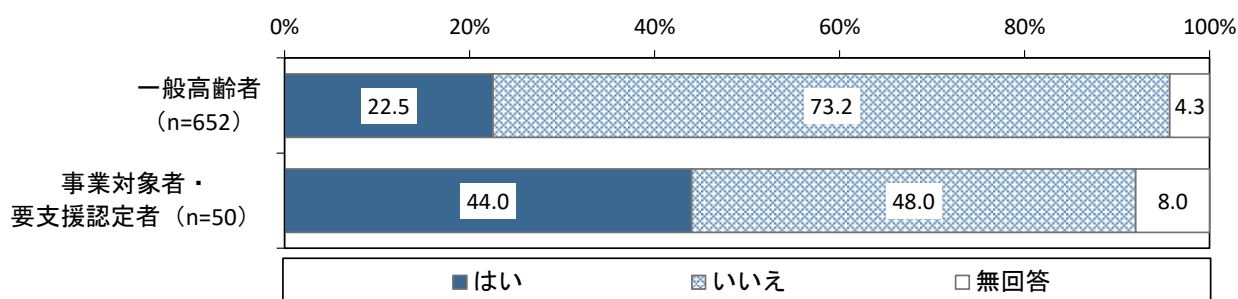
平成29年度調査と比較すると、「はい」(24.0%)では、平成29年度調査(30.7%)よりも6.7ポイント減少しています。

図表 3-4-7 お茶や汁物等でむせることがあるか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が22.5%、事業対象者・要支援認定者が44.0%となっています。

図表 3-4-8 お茶や汁物等でむせることがあるか 認定状況別

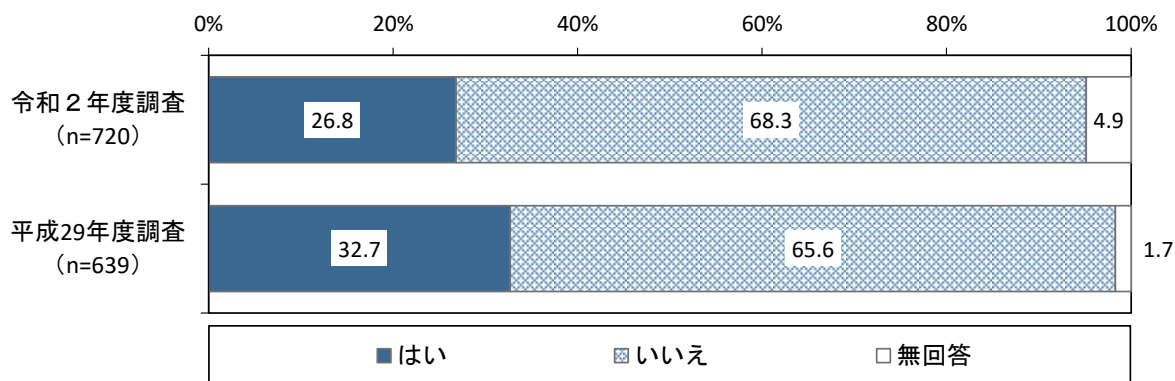


(4) 口の渇きが気になるか

問3(4) 口の渇きが気になりますか(1つに○)

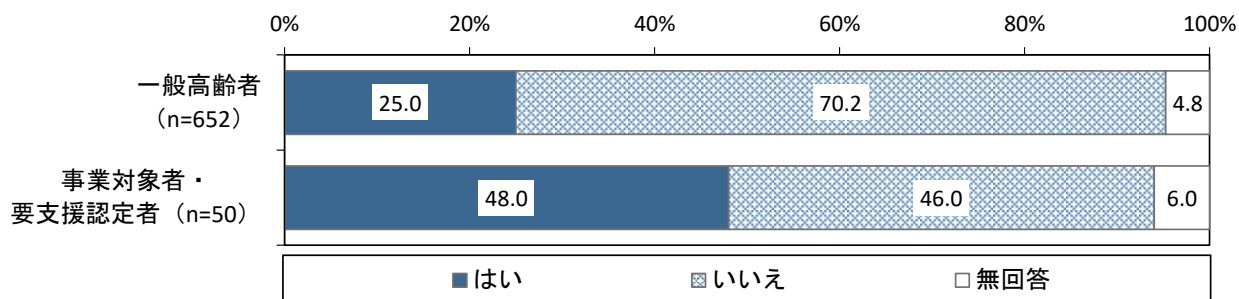
口の渇きが気になるかについては、「はい」が26.8%、「いいえ」が68.3%となっています。
 平成29年度調査と比較すると、「はい」(26.8%)では、平成29年度調査(32.7%)よりも5.9ポイント減少しています。

図表 3-4-9 口の渇きが気になるか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が25.0%、事業対象者・要支援認定者が48.0%となっています。

図表 3-4-10 口の渇きが気になるか 認定状況別

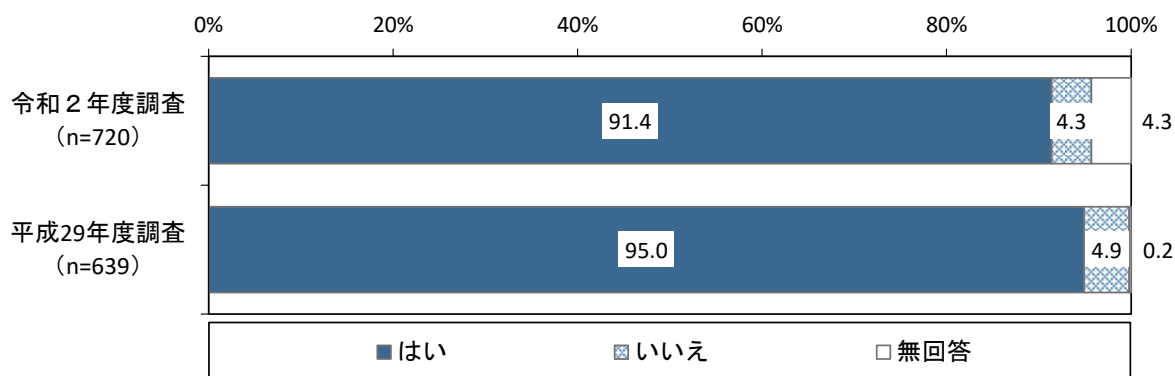


(5) 歯磨きを毎日しているか

問3 (5)	歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日 1 回以上はしていますか （1つに○）
--------	--

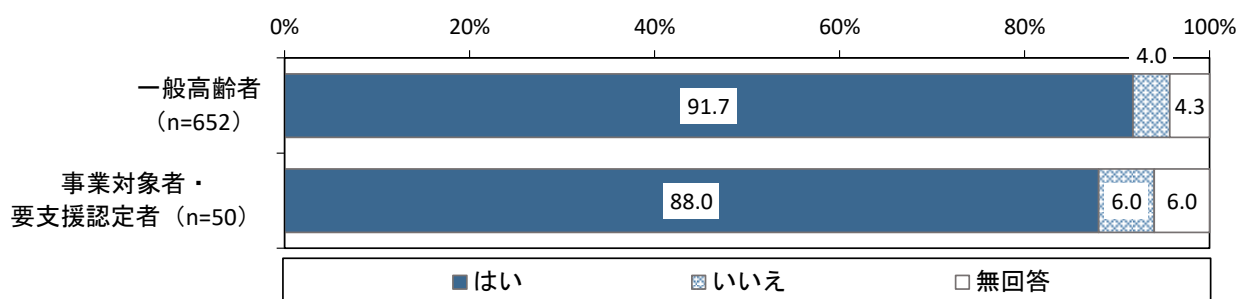
歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が 91.4%、「いいえ」が 4.3%となっています。
平成 29 年度調査と比較すると、「はい」(91.4%) が平成 29 年度調査 (95.0%) よりも 3.6 ポイント減少しています。

図表 3-4-11 歯磨きを毎日しているか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が 91.7%、事業対象者・要支援認定者が 88.0% となっています。

図表 3-4-12 歯磨きを毎日しているか 認定状況別



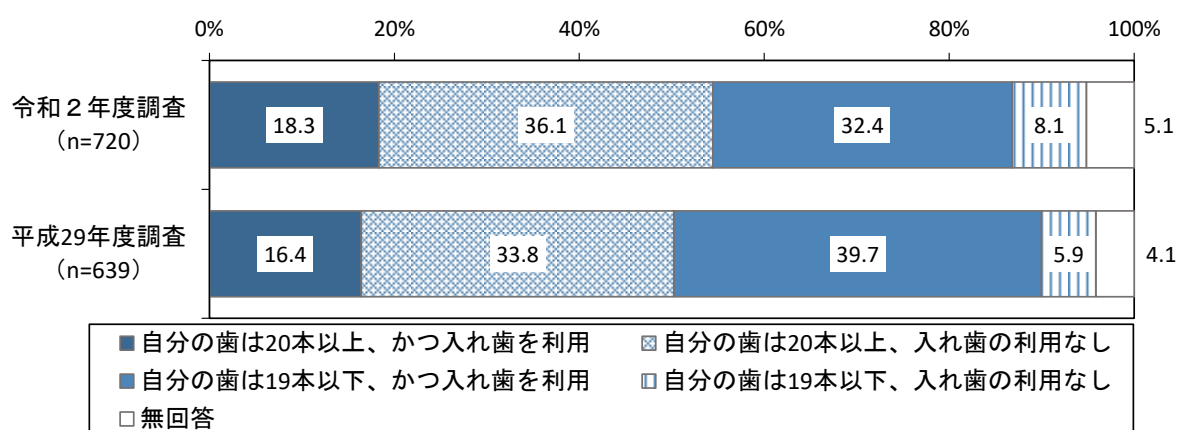
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況

問3(6)	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください(1つに○) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)
-------	--

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.1%で最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が32.4%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が18.3%と続いています。

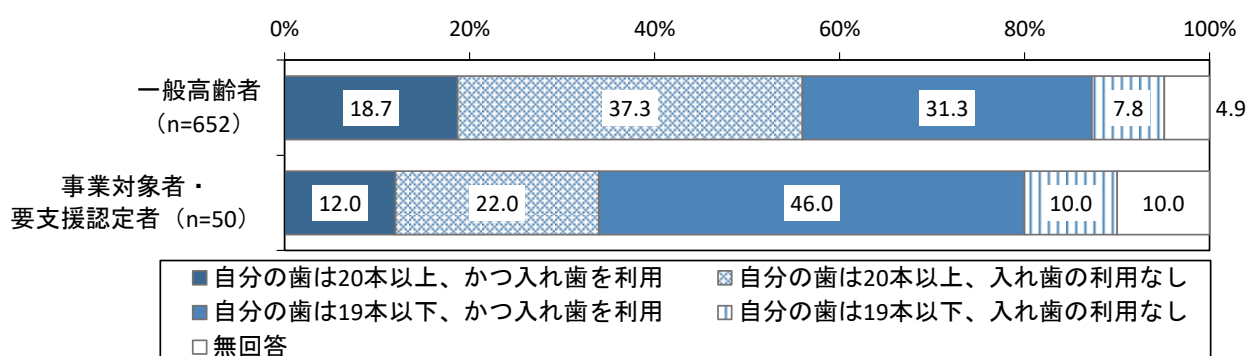
平成29年度調査と比較すると、『自分の歯は20本以上』(「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の合計)(54.4%)では、平成29年度調査(50.2%)よりも4.2ポイント増加しています。

図表 3-4-13 歯の数と入れ歯の利用状況



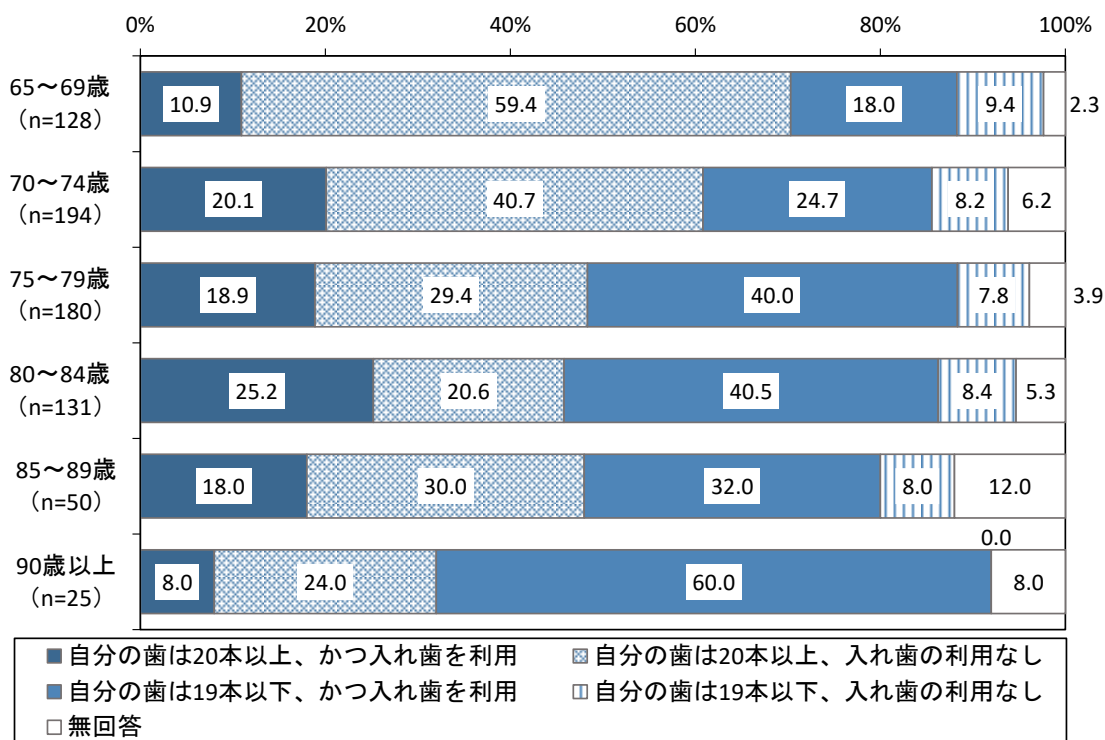
認定状況別にみると、『自分の歯は20本以上』では、一般高齢者が56.0%、事業対象者・要支援認定者が34.0%となっています。

図表 3-4-14 歯の数と入れ歯の利用状況 認定状況別



年齢別にみると、『自分の歯は20本以上』では、年齢が上がるにつれて概ね割合が低くなっており、90歳以上が32.0%で最も低くなっています。

図表 3-4-15 歯の数と入れ歯の利用状況 年齢別

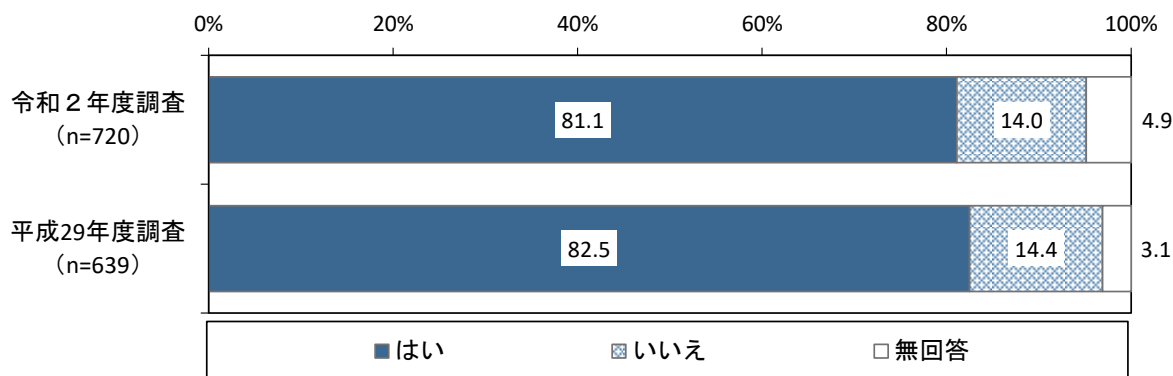


(7) 噛み合わせは良いか

問3 (6)	① 噛み合わせは良いですか (1つに○)
①	

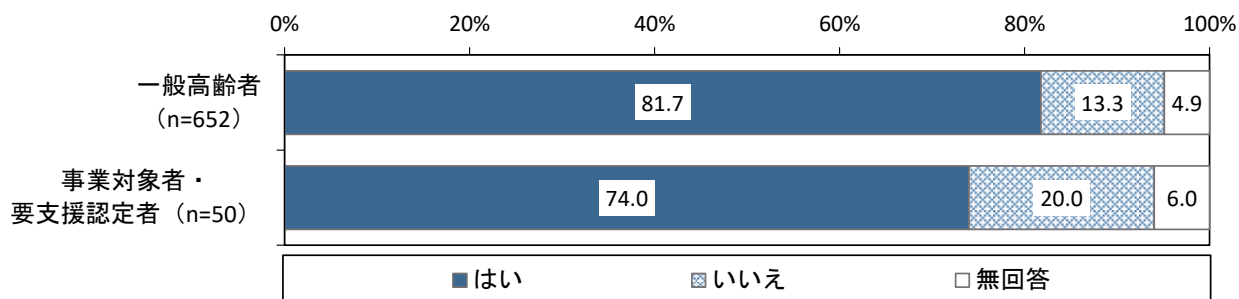
噛み合わせは良いかについては、「はい」が81.1%、「いいえ」が14.0%となっています。
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-16 噛み合わせは良いか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が81.7%、事業対象者・要支援認定者が74.0%となっています。

図表 3-4-17 噛み合わせは良いか 認定状況別



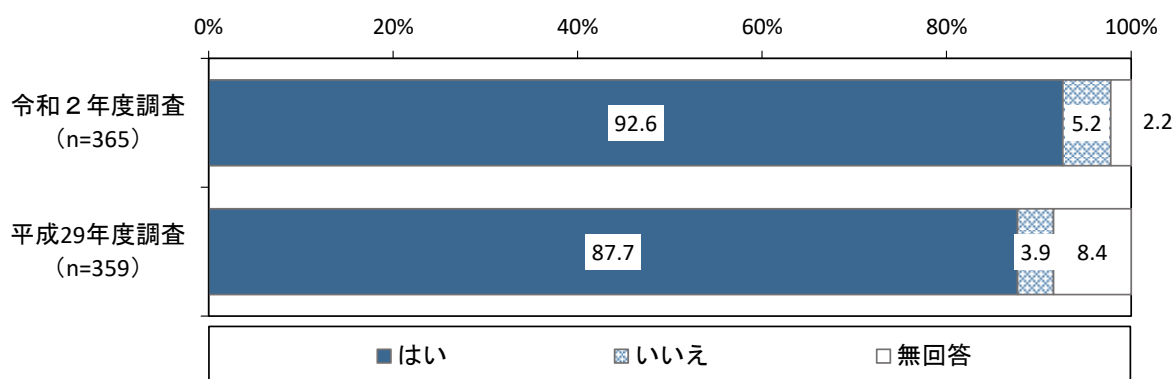
(8) 毎日入れ歯の手入れをしているか

問3(6) ②	<p>【問3(6)で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】</p> <p>② 毎日入れ歯の手入れをしていますか(1つに〇)</p>
------------	--

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、「はい」が92.6%、「いいえ」が5.2%となっています。

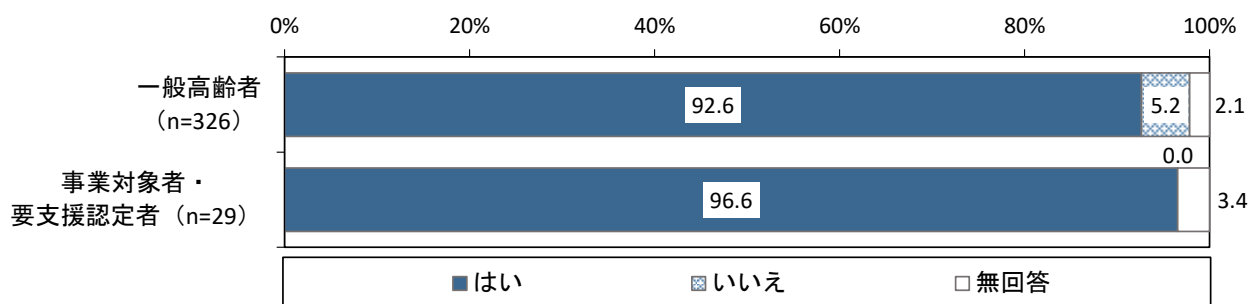
平成29年度調査と比較すると、「はい」(92.6%)が平成29年度調査(87.7%)よりも4.9ポイント増加しています。

図表 3-4-18 毎日入れ歯の手入れをしているか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が92.6%、事業対象者・要支援認定者が96.6%となっています。

図表 3-4-19 毎日入れ歯の手入れをしているか 認定状況別



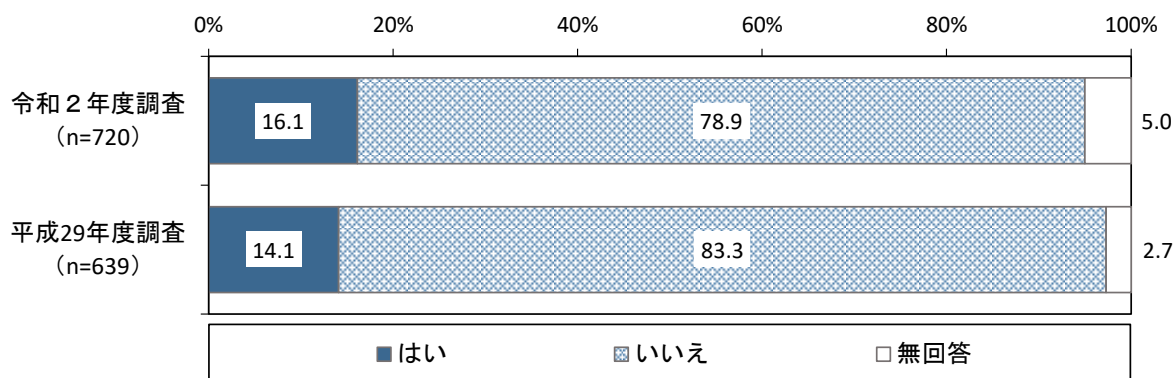
(9) 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか

問3(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(1つに○)
-------	--------------------------------

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が16.1%、「いいえ」が78.9%となっています。

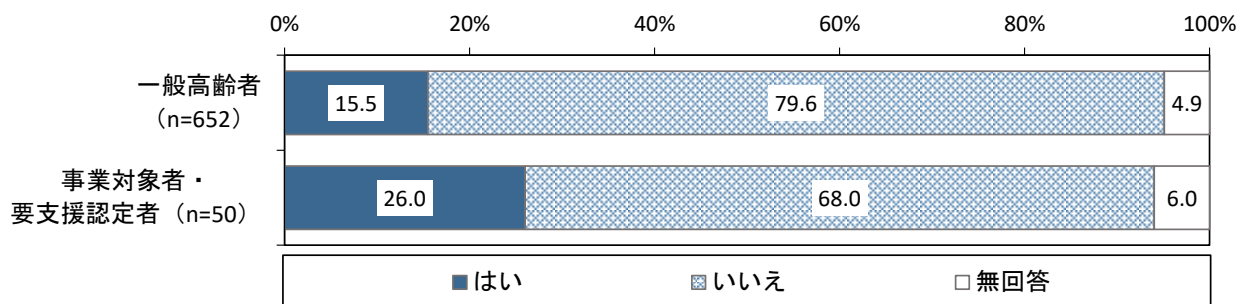
平成29年度調査と比較すると、「いいえ」(78.9%)が平成29年度調査(83.3%)より4.4ポイント減少しています。

図表 3-4-20 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が15.5%、事業対象者・要支援認定者が26.0%となっています。

図表 3-4-21 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか 認定状況別



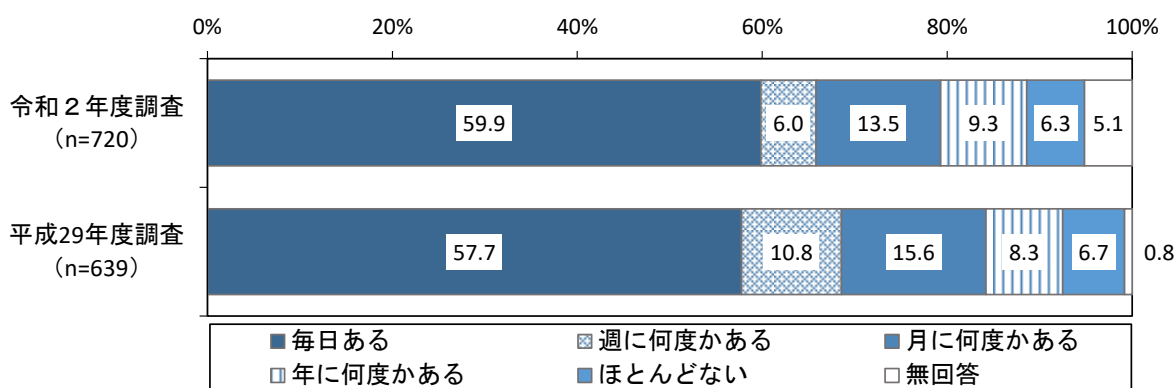
(10) 誰かと食事をとる機会があるか

問3(8) どなたかと食事をとる機会がありますか(1つに○)

誰かと食事をとる機会があるかについては、「毎日ある」が59.9%で最も高く、次いで「月に何度かある」が13.5%、「年に何度かある」が9.3%と続いています。

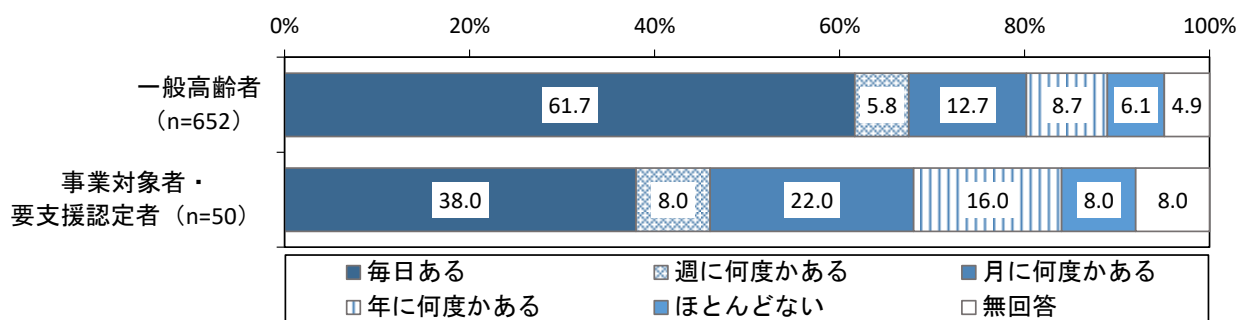
平成29年度調査と比較すると、「週に何度かある」(6.0%)が平成29年度調査(10.8%)より4.8ポイント減少しています。

図表 3-4-22 誰かと食事をとる機会があるか



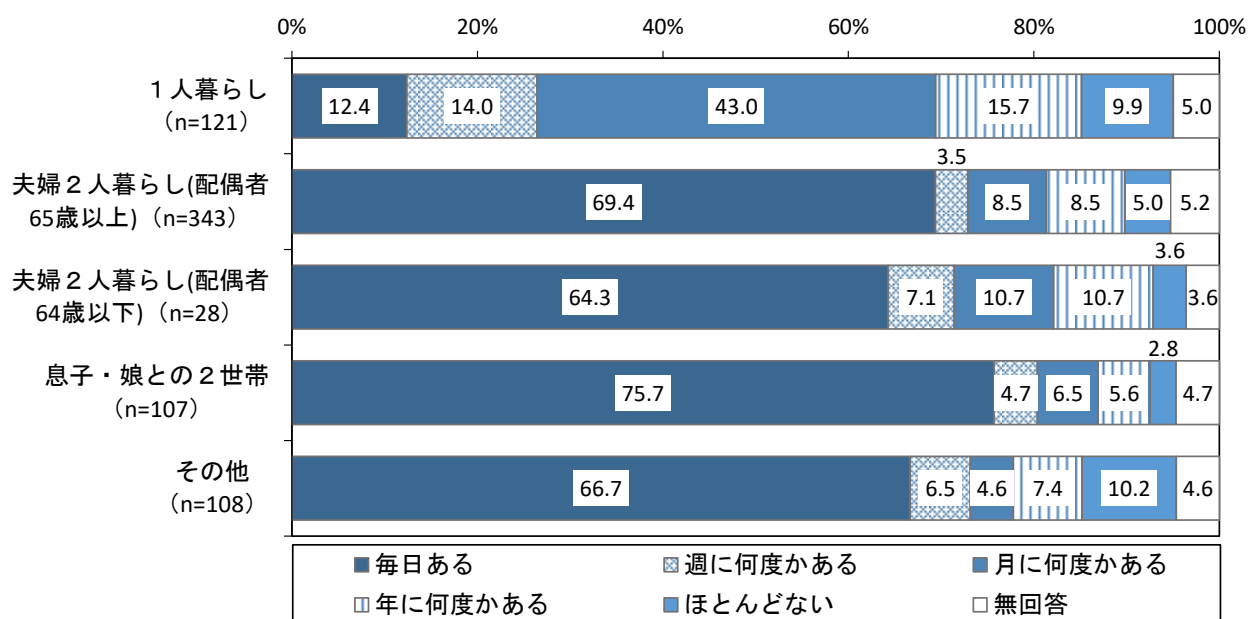
認定状況別でみると、「毎日ある」では、一般高齢者が61.7%で、事業対象者・要支援認定者(38.0%)よりも23.7ポイント高くなっています。

図表 3-4-23 誰かと食事をとる機会があるか 認定状況別



家族構成別でみると、『年に数回以下』（「年に何度かある」と「ほとんどない」の合計）では、1人暮らしが25.6%で最も高くなっています。

図表 3-4-24 誰かと食事をとにもする機会があるか 家族構成別



5. 毎日の生活について

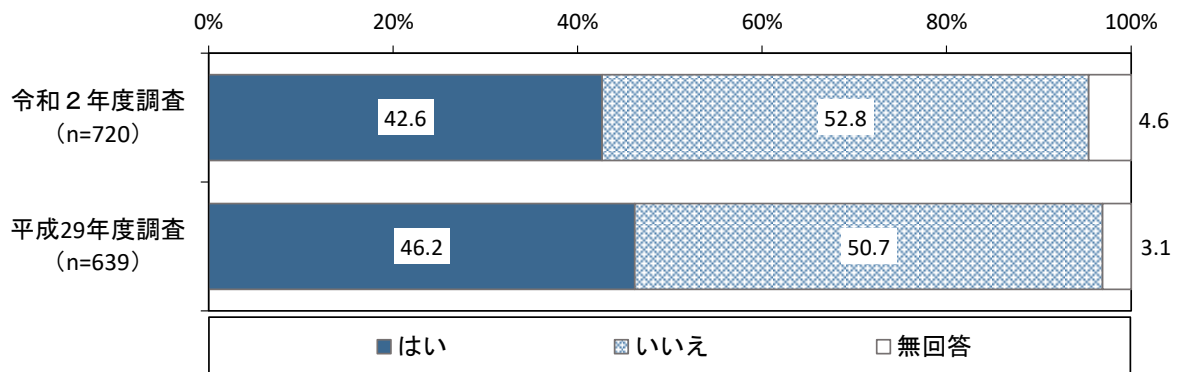
(1) 物忘れが多いと感じるか

問4(1)	物忘れが多いと感じますか(1つに○)
-------	--------------------

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が42.6%、「いいえ」が52.8%となっています。

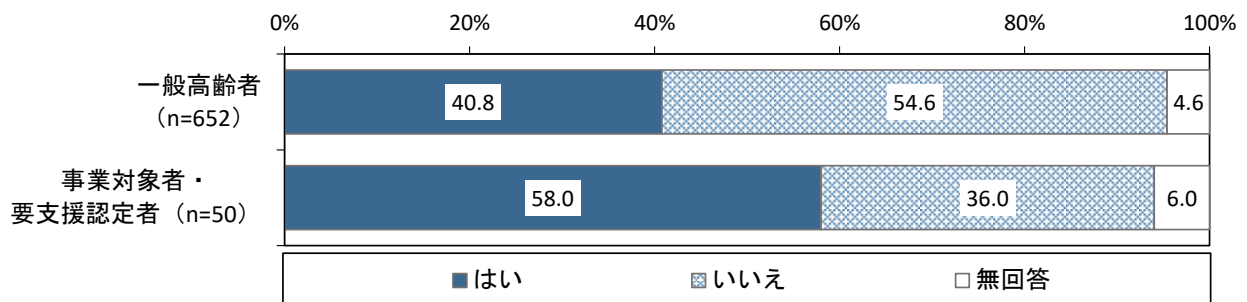
平成29年度調査と比較すると、「はい」(42.6%)では、平成29年度調査(46.2%)より3.6ポイント減少しています。

図表 3-5-1 物忘れが多いと感じるか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が40.8%、事業対象者・要支援認定者が58.0%となっています。

図表 3-5-2 物忘れが多いと感じるか 認定状況別



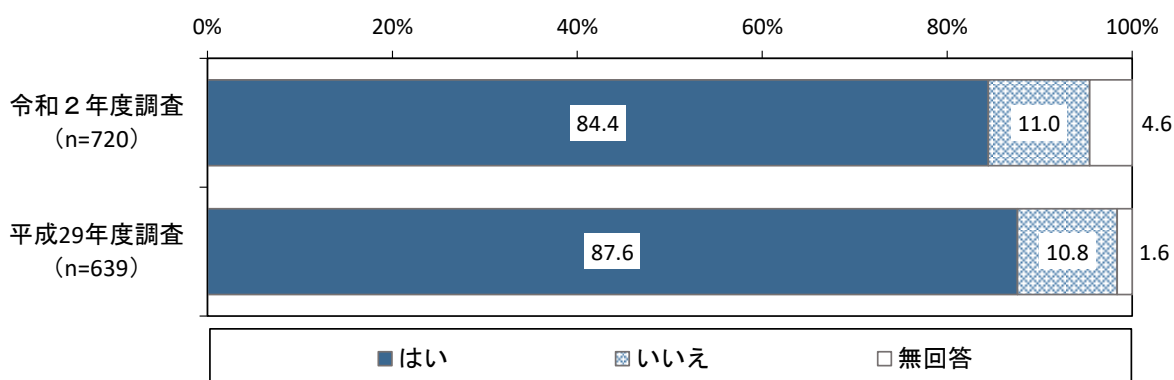
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか

問4(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(1つに○)

自分で電話番号を調べて、電話をかけているかについては、「はい」が84.4%、「いいえ」が11.0%となっています。

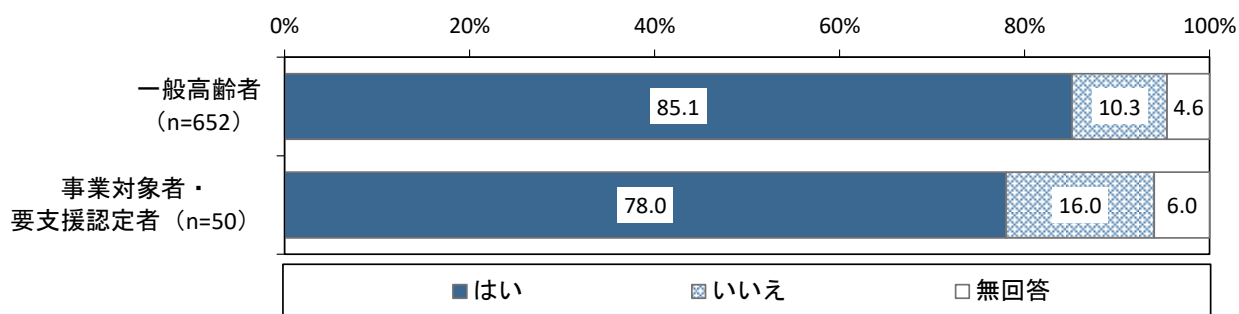
平成29年度調査と比較すると、「はい」(84.4%)では、平成29年度調査(87.6%)より3.2ポイント減少しています。

図表 3-5-3 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が85.1%、事業対象者・要支援認定者が78.0%となっています。

図表 3-5-4 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか 認定状況別



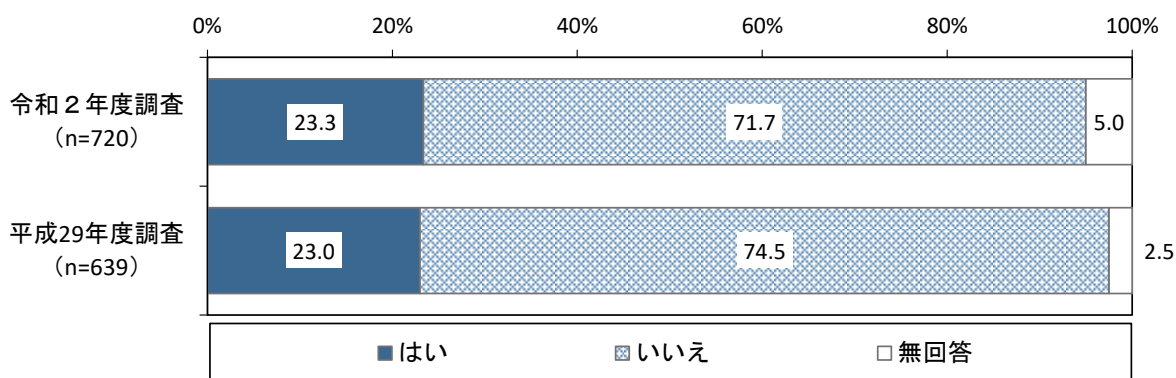
(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

問4(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか(1つに○)

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が23.3%、「いいえ」が71.7%となっています。

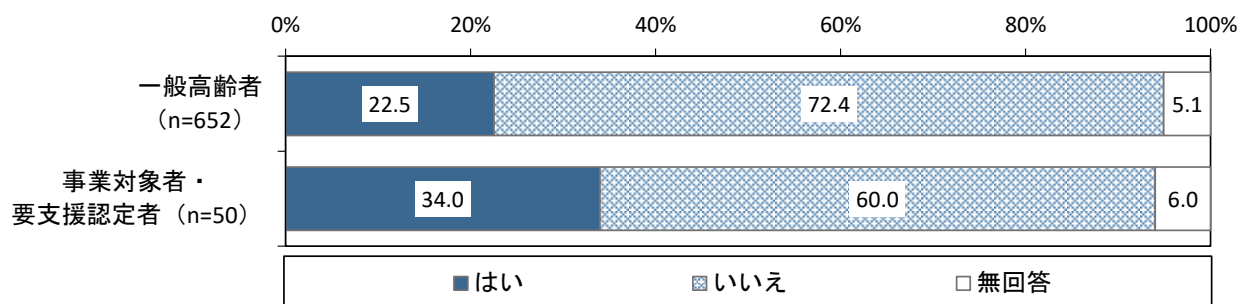
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-5 今日が何月何日かわからない時があるか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が22.5%、事業対象者・要支援認定者が34.0%となっています。

図表 3-5-6 今日が何月何日かわからない時があるか 認定状況別



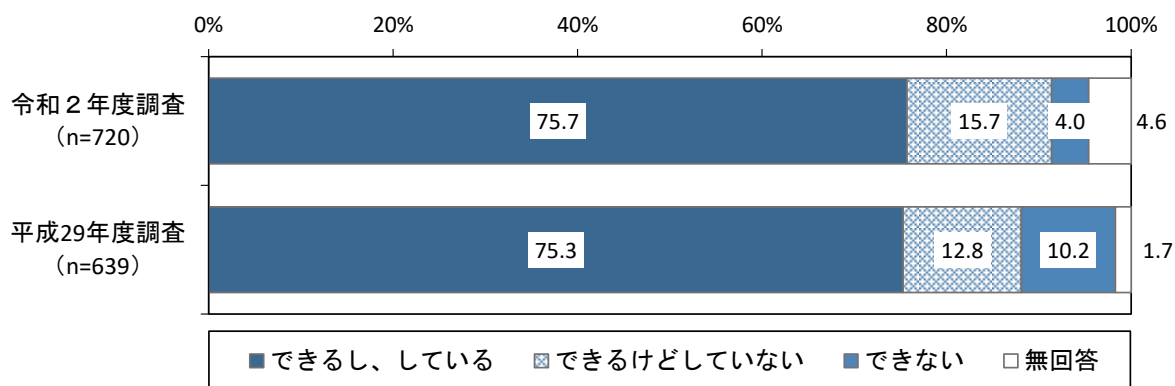
(4) バスや電車を使って1人で外出しているか

問4(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(1つに○)

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が75.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が15.7%、「できない」が4.0%となっています。

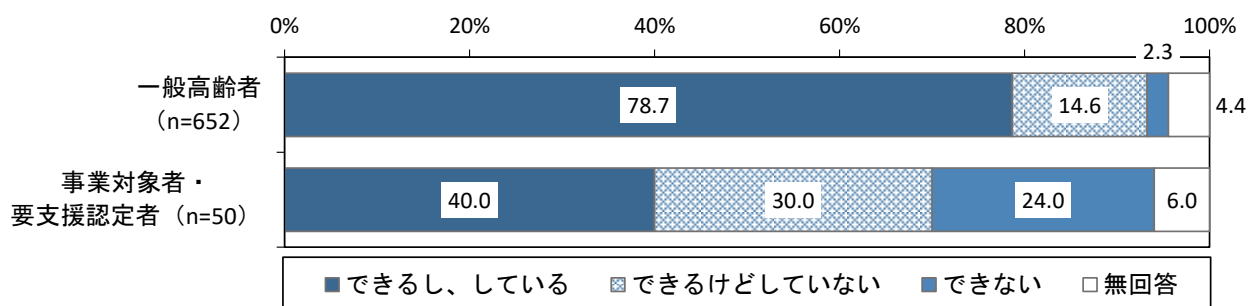
平成29年度調査と比較すると、「できない」(4.0%)では、平成29年度調査(10.2%)より6.2ポイント減少しています。

図表 3-5-7 バスや電車を使って1人で外出しているか



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が2.3%、事業対象者・要支援認定者が24.0%となっています。

図表 3-5-8 バスや電車を使って1人で外出しているか 認定状況別



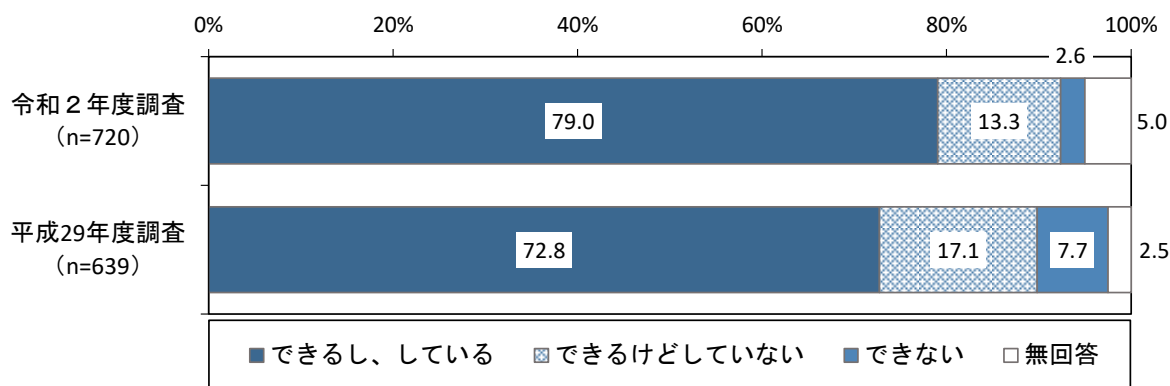
(5) 自分で食品・日用品の買物をしているか

問4(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(1つに○)

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が79.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.3%、「できない」が2.6%となっています。

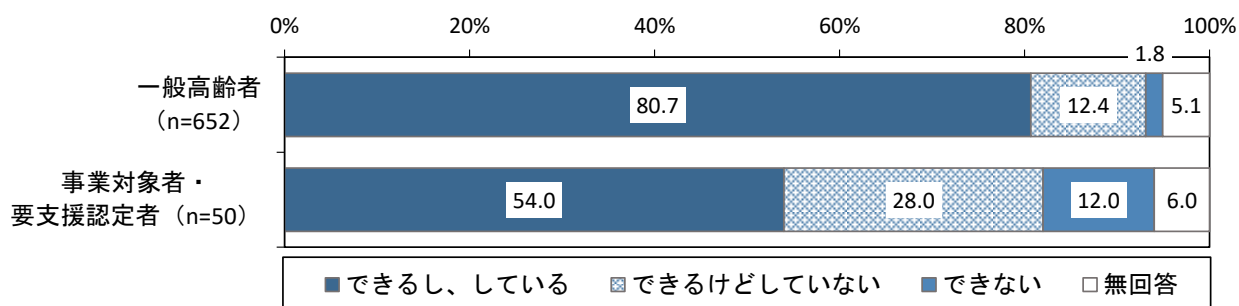
平成29年度調査と比較すると、「できない」(2.6%)では、平成29年度調査(7.7%)より5.1ポイント減少しています。

図表 3-5-9 自分で食品・日用品の買物をしているか



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が1.8%、事業対象者・要支援認定者が12.0%となっています。

図表 3-5-10 自分で食品・日用品の買物をしているか 認定状況別



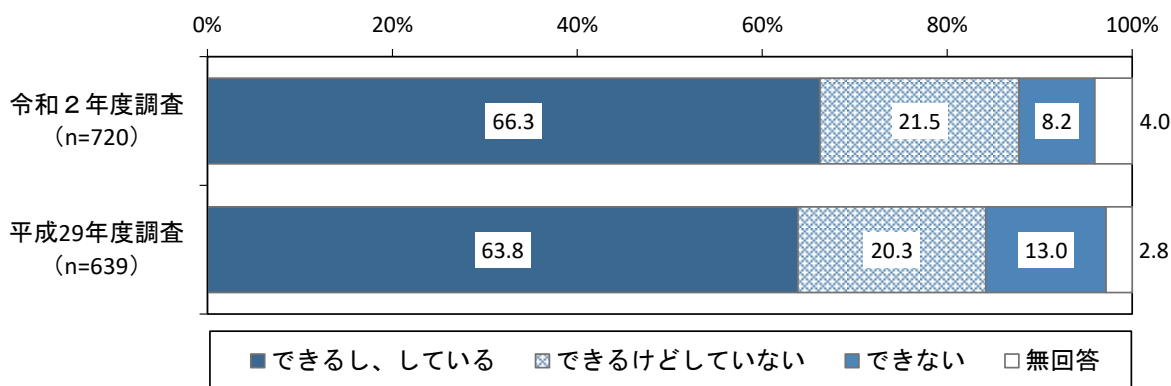
(6) 自分で食事の用意をしているか

問4(6) 自分で食事の用意をしていますか(1つに○)

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が66.3%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が21.5%、「できない」が8.2%となっています。

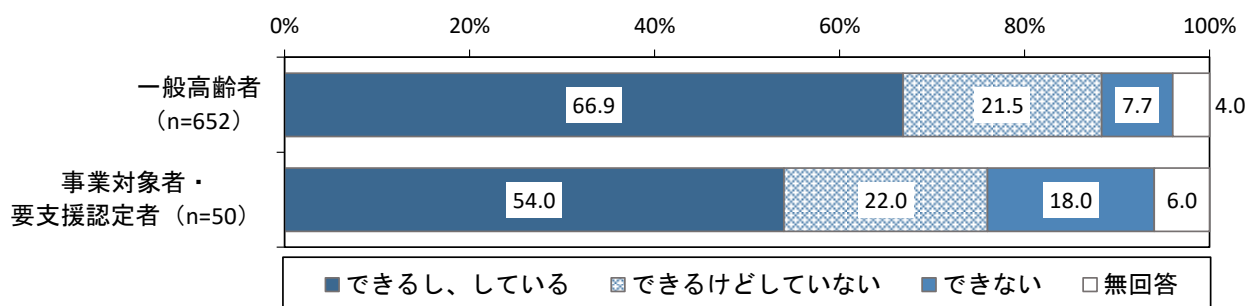
平成29年度調査と比較すると、「できない」(8.2%)では、平成29年度調査(13.0%)より4.8ポイント減少しています。

図表 3-5-11 自分で食事の用意をしているか



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が7.7%、事業対象者・要支援認定者が18.0%となっています。

図表 3-5-12 自分で食事の用意をしているか 認定状況別



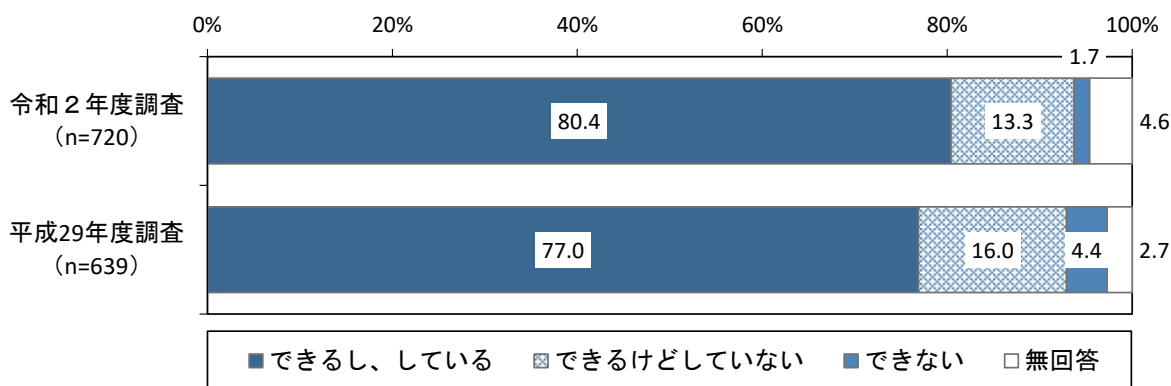
(7) 自分で請求書の支払いをしているか

問4(7) 自分で請求書の支払いをしていますか(1つに○)

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が80.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が13.3%、「できない」が1.7%となっています。

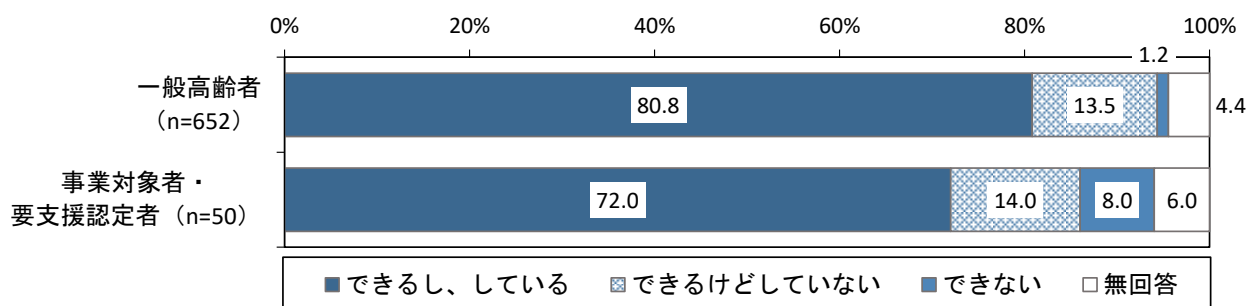
平成29年度調査と比較すると、「できるし、している」(80.4%)では、平成29年度調査(77.0%)より3.4ポイント増加しています。

図表 3-5-13 自分で請求書の支払いをしているか



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が1.2%、事業対象者・要支援認定者が8.0%となっています。

図表 3-5-14 自分で請求書の支払いをしているか 認定状況別



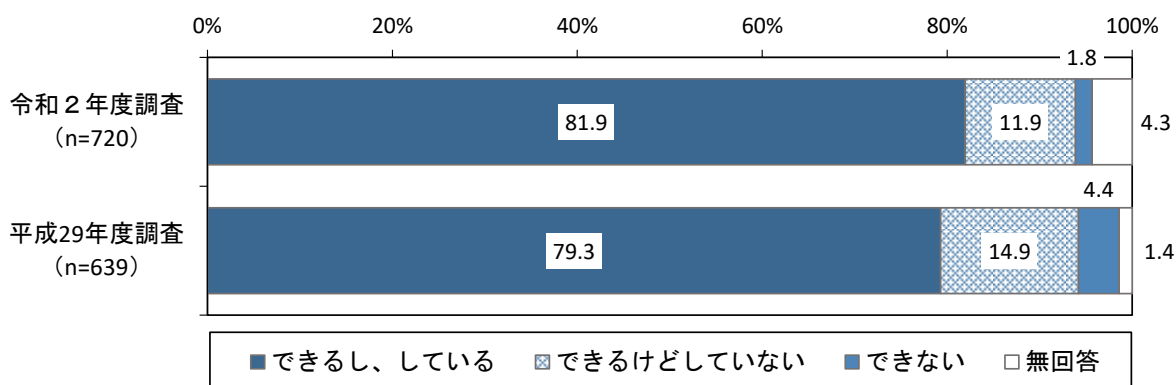
(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

問4(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(1つに○)

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が81.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が11.9%、「できない」が1.8%となっています。

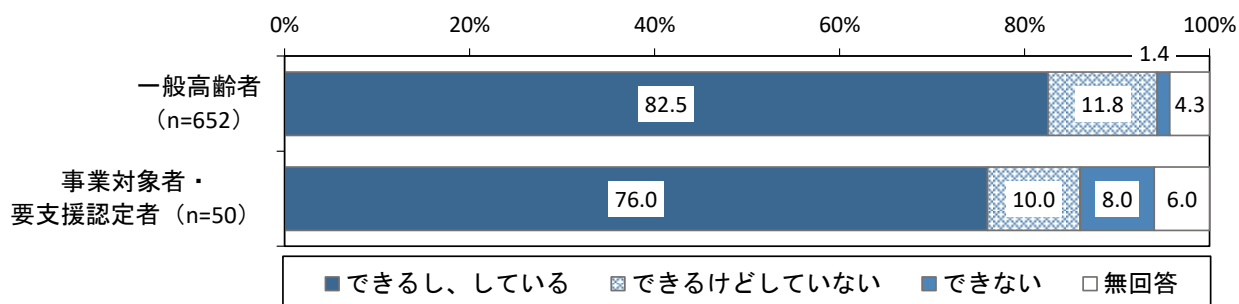
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-15 自分で預貯金の出し入れをしているか



認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が1.4%、事業対象者・要支援認定者が8.0%となっています。

図表 3-5-16 自分で預貯金の出し入れをしているか 認定状況別



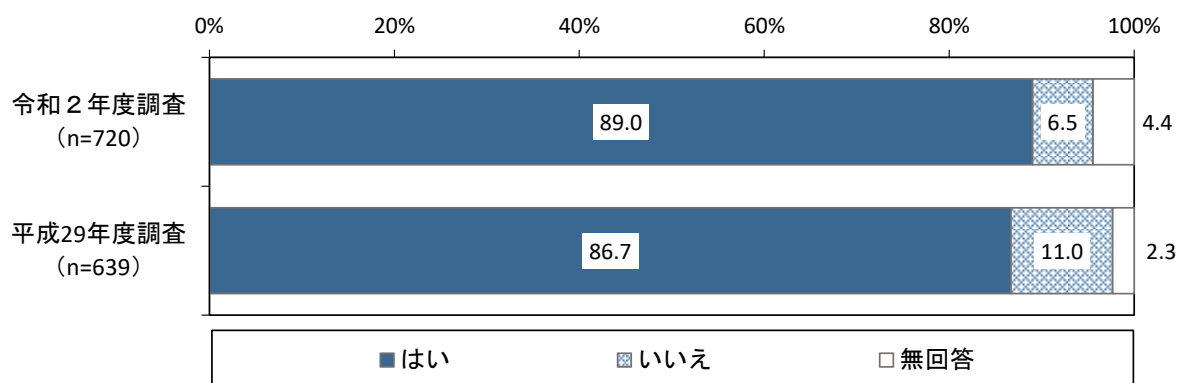
(9) 年金などの書類が書けるか

問4(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(1つに○)

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が89.0%、「いいえ」が6.5%となっています。

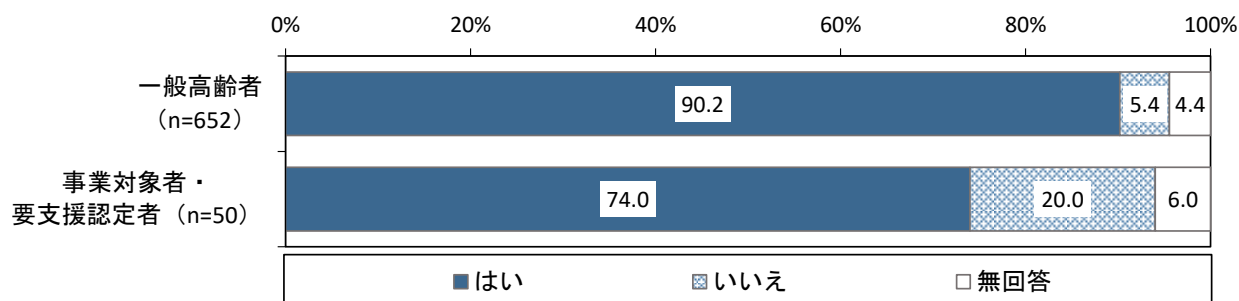
平成29年度調査と比較すると、「いいえ」(6.5%)では、平成29年度調査(11.0%)より4.5ポイント減少しています。

図表 3-5-17 年金などの書類が書けるか



認定状況別でみると、「いいえ」では、一般高齢者が5.4%、事業対象者・要支援認定者が20.0%となっています。

図表 3-5-18 年金などの書類が書けるか 認定状況別

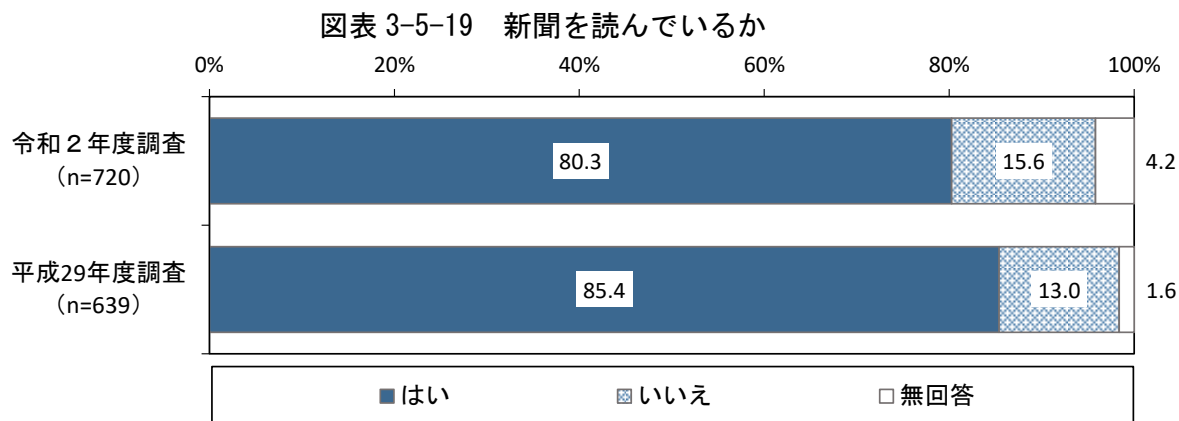


(10) 新聞を読んでいるか

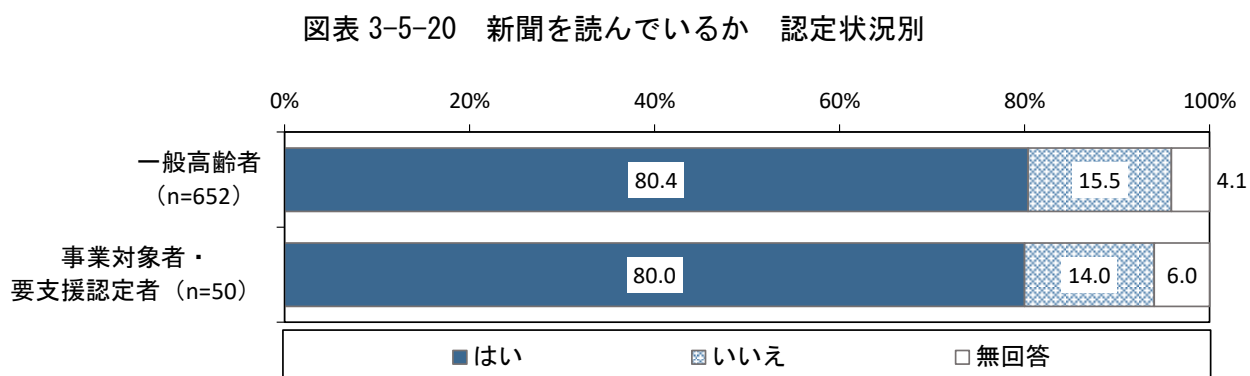
問4 (10) 新聞を読んでいますか (1つに○)

新聞を読んでいるかについては、「はい」が80.3%、「いいえ」が15.6%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「はい」(80.3%)では、平成29年度調査(85.4%)より5.1ポイント減少しています。



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が80.4%、事業対象者・要支援認定者が80.0%となっています。

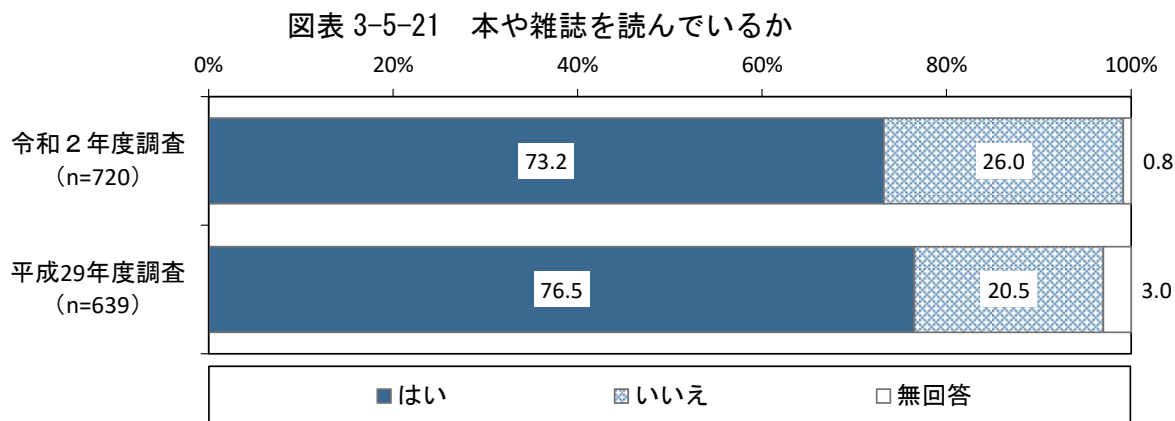


(11) 本や雑誌を読んでいるか

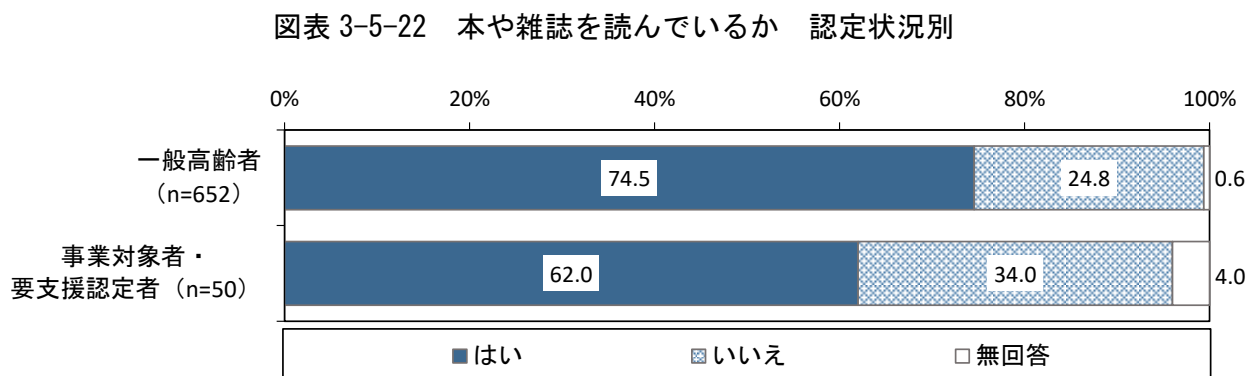
問4 (11) 本や雑誌を読んでいますか (1つに○)

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が73.2%、「いいえ」が26.0%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「いいえ」(26.0%)では、平成29年度調査(20.5%)より5.5ポイント増加しています。



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が74.5%、事業対象者・要支援認定者が62.0%となっています。



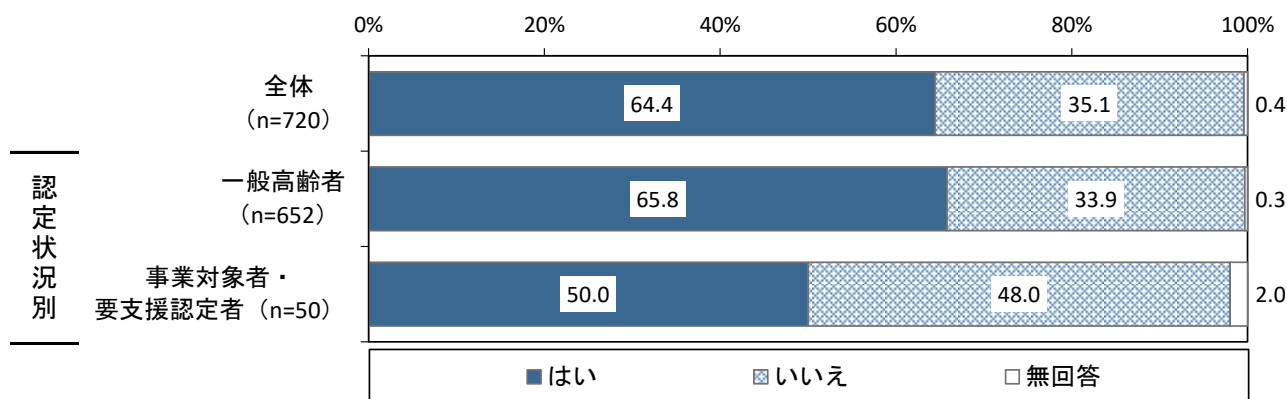
(12) インターネットを使っているか

問4 (12)	パソコンや携帯電話、スマートフォンで、インターネットを使っていますか (1つに〇)
---------	--

パソコンや携帯電話、スマートフォンでインターネットを使っているかについては、「はい」が64.4%、「いいえ」が35.1%となっています。

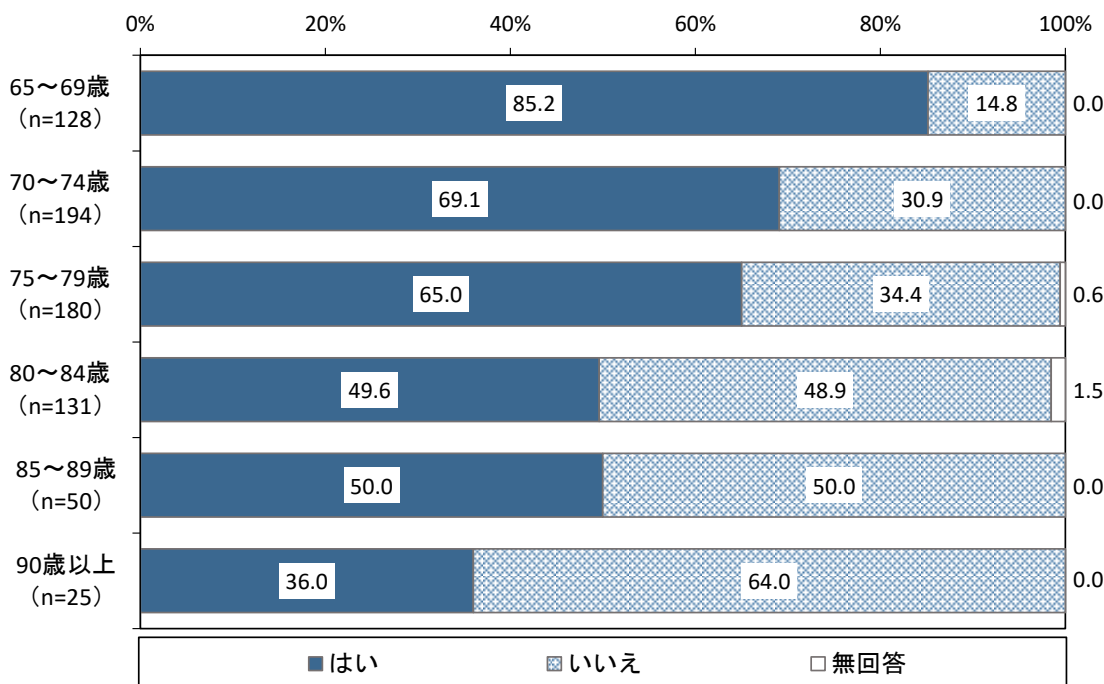
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が65.8%、事業対象者・要支援認定者が50.0%となっています。

図表 3-5-23 インターネットを使っているか



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が低くなっており、65～69歳が85.2%で最も高くなっています。

図表 3-5-24 インターネットを使っているか 年齢別



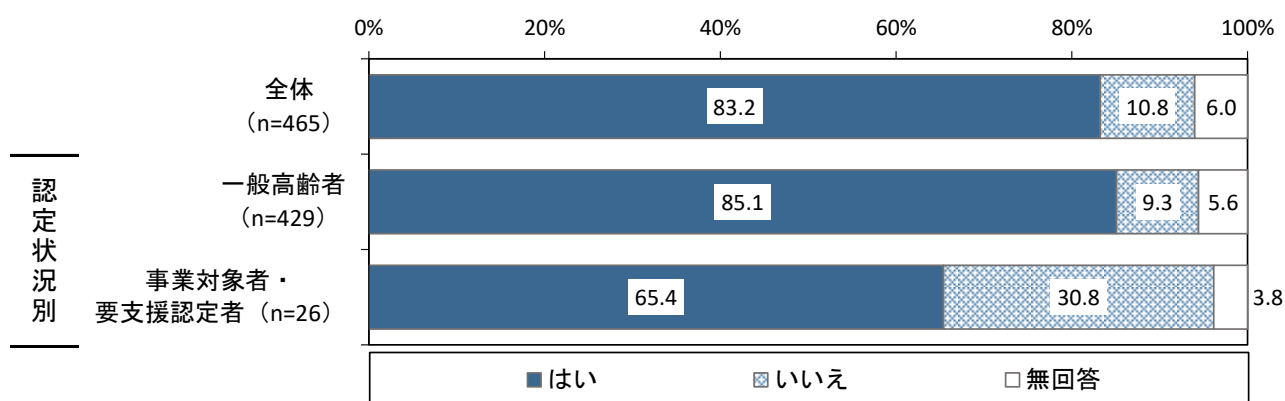
(13) インターネットで情報収集をしているか

問4 (12) ①	【問4 (12) で「はい」(インターネットを使っている) の方のみ】 ① インターネットで情報収集していますか(携帯電話、スマートフォンを含む) (1つに○)
--------------	--

インターネットで情報収集をしているかについては、「はい」が83.2%、「いいえ」が10.8%となっています。

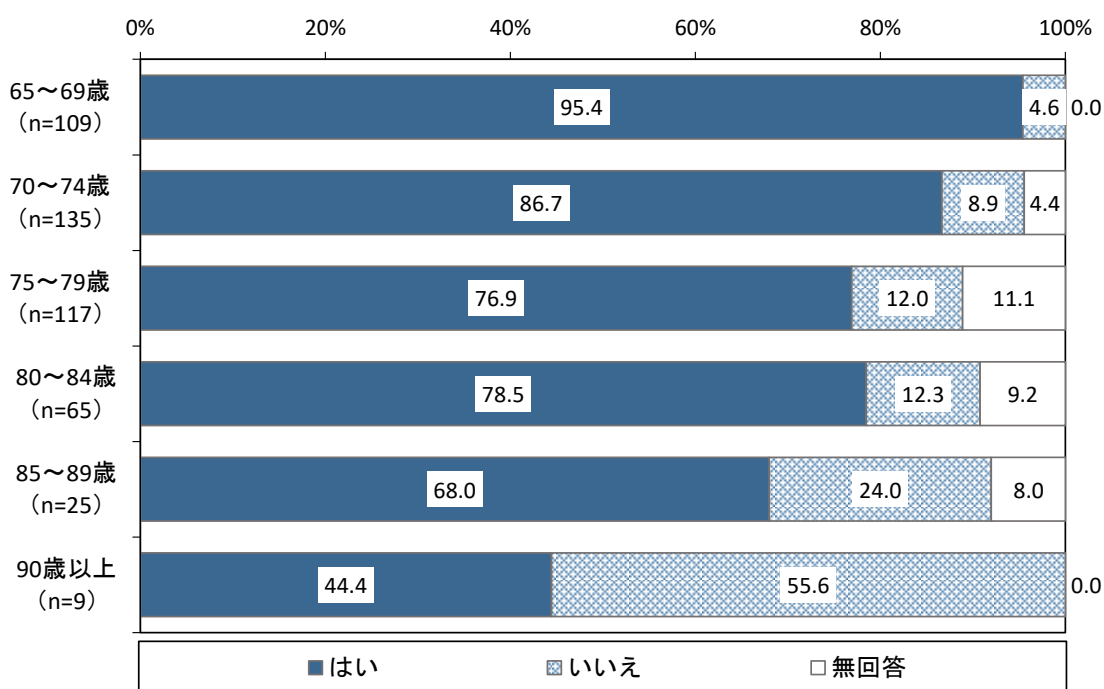
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が85.1%、事業対象者・要支援認定者が65.4%となっています。

図表 3-5-25 インターネットで情報収集をしているか



年齢別でみると、「はい」では、年齢が上がるにつれて概ね割合が低くなっており、65～69歳が95.4%で最も高くなっています。

図表 3-5-26 インターネットで情報収集をしているか 年齢別



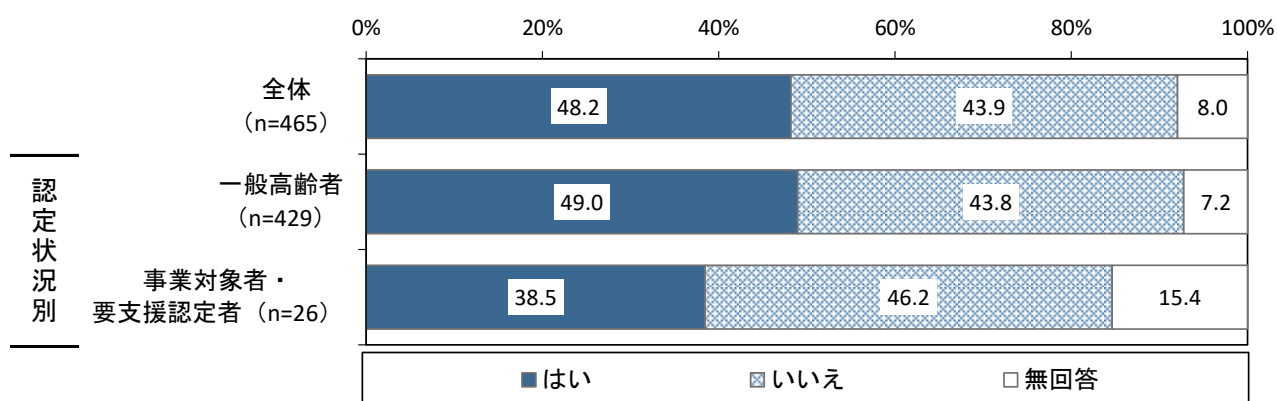
(14) インターネットで情報発信をしているか

問4 (12) ②	【問4 (12) で「はい」(インターネットを使っている) の方のみ】 ② インターネットで情報を発信していますか (携帯電話、スマートフォンを含む) (1つに○)
--------------	--

インターネットで情報発信をしているかについては、「はい」が48.2%、「いいえ」が43.9%となっています。

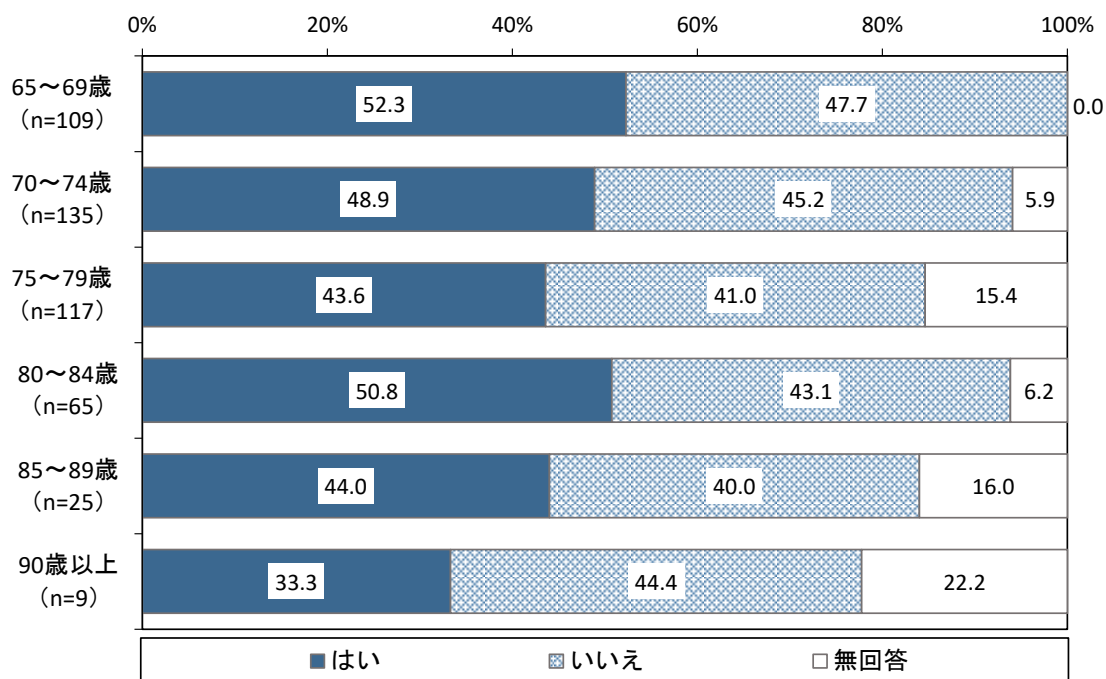
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が49.0%、事業対象者・要支援認定者が38.5%となっています。

図表 3-5-27 インターネットで情報発信をしているか



年齢別でみると、「はい」では、65～69歳が52.3%で最も高くなっています。

図表 3-5-28 インターネットで情報発信をしているか 年齢別



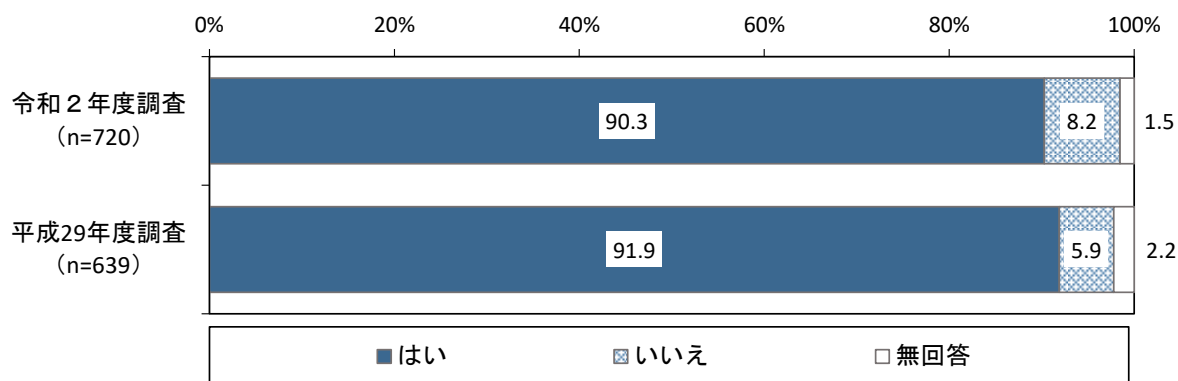
(15) 健康についての記事や番組に関心があるか

問4 (13) 健康についての記事や番組に関心がありますか (1つに○)

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が90.3%、「いいえ」が8.2%となっています。

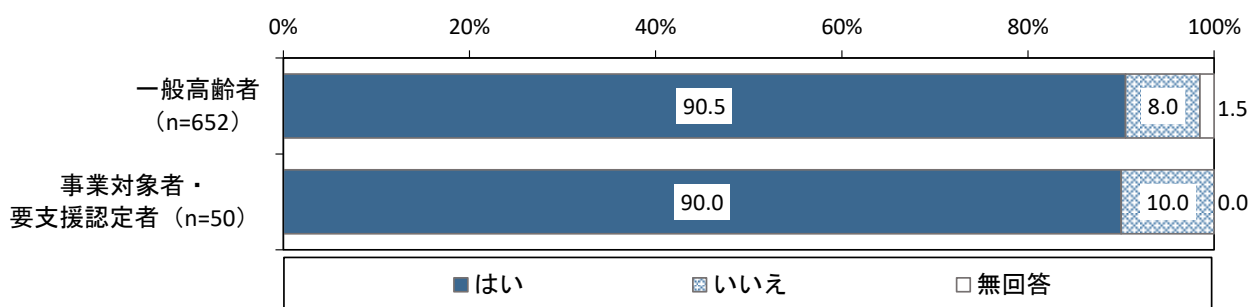
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-5-29 健康についての記事や番組に関心があるか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が90.5%、事業対象者・要支援認定者が90.0%となっています。

図表 3-5-30 健康についての記事や番組に関心があるか 認定状況別

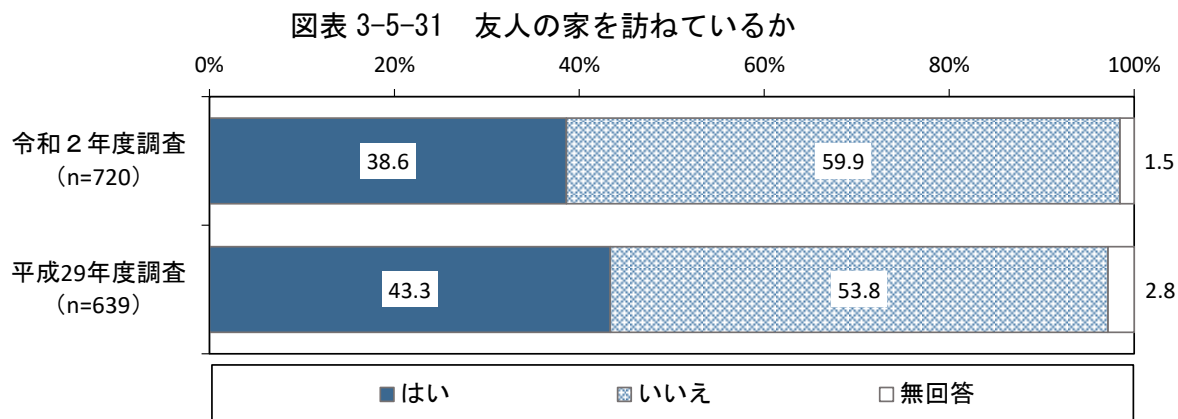


(16) 友人の家を訪ねているか

問4 (14) 友人の家を訪ねていますか (1つに○)

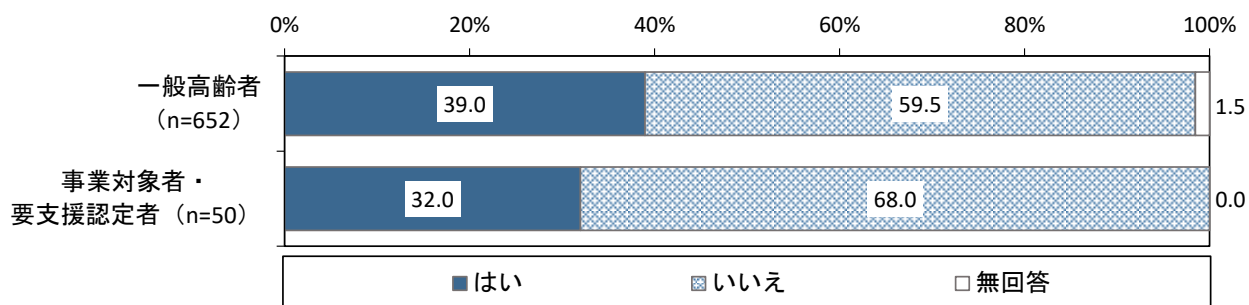
友人の家を訪ねているかについては、「はい」が38.6%、「いいえ」が59.9%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「いいえ」(59.9%)では、平成29年度調査(53.8%)より6.1ポイント増加しています。



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が39.0%、事業対象者・要支援認定者が32.0%となっています。

図表 3-5-32 友人の家を訪ねているか 認定状況別

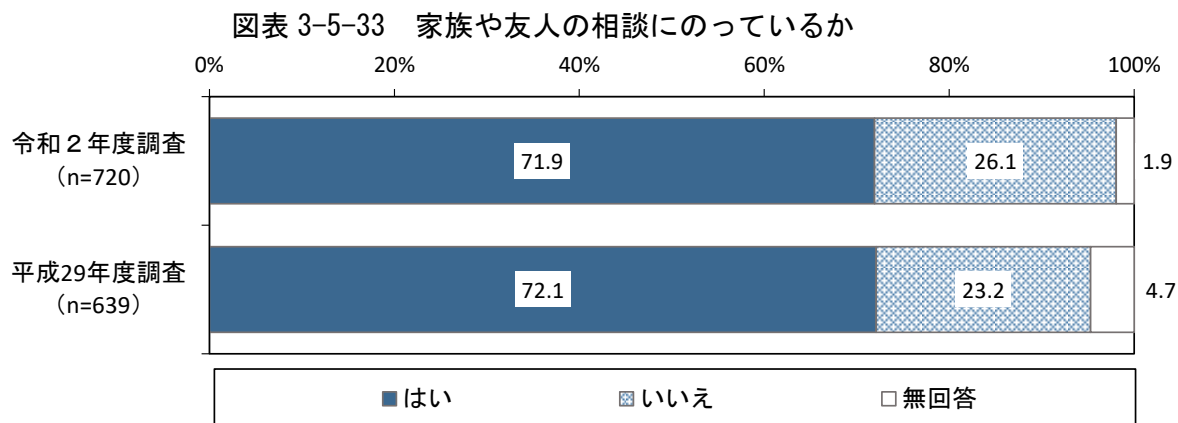


(17) 家族や友人の相談にのっているか

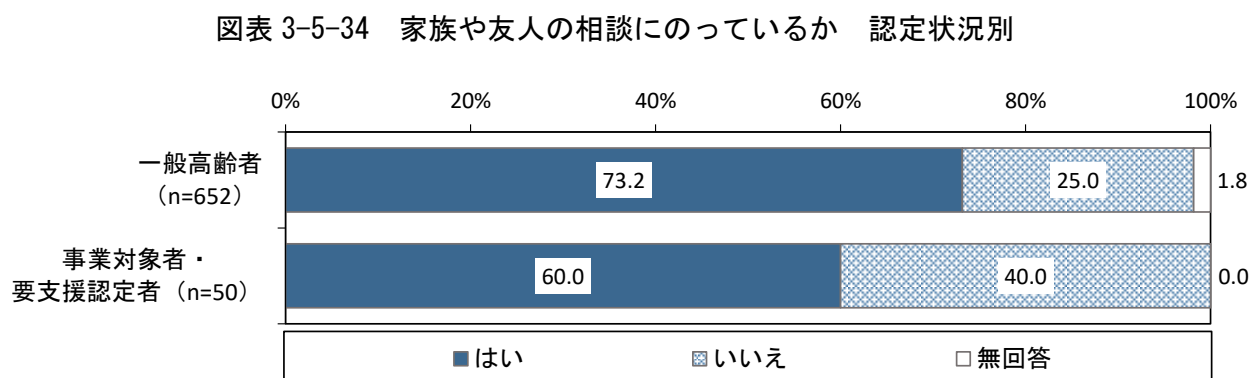
問4 (15) 家族や友人の相談にのっていますか (1つに○)

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が71.9%、「いいえ」が26.1%となっています。

平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が73.2%、事業対象者・要支援認定者が60.0%となっています。

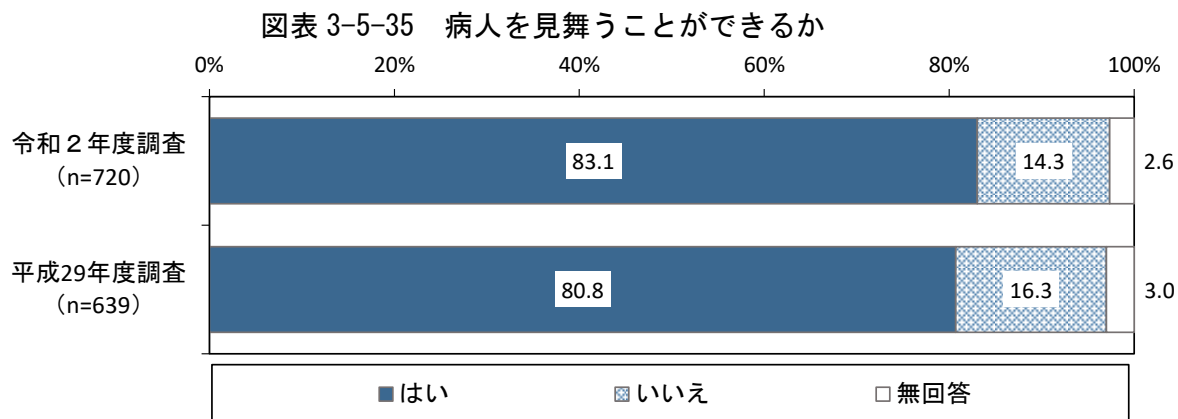


(18) 病人を見舞うことができるか

問4 (16) 病人を見舞うことができますか (1つに○)

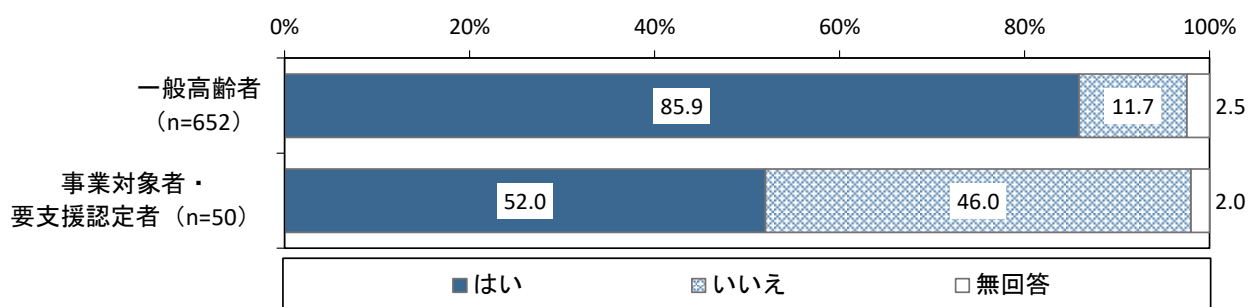
病人を見舞うことができるかについては、「はい」が 83.1%、「いいえ」が 14.3%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が 85.9%、事業対象者・要支援認定者が 52.0%となっています。

図表 3-5-36 病人を見舞うことができるか 認定状況別



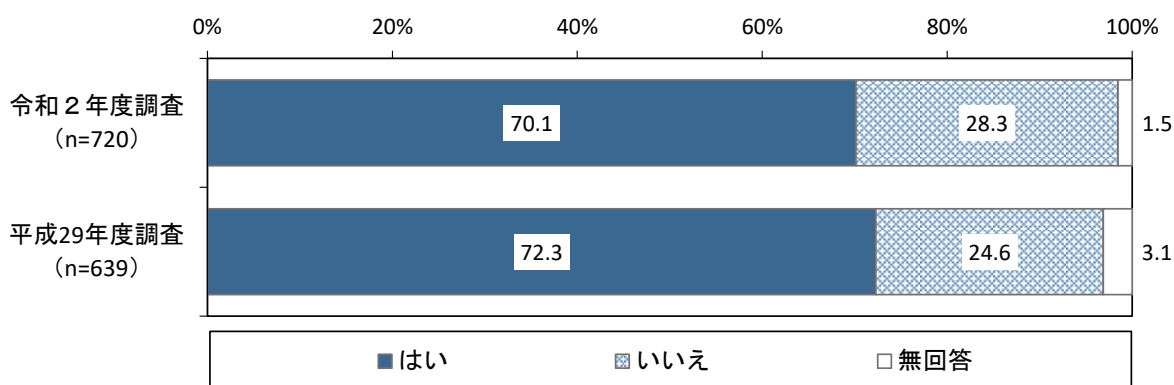
(19) 若い人に自ら話しかけることがあるか

問4 (17) 若い人に自分から話しかけることがありますか (1つに○)

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が70.1%、「いいえ」が28.3%となっています。

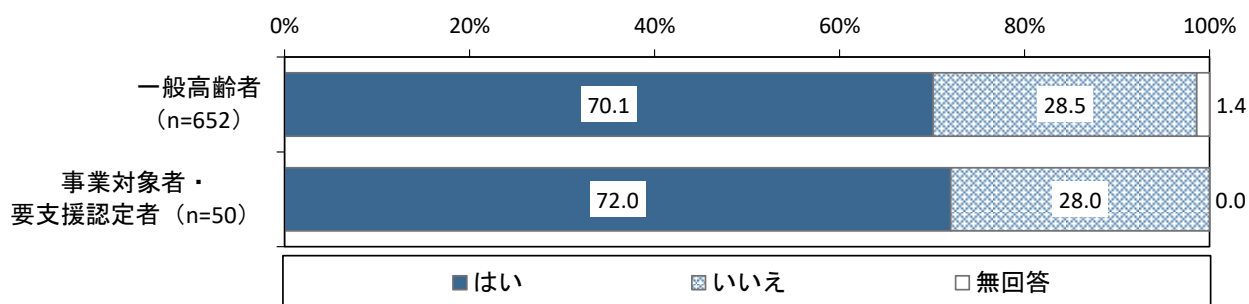
平成29年度調査と比較すると、「いいえ」(28.3%)では、平成29年度調査(24.6%)より3.7ポイント増加しています。

図表 3-5-37 若い人に自分から話しかけることがあるか



認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が70.1%、事業対象者・要支援認定者が72.0%となっています。

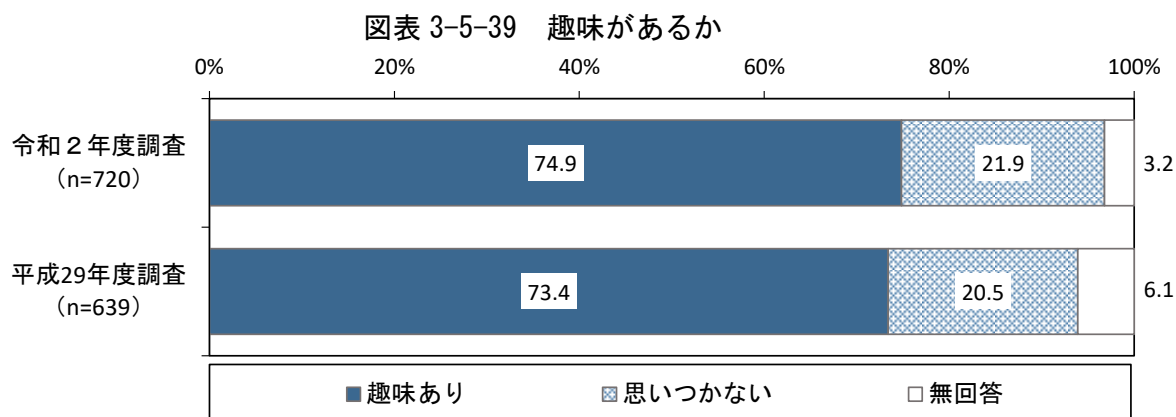
図表 3-5-38 若い人に自分から話しかけることがあるか 認定状況別



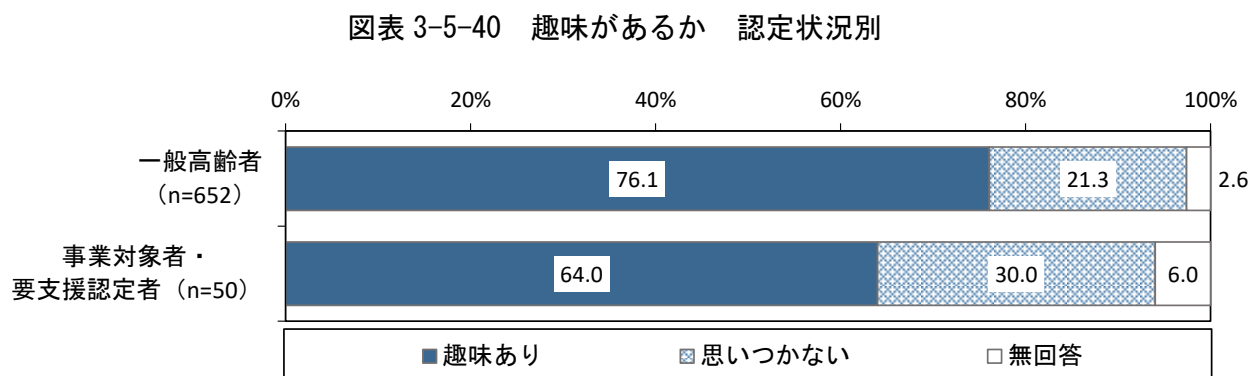
(20) 趣味があるか

問4 (18) 趣味はありますか (1つに○)

趣味があるかについては、「趣味あり」が74.9%、「思いつかない」が21.9%となっています。平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



認定状況別にみると、「趣味あり」では、一般高齢者が76.1%、事業対象者・要支援認定者が64.0%となっています。



また、趣味の具体的な内容として、自由記述による回答が502人から791件あり、次の表のとおり分類・集計しました。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 3-5-41 趣味の具体的な内容

	具体的な内容	件数		具体的な内容	件数
1	スポーツ・体を動かす	161	22	勉強	7
2	家庭菜園・園芸	92	22	車・バイク	7
3	音楽（鑑賞、楽器演奏、コーラス）	65	24	語学	6
4	読書	64	25	歴史	5
5	裁縫・手芸	63	25	散歩	5
6	カラオケ	31	27	陶芸	4
7	美術・芸術鑑賞	30	27	ペット	4
8	旅行	28	27	詩吟	4
9	将棋・囲碁	25	27	折り紙・紙飛行機	4
10	パソコン	20	27	生け花	4
11	ゲーム・パズル	18	32	茶道	3
12	写真	15	32	仕事	3
13	釣り	13	32	絵手紙	3
14	スポーツ鑑賞	12	35	投資	2
15	短歌・俳句・川柳	11	35	マジック	2
15	映画鑑賞	11	35	ボラアンティア	2
15	習字・書道	11	35	食べる	2
15	料理	11	35	競馬	2
19	日曜大工	9	40	その他	16
20	麻雀	8		合計	791
20	テレビ鑑賞	8			

図表 3-5-42 趣味「スポーツ・体を動かす」の具体的な内容

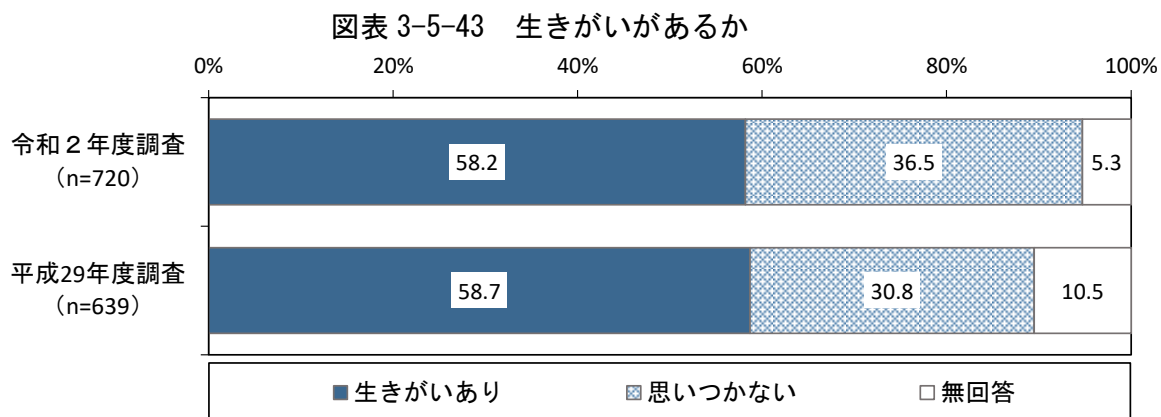
	具体的な内容	件数		具体的な内容	件数
1	ゴルフ・グランドゴルフ	68	9	体操	6
2	ウォーキング・ジョギング	25	9	ヨガ	6
3	テニス	10	11	太極拳	4
4	スイミング	9	11	野球・ソフトボール	4
5	卓球	8	11	ハイキング	4
5	ダンス（社交ダンス、フラダンス等）	8	14	スキー	3
5	登山	8	15	その他	15
8	ゲートボール	7		合計	185

(21) 生きがいがあるか

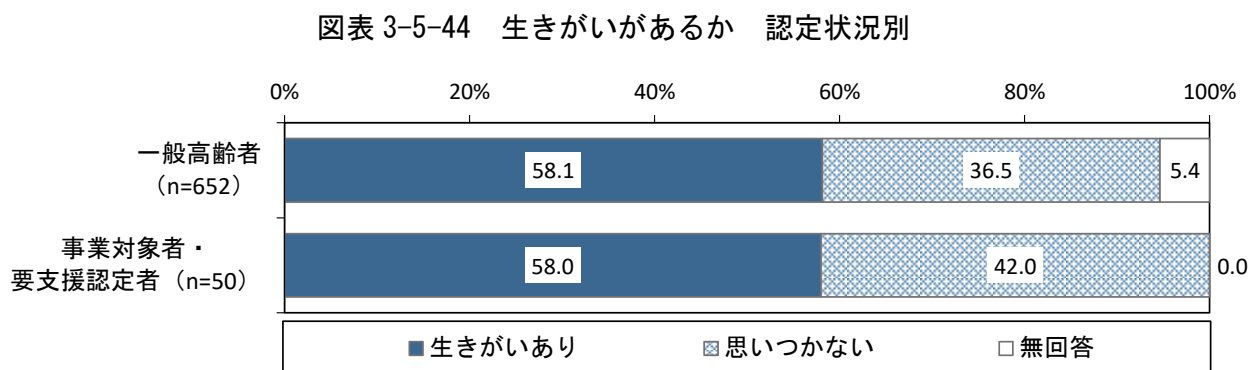
問4 (19) 生きがいはありますか (1つに○)

生きがいがあるかについては、「生きがいあり」が 58.2%、「思いつかない」が 36.5%となっています。

平成 29 年度調査と比較すると、「思いつかない」(36.5%)では、平成 29 年度調査 (30.8%)より 5.7 ポイント増加しています。



認定状況別にみると、「生きがいあり」では、一般高齢者が 58.1%、事業対象者・要支援認定者が 58.0%となっています。



また、生きがいの具体的な内容として、自由記述による回答が 365 人から 468 件あり、次の表のとおり分類・集計しました。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合は、複数回答として、それぞれの内容に分類しています。

図表 3-5-45 生きがいの具体的な内容

	具体的な内容	件数		具体的な内容	件数
1	趣味	156	8	仕事	15
2	孫の成長（孫とのふれあい）	111	10	日常生活	10
3	家族とのふれあい	33	11	ペット	8
4	子どもの成長（子どもとのふれあい）	29	12	地域活動	4
5	友人や若年層との交流	26	12	会話	4
6	健康・長生き	23	14	信仰	2
7	食事（料理含む）	16	15	その他	16
8	ボランティア	15	合計		468

図表 3-5-46 生きがい「趣味」の具体的な内容

	具体的な内容	件数		具体的な内容	件数
1	スポーツ・体を動かす	37	8	日曜大工	4
2	家庭菜園・園芸	28	10	短歌・俳句・川柳	3
3	旅行	24	10	将棋・囲碁	3
4	美術・芸術鑑賞	11	12	裁縫・手芸	2
4	音楽（鑑賞、楽器演奏、コーラス）	11	12	陶芸	2
6	勉強	6	14	その他	35
7	読書	5	合計		175
8	カラオケ	4			

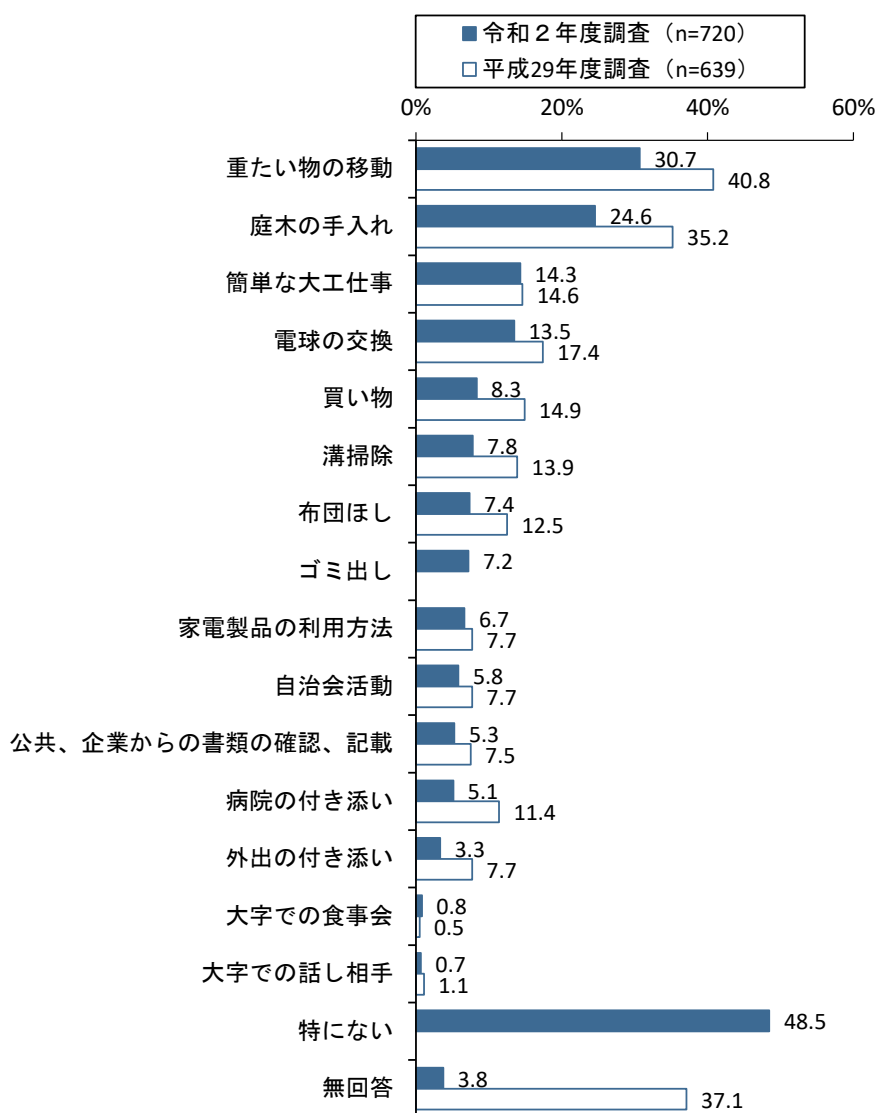
(22) 日常生活の中で助けてほしいこと

問4 (20) 日常生活の中で、助けてほしいことはありますか (いくつでも)

日常生活の中で助けてほしいことについては、「特にない」が48.5%で最も高く、次いで「重たい物の移動」が30.7%、「庭木の手入れ」が24.6%と続いています。

平成29年度調査とは選択肢が異なるので一概には比較できませんが、参考としてみると、比較できる項目では「大字での食事会」のみ、平成29年度調査より増加した項目となっています。

図表 3-5-47 日常生活の中で助けてほしいこと



※「ゴミ出し」、「特にない」は令和2年度のみでの選択肢

認定状況別で見ると、一般高齢者では「特にない」が48.5%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「重たい物の移動」が56.0%で最も高くなっています。

性別で見ると、男性では「特にない」が60.7%で最も高く、女性では「重たい物の移動」が39.9%で最も高くなっています。

年齢別で見ると、65～79歳では「特にない」の割合が最も高く、80歳以上では「重たい物の移動」の割合が最も高くなっています。

図表 3-5-48 日常生活の中で助けてほしいこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	重たい物の移動	庭木の手入れ	簡単な大工仕事	電球の交換	買い物	溝掃除	布団ほし	ゴミ出し	家電製品の利用方法	自治会活動
全体		720	30.7	24.6	14.3	13.5	8.3	7.8	7.4	7.2	6.7	5.8
認定別	一般高齢者	652	28.4	22.9	12.7	12.3	6.4	6.4	5.5	5.8	6.1	5.1
	事業対象者・要支援認定者	50	56.0	44.0	34.0	28.0	36.0	20.0	28.0	26.0	14.0	16.0
性別	男性	328	19.2	20.1	8.2	4.6	7.3	4.0	3.0	4.0	4.0	5.5
	女性	381	39.9	28.3	19.4	21.3	9.4	10.8	11.0	10.0	9.2	6.0
年齢別	65～69歳	128	18.8	20.3	13.3	6.3	1.6	4.7	4.7	5.5	5.5	3.9
	70～74歳	194	28.4	24.2	10.8	9.8	4.1	8.8	5.7	4.6	3.6	4.6
	75～79歳	180	28.3	21.1	10.6	11.7	6.7	5.6	6.7	3.3	5.6	5.6
	80～84歳	131	39.7	32.8	21.4	21.4	14.5	11.5	9.2	10.7	13.7	8.4
	85～89歳	50	44.0	20.0	20.0	24.0	24.0	10.0	16.0	24.0	8.0	6.0
	90歳以上	25	48.0	36.0	24.0	32.0	28.0	4.0	12.0	12.0	8.0	12.0

		合計	認、公、記 共、載、企 業からの書 類の確	病院の付き添い	外出の付き添い	大字での食事会	大字での話し相手	特にない	無回答
全体		720	5.3	5.1	3.3	0.8	0.7	48.5	3.8
認定別	一般高齢者	652	4.1	3.4	2.0	0.8	0.6	50.9	3.7
	事業対象者・要支援認定者	50	18.0	28.0	20.0	2.0	2.0	18.0	6.0
性別	男性	328	2.4	3.0	2.7	0.9	0.9	60.7	4.0
	女性	381	7.3	7.1	3.9	0.8	0.5	38.3	3.7
年齢別	65～69歳	128	3.1	1.6	0.8	0.0	0.0	64.1	2.3
	70～74歳	194	5.7	3.1	3.6	1.0	1.0	54.1	2.6
	75～79歳	180	4.4	3.3	1.1	0.6	0.6	51.7	6.1
	80～84歳	131	3.8	7.6	2.3	2.3	1.5	35.1	3.8
	85～89歳	50	4.0	10.0	10.0	0.0	0.0	26.0	4.0
	90歳以上	25	24.0	32.0	24.0	0.0	0.0	20.0	4.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

家族構成別でみると、1人暮らしでは「重たい物の移動」の割合が最も高く、それ以外の家族構成では「特にない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-5-49 日常生活の中で助けてほしいこと 家族構成別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	重たい物の移動	庭木の手入れ	簡単な大工事	電球の交換	買い物	溝掃除	布団ほし	ゴミ出し	家電製品の利用方法	自治会活動
全体		720	30.7	24.6	14.3	13.5	8.3	7.8	7.4	7.2	6.7	5.8
家族構成別	1人暮らし	121	42.1	28.1	25.6	28.1	14.9	7.4	9.9	9.9	11.6	5.0
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	343	25.4	23.3	11.1	8.5	7.6	6.1	5.0	5.2	5.0	5.2
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	28	17.9	14.3	7.1	7.1	3.6	3.6	3.6	3.6	7.1	10.7
	息子・娘との2世帯	107	34.6	23.4	16.8	13.1	5.6	14.0	7.5	8.4	6.5	6.5
	その他	108	31.5	27.8	11.1	14.8	8.3	8.3	12.0	9.3	7.4	6.5

		合計	認公共、企業からの書類の確	病院の付き添い	外出の付き添い	大字での食事会	大字での話し相手	特にない	無回答
全体		720	5.3	5.1	3.3	0.8	0.7	48.5	3.8
家族構成別	1人暮らし	121	5.8	9.1	5.0	2.5	0.0	33.9	4.1
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	343	3.8	2.9	2.3	0.6	0.9	52.8	3.8
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	28	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	60.7	3.6
	息子・娘との2世帯	107	7.5	7.5	5.6	0.9	1.9	48.6	4.7
	その他	108	4.6	7.4	3.7	0.0	0.0	50.0	2.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

6. 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

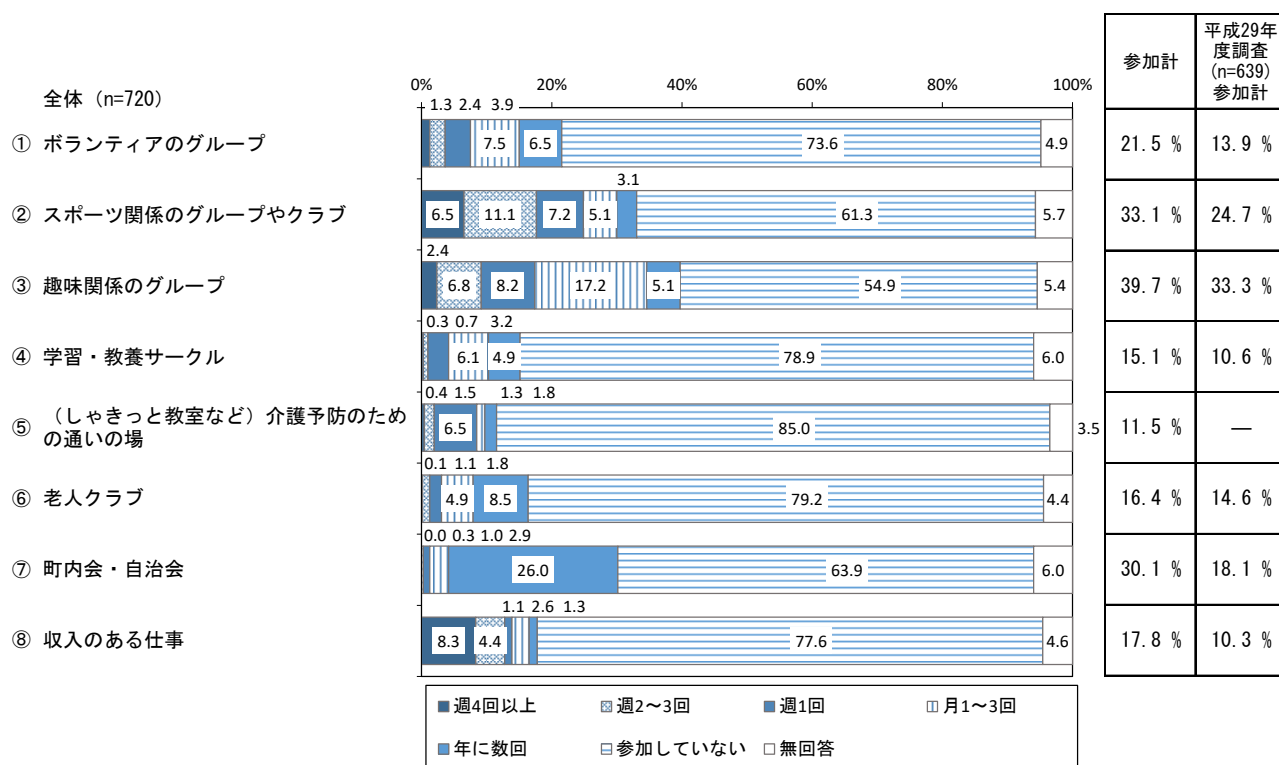
問5(1)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか (新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛前の状況をご回答ください)(1つに○)
-------	--

社会参加の状況について、参加している人(年に数回以上の参加)の割合は、「③ 趣味関係のグループ」が39.7%で最も高く、次いで「② スポーツ関係のグループやクラブ」が33.1%、「⑦ 町内会・自治会」が30.1%と続いています。

また、月1回以上の参加でみると、「③ 趣味関係のグループ」が34.6%で最も高く、次いで「② スポーツ関係のグループやクラブ」が30.0%、「⑧ 収入のある仕事」が16.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人(年に数回以上の参加)の割合は、比較できる項目全て平成29年度調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-1 社会参加の状況



① ボランティアのグループ

ボランティアのグループの参加状況については、「参加していない」が73.6%で最も高く、次いで「月1～3回」が7.5%、「年に数回」が6.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(21.5%)は、平成29年度調査(13.9%)よりも7.6ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が22.1%、事業対象者・要支援認定者が16.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が23.8%、女性が19.7%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、80～84歳が26.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-2 ボランティアのグループの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	720	1.3	2.4	3.9	7.5	6.5	21.5	73.6	4.9
平成29年度調査	639	1.6	1.1	1.9	5.5	3.8	13.9	50.9	35.4
認定別									
一般高齢者	652	1.4	2.5	4.1	7.7	6.4	22.1	73.9	4.0
事業対象者・要支援認定者	50	0.0	2.0	0.0	6.0	8.0	16.0	70.0	14.0
性別									
男性	328	2.1	2.1	4.0	5.5	10.1	23.8	73.8	2.4
女性	381	0.5	2.6	3.7	9.2	3.7	19.7	73.5	6.8
年齢別									
65～69歳	128	0.8	2.3	0.8	6.3	5.5	15.6	81.3	3.1
70～74歳	194	1.0	1.5	4.6	7.7	7.2	22.2	76.8	1.0
75～79歳	180	1.7	2.2	5.6	8.9	6.1	24.4	68.3	7.2
80～84歳	131	2.3	3.1	4.6	8.4	7.6	26.0	70.2	3.8
85～89歳	50	0.0	2.0	2.0	4.0	6.0	14.0	72.0	14.0
90歳以上	25	0.0	8.0	0.0	4.0	8.0	20.0	68.0	12.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブの参加状況については、「参加していない」が61.3%で最も高く、次いで「週2～3回」が11.1%、「週1回」が7.2%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(33.1%)は、平成29年度調査(24.7%)よりも8.4ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が35.0%、事業対象者・要支援認定者が12.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が31.7%、女性が34.6%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、75～79歳が38.3%で最も高くなっています。

図表 3-6-3 スポーツ関係のグループやクラブの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	720	6.5	11.1	7.2	5.1	3.1	33.1	61.3	5.7
平成29年度調査	639	4.5	8.8	4.5	4.9	2.0	24.7	43.0	32.2
認定別									
一般高齢者	652	6.9	11.5	7.8	5.4	3.4	35.0	60.3	4.8
事業対象者・要支援認定者	50	0.0	6.0	2.0	4.0	0.0	12.0	68.0	20.0
性別									
男性	328	5.5	10.7	4.3	5.8	5.5	31.7	66.2	2.1
女性	381	7.1	11.8	10.0	4.7	1.0	34.6	56.4	8.9
年齢別									
65～69歳	128	6.3	11.7	5.5	7.0	1.6	32.0	65.6	2.3
70～74歳	194	9.3	11.9	6.2	6.2	3.1	36.6	62.4	1.0
75～79歳	180	6.7	11.7	9.4	5.6	5.0	38.3	54.4	7.2
80～84歳	131	4.6	11.5	9.2	3.1	2.3	30.5	60.3	9.2
85～89歳	50	0.0	10.0	4.0	4.0	4.0	22.0	66.0	12.0
90歳以上	25	4.0	4.0	8.0	0.0	0.0	16.0	64.0	20.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加状況については、「参加していない」が54.9%で最も高く、次いで「月1～3回」が17.2%、「週1回」が8.2%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(39.7%)は、平成29年度調査(33.3%)よりも6.4ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が41.0%、事業対象者・要支援認定者が26.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が39.3%、女性が40.2%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、75～79歳、85～89歳がいずれも44.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-4 趣味関係のグループの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	720	2.4	6.8	8.2	17.2	5.1	39.7	54.9	5.4	
平成29年度調査	639	1.9	5.9	8.0	11.7	5.8	33.3	39.1	27.5	
認定別	一般高齢者	652	2.5	6.9	8.6	17.9	5.1	41.0	54.8	4.3
	事業対象者・要支援認定者	50	2.0	6.0	0.0	12.0	6.0	26.0	52.0	22.0
性別	男性	328	2.4	9.1	7.9	14.9	4.9	39.3	58.5	2.1
	女性	381	2.4	5.0	7.9	19.4	5.5	40.2	51.4	8.4
年齢別	65～69歳	128	0.8	3.9	6.3	17.2	3.9	32.0	65.6	2.3
	70～74歳	194	3.1	5.7	7.2	20.1	3.6	39.7	57.7	2.6
	75～79歳	180	1.1	8.3	10.6	15.6	8.9	44.4	47.8	7.8
	80～84歳	131	6.1	6.1	6.9	16.0	6.9	42.0	51.9	6.1
	85～89歳	50	0.0	14.0	6.0	24.0	0.0	44.0	46.0	10.0
	90歳以上	25	0.0	12.0	12.0	4.0	0.0	28.0	56.0	16.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加状況については「参加していない」が78.9%で最も高く、次いで「月1～3回」が6.1%、「年に数回」が4.9%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(15.1%)は、平成29年度調査(10.6%)よりも4.5ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が14.7%、事業対象者・要支援認定者が14.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が11.3%、女性が18.1%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、90歳以上が28.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-5 学習・教養サークルの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	720	0.3	0.7	3.2	6.1	4.9	15.1	78.9	6.0	
平成29年度調査	639	0.3	1.1	1.3	4.5	3.4	10.6	50.7	38.7	
認定別										
	一般高齢者	652	0.2	0.5	3.2	6.3	4.6	14.7	80.2	5.1
	事業対象者・要支援認定者	50	2.0	2.0	2.0	2.0	6.0	14.0	66.0	20.0
性別										
	男性	328	0.6	0.3	2.1	4.3	4.0	11.3	87.8	0.9
	女性	381	0.0	1.0	4.2	7.3	5.5	18.1	71.4	10.5
年齢別										
	65～69歳	128	0.0	0.0	4.7	3.9	1.6	10.2	85.9	3.9
	70～74歳	194	0.0	1.0	0.5	7.7	3.6	12.9	85.6	1.5
	75～79歳	180	0.6	0.0	2.8	6.1	5.0	14.4	76.7	8.9
	80～84歳	131	0.8	1.5	3.1	4.6	9.2	19.1	72.5	8.4
	85～89歳	50	0.0	2.0	6.0	8.0	4.0	20.0	70.0	10.0
	90歳以上	25	0.0	0.0	16.0	4.0	8.0	28.0	60.0	12.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑤ (しゃきつと教室など) 介護予防のための通いの場

(しゃきつと教室など) 介護予防のための通いの場の参加状況については、「参加していない」が 85.0%で最も高く、次いで「週1回」が 6.5%、「年に数回」が 1.8%と続いています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が 10.3%、事業対象者・要支援認定者が 24.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が 3.7%、女性が 18.1%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、85～89歳が 22.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-6 (しゃきつと教室など) 介護予防のための通いの場の参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	720	0.4	1.5	6.5	1.3	1.8	11.5	85.0	3.5	
別認定	一般高齢者	652	0.3	0.9	5.7	1.4	2.0	10.3	86.7	3.1
	事業対象者・要支援認定者	50	0.0	6.0	18.0	0.0	0.0	24.0	66.0	10.0
性別	男性	328	0.0	0.3	1.5	0.3	1.5	3.7	94.8	1.5
	女性	381	0.5	2.4	11.0	2.1	2.1	18.1	76.6	5.2
年齢別	65～69歳	128	0.0	0.0	3.1	1.6	0.8	5.5	91.4	3.1
	70～74歳	194	0.0	0.5	5.7	0.5	1.0	7.7	91.8	0.5
	75～79歳	180	0.6	1.1	8.9	1.1	2.8	14.4	80.0	5.6
	80～84歳	131	0.8	0.0	8.4	2.3	2.3	13.7	81.7	4.6
	85～89歳	50	0.0	10.0	8.0	2.0	2.0	22.0	72.0	6.0
	90歳以上	25	0.0	8.0	4.0	0.0	4.0	16.0	80.0	4.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑥ 老人クラブ

老人クラブの参加状況については、「参加していない」が79.2%で最も高く、次いで「年に数回」が8.5%、「月1～3回」が4.9%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合に大きな差はみられません。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が15.2%、事業対象者・要支援認定者が32.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が19.2%、女性が14.2%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、85～89歳が34.0%で最も高くなっています。

図表 3-6-7 老人クラブの参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	720	0.1	1.1	1.8	4.9	8.5	16.4	79.2	4.4	
平成29年度調査	639	0.5	1.1	0.8	4.4	7.8	14.6	50.4	35.1	
認定別	一般高齢者	652	0.2	1.1	1.8	4.6	7.5	15.2	81.0	3.8
	事業対象者・要支援認定者	50	0.0	2.0	2.0	8.0	20.0	32.0	60.0	8.0
性別	男性	328	0.0	1.5	1.5	5.2	11.0	19.2	78.0	2.7
	女性	381	0.3	0.8	2.1	4.5	6.6	14.2	80.1	5.8
年齢別	65～69歳	128	0.0	0.0	0.0	1.6	2.3	3.9	91.4	4.7
	70～74歳	194	0.0	0.5	2.1	2.1	4.6	9.3	88.7	2.1
	75～79歳	180	0.0	1.1	2.2	6.1	8.3	17.8	75.6	6.7
	80～84歳	131	0.0	1.5	2.3	6.1	19.1	29.0	66.4	4.6
	85～89歳	50	2.0	2.0	2.0	14.0	14.0	34.0	62.0	4.0
	90歳以上	25	0.0	8.0	4.0	8.0	8.0	28.0	68.0	4.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦ 町内会・自治会

町内会・自治会の参加状況については、「参加していない」が63.9%で最も高く、次いで「年に数回」が26.0%、「月1～3回」が2.9%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(30.1%)は、平成29年度調査(18.1%)よりも12.0ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が31.3%、事業対象者・要支援認定者が18.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が31.4%、女性が29.1%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、70～74歳が33.5%で最も高くなっています。

図表 3-6-8 町内会・自治会の参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
全体	720	0.0	0.3	1.0	2.9	26.0	30.1	63.9	6.0	
平成29年度調査	639	0.3	0.3	0.8	4.5	12.2	18.1	43.8	38.0	
別										
認定	一般高齢者	652	0.0	0.3	0.9	3.2	26.8	31.3	63.5	5.2
	事業対象者・要支援認定者	50	0.0	0.0	2.0	0.0	16.0	18.0	72.0	10.0
性別										
	男性	328	0.0	0.3	1.2	3.4	26.5	31.4	64.9	3.7
	女性	381	0.0	0.3	0.8	2.6	25.5	29.1	63.0	7.9
年齢別										
	65～69歳	128	0.0	0.0	0.8	4.7	25.8	31.3	63.3	5.5
	70～74歳	194	0.0	1.0	0.5	3.1	28.9	33.5	63.4	3.1
	75～79歳	180	0.0	0.0	1.7	2.8	28.9	33.3	59.4	7.2
	80～84歳	131	0.0	0.0	1.5	2.3	23.7	27.5	64.9	7.6
	85～89歳	50	0.0	0.0	0.0	2.0	20.0	22.0	72.0	6.0
	90歳以上	25	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	8.0	80.0	12.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事の参加状況については、「参加していない」が77.6%で最も高く、次いで「週4回以上」が8.3%、「週2～3回」が4.4%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、参加している人の割合(17.8%)は、平成29年度調査(10.3%)よりも7.5ポイント増加しています。

認定状況別でみると、参加している人の割合は、一般高齢者が18.9%、事業対象者・要支援認定者が8.0%となっています。

性別でみると、参加している人の割合は、男性が22.9%、女性が13.9%となっています。

年齢別でみると、参加している人の割合は、65～69歳が41.4%で最も高くなっています。

図表 3-6-9 収入のある仕事の参加状況

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している計	参加していない	無回答
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回			
全体	720	8.3	4.4	1.1	2.6	1.3	17.8	77.6	4.6
平成29年度調査	639	4.2	2.8	0.6	1.4	1.3	10.3	52.6	37.1
認定別									
一般高齢者	652	8.7	4.9	1.2	2.8	1.2	18.9	77.3	3.8
事業対象者・要支援認定者	50	6.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	84.0	8.0
性別									
男性	328	11.3	5.2	1.8	2.7	1.8	22.9	74.7	2.4
女性	381	6.0	3.9	0.5	2.6	0.8	13.9	79.8	6.3
年齢別									
65～69歳	128	21.9	10.9	1.6	7.0	0.0	41.4	53.9	4.7
70～74歳	194	11.9	4.1	2.6	2.1	1.0	21.6	76.3	2.1
75～79歳	180	3.9	4.4	0.0	1.7	3.3	13.3	80.0	6.7
80～84歳	131	0.8	0.8	0.8	1.5	0.8	4.6	90.1	5.3
85～89歳	50	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	4.0	92.0	4.0
90歳以上	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	4.0

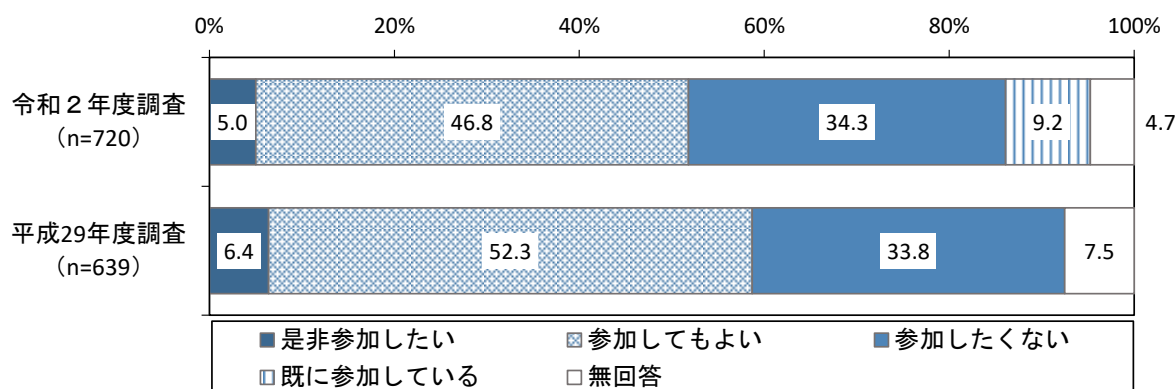
※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか

問5 (2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (1 つに〇)
--------	---

地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が46.8%で最も高く、次いで「参加したくない」が34.3%、「既に参加している」が9.2%と続いており、参加意向のある人（「是非参加したい」、「参加してもよい」と「既に参加している」の合計）の割合は61.0%となっています。

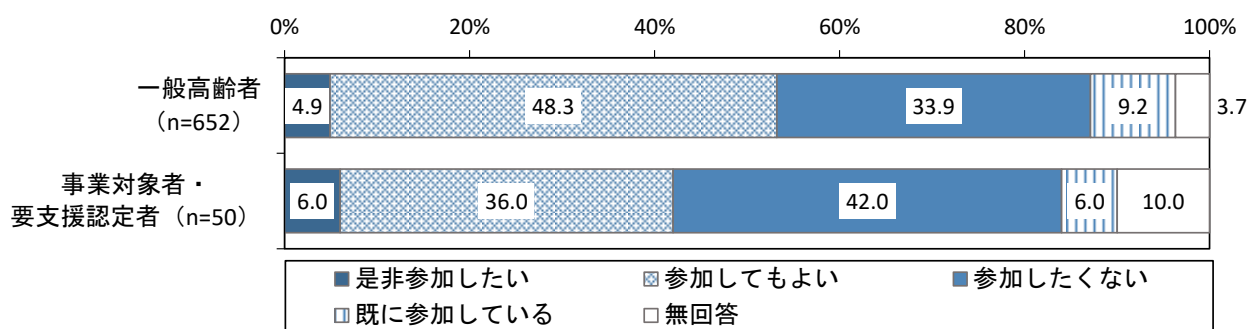
図表 3-6-10 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか



※「既に参加している」は令和2年度のみを選択肢

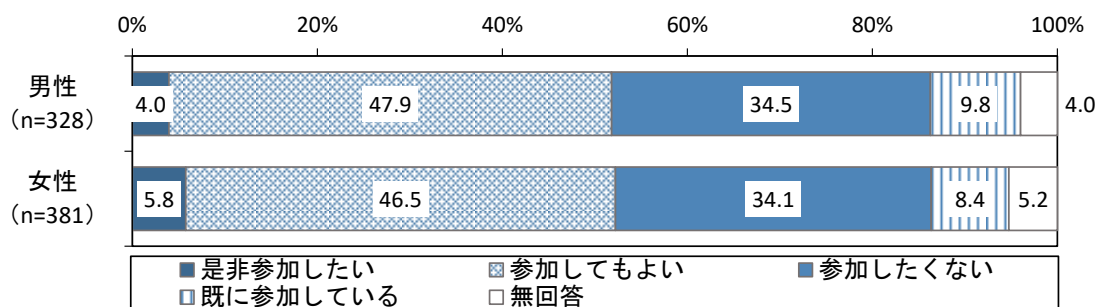
認定状況別でみると、参加意向のある人の割合は、一般高齢者が62.4%、事業対象者・要支援認定者が48.0%となっています。

図表 3-6-11 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか
認定状況別



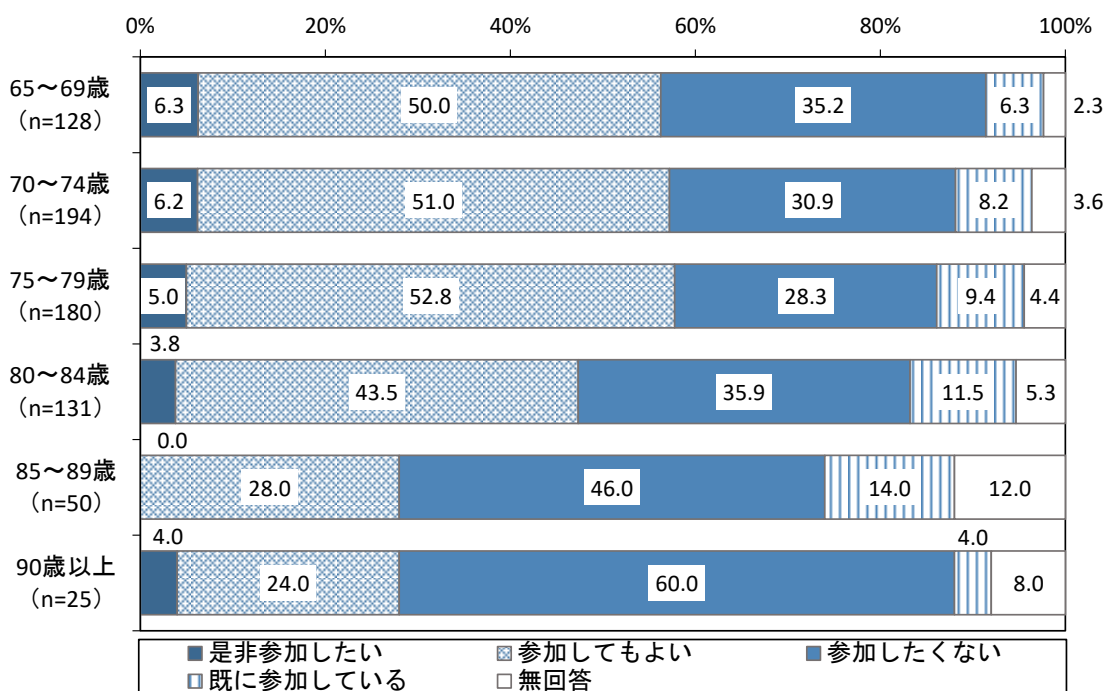
性別でみると、参加意向のある人の割合は、男性が61.7%、女性が60.7%となっています。

図表 3-6-12 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 性別



年齢別でみると、参加意向のある人の割合は、75～79歳が67.2%で最も高くなっています。

図表 3-6-13 地域住民のグループ活動による地域づくりに参加者として参加したいか 年齢別

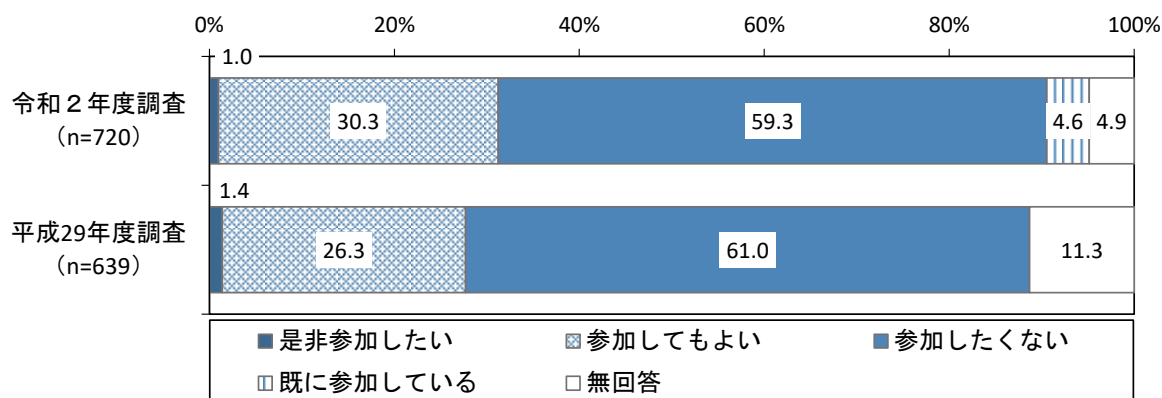


(3) 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか

問5 (3)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（1つに○）
--------	---

地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいかについては、「参加したくない」が59.3%で最も高く、次いで「参加してもよい」が30.3%、「既に参加している」が4.6%と続いており、参加意向のある人の割合は35.9%となっています。

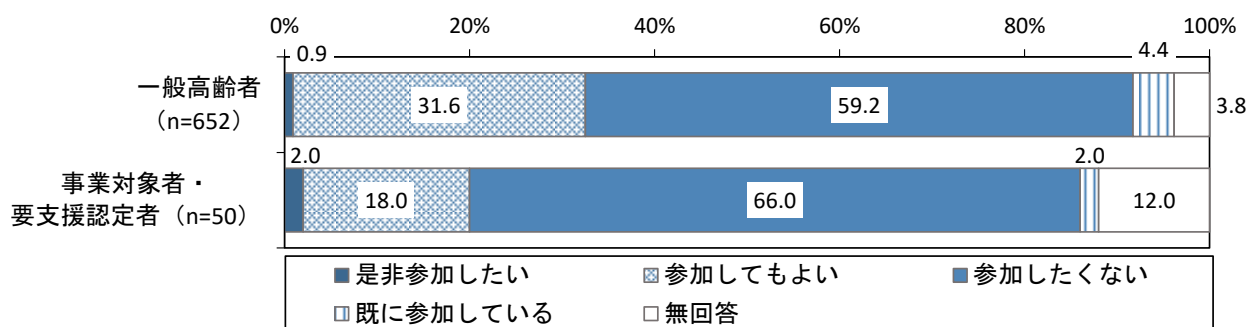
図表 3-6-14 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか



※「既に参加している」は令和2年度のみを選択肢

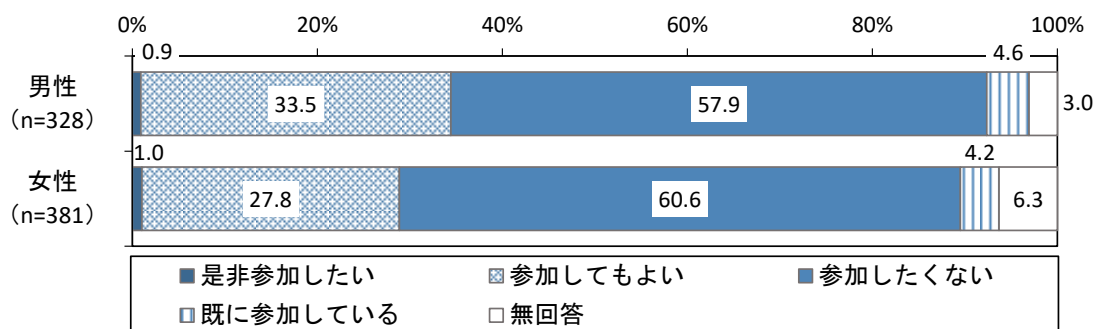
認定状況別でみると、参加意向のある人の割合は、一般高齢者が36.9%、事業対象者・要支援認定者が22.0%となっています。

図表 3-6-15 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか
認定状況別



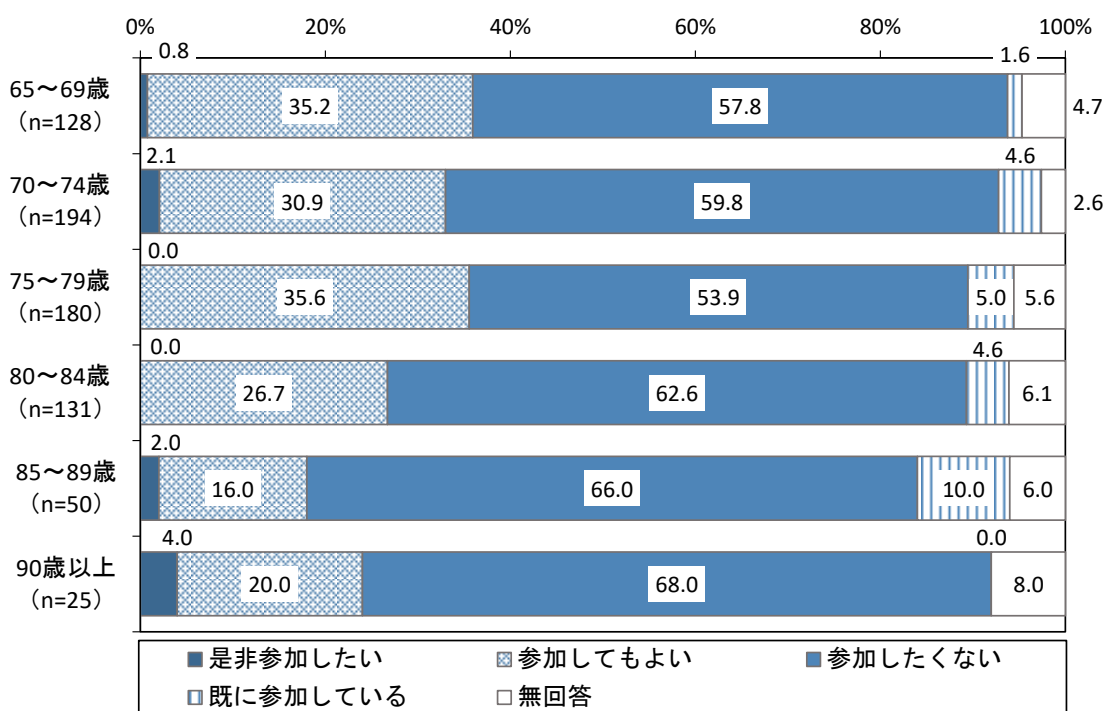
性別でみると、参加意向のある人の割合は、男性が39.0%、女性が33.0%となっています。

図表 3-6-16 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか 性別



年齢別でみると、参加意向のある人の割合は、75～79歳が40.6%で最も高くなっています。

図表 3-6-17 地域住民のグループ活動による地域づくりに企画・運営として参加したいか 年齢別



(4) 事業の認知度と利用状況

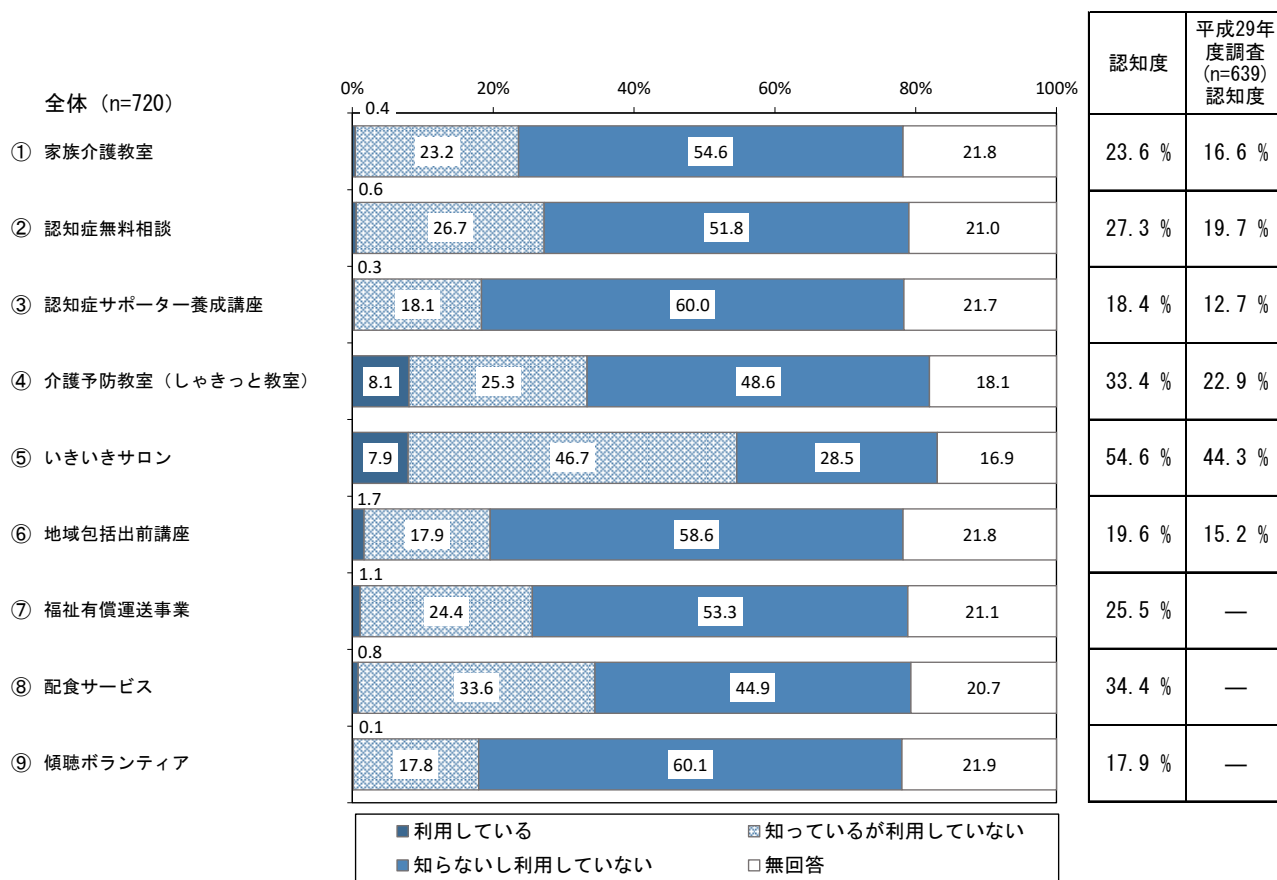
問5(4) 参加、利用したことがある事業や知っている事業等があれば○をつけてください。

事業の認知度と利用状況について、認知度（「利用している」と「知っているが利用していない」の合計）では、「⑤ いきいきサロン」が54.6%で最も高く、次いで「⑧ 配食サービス」が34.4%、「④ 介護予防教室（しゃきっと教室）」が33.4%と続いています。

また、利用状況では、「④ 介護予防教室（しゃきっと教室）」が8.1%で最も高く、次いで「⑤ いきいきサロン」が7.9%、「⑥ 地域包括出前講座」が1.7%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、認知度の割合は、比較できる項目全て平成29年度調査よりも割合が増加しています。

図表 3-6-18 事業の認知度と利用状況

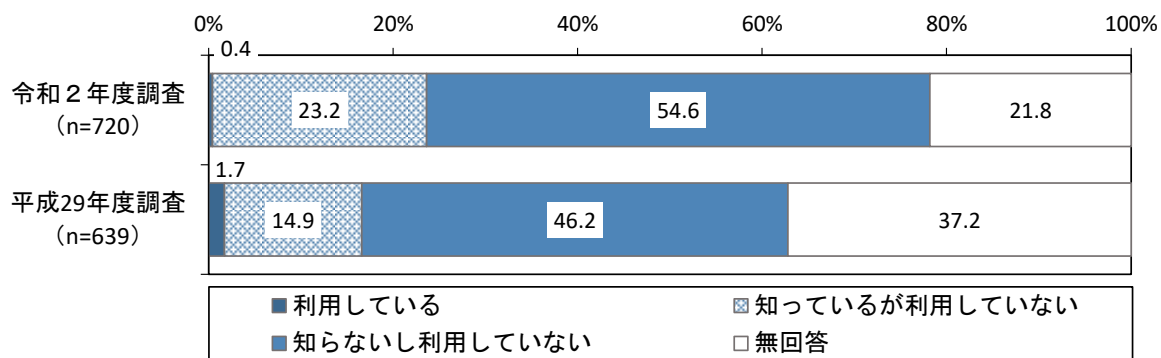


① 家族介護教室

家族介護教室については、「知らないし利用していない」が54.6%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が23.2%、「利用している」が0.4%となっています。

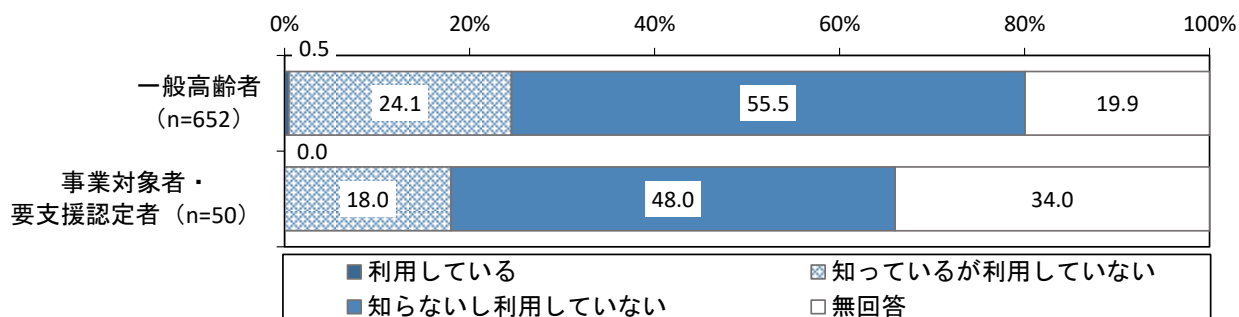
平成29年度調査と比較すると、認知度（23.6%）では、平成29年度調査（16.6%）よりも7.0ポイント増加しています。

図表 3-6-19 家族介護教室の認知度と利用状況



認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が24.6%、事業対象者・要支援認定者が18.0%となっています。

図表 3-6-20 家族介護教室の認知度と利用状況 認定状況別

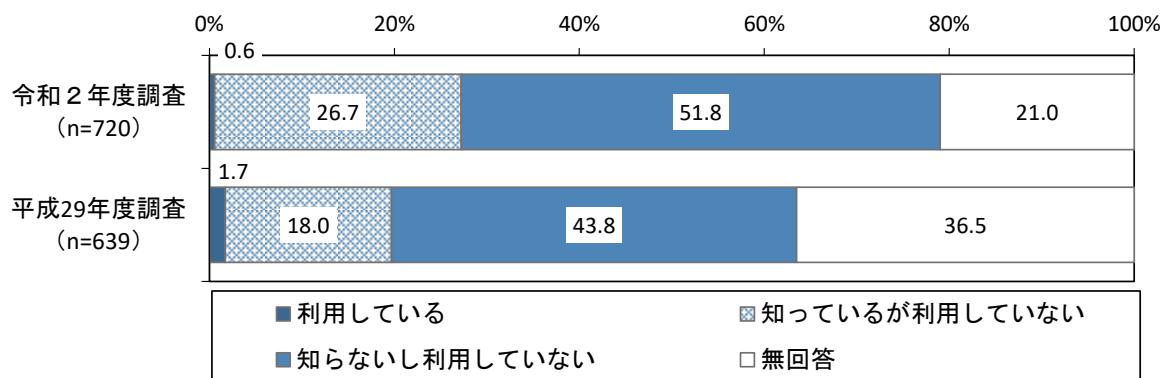


② 認知症無料相談

認知症無料相談については、「知らないし利用していない」が51.8%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が26.7%、「利用している」が0.6%となっています。

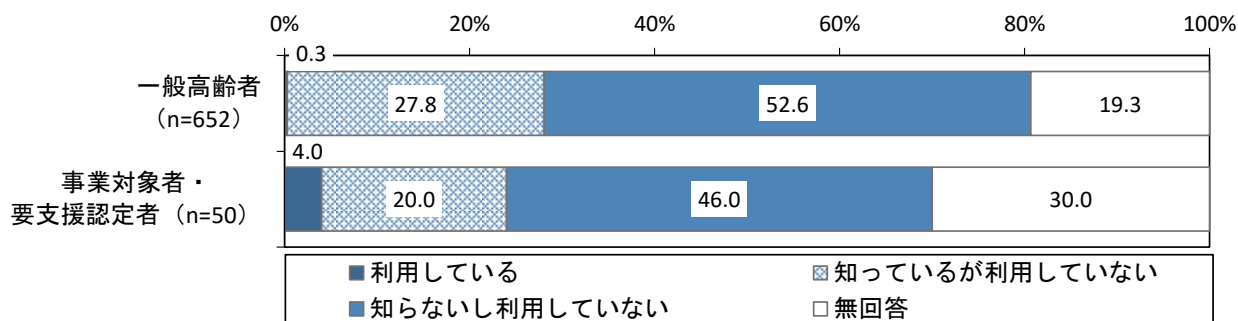
平成29年度調査と比較すると、認知度（27.3%）では、平成29年度調査（19.7%）よりも7.6ポイント増加しています。

図表 3-6-21 認知症無料相談の認知度と利用状況



認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が28.1%、事業対象者・要支援認定者が24.0%となっています。

図表 3-6-22 認知症無料相談の認知度と利用状況 認定状況別

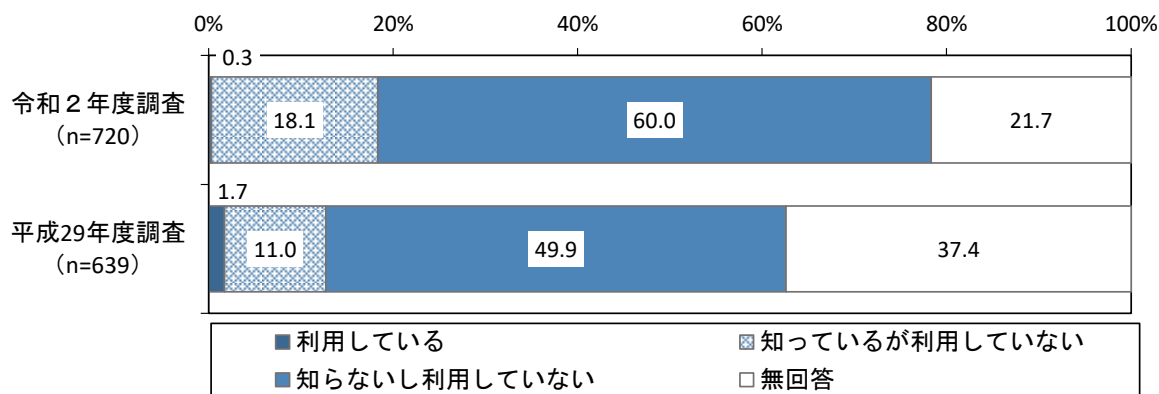


③ 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座については、「知らないし利用していない」が60.0%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が18.1%、「利用している」が0.3%となっています。

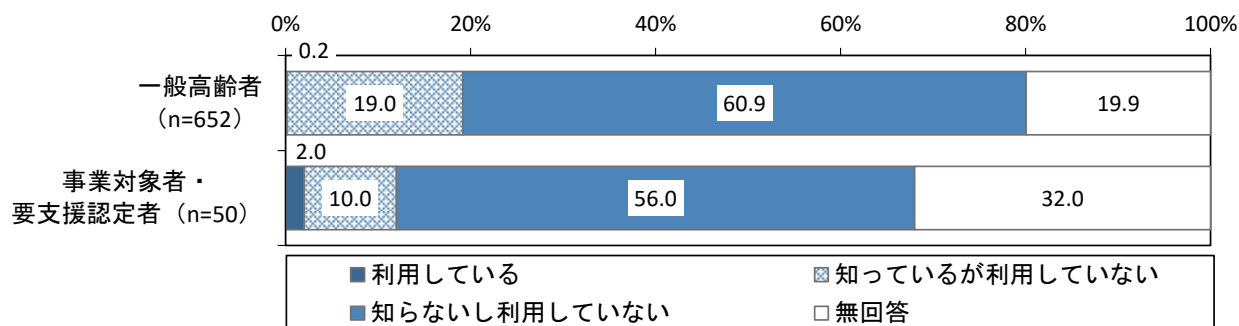
平成29年度調査と比較すると、認知度（18.4%）では、平成29年度調査（12.7%）よりも5.7ポイント増加しています。

図表 3-6-23 認知症サポーター養成講座の認知度と利用状況



認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が19.2%、事業対象者・要支援認定者が12.0%となっています。

図表 3-6-24 認知症サポーター養成講座の認知度と利用状況 認定状況別

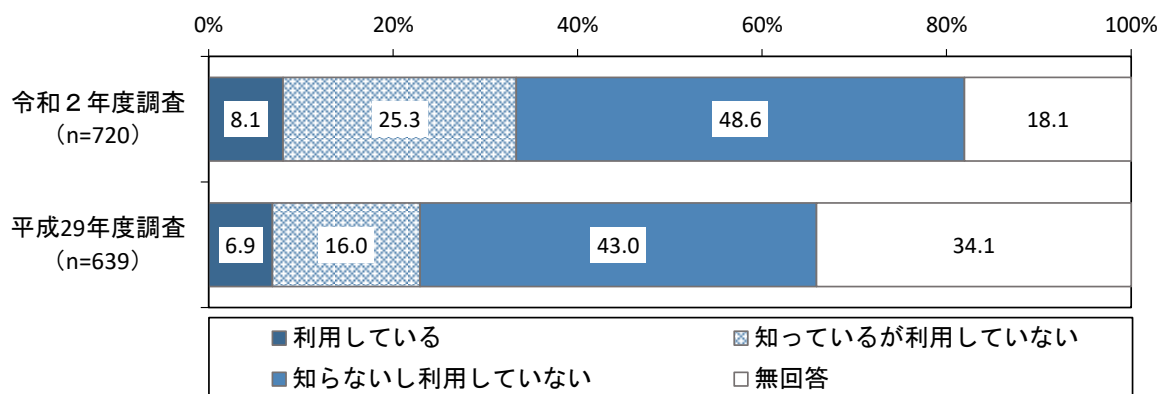


④ 介護予防教室（しゃきっと教室）

介護予防教室（しゃきっと教室）については、「知らないし利用していない」が48.6%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が25.3%、「利用している」が8.1%となっています。

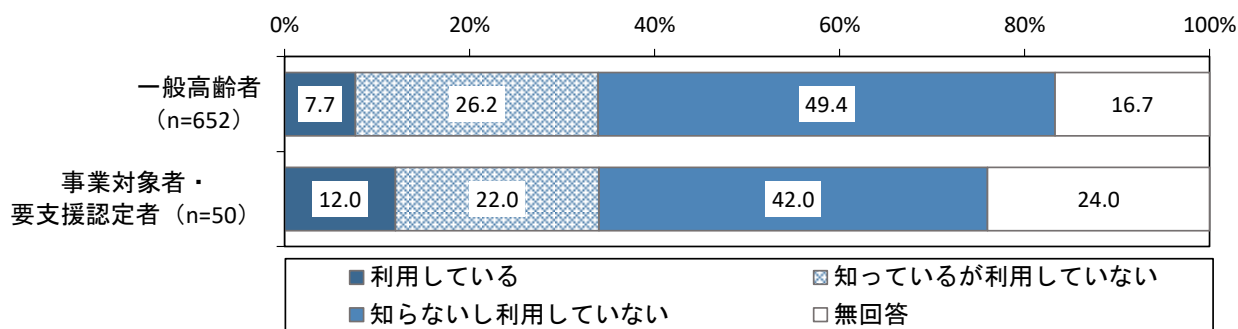
平成29年度調査と比較すると、認知度（33.4%）では、平成29年度調査（22.9%）よりも10.5ポイント増加しています。

図表 3-6-25 介護予防教室（しゃきっと教室）の認知度と利用状況



認定状況別にみると、「利用している」では、一般高齢者が7.7%、事業対象者・要支援認定者が12.0%となっています。

図表 3-6-26 介護予防教室（しゃきっと教室）の認知度と利用状況 認定状況別

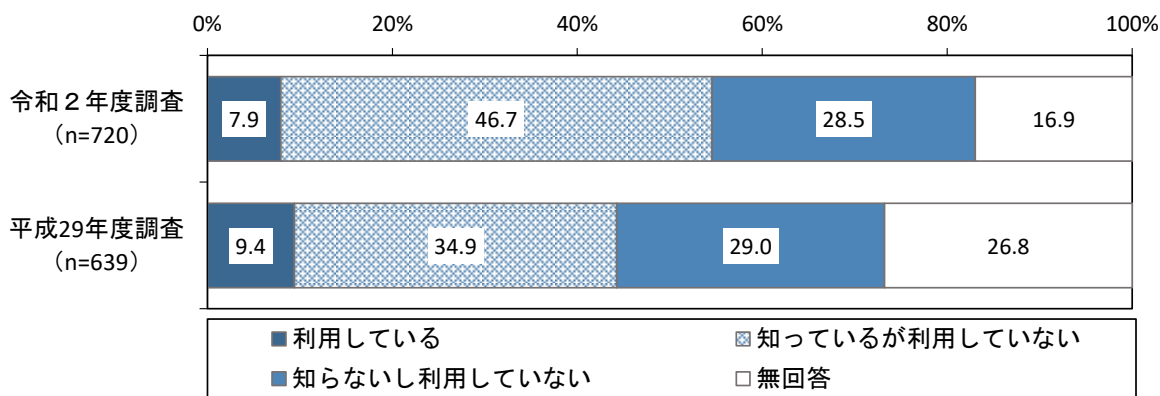


⑤ いきいきサロン

いきいきサロンについては、「知っているが利用していない」が46.7%で最も高く、次いで「知らないし利用していない」が28.5%、「利用している」が7.9%となっています。

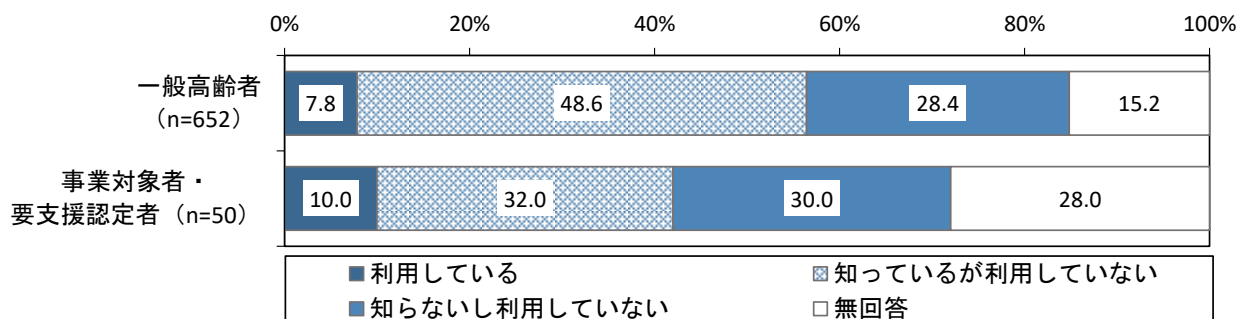
平成29年度調査と比較すると、認知度(54.6%)では、平成29年度調査(44.3%)よりも10.3ポイント増加しています。

図表 3-6-27 いきいきサロンの認知度と利用状況



認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が56.4%、事業対象者・要支援認定者が42.0%となっています。

図表 3-6-28 いきいきサロンの認知度と利用状況 認定状況別

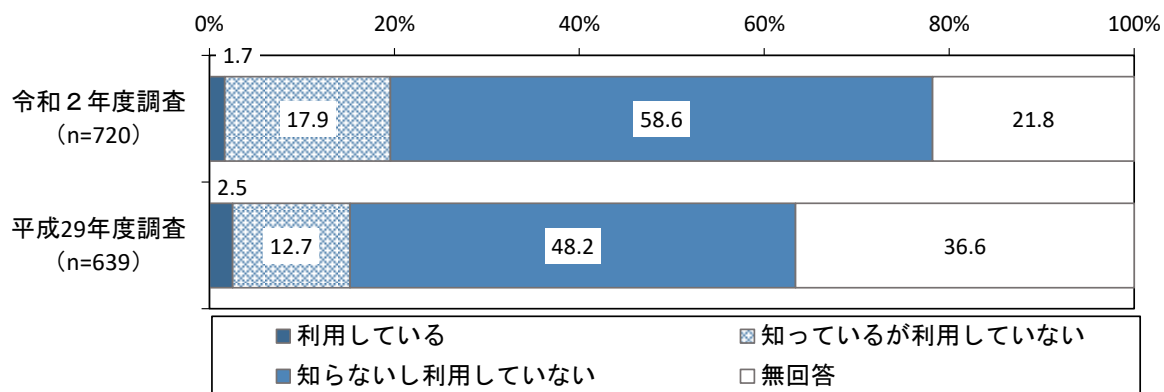


⑥ 地域包括出前講座

地域包括出前講座については、「知らないし利用していない」が58.6%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が17.9%、「利用している」が1.7%となっています。

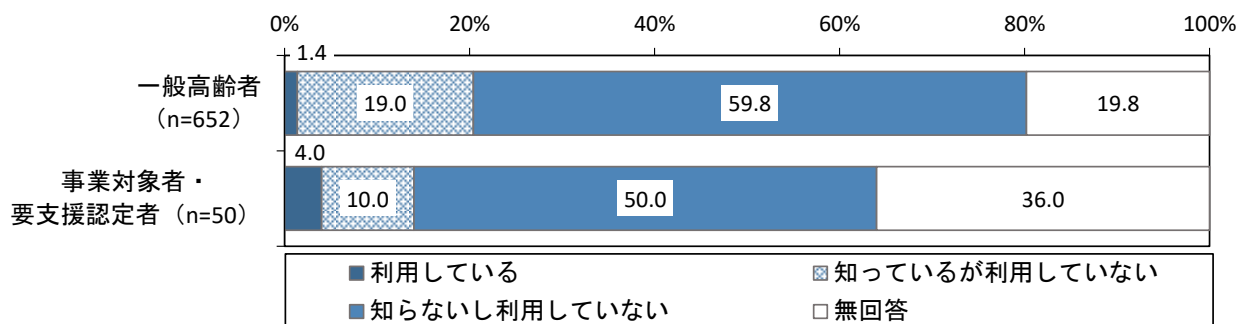
平成29年度調査と比較すると、認知度（19.6%）では、平成29年度調査（15.2%）よりも4.4ポイント増加しています。

図表 3-6-29 地域包括出前講座の認知度と利用状況



認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が20.4%、事業対象者・要支援認定者が14.0%となっています。

図表 3-6-30 地域包括出前講座の認知度と利用状況 認定状況別

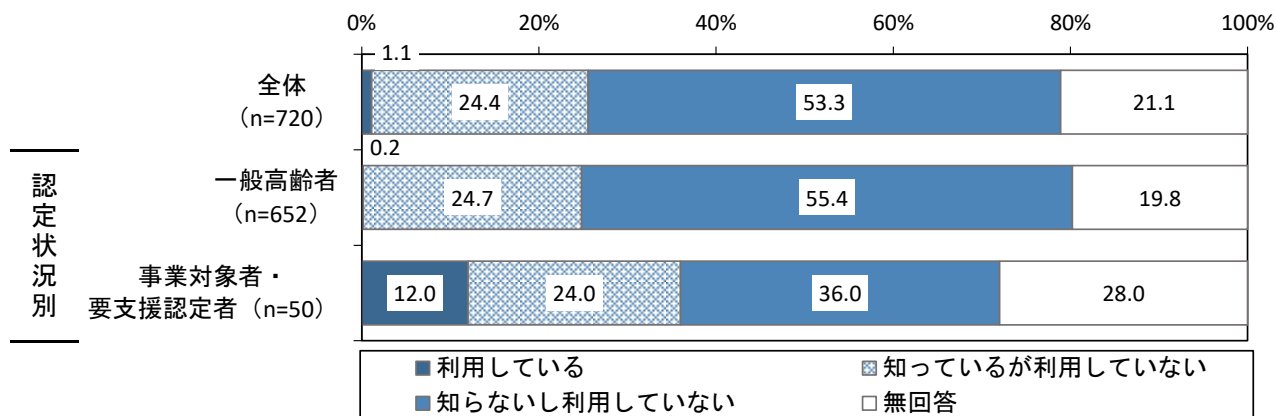


⑦ 福祉有償運送事業

福祉有償運送事業については、「知らないし利用していない」が53.3%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が24.4%、「利用している」が1.1%となっています。

認定状況別にみると、「利用している」では、一般高齢者が0.2%、事業対象者・要支援認定者が12.0%となっています。

図表 3-6-31 福祉有償運送事業の認知度と利用状況

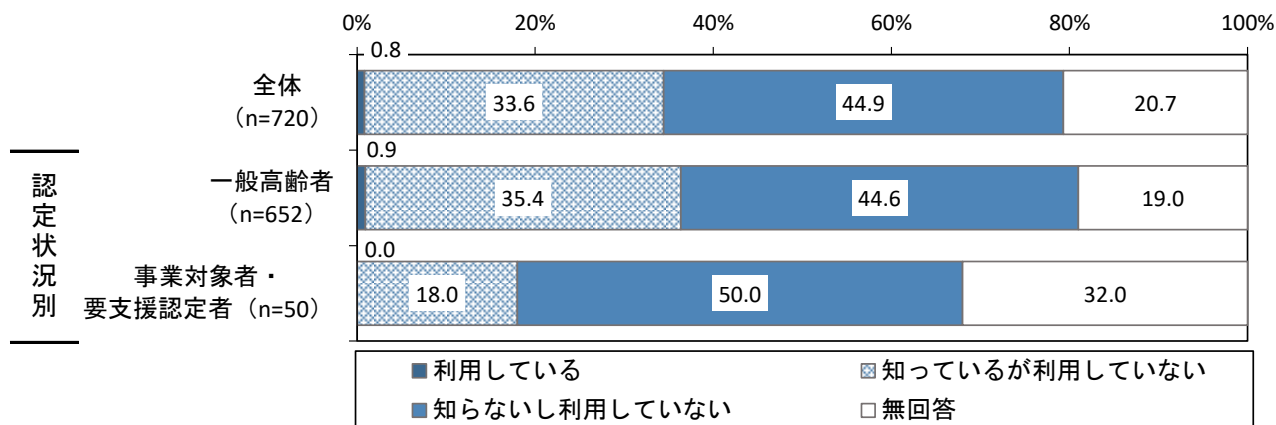


⑧ 配食サービス

配食サービスについては、「知らないし利用していない」が44.9%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が33.6%、「利用している」が0.8%となっています。

認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が36.3%、事業対象者・要支援認定者が18.0%となっています。

図表 3-6-32 配食サービスの認知度と利用状況

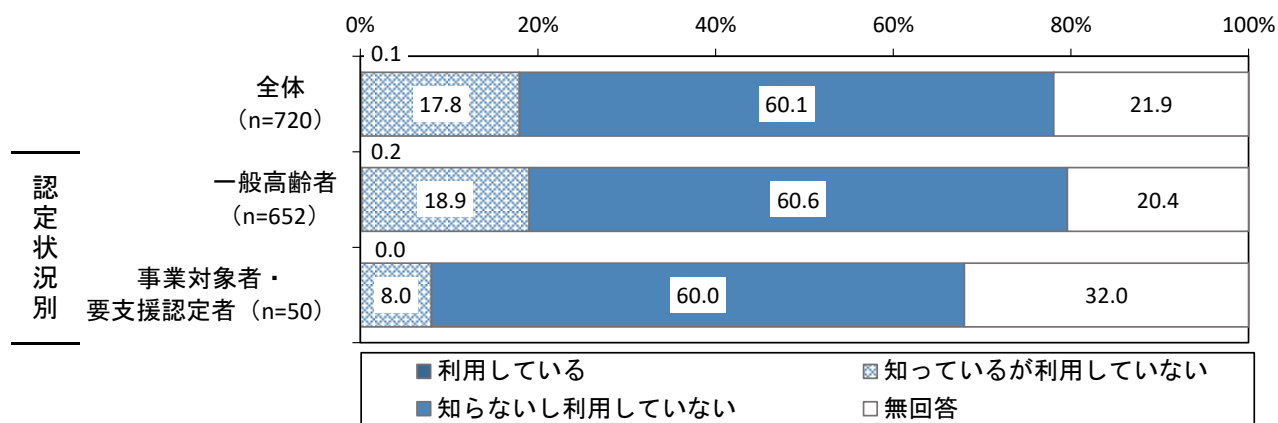


⑨ 傾聴ボランティア

傾聴ボランティアについては、「知らないし利用していない」が60.1%で最も高く、次いで「知っているが利用していない」が17.8%、「利用している」が0.1%となっています。

認定状況別にみると、認知度では、一般高齢者が19.1%、事業対象者・要支援認定者が8.0%となっています。

図表 3-6-33 傾聴ボランティアの認知度と利用状況



7. たすけあいについて

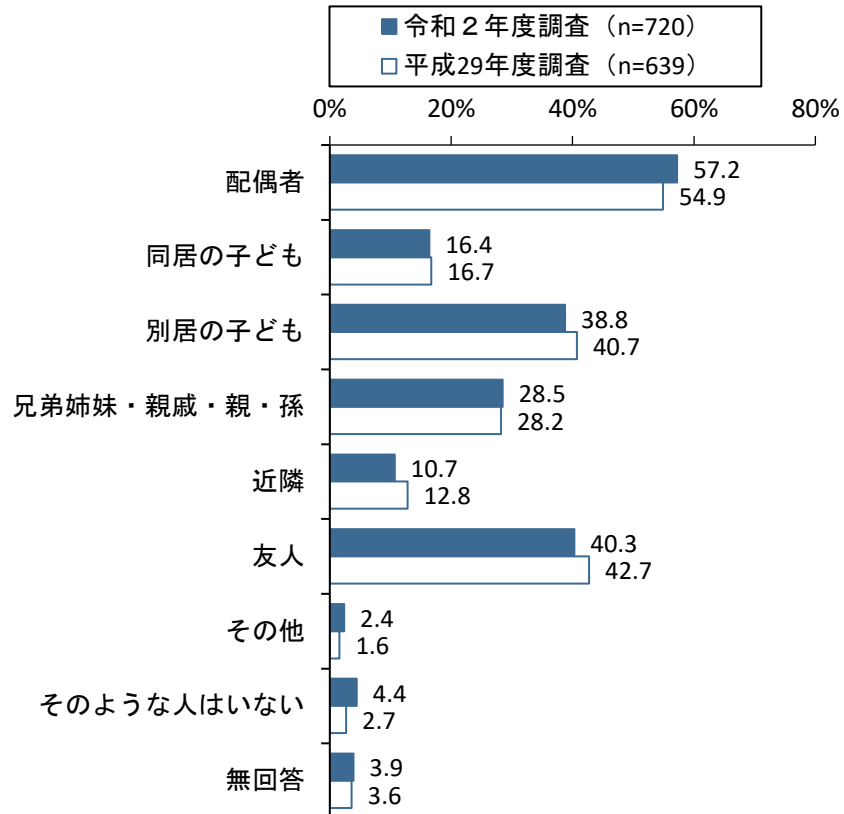
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問6(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が57.2%で最も高く、次いで「友人」が40.3%、「別居の子ども」が38.8%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-7-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「配偶者」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「友人」の割合が高く、事業対象者・要支援認定者では次いで「別居の子ども」の割合が高くなっています。

性別でみると、男性では「配偶者」が70.4%で最も高く、女性では「友人」が50.9%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～84歳では「配偶者」の割合が最も高く、85～89歳では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」の割合が最も高く、90歳以上では「別居の子ども」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		720	57.2	16.4	38.8	28.5	10.7	40.3	2.4	4.4	3.9
平成29年度調査		639	54.9	16.7	40.7	28.2	12.8	42.7	1.6	2.7	3.6
別認定	一般高齢者	652	58.4	16.3	38.0	29.0	10.6	41.0	2.1	3.8	3.8
	事業対象者・要支援認定者	50	44.0	20.0	42.0	26.0	12.0	24.0	4.0	10.0	4.0
性別	男性	328	70.4	13.1	32.0	20.4	3.7	27.1	1.8	6.1	3.7
	女性	381	45.9	19.2	44.4	36.0	16.5	50.9	2.6	2.9	3.9
年齢別	65～69歳	128	63.3	15.6	32.8	30.5	9.4	47.7	2.3	3.9	2.3
	70～74歳	194	68.6	19.1	44.3	30.4	8.8	39.2	1.0	4.1	1.5
	75～79歳	180	61.1	15.6	38.9	27.2	12.8	43.9	1.7	1.7	5.6
	80～84歳	131	48.1	11.5	40.5	22.9	12.2	34.4	1.5	5.3	6.9
	85～89歳	50	28.0	28.0	28.0	40.0	12.0	32.0	6.0	8.0	0.0
	90歳以上	25	20.0	8.0	36.0	24.0	4.0	24.0	12.0	12.0	8.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

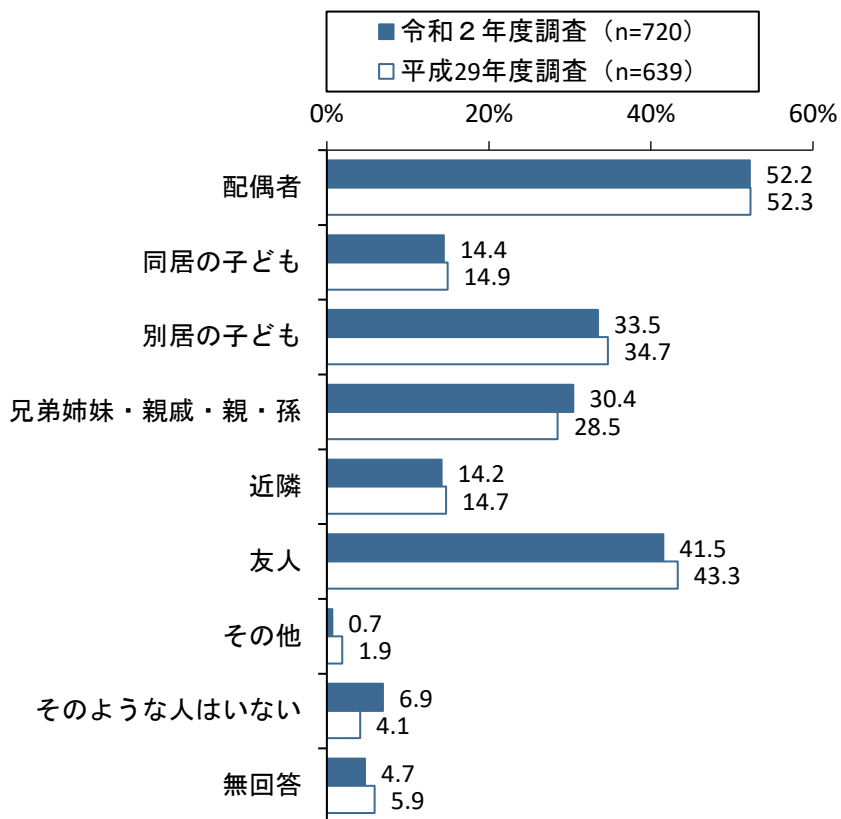
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問6(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が52.2%で最も高く、次いで「友人」が41.5%、「別居の子ども」が33.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-7-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「配偶者」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「友人」の割合が高く、事業対象者・要支援認定者では次いで「別居の子ども」の割合が高くなっています。

性別でみると、男性では「配偶者」が68.3%で最も高く、女性では「友人」が53.3%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～84歳では「配偶者」の割合が最も高く、85～89歳では「友人」の割合が最も高く、90歳以上では「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		720	52.2	14.4	33.5	30.4	14.2	41.5	0.7	6.9	4.7
平成29年度調査		639	52.3	14.9	34.7	28.5	14.7	13.3	1.9	4.1	5.9
別認定	一般高齢者	652	53.5	14.9	33.3	31.1	14.4	41.9	0.8	6.3	4.6
	事業対象者・要支援認定者	50	40.0	12.0	36.0	26.0	14.0	32.0	0.0	14.0	6.0
性別	男性	328	68.3	14.0	29.0	22.0	7.3	27.1	0.0	8.8	4.9
	女性	381	38.8	15.0	37.3	38.1	20.2	53.3	1.3	5.2	4.5
年齢別	65～69歳	128	57.0	15.6	32.0	32.8	13.3	45.3	0.8	5.5	3.1
	70～74歳	194	62.9	16.5	39.7	32.5	12.9	40.7	1.0	3.6	3.1
	75～79歳	180	57.2	15.0	32.8	30.0	17.2	47.2	0.6	3.9	6.1
	80～84歳	131	44.3	10.7	32.1	28.2	13.0	33.6	0.0	9.9	6.9
	85～89歳	50	24.0	20.0	22.0	34.0	16.0	38.0	0.0	12.0	4.0
	90歳以上	25	16.0	4.0	28.0	12.0	12.0	28.0	4.0	32.0	4.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

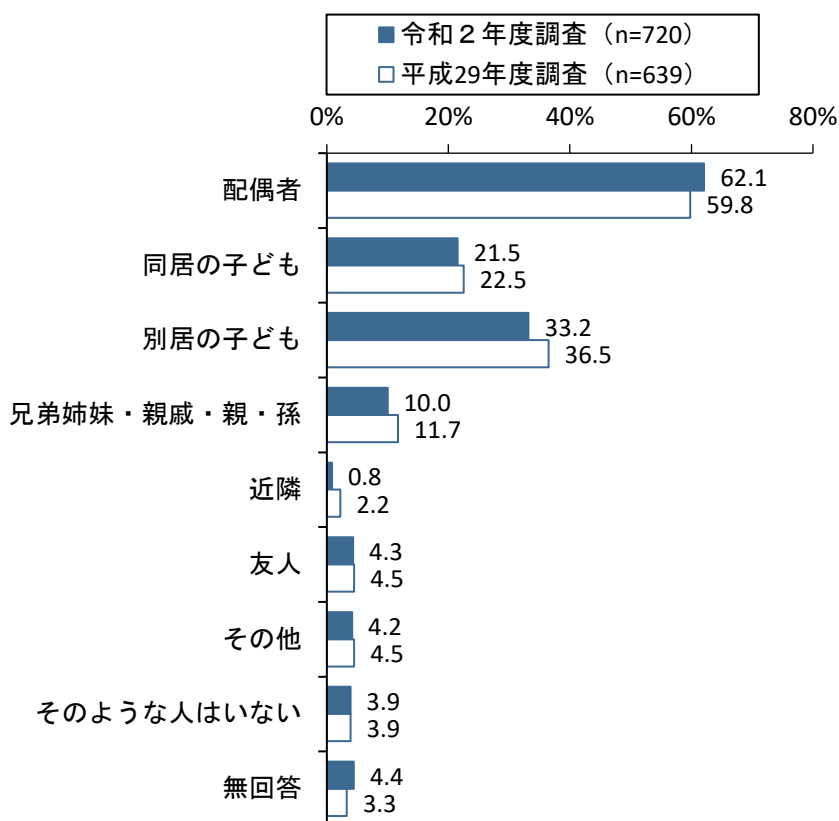
(3) 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人

問6(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が62.1%で最も高く、次いで「別居の子ども」が33.2%、「同居の子ども」が21.5%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「別居の子ども」(33.2%)では、平成29年度調査(36.5%)より3.3ポイント減少しています。

図表 3-7-5 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人



認定状況別で見ると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「配偶者」の割合が最も高く、次いで「別居の子ども」、「同居の子ども」が高くなっています。

性別で見ると、「配偶者」では男性の割合が女性よりも高く、それ以外の項目では女性の割合が男性よりも高くなっています。

年齢別で見ると、65～84歳では「配偶者」の割合が最も高く、85～89歳では「別居の子ども」の割合が最も高く、90歳以上では「その他」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-6 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		720	62.1	21.5	33.2	10.0	0.8	4.3	4.2	3.9	4.4
平成29年度調査		639	59.8	22.5	36.5	11.7	2.2	4.5	4.5	3.9	3.3
認定別	一般高齢者	652	63.8	21.8	32.5	10.4	0.9	4.8	4.1	3.5	4.4
	事業対象者・要支援認定者	50	46.0	22.0	38.0	8.0	0.0	0.0	4.0	6.0	4.0
性別	男性	328	75.6	18.3	27.7	7.6	0.3	1.5	2.7	2.7	4.3
	女性	381	50.9	24.7	38.3	12.3	1.3	6.8	5.0	4.5	4.5
年齢別	65～69歳	128	72.7	18.8	31.3	10.9	0.8	6.3	0.0	6.3	3.1
	70～74歳	194	77.8	22.7	29.4	11.9	0.5	4.1	0.5	3.6	1.5
	75～79歳	180	62.2	19.4	35.0	10.6	1.7	3.3	2.2	1.1	7.2
	80～84歳	131	50.4	22.9	39.7	5.3	0.8	3.8	6.1	3.8	6.1
	85～89歳	50	28.0	36.0	38.0	16.0	0.0	4.0	16.0	2.0	2.0
	90歳以上	25	16.0	12.0	24.0	0.0	0.0	8.0	32.0	12.0	8.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

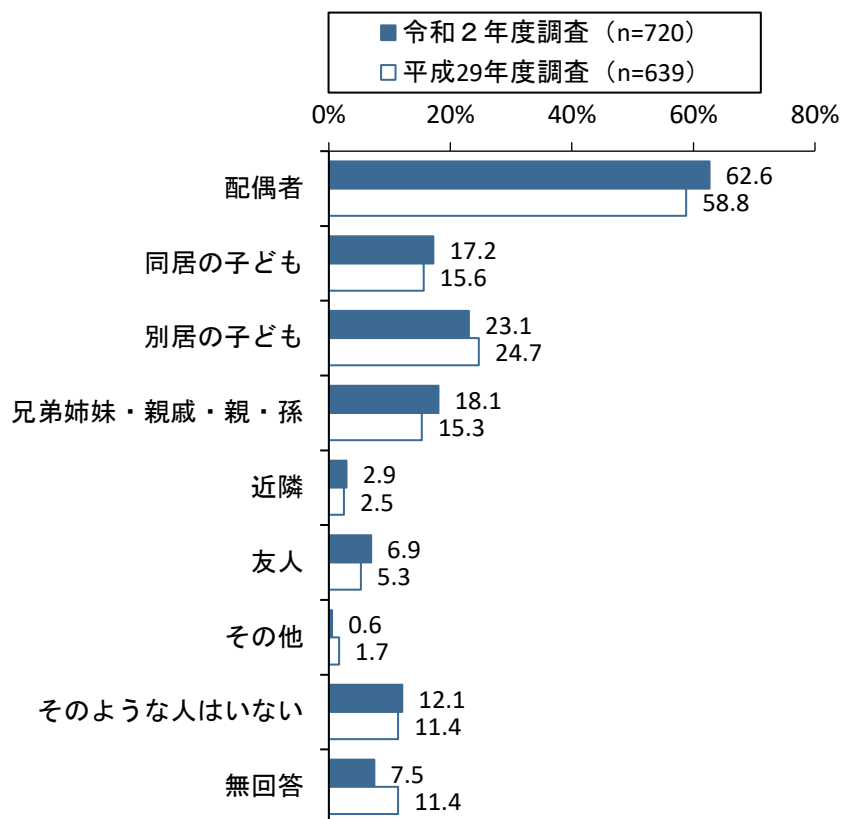
(4) 看病や世話をしている人

問6(4) 反対に、看病や世話をしている人(いくつでも)

看病や世話をしている人については、「配偶者」が62.6%で最も高く、次いで「別居の子ども」が23.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が18.1%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「配偶者」(62.6%)では、平成29年度調査(58.8%)より3.8ポイント増加しています。

図表 3-7-7 看病や世話をしている人



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「配偶者」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「別居の子ども」の割合が高く、事業対象者・要支援認定者では次いで「そのような人はいない」の割合が高くなっています。

性別でみると、男性、女性いずれも「配偶者」の割合が最も高く、次いで「別居の子ども」、「同居の子ども」が高くなっています。

年齢別でみると、65～89歳では「配偶者」の割合が最も高く、90歳以上では「そのような人はいない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-8 看病や世話をしあける人 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		720	62.6	17.2	23.1	18.1	2.9	6.9	0.6	12.1	7.5
平成29年度調査		639	58.8	15.6	24.7	15.3	2.5	5.3	1.7	11.4	11.4
認定別	一般高齢者	652	64.6	17.9	23.9	19.3	2.9	7.4	0.3	11.2	6.1
	事業対象者・要支援認定者	50	44.0	12.0	14.0	8.0	4.0	2.0	4.0	22.0	18.0
性別	男性	328	73.8	14.3	18.0	12.2	1.5	2.4	0.6	12.5	4.9
	女性	381	53.3	19.9	27.3	23.6	4.2	10.8	0.5	11.3	9.7
年齢別	65～69歳	128	69.5	17.2	29.7	31.3	3.1	8.6	0.0	10.2	3.1
	70～74歳	194	77.3	21.6	30.4	19.1	4.1	7.7	0.0	6.7	1.5
	75～79歳	180	65.6	17.2	18.9	17.2	3.3	6.1	0.6	7.8	8.3
	80～84歳	131	49.6	13.0	19.1	11.5	2.3	6.1	1.5	16.0	13.0
	85～89歳	50	32.0	22.0	10.0	14.0	0.0	6.0	2.0	22.0	18.0
	90歳以上	25	24.0	0.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	48.0	20.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

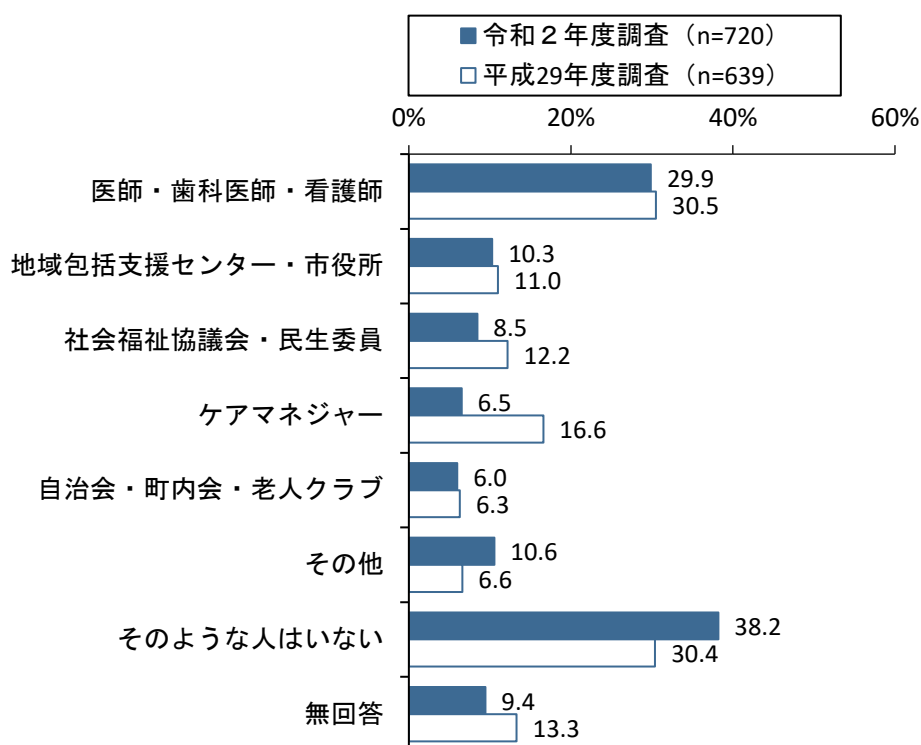
(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

問6 (5)	家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください (いくつでも)
--------	---

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手については、「そのような人はいない」が38.2%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が29.9%、「その他」が10.6%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「そのような人はいない」(38.2%)では、平成29年度調査(30.4%)より7.8ポイント増加しています。

図表 3-7-9 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



認定状況別で見ると、一般高齢者では「そのような人はいない」が39.4%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「医師・歯科医師・看護師」が42.0%で最も高くなっています。

性別で見ると、男性、女性いずれも「そのような人はいない」の割合が最も高く、男性が45.1%で、女性（32.0%）よりも13.1ポイント高くなっています。

年齢別で見ると、65～79歳では「そのような人はいない」の割合が最も高く、80～89歳では「医師・歯科医師・看護師」の割合が最も高く、90歳以上では「ケアマネジャー」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-10 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	医師・ 歯科医師・ 看護師	役所 地域 包括 支援 センター・ 市	社会 福祉 協議会・ 民生委員	ケア マネ ジャー	自治会・ 町内会・ 老人ク ラ	その他	その よう な人 はい ない	無 回 答
全体		720	29.9	10.3	8.5	6.5	6.0	10.6	38.2	9.4
平成29年度調査		639	30.5	11.0	12.2	16.6	6.3	6.6	30.4	13.3
別 認 定	一般高齢者	652	29.3	9.5	8.7	4.1	5.8	11.2	39.4	9.2
	事業対象者・要支援認定者	50	42.0	22.0	8.0	34.0	8.0	4.0	22.0	8.0
性 別	男性	328	31.4	8.2	8.5	4.6	8.2	8.5	45.1	5.2
	女性	381	29.1	12.1	8.7	7.9	3.9	12.6	32.0	12.9
年 齢 別	65～69歳	128	19.5	7.8	4.7	4.7	1.6	12.5	53.9	4.7
	70～74歳	194	33.5	14.4	7.7	3.1	4.1	6.7	45.9	4.6
	75～79歳	180	29.4	8.9	11.1	2.8	9.4	10.6	32.2	13.3
	80～84歳	131	33.6	11.5	12.2	9.2	7.6	11.5	24.4	15.3
	85～89歳	50	38.0	8.0	8.0	12.0	6.0	14.0	32.0	8.0
	90歳以上	25	32.0	0.0	0.0	40.0	8.0	20.0	24.0	12.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

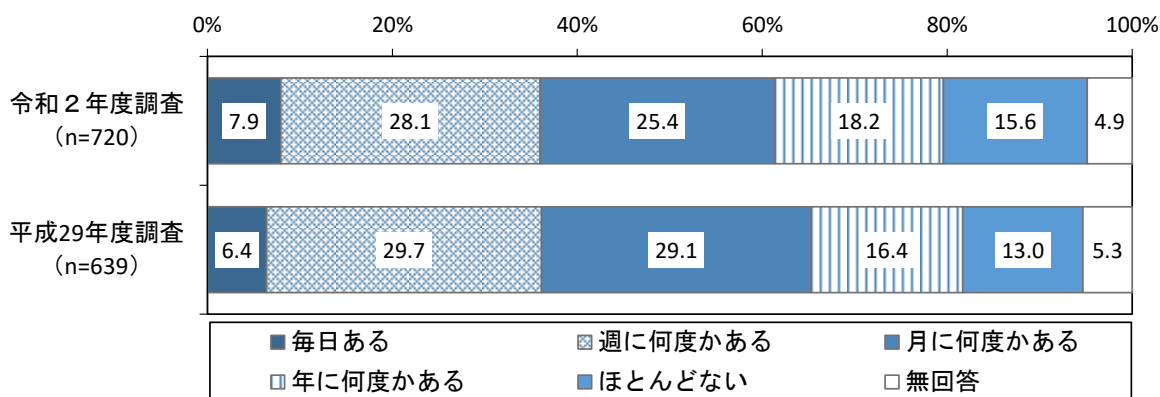
(6) 友人・知人と会う頻度

問6(6)	友人・知人と会う頻度はどれくらいですか(1つに○)
-------	---------------------------

友人・知人と会う頻度については、「週に何度かある」が28.1%で最も高く、次いで「月に何度かある」が25.4%、「年に何度かある」が18.2%と続いています。

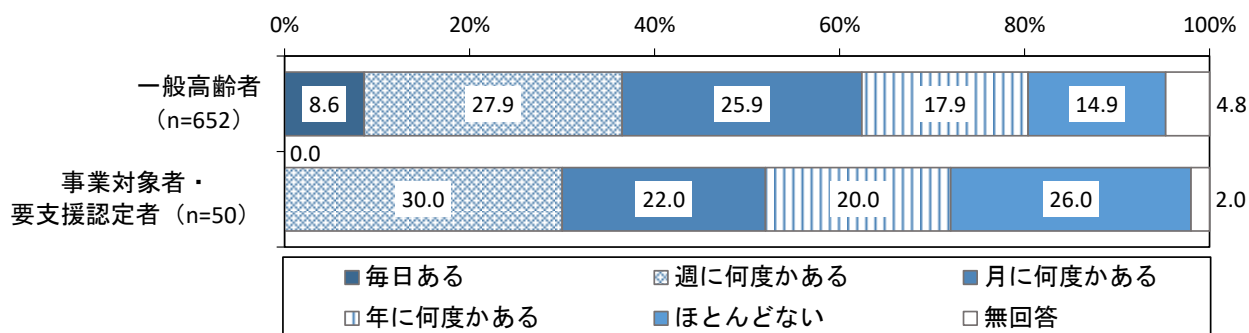
平成29年度調査と比較すると、『年に数回以下』（「年に何度かある」と「ほとんどない」の合計）(33.8%)では、平成29年度調査(29.4%)よりも4.4ポイント増加しています。

図表 3-7-11 友人・知人と会う頻度



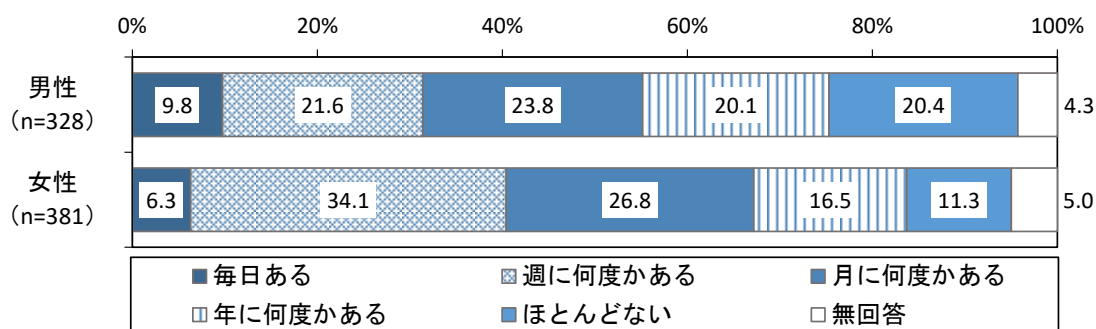
認定状況別でみると、『年に数回以下』では、一般高齢者が32.8%、事業対象者・要支援認定者が46.0%となっています。

図表 3-7-12 友人・知人と会う頻度 認定状況別



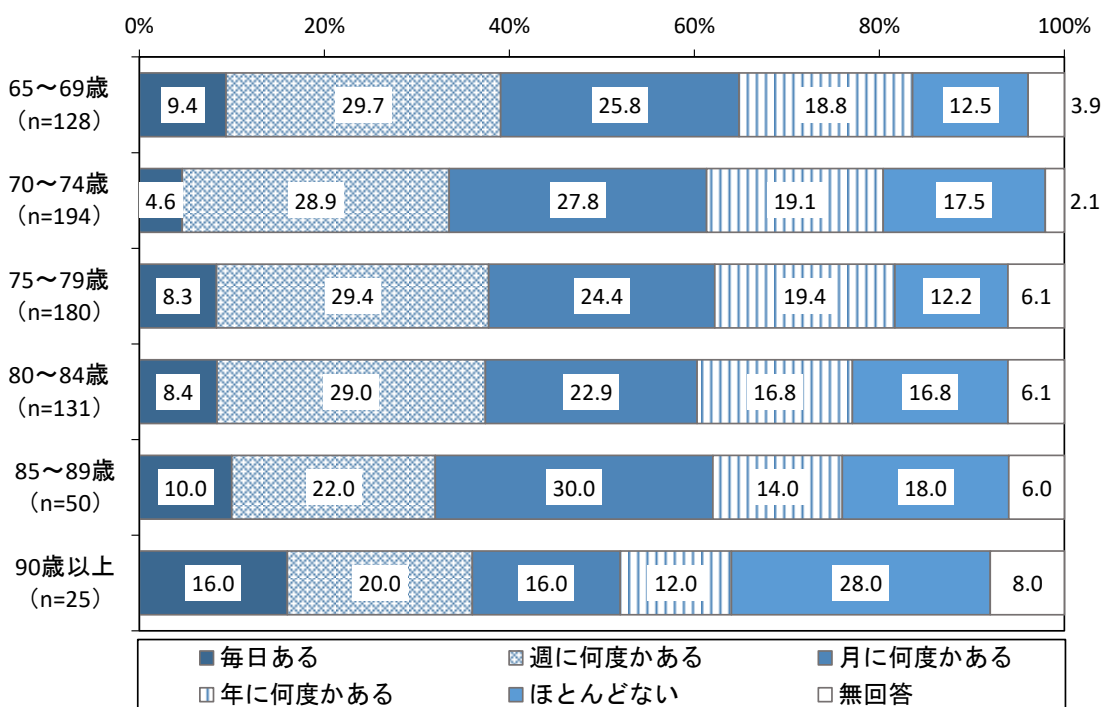
性別でみると、『年に数回以下』では、男性が40.5%で、女性（27.8%）よりも12.7ポイント高くなっています。

図表 3-7-13 友人・知人と会う頻度 性別



年齢別でみると、「ほとんどない」では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が28.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-14 友人・知人と会う頻度 年齢別



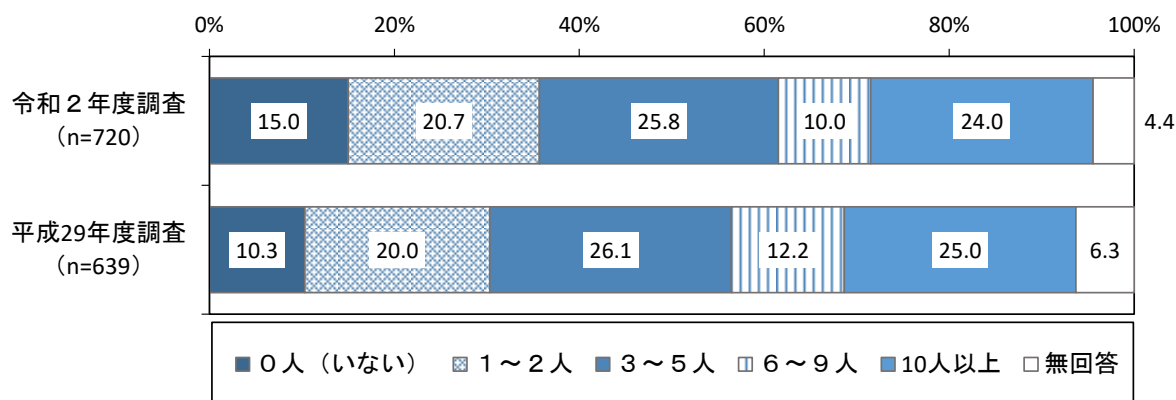
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会ったか

問6 (7)	この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします(1つに〇)
--------	--

この1か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が25.8%で最も高く、次いで「10人以上」が24.0%、「1～2人」が20.7%と続いています。

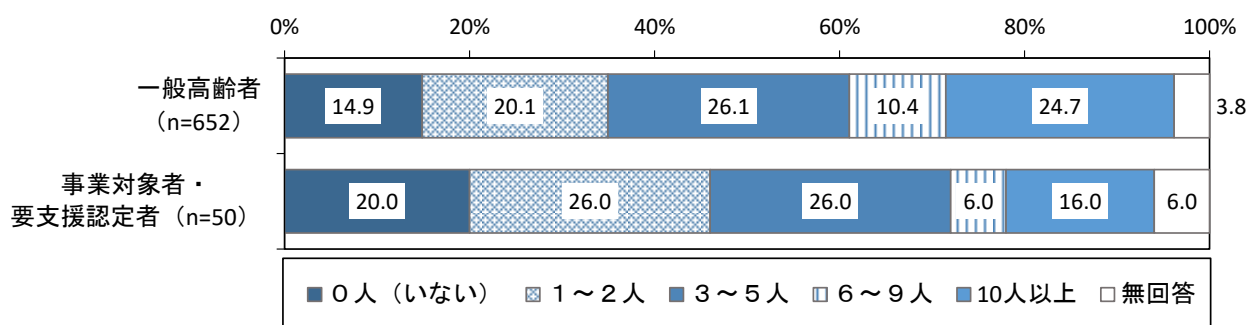
平成29年度調査と比較すると、「0人(いない)」(15.0%)では、平成29年度調査(10.3%)よりも4.7ポイント増加しています。

図表 3-7-15 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか



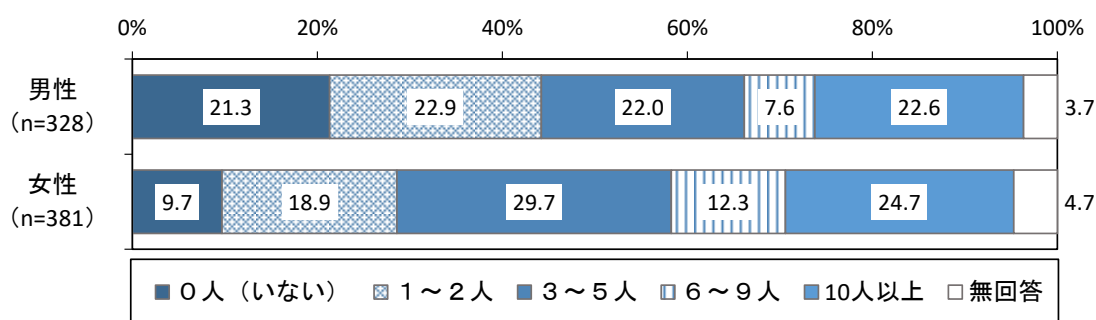
認定状況別でみると、「0人(いない)」では、一般高齢者が14.9%、事業対象者・要支援認定者が20.0%となっています。

図表 3-7-16 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 認定状況別



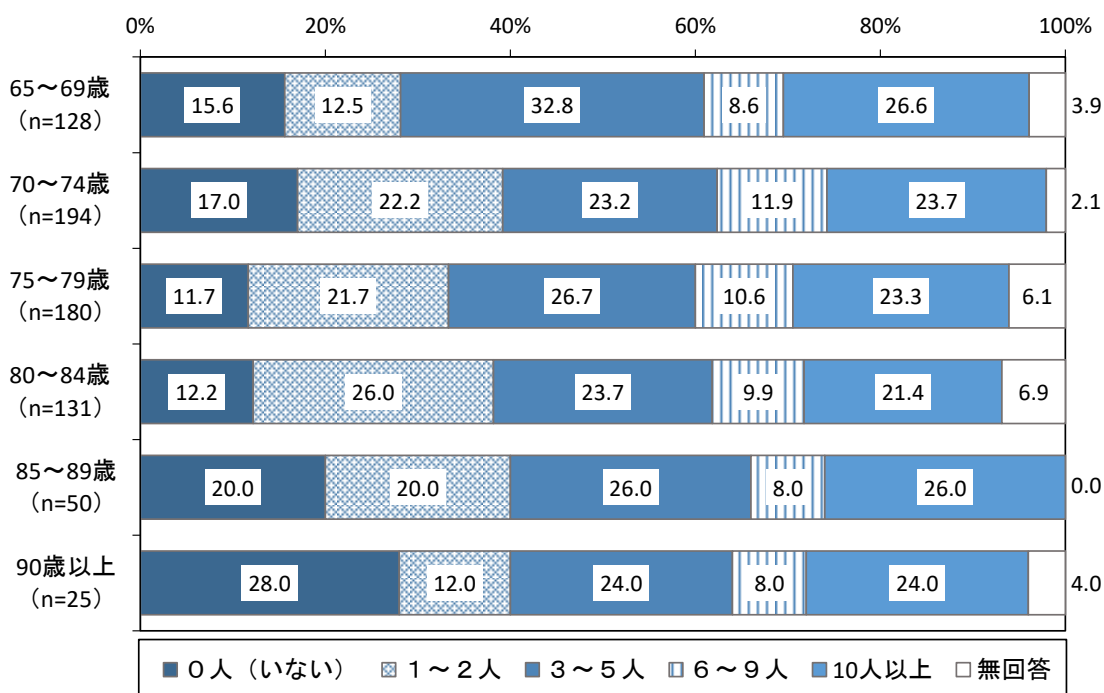
性別でみると、「0人（いない）」では、男性が21.3%で、女性（9.7%）よりも11.6ポイント高くなっています。

図表 3-7-17 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 性別



年齢別でみると、「0人（いない）」では、75歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなっており、90歳以上が28.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-18 この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 年齢別



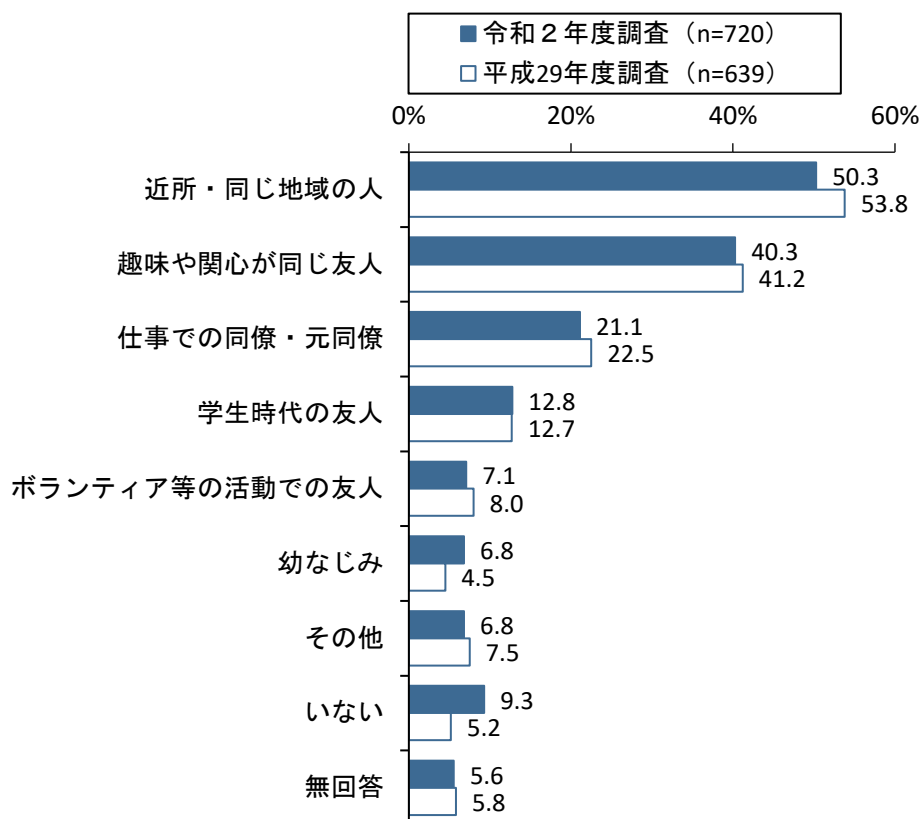
(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か

問6(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

よく会う友人・知人はどんな関係の人かについては、「近所・同じ地域の人」が50.3%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が40.3%、「仕事での同僚・元同僚」が21.1%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「いない」(9.3%)では、平成29年度調査(5.2%)よりも4.1ポイント増加しています。

図表 3-7-19 よく会う友人・知人はどんな関係の人か



認定状況別でみると、「近所・同じ地域の人」、「その他」、「いない」では、事業対象者・要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっています。

性別でみると、男性では「趣味や関心が同じ友人」が39.0%で最も高く、女性では「近所・同じ地域の人」が61.4%で最も高くなっています。

年齢別でみると、「いない」では、85～89歳、90歳以上がいずれも12.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-20 よく会う友人・知人はどんな関係の人か 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	近所・同じ地域の人	趣味や関心が同じ友人	仕事での同僚・元同僚	学生時代の友人	ボランティア等の活動での友人	幼なじみ	その他	いない	無回答
全体		720	50.3	40.3	21.1	12.8	7.1	6.8	6.8	9.3	5.6
平成29年度調査		639	53.8	41.2	22.5	12.7	8.0	4.5	7.5	5.2	5.8
認定別	一般高齢者	652	49.5	41.6	22.1	13.7	7.4	6.9	6.1	9.4	4.9
	事業対象者・要支援認定者	50	54.0	24.0	10.0	2.0	2.0	6.0	14.0	12.0	10.0
性別	男性	328	36.9	39.0	28.7	13.7	5.8	8.2	5.2	13.7	5.2
	女性	381	61.4	41.7	14.7	11.8	7.9	5.5	7.9	5.5	5.8
年齢別	65～69歳	128	40.6	38.3	30.5	19.5	4.7	8.6	9.4	9.4	2.3
	70～74歳	194	49.0	40.2	26.8	14.4	5.7	7.7	5.2	10.8	2.6
	75～79歳	180	57.8	42.8	18.9	9.4	8.9	5.6	7.8	7.2	7.2
	80～84歳	131	54.2	40.5	12.2	12.2	10.7	7.6	4.6	8.4	7.6
	85～89歳	50	50.0	48.0	14.0	8.0	2.0	4.0	6.0	12.0	4.0
	90歳以上	25	32.0	20.0	8.0	0.0	0.0	0.0	12.0	12.0	24.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

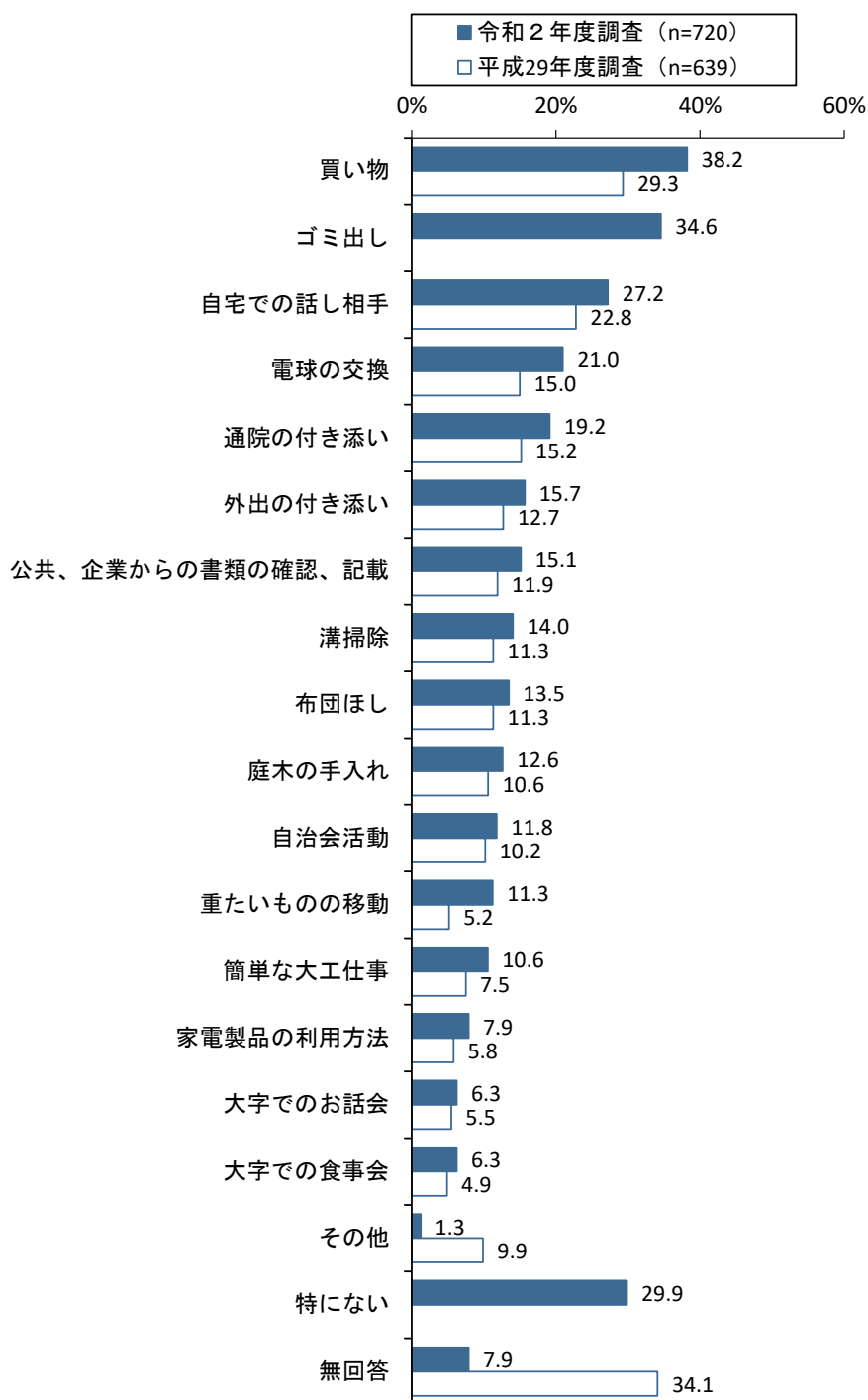
(9) お手伝いできること

問6(9) あなたが、お手伝いできることはありますか(いくつでも)

お手伝いできることについては、「買い物」が38.2%で最も高く、次いで「ゴミ出し」が34.6%、「特にない」が29.9%と続いています。

平成29年度調査とは選択肢が異なるので一概には比較できませんが、参考としてみると、比較できる項目では、「その他」を除く全ての項目で平成29年度調査よりも割合が増加しています。

図表 3-7-21 お手伝いできること



※「ゴミ出し」、「特にない」は令和2年度のみを選択肢

認定状況別でみると、一般高齢者では「買い物」が40.6%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「特にない」が50.0%で最も高くなっています。

性別でみると、男性では「ゴミ出し」が42.4%で最も高く、女性では「買い物」が36.2%で最も高くなっています。

年齢別でみると、65～84歳では「買い物」の割合が最も高く、85歳以上では「特にない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-22 お手伝いできること 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	買い物	ゴミ出し	自宅での話し相手	電球の交換	通院の付き添い	外出の付き添い	公共、企業からの書類の確認、記載	溝掃除	布団ほし	庭木の手入れ
全体		720	38.2	34.6	27.2	21.0	19.2	15.7	15.1	14.0	13.5	12.6
認定別	一般高齢者	652	40.6	36.3	27.5	22.5	20.1	16.6	16.3	14.9	14.3	13.0
	事業対象者・要支援認定者	50	8.0	10.0	26.0	6.0	10.0	6.0	4.0	6.0	2.0	8.0
性別	男性	328	40.5	42.4	18.9	41.2	21.0	18.3	25.6	19.8	19.2	22.3
	女性	381	36.2	27.6	34.6	3.9	17.6	13.4	6.0	8.9	8.4	4.2
年齢別	65～69歳	128	52.3	43.8	31.3	25.0	28.9	28.9	18.8	19.5	18.0	10.2
	70～74歳	194	42.3	38.1	30.4	23.2	23.2	18.6	17.0	16.5	15.5	11.9
	75～79歳	180	39.4	36.7	25.0	25.0	17.2	13.9	13.9	16.1	15.6	18.9
	80～84歳	131	30.5	26.0	24.4	19.1	14.5	7.6	14.5	7.6	8.4	10.7
	85～89歳	50	20.0	22.0	30.0	4.0	6.0	4.0	12.0	6.0	6.0	10.0
	90歳以上	25	8.0	16.0	16.0	8.0	8.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0

		合計	自治会活動	重たいものの移動	簡単な大工仕事	家電製品の利用方法	大字でのお話会	大字での食事会	その他	特にない	無回答
全体		720	11.8	11.3	10.6	7.9	6.3	6.3	1.3	29.9	7.9
認定別	一般高齢者	652	12.7	12.1	11.2	8.7	6.4	6.7	1.4	28.5	7.5
	事業対象者・要支援認定者	50	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	50.0	10.0
性別	男性	328	14.6	22.6	21.6	15.5	5.8	7.0	1.5	26.5	6.7
	女性	381	9.7	1.6	1.0	1.3	6.6	5.5	1.0	32.5	8.9
年齢別	65～69歳	128	16.4	14.1	12.5	12.5	7.8	9.4	0.8	24.2	4.7
	70～74歳	194	16.5	12.9	14.4	9.3	9.3	8.2	1.0	28.4	5.2
	75～79歳	180	11.1	14.4	11.7	8.9	6.1	6.1	1.7	26.1	10.6
	80～84歳	131	7.6	8.4	6.1	4.6	3.1	3.8	2.3	28.2	13.0
	85～89歳	50	2.0	2.0	6.0	2.0	2.0	0.0	0.0	52.0	2.0
	90歳以上	25	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0	8.0

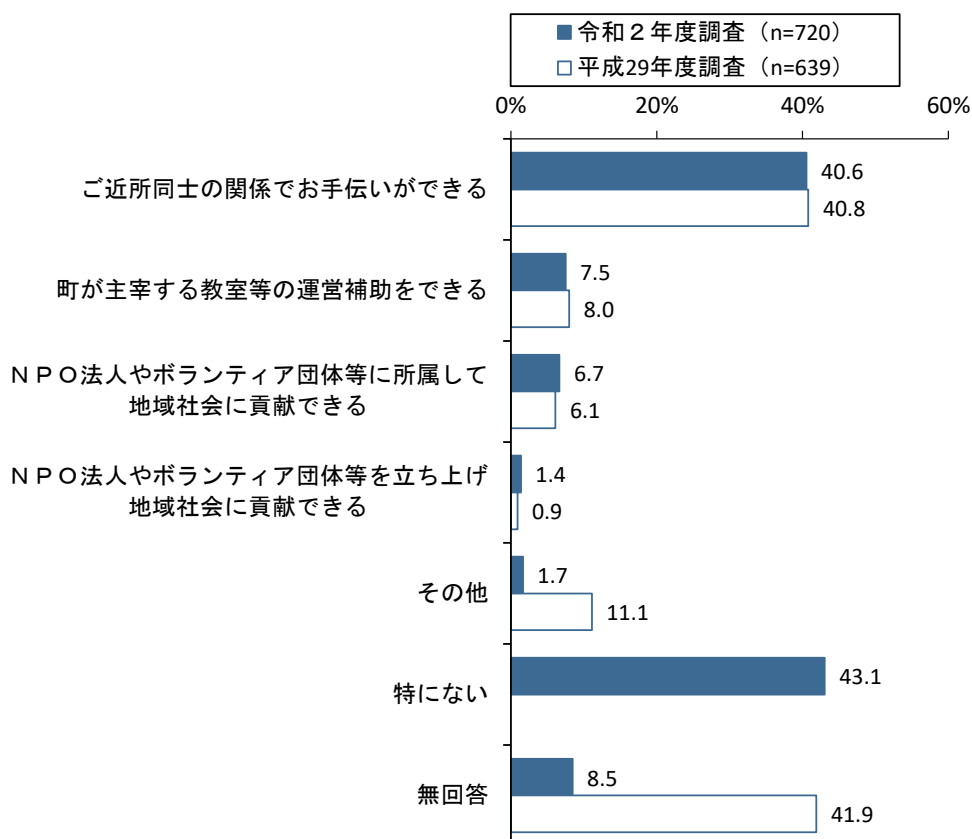
※網掛け■は最も割合が高いもの

(10) 地域社会でできること

問6 (10)	地域社会でのお手伝いに参加するとしたら、どういうことができると思いますか (いくつでも)
---------	---

地域社会でのお手伝いに参加するとしたら、どういうことができると思うかについては、「特
にない」が43.1%で最も高く、次いで「ご近所同士の関係でお手伝いができる」が40.6%、「町
が主宰する教室等の運営補助をできる」が7.5%と続いています。

図表 3-7-23 地域社会でできること



※「特にない」は令和2年度のみを選択肢

認定状況別でみると、一般高齢者では「ご近所同士の関係でお手伝いができる」が42.5%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「特にない」が56.0%で最も高くなっています。

性別でみると、男性、女性いずれも「特にない」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、65～79歳では「ご近所同士の関係でお手伝いができる」の割合が最も高く、80歳以上では「特にない」の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-24 地域社会でできること 属性性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	い が で き る	補 助 が 主 宰 す る の 運 営	に 団 体 等 に 所 属 し て 地 域 社 会	に 団 体 等 を 立 ち 上 げ 地 域 社 会	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全体	720	40.6	7.5	6.7	1.4	1.7	43.1	8.5	
認 定 別	一般高齢者	652	42.5	8.1	6.9	1.4	1.4	41.7	7.7
	事業対象者・要支援認定者	50	20.0	0.0	4.0	0.0	6.0	56.0	16.0
性 別	男性	328	39.9	9.1	9.1	1.8	1.8	43.0	6.7
	女性	381	41.5	6.0	4.5	0.8	1.6	42.5	10.0
年 齢 別	65～69歳	128	47.7	18.0	14.1	2.3	0.8	33.6	5.5
	70～74歳	194	43.8	10.8	8.8	2.1	1.0	40.7	3.1
	75～79歳	180	45.6	3.9	1.7	0.6	1.7	38.3	12.8
	80～84歳	131	35.1	0.8	6.1	0.8	1.5	47.3	13.0
	85～89歳	50	28.0	2.0	2.0	0.0	4.0	60.0	8.0
90歳以上	25	4.0	0.0	0.0	0.0	8.0	80.0	8.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

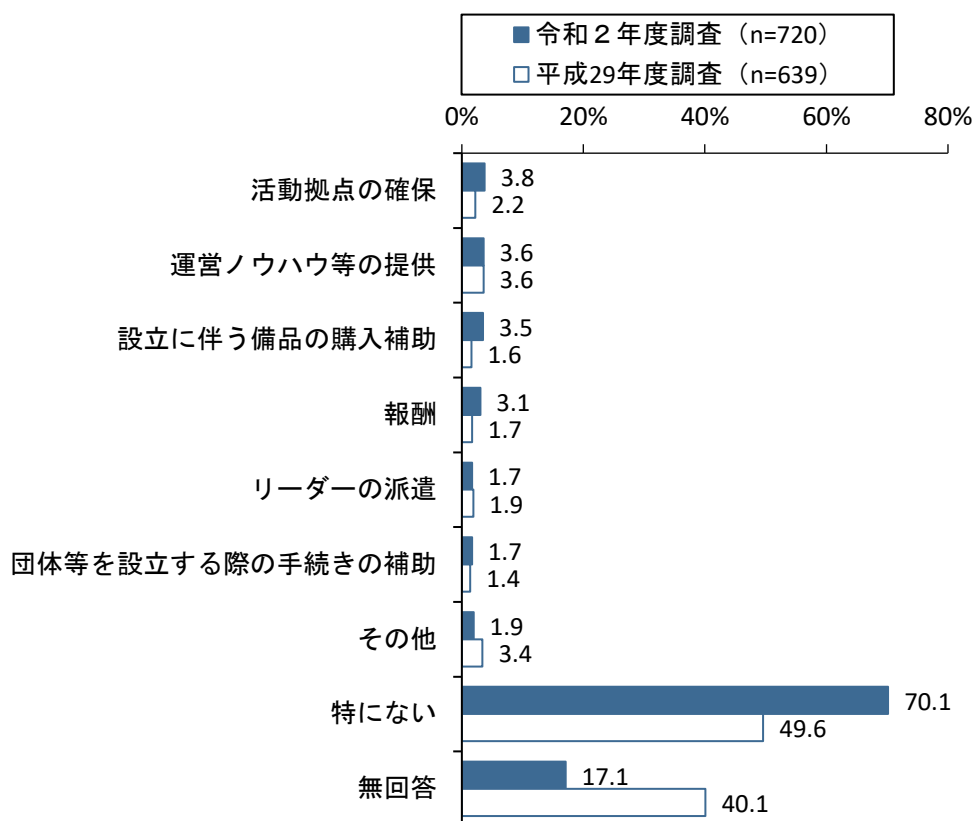
(11) お手伝いをする際の条件

問6 (11) あなたがお手伝いをする際の条件等がありますか (いくつでも)

お手伝いをする際の条件については、「特にない」が70.1%で最も高く、次いで「活動拠点の確保」が3.8%、「運営ノウハウ等の提供」が3.6%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「特にない」(70.1%)では、平成29年度調査(49.6%)よりも20.5ポイント高くなっています。

図表 3-7-25 お手伝いをする際の条件



認定状況別で見ると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「特にない」の割合が最も高くなっています。

性別で見ると、全ての項目で男性の割合が女性よりも高くなっています。

年齢別で見ると、「その他」を除く全ての項目で65～69歳の割合が最も高くなっています。

図表 3-7-26 お手伝いをする際の条件 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	活動拠点の確保	運営ノウハウ等の提供	設立に伴う備品の購入補助	報酬	リーダーの派遣	団体等を設立する際の手続きの補助	その他	特にない	無回答
全体		720	3.8	3.6	3.5	3.1	1.7	1.7	1.9	70.1	17.1
平成29年度調査		639	2.2	3.6	1.6	1.7	1.9	1.4	3.4	49.6	40.1
認定別	一般高齢者	652	4.0	4.0	3.7	3.2	1.8	1.8	1.7	70.7	16.0
	事業対象者・要支援認定者	50	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	4.0	72.0	22.0
性別	男性	328	4.3	5.5	4.6	4.3	1.8	2.7	2.4	72.6	11.6
	女性	381	3.4	2.1	2.6	1.8	1.6	0.8	1.3	68.5	21.5
年齢別	65～69歳	128	7.8	9.4	6.3	5.5	4.7	3.9	3.1	66.4	10.9
	70～74歳	194	5.7	3.6	4.1	3.6	1.0	0.5	2.1	74.7	10.8
	75～79歳	180	2.8	2.8	3.9	3.3	1.7	0.6	0.6	68.9	20.0
	80～84歳	131	0.0	1.5	1.5	0.8	0.8	3.8	2.3	68.7	22.1
	85～89歳	50	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	72.0	26.0
	90歳以上	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	24.0

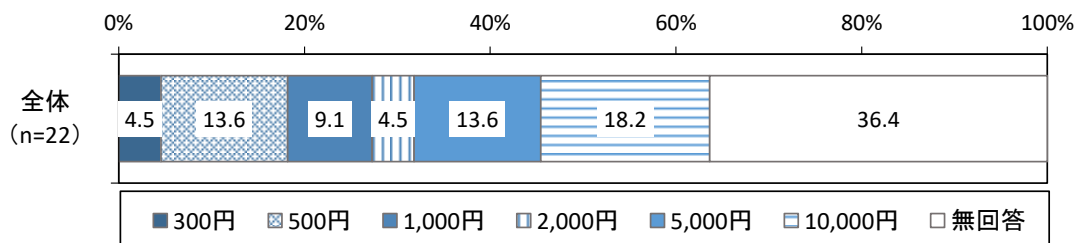
※網掛け■は最も割合が高いもの

(12) お手伝いの妥当な報酬額

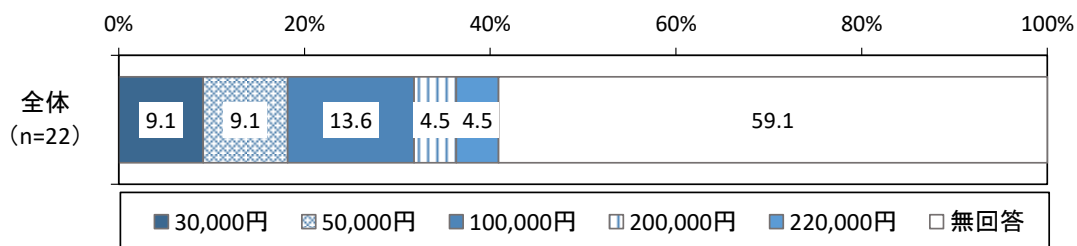
問6 (11)	【問6 (11) において「報酬」と答えた方のみ】
①	①「報酬」はどの程度が妥当だと考えますか（数値を記入）

お手伝いに関する妥当な報酬額について、1回あたりの金額では「10,000円」が18.2%で最も高く、1か月あたりの金額では「100,000円」が13.6%で最も高くなっています。

図表 3-7-27 お手伝いの妥当な報酬額 1回あたりの金額



図表 3-7-28 お手伝いの妥当な報酬額 1か月あたりの金額



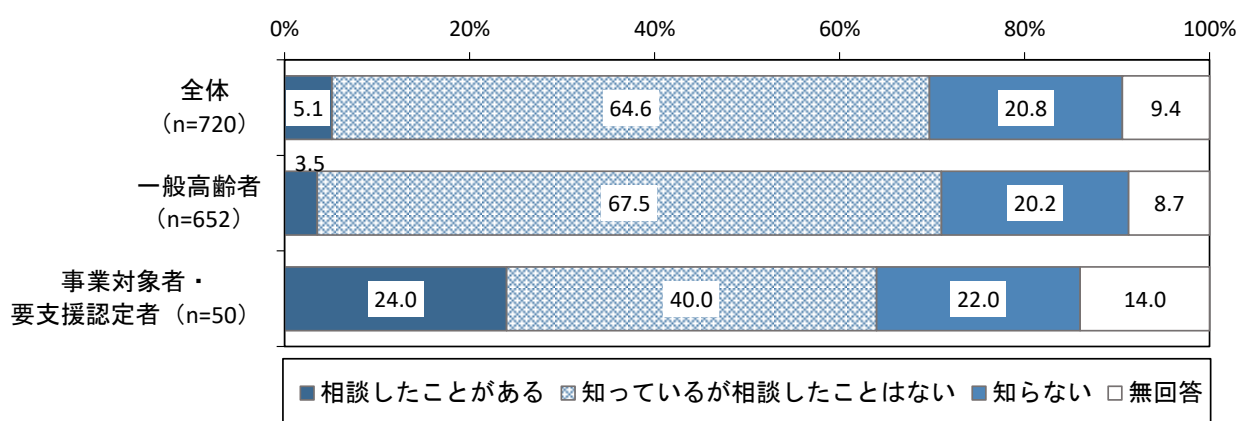
(13) 社会福祉協議会を知っているか

問6 (12) 地域活動の相談窓口である社会福祉協議会はご存じですか (1つに○)

社会福祉協議会を知っているかについては、「知っているが相談したことはない」が64.6%で最も高く、次いで「知らない」が20.8%、「相談したことがある」が5.1%となっており、認知度（「相談したことがある」と「知っているが相談したことはない」の合計）は69.7%となっています。

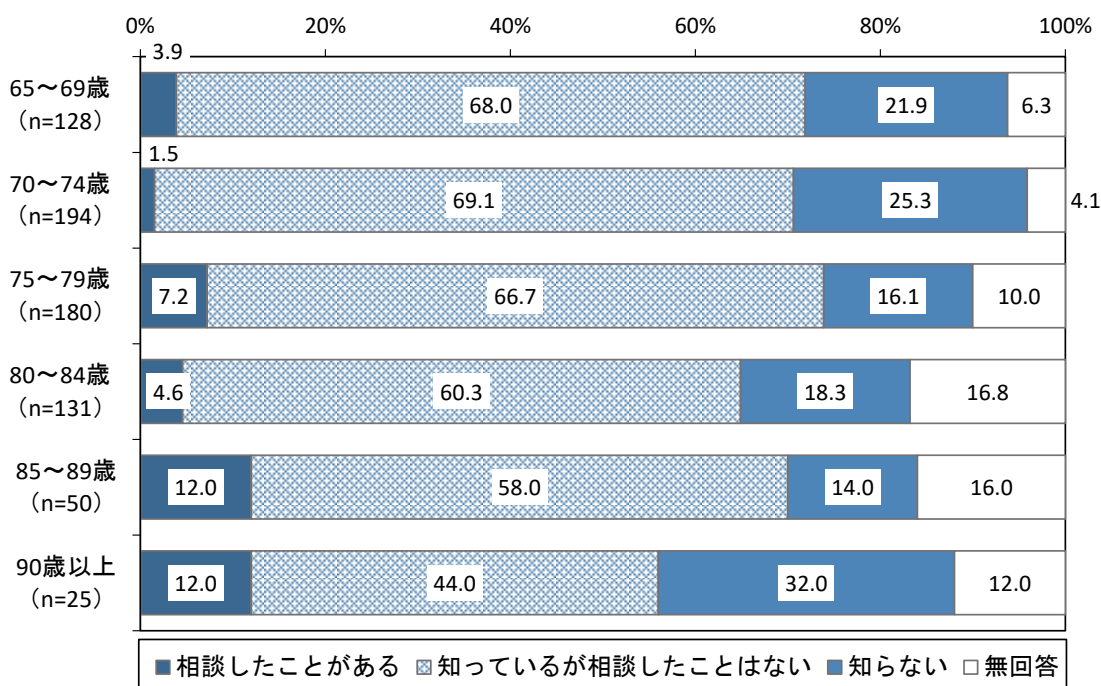
認定状況別でみると、認知度では、一般高齢者が71.0%、事業対象者・要支援認定者が64.0%となっています。

図表 3-7-29 社会福祉協議会を知っているか



年齢別でみると、認知度では、75～79歳が73.9%で最も高く、「知らない」では、90歳以上が32.0%で最も高くなっています。

図表 3-7-30 社会福祉協議会を知っているか 年齢別



8. 健康について

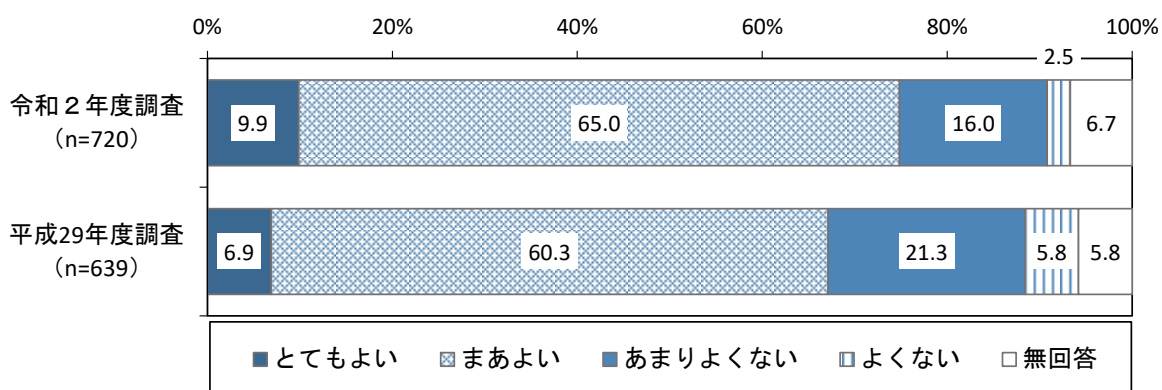
(1) 現在の健康状態

問7(1)	現在のあなたの健康状態はいかがですか(1つに〇)
-------	--------------------------

現在の健康状態については、「まあよい」が65.0%で最も高く、次いで「あまりよくない」が16.0%、「とてもよい」が9.9%と続いています。

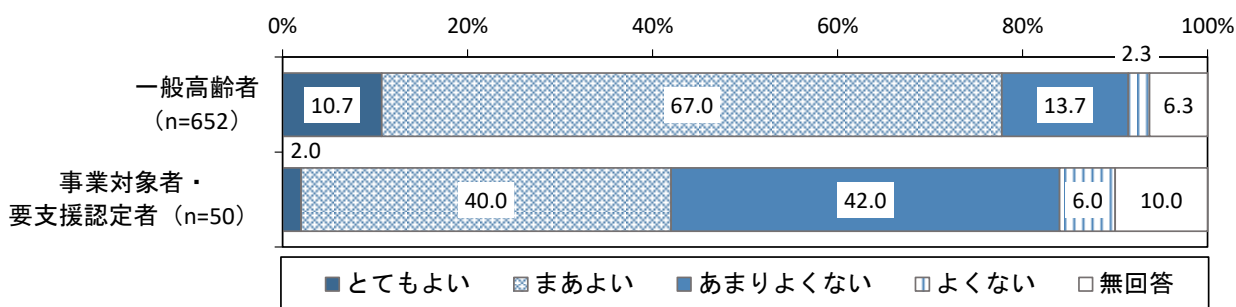
平成29年度調査と比較すると、『よい』(「とてもよい」と「まあよい」の合計)(74.9%)が平成29年度調査(67.2%)よりも7.7ポイント高くなっています。

図表 3-8-1 現在の健康状態



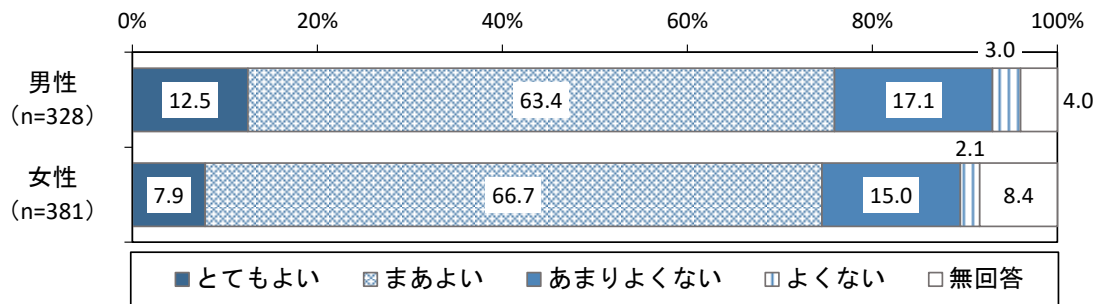
認定状況別にみると、一般高齢者では「まあよい」が67.0%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「あまりよくない」が42.0%で最も高くなっています。

図表 3-8-2 現在の健康状態 認定状況別



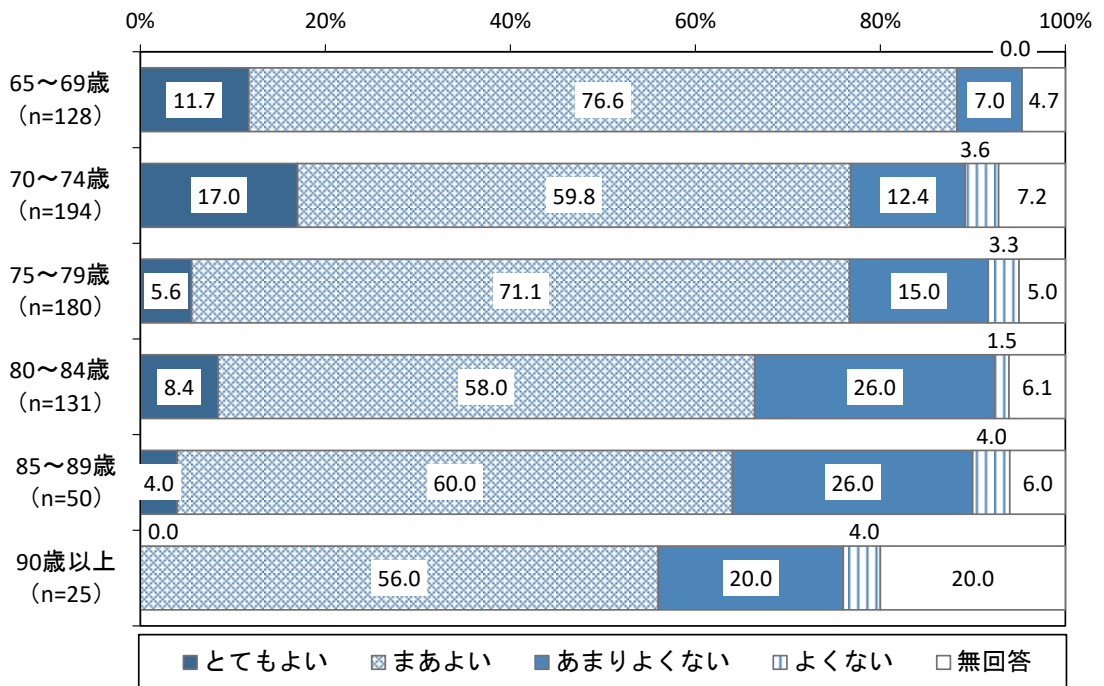
性別でみると、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）では、男性が20.1%で、女性（17.1%）よりも3.0ポイント高くなっています。

図表 3-8-3 現在の健康状態 性別



年齢別でみると、『よい』では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が88.3%で最も高くなっています。

図表 3-8-4 現在の健康状態 年齢別



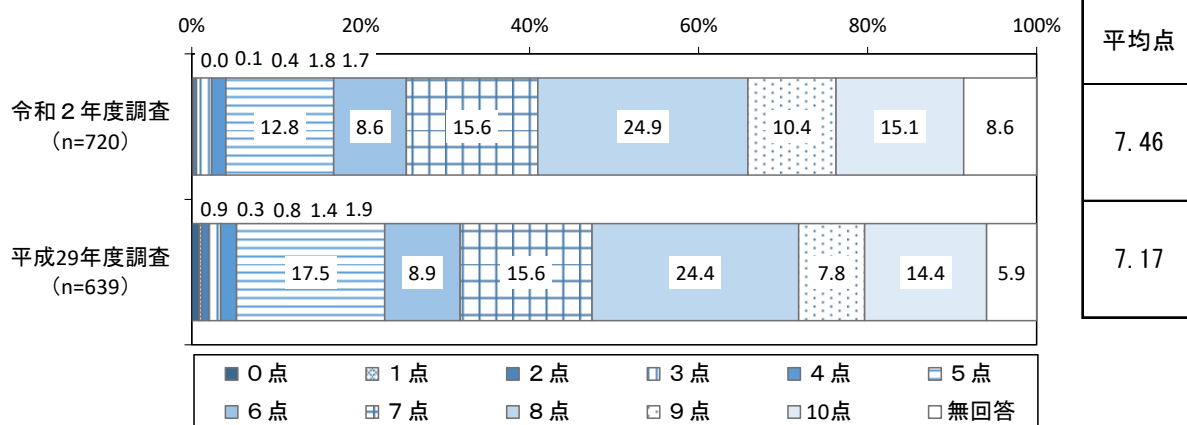
(2) 現在どの程度幸せか

問7(2)	あなたは、現在どの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)
-------	---

現在どの程度幸せかについては、「8点」が24.9%で最も高く、次いで「7点」が15.6%、「10点」が15.1%と続いており、平均点は7.46点となっています。

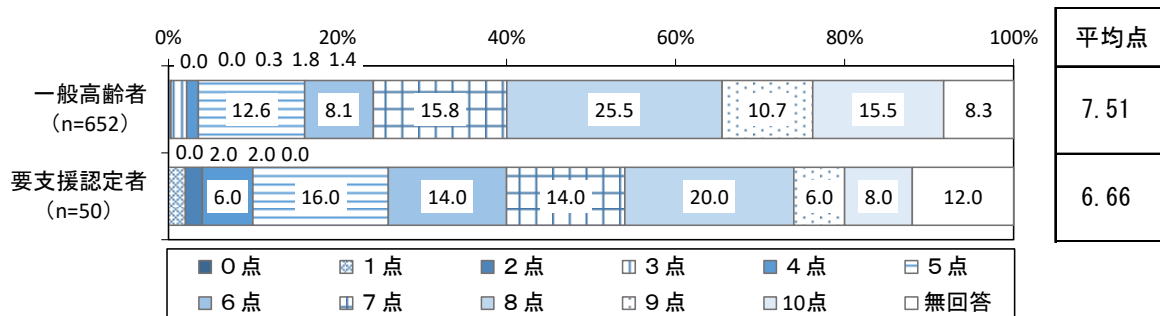
平成29年度調査と比較すると、平均点(7.46点)では、平成29年度調査(7.17点)よりも0.29点上昇しています。

図表 3-8-5 現在どの程度幸せか



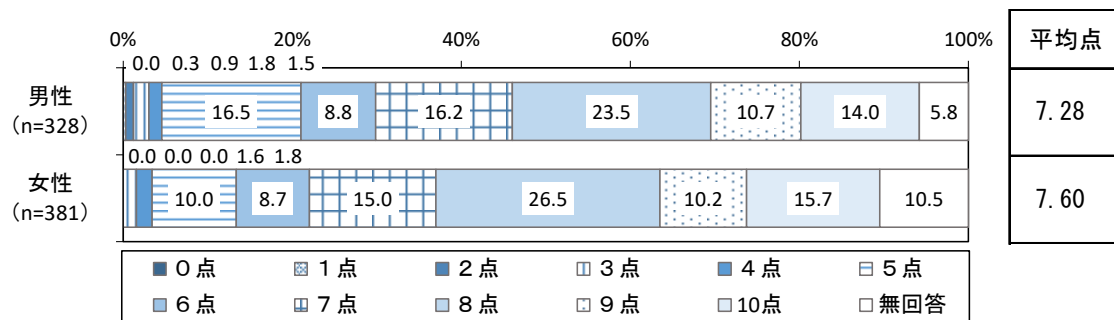
認定状況別でみると、平均点では、一般高齢者が7.51点、事業対象者・要支援認定者が6.66点となっています。

図表 3-8-6 現在どの程度幸せか 認定状況別



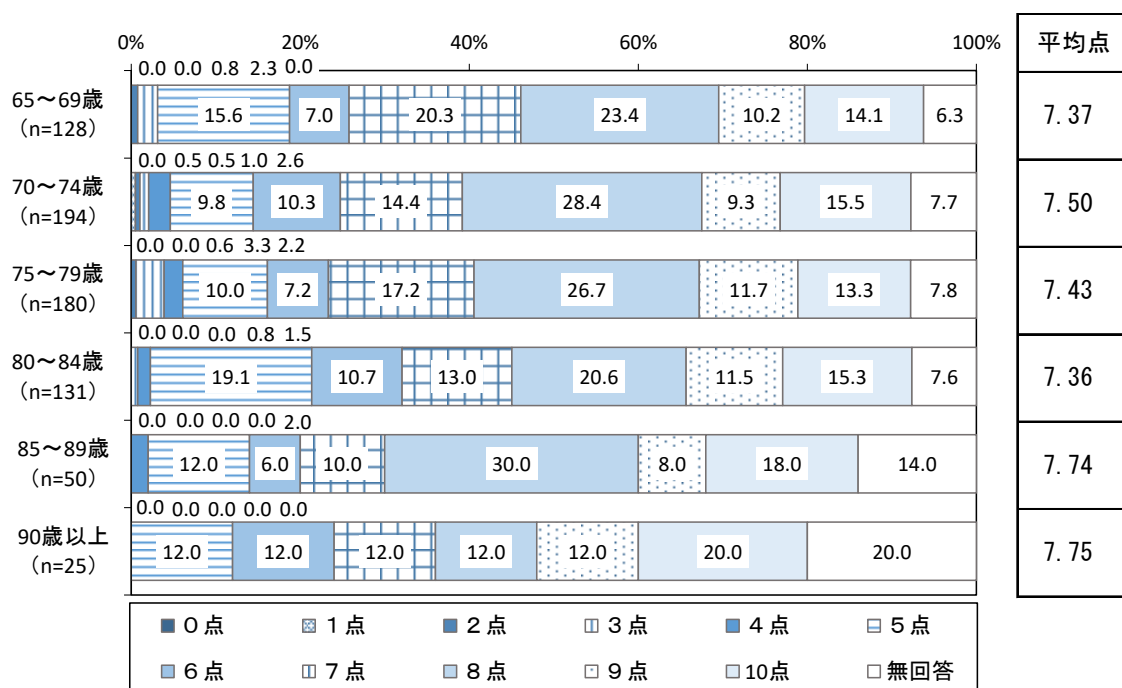
性別でみると、平均点では、男性が7.28点、女性が7.60点となっています。

図表 3-8-7 現在どの程度幸せか 性別



年齢別でみると、平均点では、90歳以上が7.75点で最も高くなっています。

図表 3-8-8 現在どの程度幸せか 年齢別



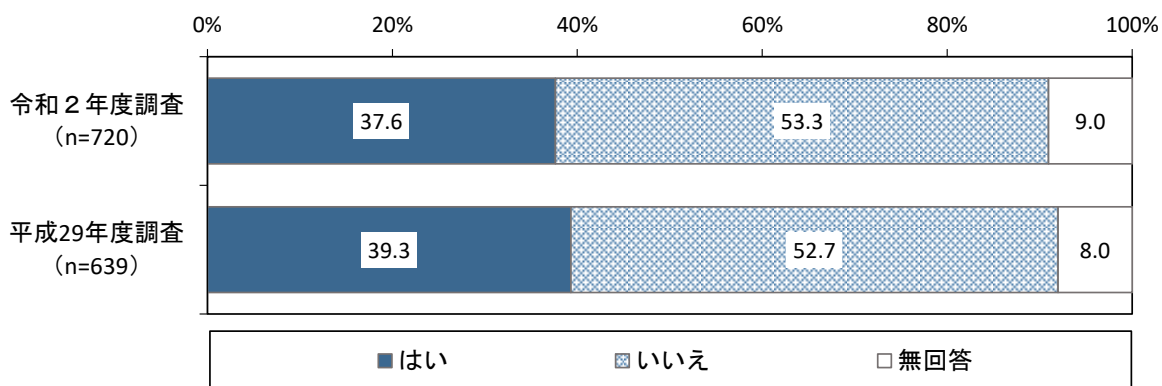
(3) 直近1か月間で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあったか

問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(1つに〇)
-------	---

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が37.6%、「いいえ」が53.3%となっています。

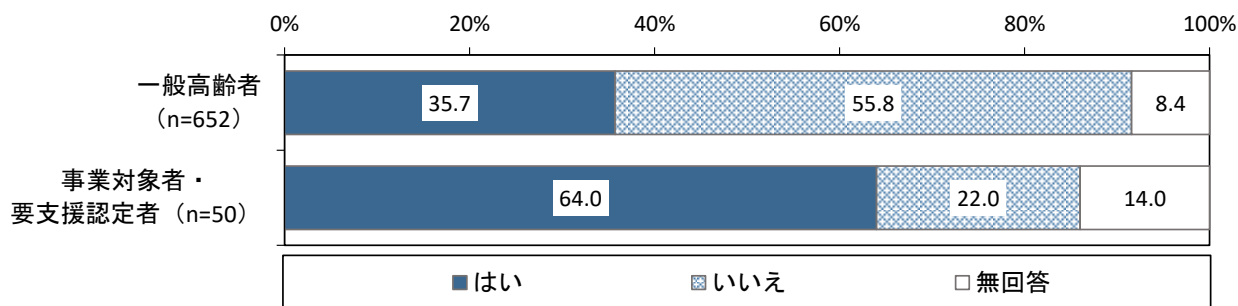
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-9 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が35.7%、事業対象者・要支援認定者が64.0%となっています。

図表 3-8-10 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか
認定状況別



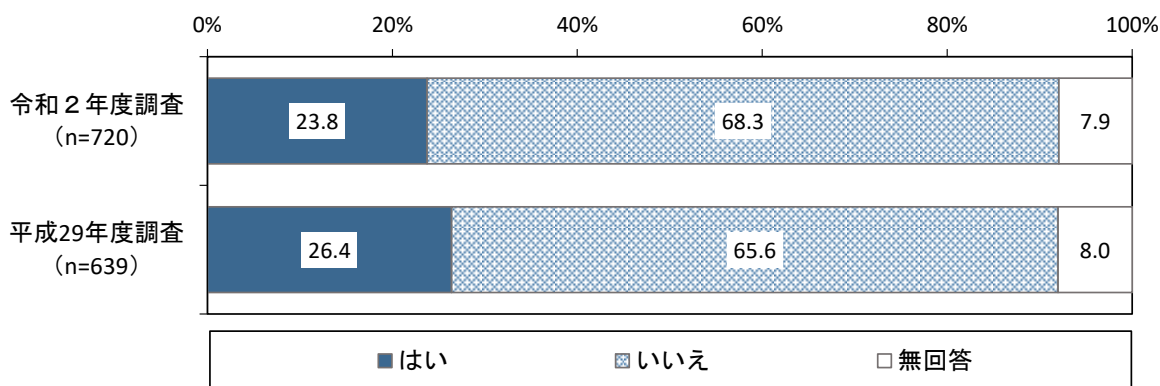
(4) 直近1か月間、物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがあったか

問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(1つに○)
-------	---

この1か月間、物事に興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が23.8%、「いいえ」が68.3%となっています。

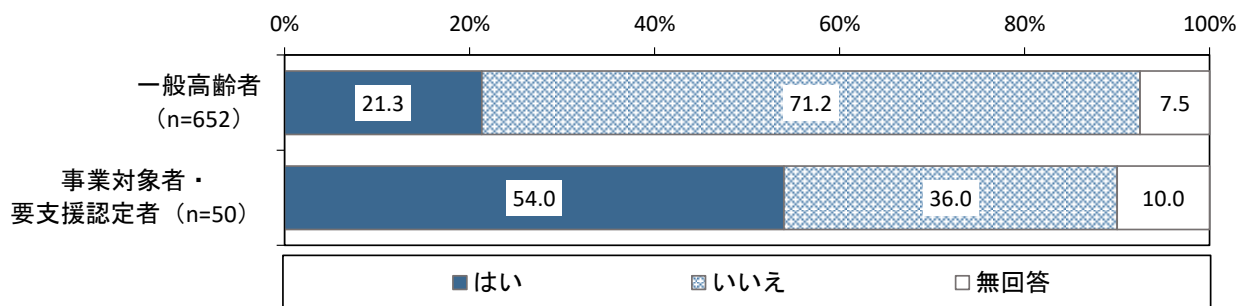
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-11 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか



認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が21.3%、事業対象者・要支援認定者が54.0%となっています。

図表 3-8-12 この1か月間物事に興味がわかない心から楽しめない感じがよくあったか
認定状況別



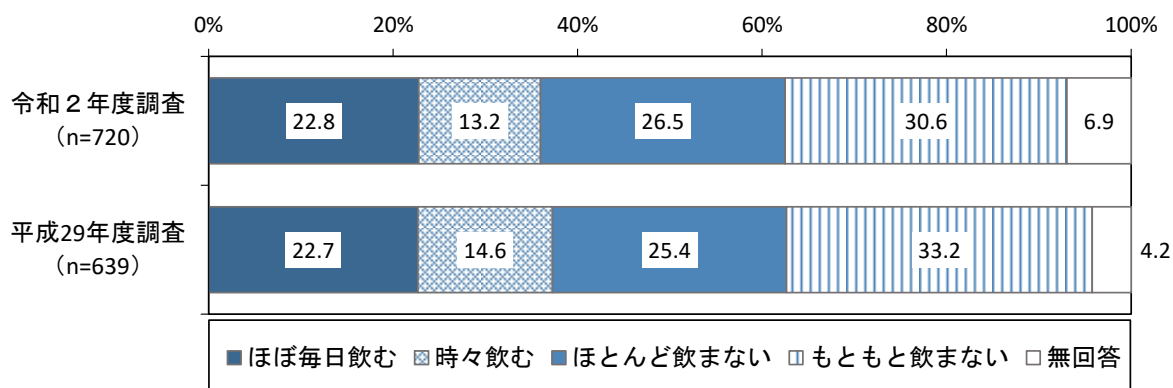
(5) お酒を飲んでいるか

問7(5) お酒は飲みますか(1つに○)

お酒を飲んでいるかについては、「もともと飲まない」が30.6%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が26.5%、「ほぼ毎日飲む」が22.8%と続いており、飲酒率(「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」の合計)は36.0%となっています。

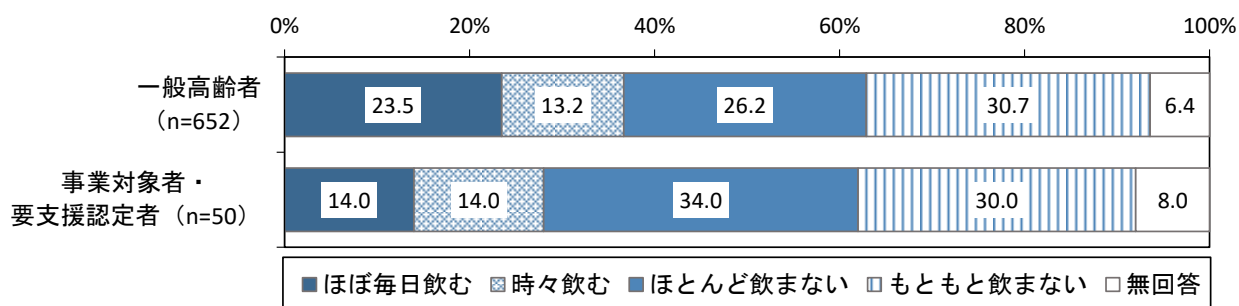
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-13 お酒を飲んでいるか



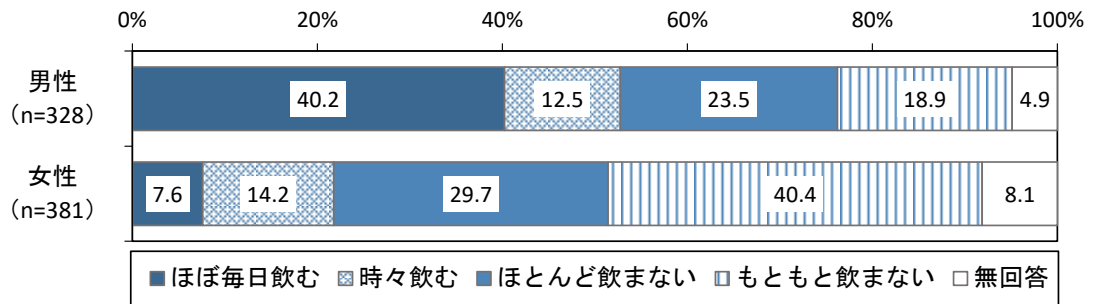
認定状況別でみると、飲酒率では、一般高齢者が36.7%、事業対象者・要支援認定者が28.0%となっています。

図表 3-8-14 お酒を飲んでいるか 認定状況別



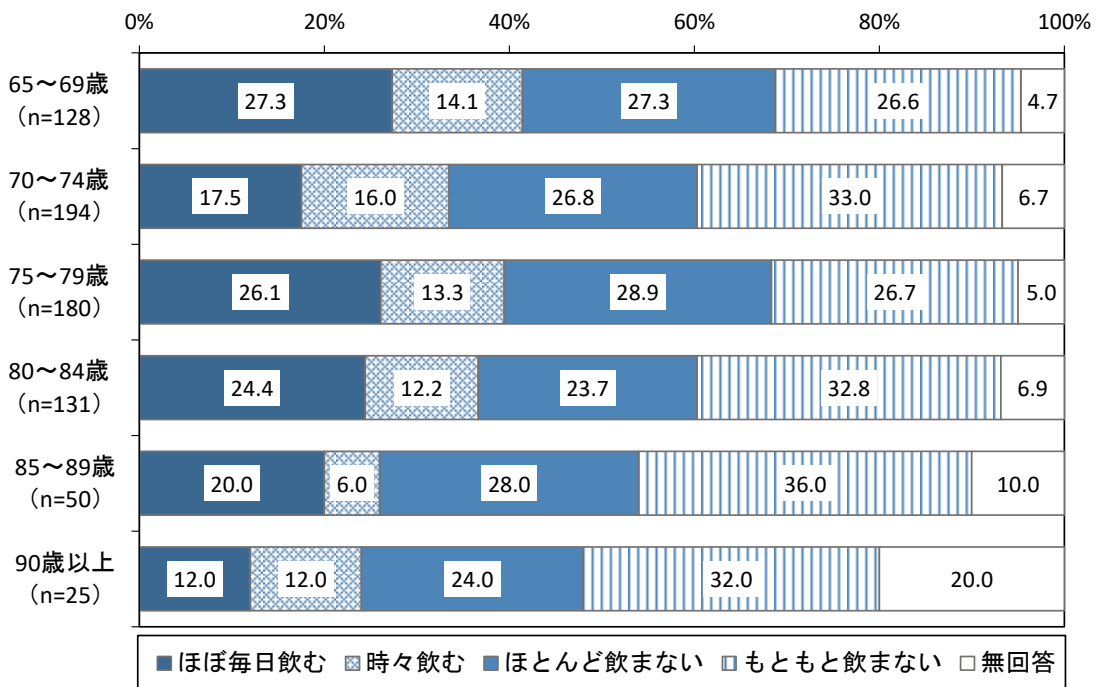
性別でみると、飲酒率では、男性が52.7%、女性が21.8%となっています。

図表 3-8-15 お酒を飲んでいるか 性別



年齢別でみると、飲酒率では、65～69歳が41.4%で最も高くなっています。

図表 3-8-16 お酒を飲んでいるか 年齢別



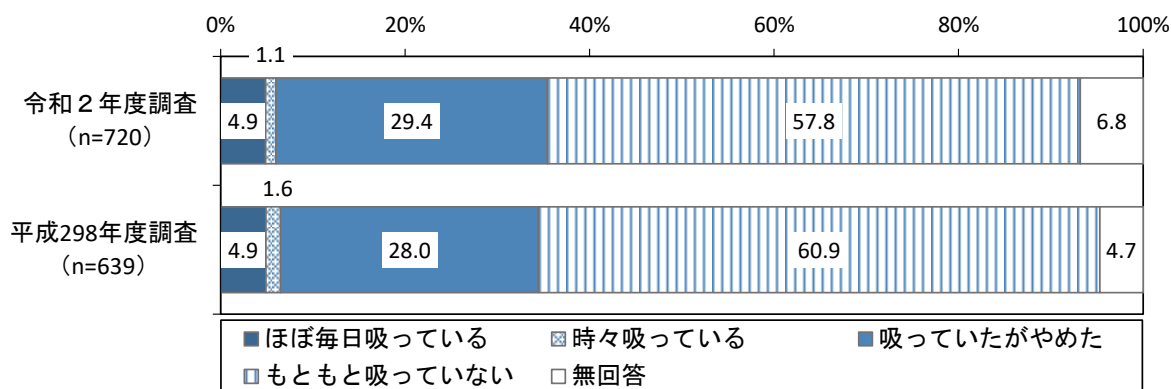
(6) タバコは吸っているか

問7(6) タバコは吸っていますか(1つに〇)

タバコは吸っているかについては、「もともと吸っていない」が57.8%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が29.4%、「ほぼ毎日吸っている」が4.9%と続いており、喫煙率(「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」の合計)は6.0%となっています。

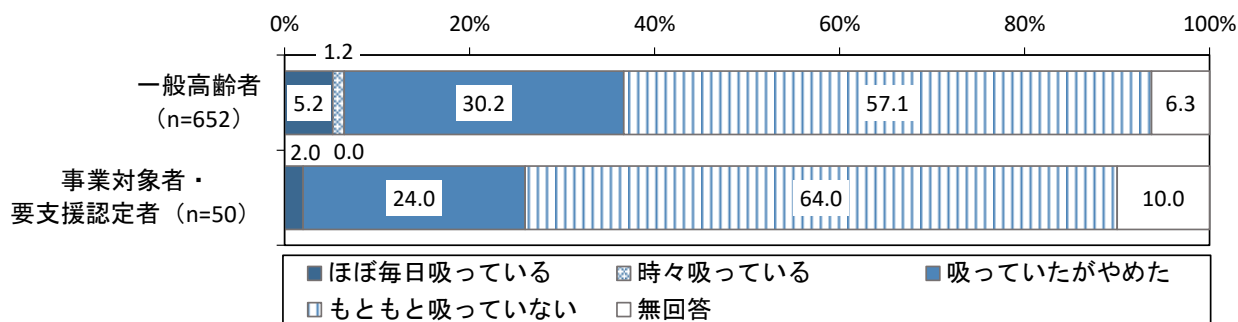
平成29年度調査と比較すると、「もともと吸っていない」(57.8%)が平成29年度調査(60.9%)よりも3.1ポイント減少しています。

図表 3-8-17 タバコは吸っているか



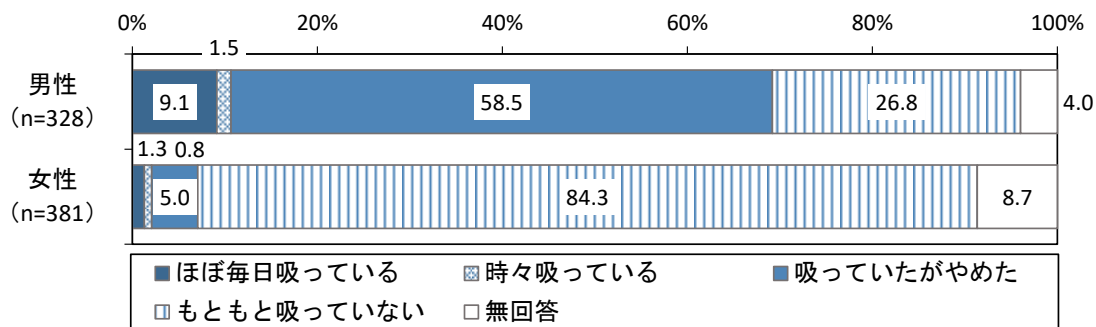
認定状況別でみると、喫煙率では、一般高齢者が6.4%、事業対象者・要支援認定者が2.0%となっています。

図表 3-8-18 タバコは吸っているか 認定状況別



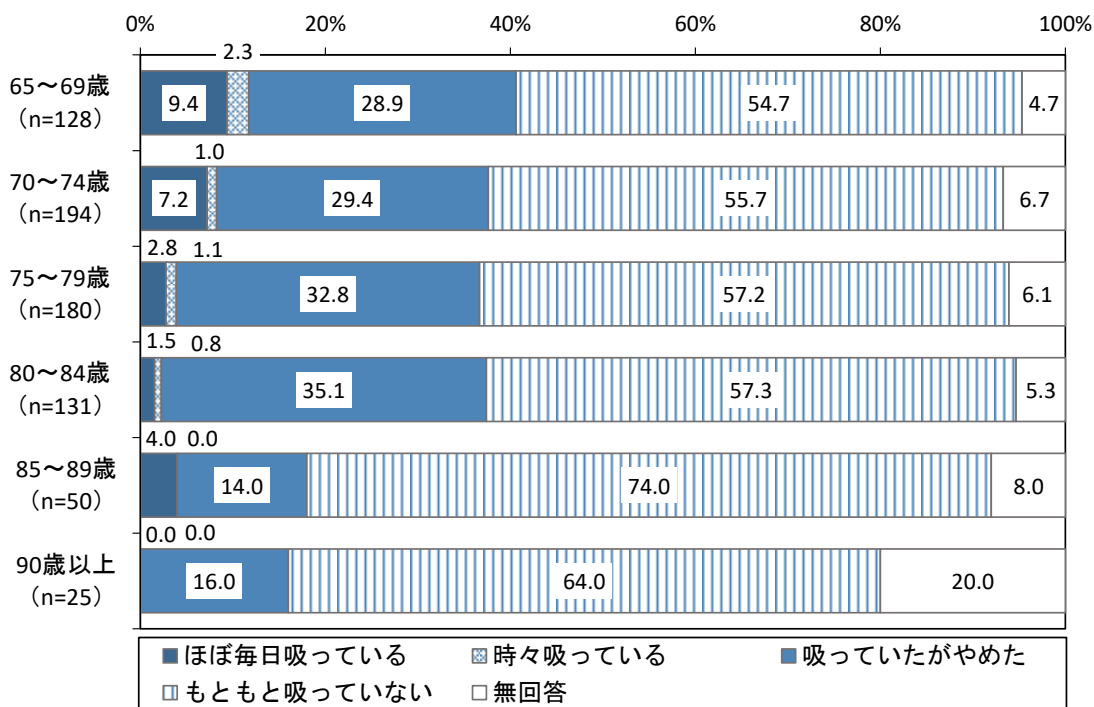
性別でみると、喫煙率では、男性が10.6%、女性が2.1%となっています。

図表 3-8-19 タバコは吸っているか 性別



年齢別でみると、喫煙率では、65～69歳が11.7%で最も高くなっています。

図表 3-8-20 タバコは吸っているか 年齢別



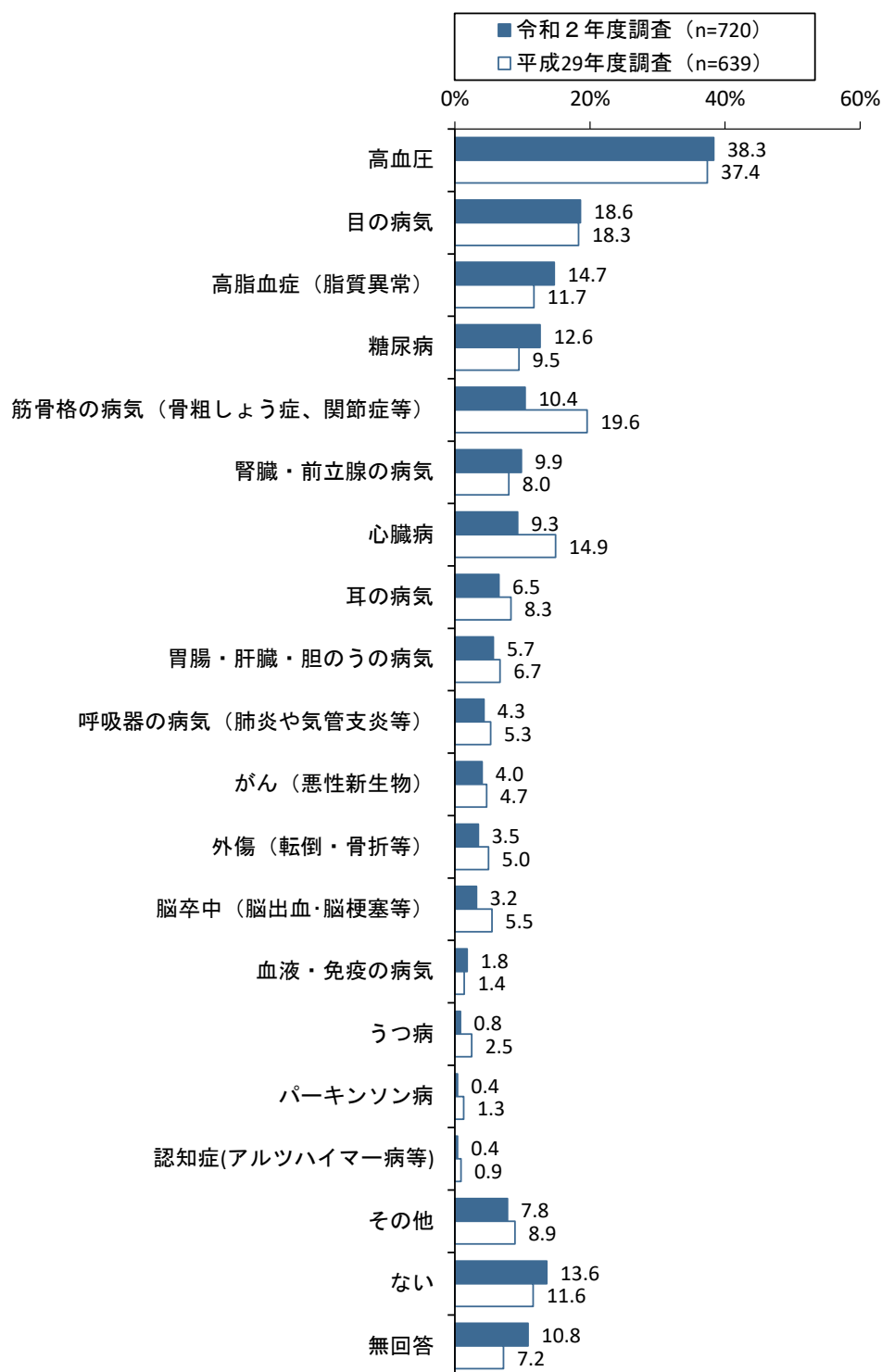
(7) 現在治療中または後遺症のある病気はあるか

問7(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

現在治療中または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が38.3%で最も高く、次いで「目の病気」が18.6%、「高脂血症(脂質異常)」が14.7%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「高脂血症(脂質異常)」(14.7%)が平成29年度調査(11.7%)よりも3.0ポイント高く、最も増加した項目となっています。

図表 3-8-21 現在治療中または後遺症のある病気はあるか



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「高血圧」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「目の病気」の割合が高く、事業対象者・要支援認定者では次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」の割合が高くなっています。

性別でみると、男性、女性いずれも「高血圧」の割合が最も高く、男性では次いで「目の病気」の割合が高く、女性では次いで「高脂血症（脂質異常）」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階層で「高血圧」の割合が最も高く、65～74歳では次いで「ない」の割合が高く、75～84歳では次いで「目の病気」の割合が高く、85～89歳では次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、「目の病気」が同率で高く、90歳以上では次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が高くなっています。

図表 3-8-22 現在治療中または後遺症のある病気はあるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	高血圧	目の病気	高脂血症（脂質異常）	糖尿病	筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）	腎臓・前立腺の病気	心臓病	耳の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	呼吸器の病気（肺炎や気管等）	
		全体	720	38.3	18.6	14.7	12.6	10.4	9.9	9.3	6.5	5.7
平成29年度調査	639	37.4	18.3	11.7	9.5	19.6	8.0	14.9	8.3	6.7	5.3	
認定別	一般高齢者	652	38.8	18.1	15.2	12.0	9.2	9.5	8.3	5.7	5.1	4.0
	事業対象者・要支援認定者	50	40.0	24.0	14.0	22.0	26.0	12.0	18.0	20.0	10.0	8.0
性別	男性	328	42.7	20.7	12.5	16.8	5.2	18.6	11.0	7.6	7.3	6.1
	女性	381	35.4	16.8	17.1	9.2	15.0	2.1	7.9	5.8	4.5	2.6
年齢別	65～69歳	128	39.1	10.9	14.1	7.0	4.7	3.1	2.3	4.7	3.1	1.6
	70～74歳	194	35.1	16.0	14.4	14.9	7.7	9.3	6.2	2.6	5.7	4.1
	75～79歳	180	37.8	21.1	16.1	13.9	7.2	10.0	8.3	7.2	5.6	5.6
	80～84歳	131	43.5	25.2	15.3	14.5	15.3	13.0	19.8	9.2	9.9	4.6
	85～89歳	50	46.0	24.0	16.0	10.0	24.0	16.0	12.0	16.0	2.0	6.0
	90歳以上	25	36.0	16.0	12.0	8.0	32.0	16.0	16.0	8.0	8.0	4.0

	合計	がん（悪性新生物）	外傷（転倒・骨折等）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	血液・免疫の病気	うつ病	パーキンソン病	認知症（アルツハイマー病等）	その他	ない	無回答	
		全体	720	4.0	3.5	3.2	1.8	0.8	0.4	0.4	7.8	13.6
平成29年度調査	639	4.7	5.0	5.5	1.4	2.5	1.3	0.9	8.9	11.6	7.2	
認定別	一般高齢者	652	4.0	2.1	2.8	1.5	0.8	0.3	0.2	7.2	14.7	10.4
	事業対象者・要支援認定者	50	6.0	16.0	10.0	6.0	2.0	0.0	4.0	12.0	2.0	16.0
性別	男性	328	5.2	2.1	4.9	1.5	0.0	0.0	0.9	6.7	13.4	6.7
	女性	381	3.1	4.5	1.8	2.1	1.6	0.8	0.0	8.4	13.9	13.9
年齢別	65～69歳	128	5.5	1.6	2.3	0.8	0.0	1.6	0.0	6.3	21.1	12.5
	70～74歳	194	4.6	2.1	2.6	1.5	1.0	0.0	0.5	6.2	18.0	10.3
	75～79歳	180	3.9	2.8	3.3	1.7	1.1	0.0	0.0	10.6	10.6	8.3
	80～84歳	131	2.3	5.3	3.8	3.1	0.8	0.0	0.8	6.9	9.2	7.6
	85～89歳	50	2.0	8.0	2.0	4.0	2.0	2.0	0.0	6.0	6.0	14.0
	90歳以上	25	8.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.0	4.0	24.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

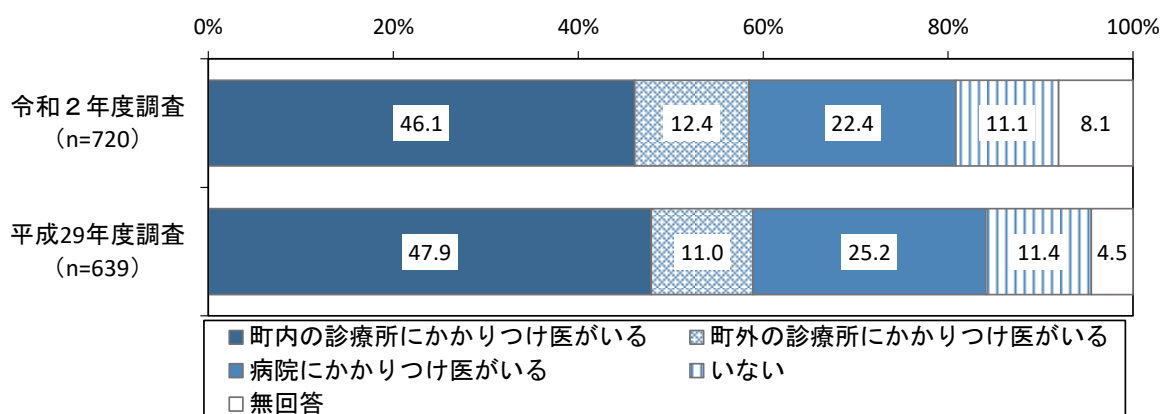
(8) かかりつけ医の有無

問7(8)	健康や病気のことについて気軽に相談できる「かかりつけ医」などがありますか (1つに〇)
-------	--

かかりつけ医の有無については、「町内の診療所にかかりつけ医がいる」が46.1%で最も高く、次いで「病院にかかりつけ医がいる」が22.4%、「町外の診療所にかかりつけ医がいる」が12.4%と続いており、『かかりつけ医がいる』（「町内の診療所にかかりつけ医がいる」、「町外の診療所にかかりつけ医がいる」と「病院にかかりつけ医がいる」の合計）は80.9%となっています。

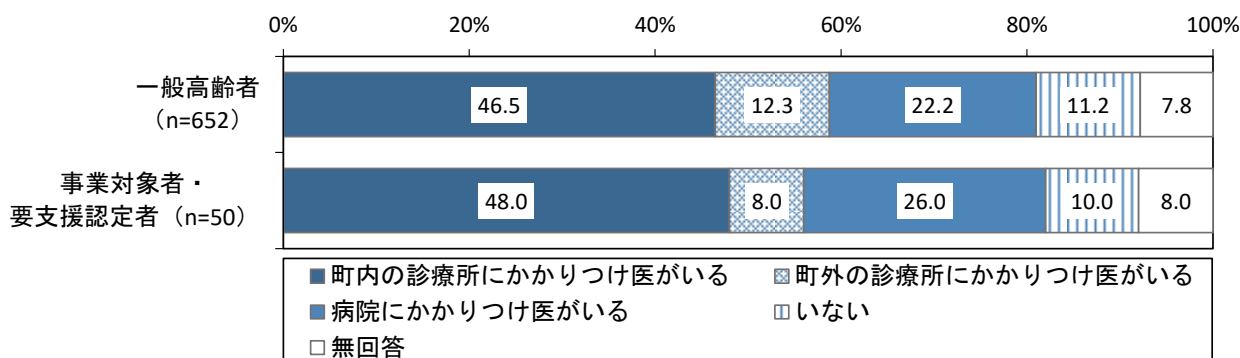
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-8-23 かかりつけ医の有無



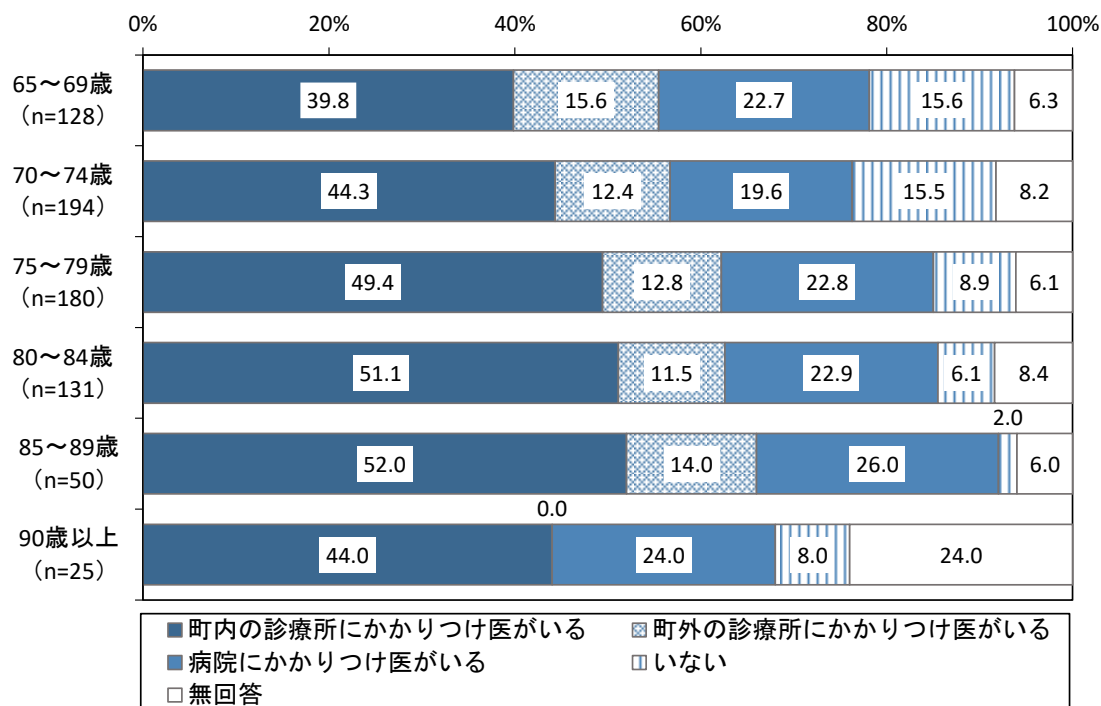
認定状況別でみると、「いない」では、一般高齢者が11.2%、事業対象者・要支援認定者が10.0%となっています。

図表 3-8-24 かかりつけ医の有無 認定状況別



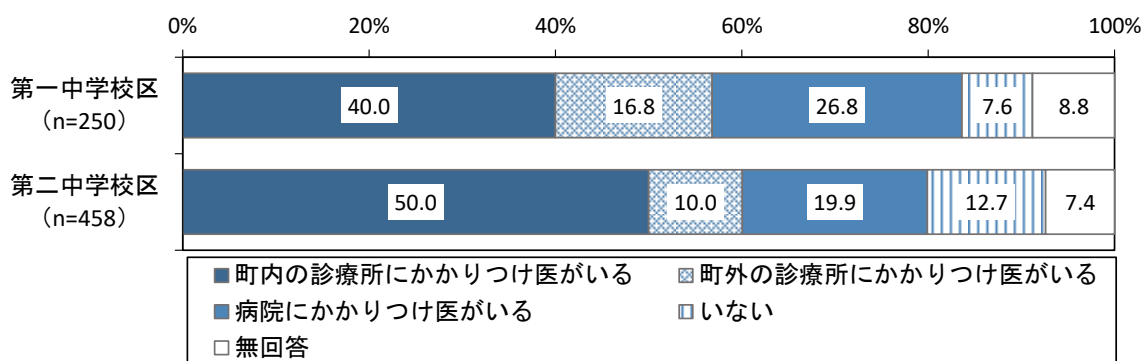
年齢別でみると、「いない」では、65～69歳が15.6%で最も高くなっています。

図表 3-8-25 かかりつけ医の有無 年齢別



中学校区別でみると、「いない」では、第一中学校区が7.6%、第二中学校区が12.7%となっています。

図表 3-8-26 かかりつけ医の有無 中学校区別

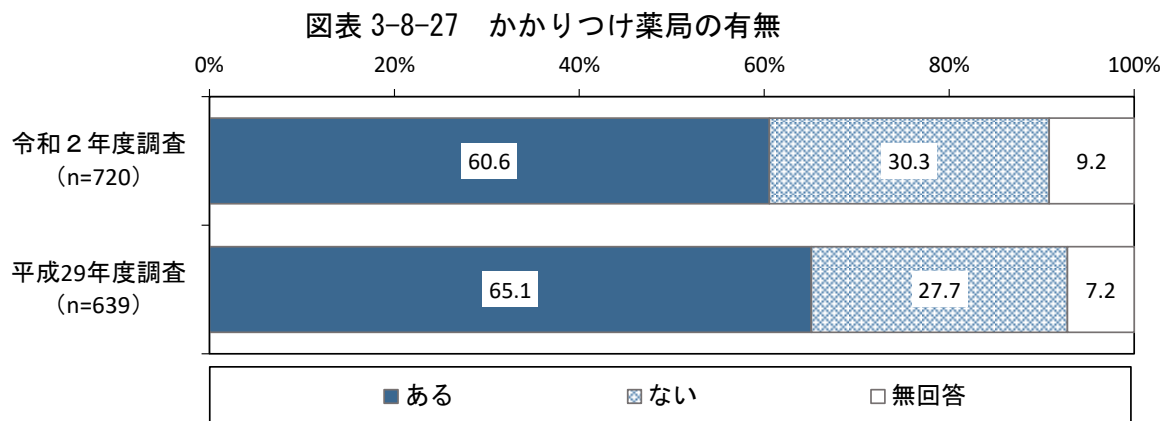


(9) かかりつけ薬局の有無

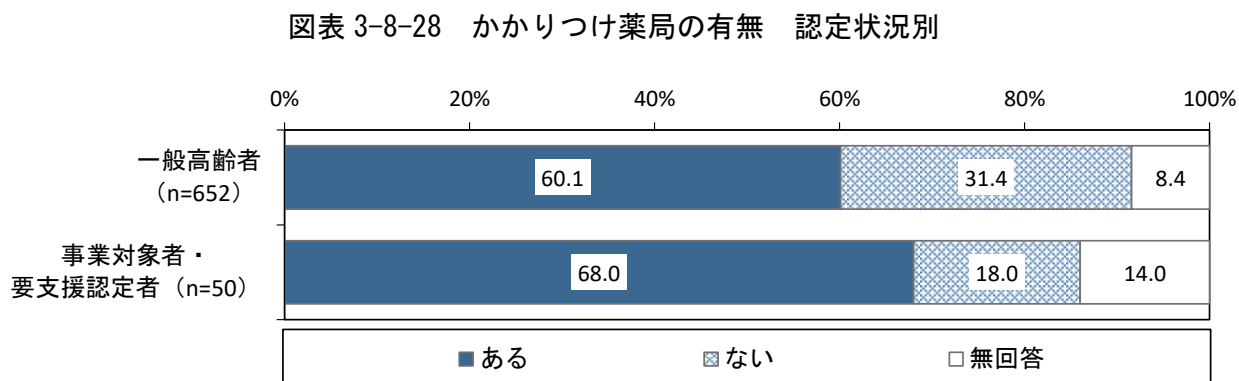
問7(9) かかりつけ薬局はありますか(1つに○)

かかりつけ薬局の有無については、「ある」が60.6%、「ない」が30.3%となっています。

平成29年度調査と比較すると、「ある」(60.6%)が平成29年度調査(65.1%)よりも4.5ポイント減少しています。

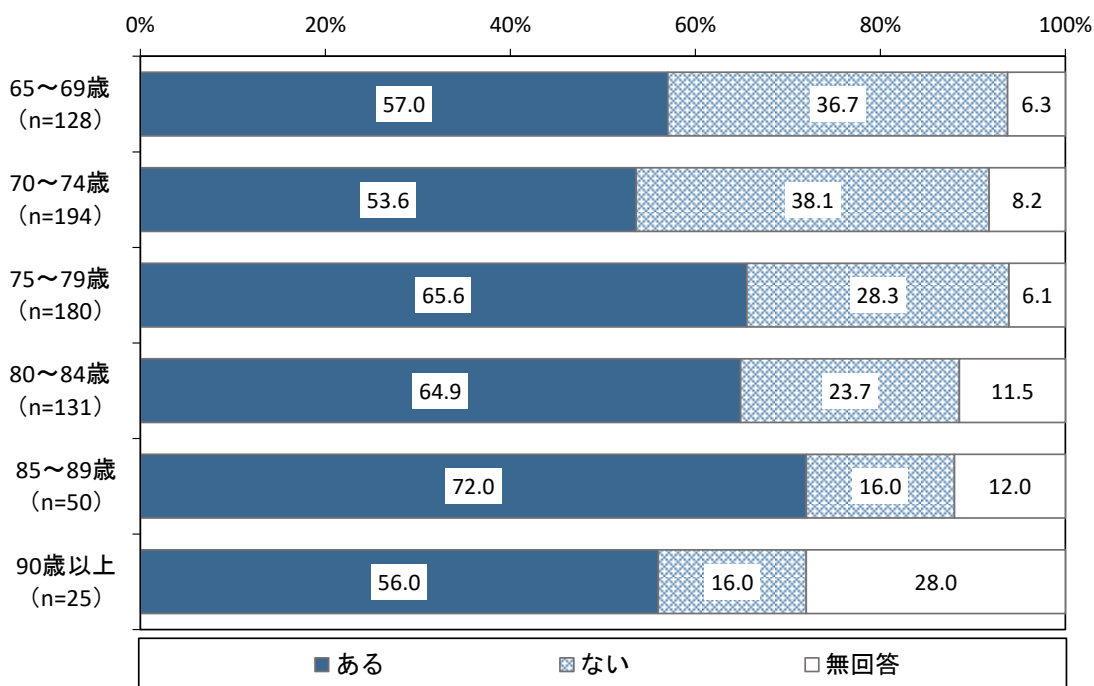


認定状況別でみると、「ない」では、一般高齢者が31.4%、事業対象者・要支援認定者が18.0%となっています。



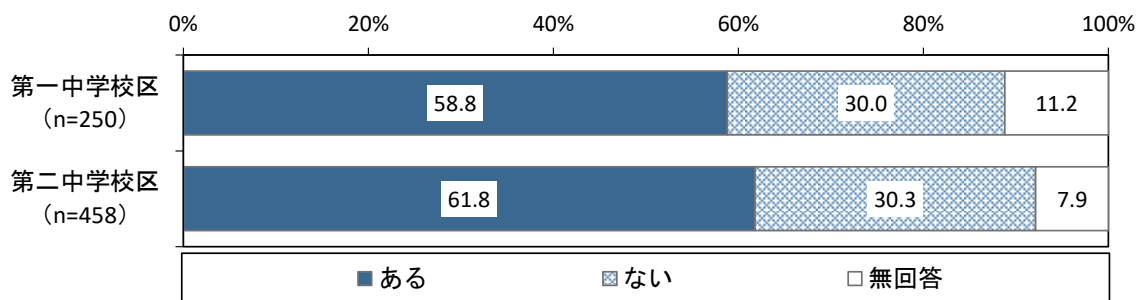
年齢別でみると、「ない」では、70～74歳が38.1%で最も高くなっています。

図表 3-8-29 かかりつけ薬局の有無 年齢別



中学校区別でみると、「ない」では、第一中学校区が30.0%、第二中学校区が30.3%となっています。

図表 3-8-30 かかりつけ薬局の有無 中学校区別



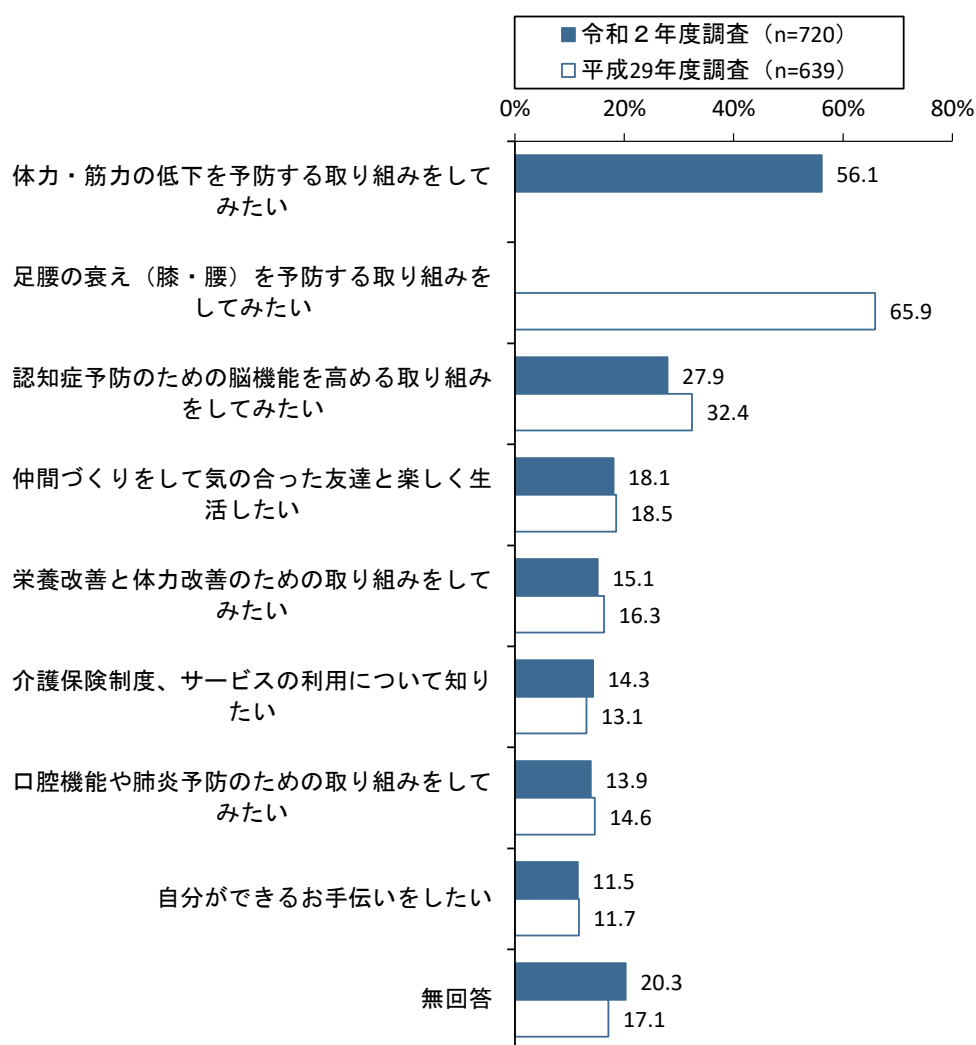
(10) 介護予防で取り組んでみたい項目

問7 (10)	介護予防についておうかがいします。ご自身が取り組んでみたい項目に○をつけてください。(いくつでも)
---------	---

介護予防で取り組んでみたい項目については、「体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい」が56.1%で最も高く、次いで「認知症予防のための脳機能を高める取り組みをしてみたい」が27.9%、「仲間づくりをして気の合った友達と楽しく生活したい」が18.1%と続いています。

平成29年度調査とは選択肢が異なるので一概には比較できませんが、参考としてみると、比較できる項目では、「介護保険制度、サービスの利用について知りたい」のみ平成29年度調査よりも割合が増加しています。

図表 3-8-31 介護予防で取り組んでみたい項目



※「体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい」は令和2年度のみ

「足腰の衰え(膝・腰)を予防する取り組みをしてみたい」は平成29年度のみ

認定状況別で見ると、「体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい」、「栄養改善と体力改善のための取り組みをしてみたい」、「自分ができるお手伝いをしたい」では一般高齢者の割合が事業対象者・要支援認定者よりも高く、それ以外の項目では事業対象者・要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっています。

性別で見ると、男性、女性いずれも「体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい」の割合が最も高く、次いで「認知症予防のための脳機能を高める取り組みをしてみたい」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、全ての年齢階層で「体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい」の割合が最も高く、65～84歳では次いで「認知症予防のための脳機能を高める取り組みをしてみたい」の割合が高く、85歳以上では次いで「仲間づくりをして気の合った友達と楽しく生活したい」の割合が高くなっています。

図表 3-8-32 介護予防で取り組んでみたい項目 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

		合計	る体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい	たを認知症予防のための脳機能を高める取り組みをしてみたい	た仲間づくりをして生活したい	の栄養改善と体力改善のための取り組みをしてみたい	利介護保険制度、サービスの	の口腔機能や肺炎予防のため	た自分ができるお手伝いをし	無回答
全体		720	56.1	27.9	18.1	15.1	14.3	13.9	11.5	20.3
認定別	一般高齢者	652	56.7	27.6	17.3	15.5	13.3	13.8	12.3	19.5
	事業対象者・要支援認定者	50	54.0	36.0	28.0	12.0	24.0	16.0	2.0	28.0
性別	男性	328	60.7	25.6	15.9	14.6	11.9	13.4	11.6	16.8
	女性	381	52.2	30.7	19.7	15.7	16.5	14.7	11.5	23.1
年齢別	65～69歳	128	64.1	28.9	20.3	18.8	7.8	16.4	21.1	20.3
	70～74歳	194	59.8	29.4	16.5	17.0	13.9	12.9	12.4	16.5
	75～79歳	180	60.0	31.7	21.1	15.0	14.4	13.9	8.3	15.0
	80～84歳	131	47.3	28.2	12.2	13.7	22.1	14.5	9.2	20.6
	85～89歳	50	44.0	18.0	20.0	8.0	16.0	14.0	6.0	32.0
	90歳以上	25	36.0	16.0	20.0	8.0	8.0	12.0	4.0	52.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

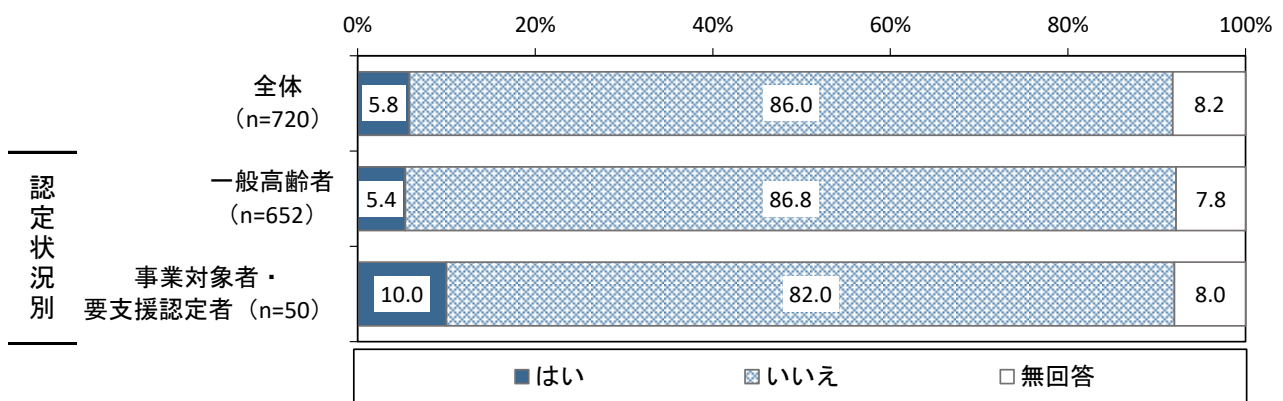
(1) 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか

問8(1)	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか(1つに○)
-------	-------------------------------------

認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」が5.8%、「いいえ」が86.0%となっています。

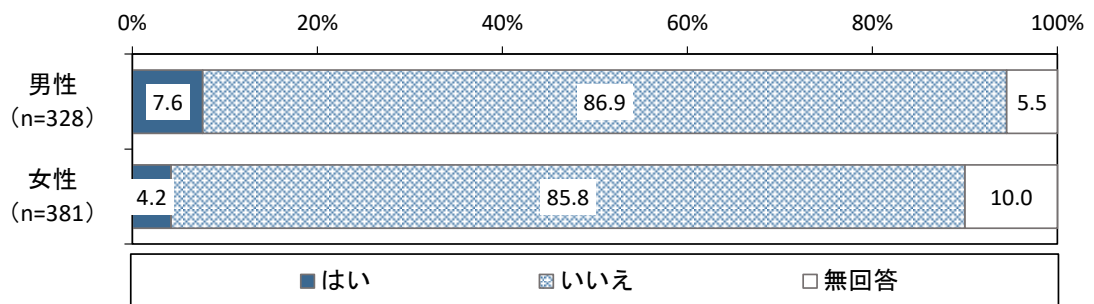
認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が5.4%、事業対象者・要支援認定者が10.0%となっています。

図表 3-9-1 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか



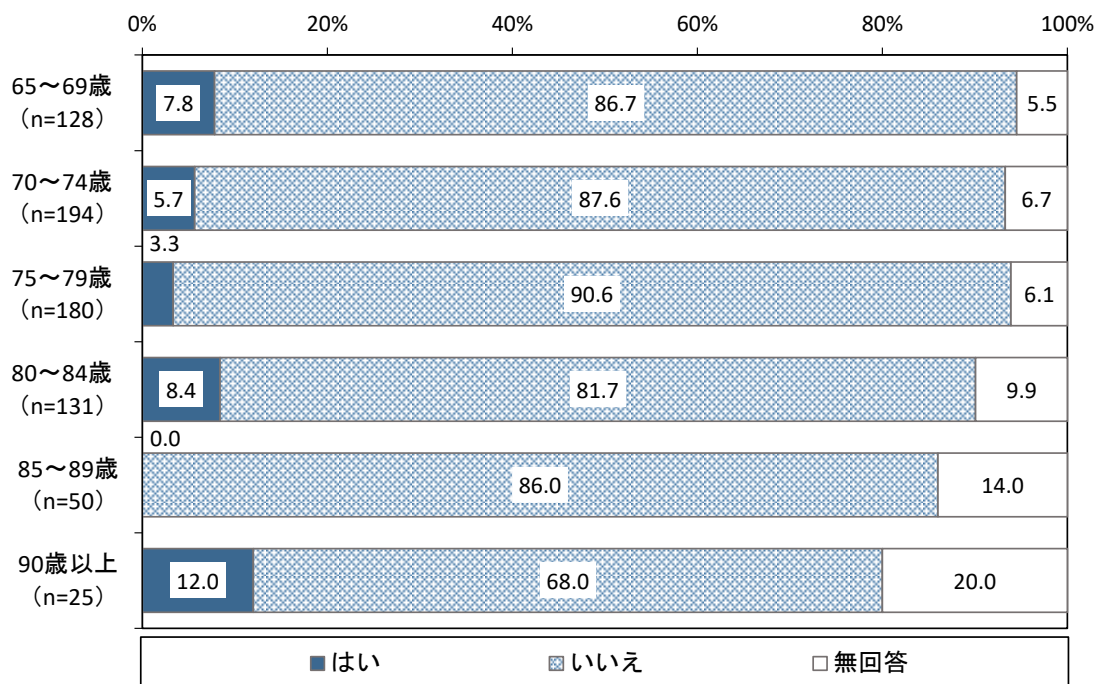
性別でみると、「ある」では、男性が7.6%、女性が4.2%となっています。

図表 3-9-2 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 性別



年齢別でみると、「ある」では、90歳以上が12.0%で最も高くなっています。

図表 3-9-3 認知症の症状があるか・家族に認知症の症状がある人がいるか 年齢別



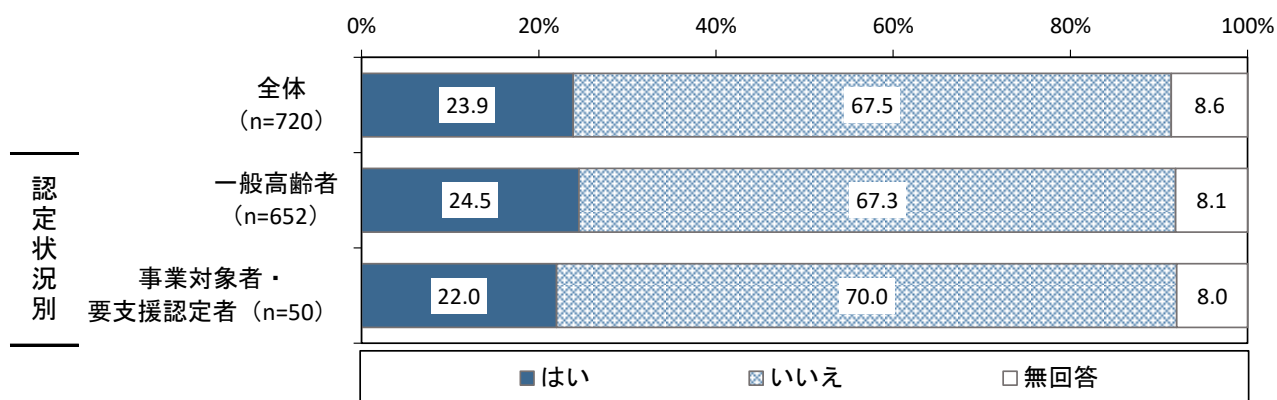
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (1つに○)

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が23.9%、「いいえ」が67.5%となっています。

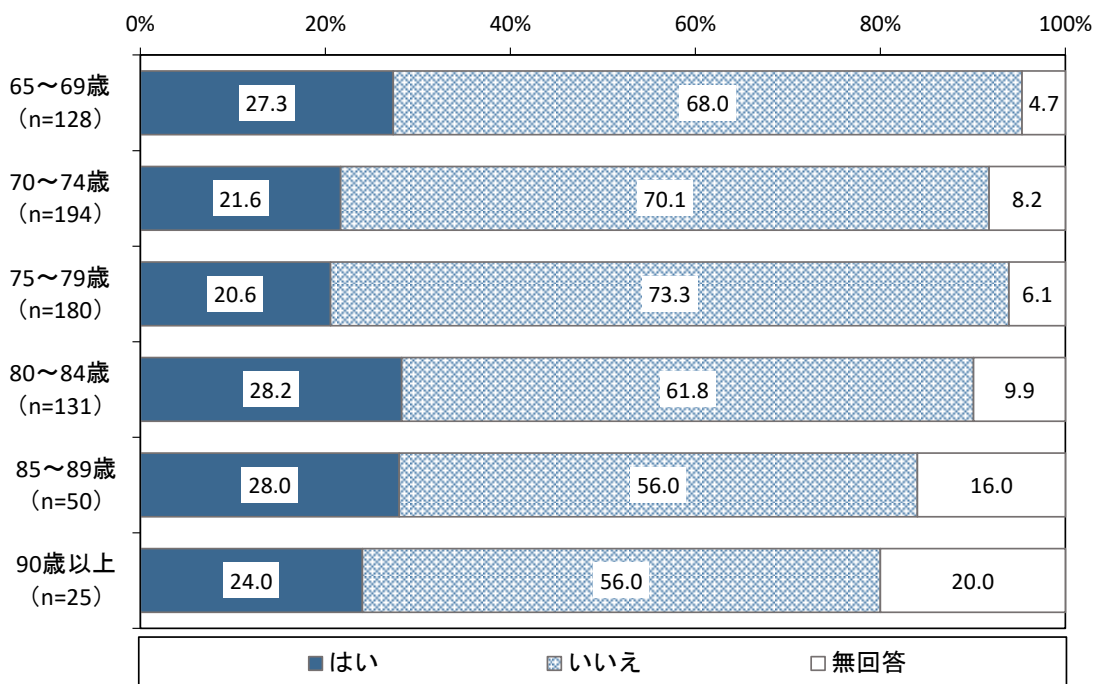
認定状況別にみると、「はい」では、一般高齢者が24.5%、事業対象者・要支援認定者が22.0%となっています。

図表 3-9-4 認知症に関する相談窓口を知っているか



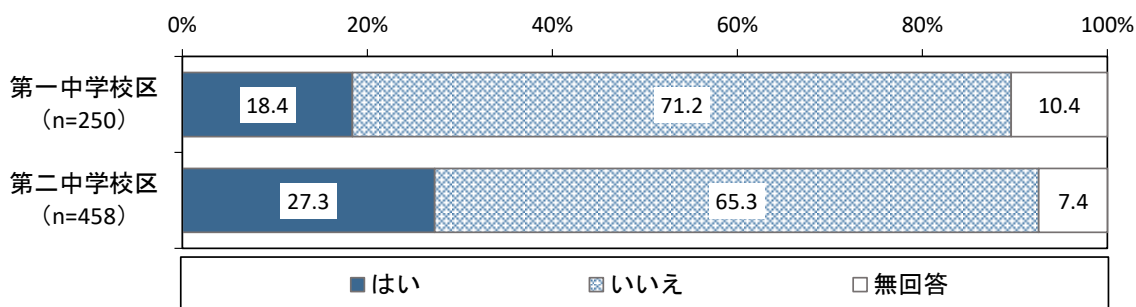
年齢別でみると、「はい」では、80～84歳が28.2%で最も高くなっています。

図表 3-9-5 認知症に関する相談窓口を知っているか 年齢別



中学校区別でみると、「はい」では、第一中学校区が18.4%、第二中学校区が27.3%となっています。

図表 3-9-6 認知症に関する相談窓口を知っているか 中学校区別



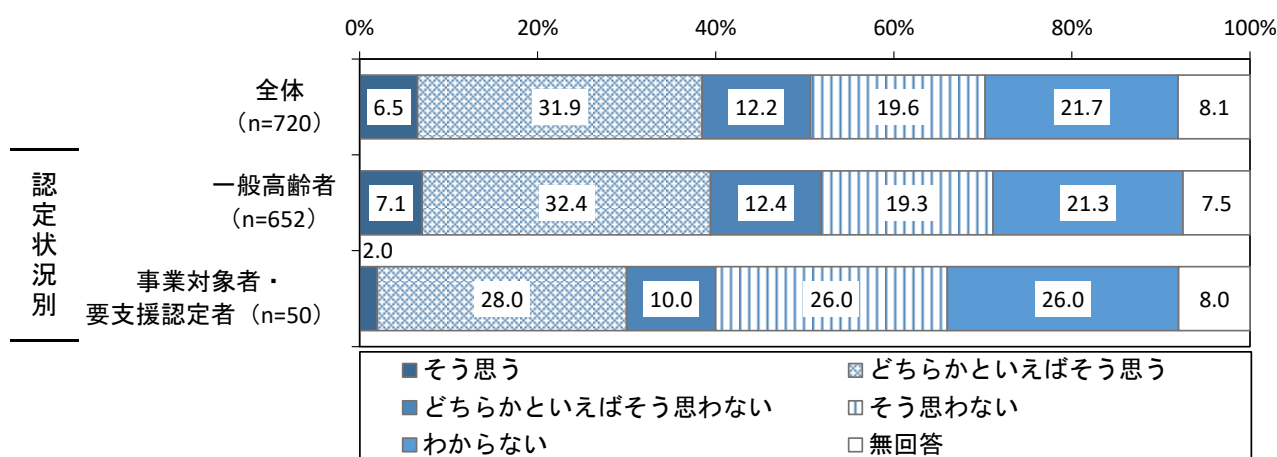
(3) 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか

問8 (3) 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思われますか (1つに○)

認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うかについては、「どちらかといえばそう思う」が31.9%で最も高く、次いで「わからない」が21.7%、「そう思わない」が19.6%と続いており、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)は38.4%となっています。

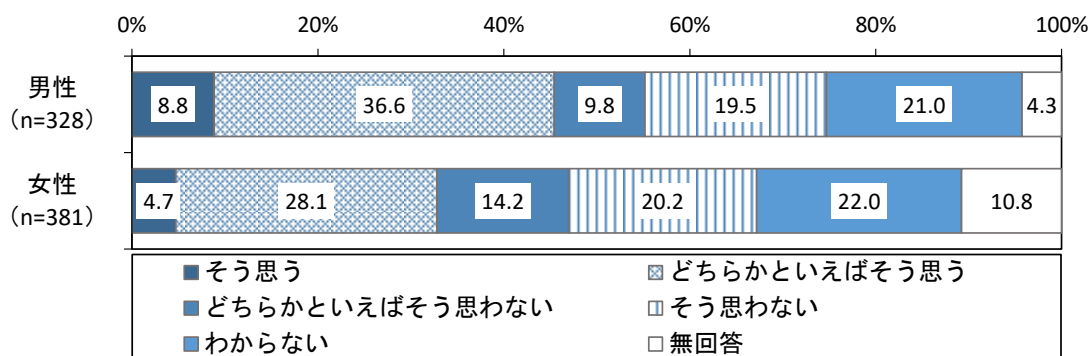
認定状況別で見ると、『そう思う』では、一般高齢者が39.5%、事業対象者・要支援認定者が30.0%となっています。

図表 3-9-7 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか



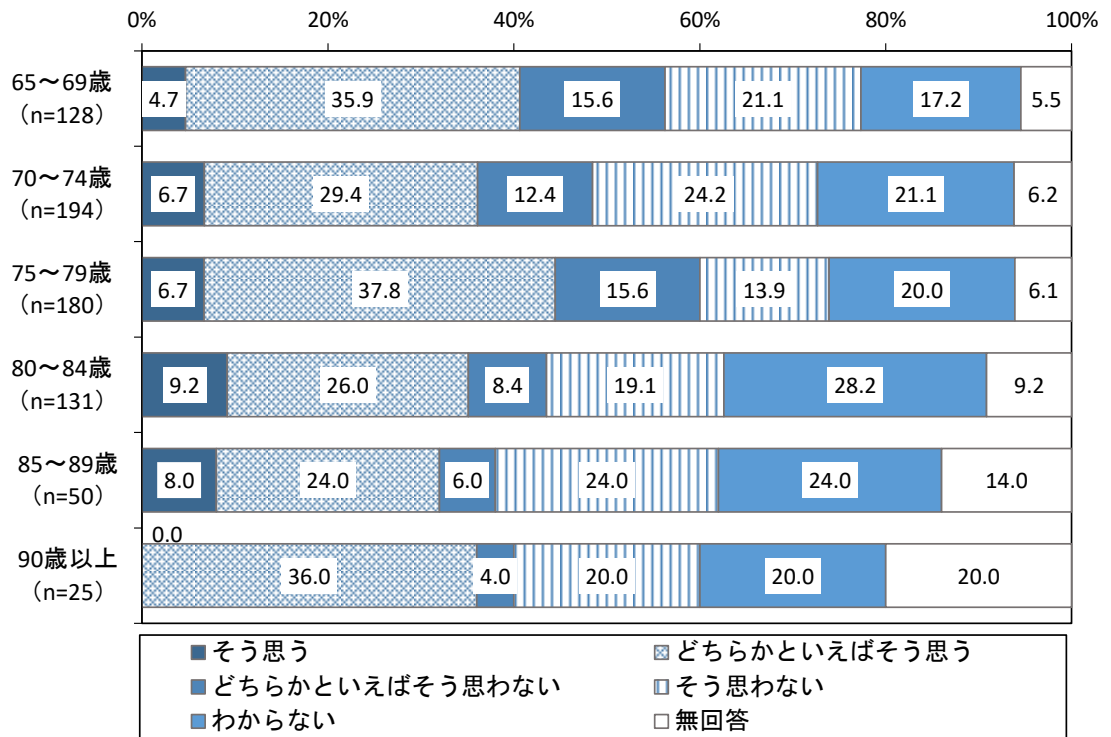
性別でみると、『そう思う』では、男性が45.4%、女性が32.8%となっています。

図表 3-9-8 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか 性別



年齢別でみると、『そう思う』では、75～79歳が44.5%で最も高くなっています。

図表 3-9-9 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思うか 年齢別



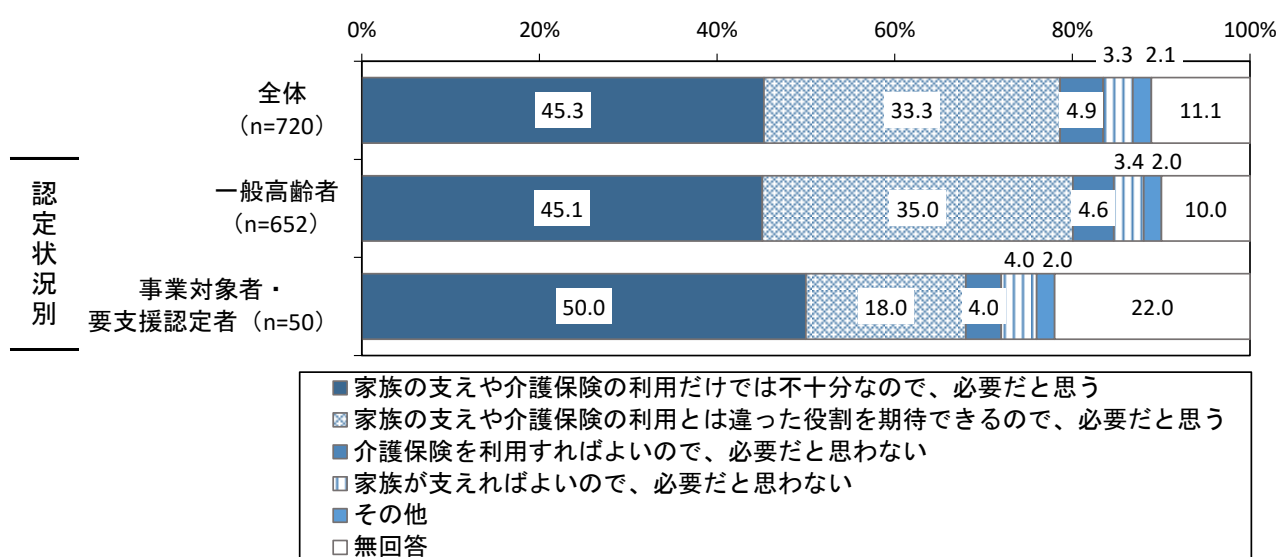
(4) 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思うか

問8(4) 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思いますか(1つに○)

認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思うかについては、「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」が45.3%で最も高く、次いで「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」が33.3%、「介護保険を利用すればよいので、必要だと思わない」が4.9%と続いており、『地域住民の協力が必要だと思う』(「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」と「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」の合計)は78.6%となっています。

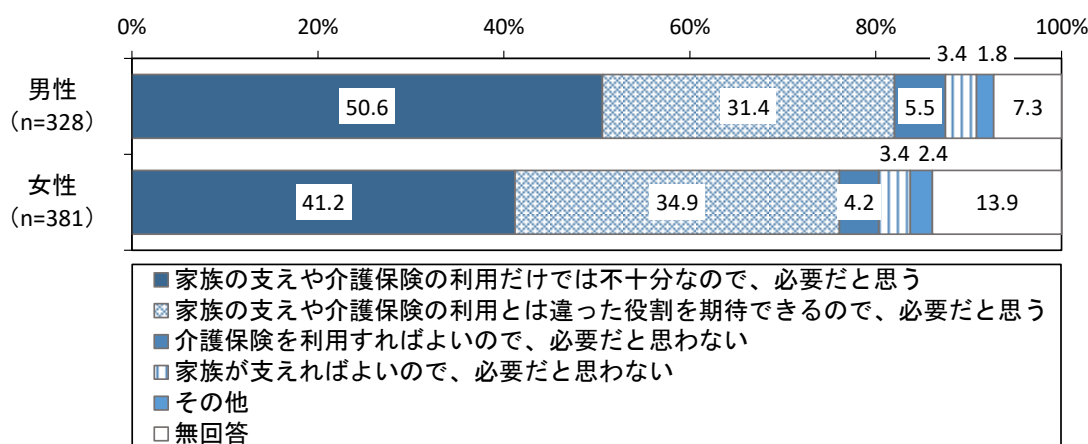
認定状況別で見ると、『地域住民の協力が必要だと思う』では、一般高齢者が80.1%、事業対象者・要支援認定者が68.0%となっています。

図表 3-9-10 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思うか



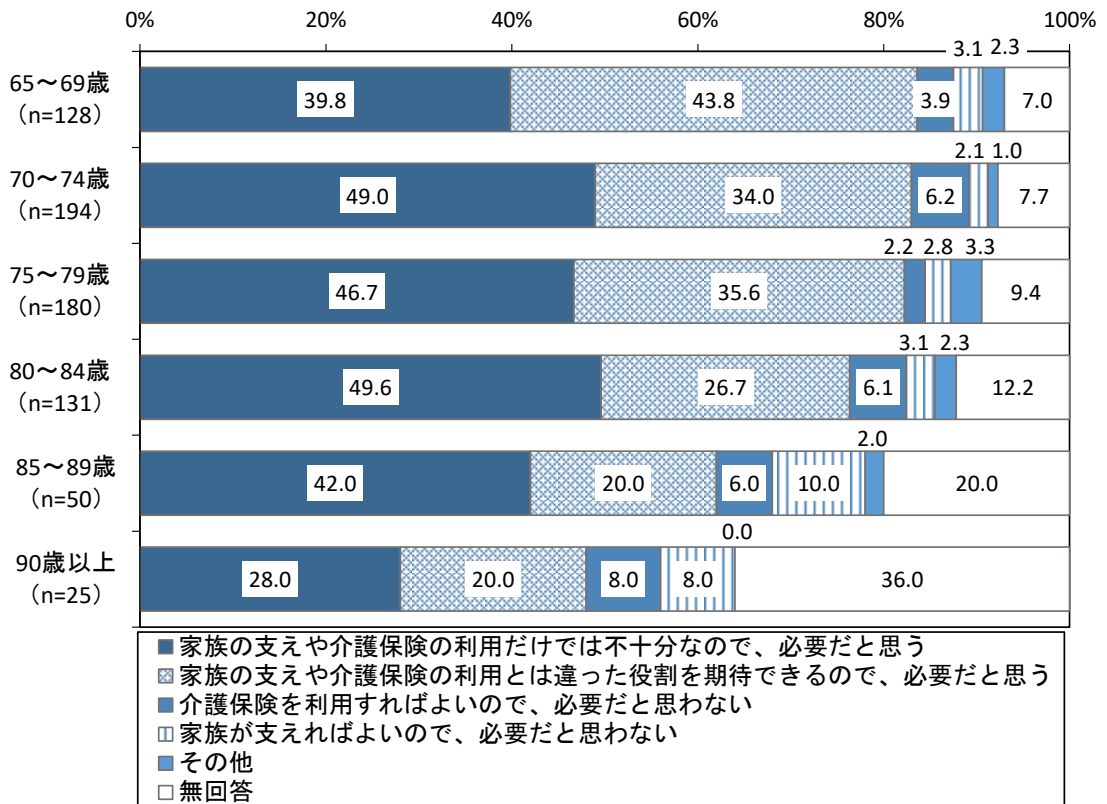
性別でみると、『地域住民の協力が必要だと思う』では、男性が82.0%、女性が76.1%となっています。

図表 3-9-11 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思うか 性別



年齢別でみると、『地域住民の協力が必要だと思う』では、年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が83.6%で最も高くなっています。

図表 3-9-12 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思うか 年齢別



10. その他高齢者福祉施策などについて

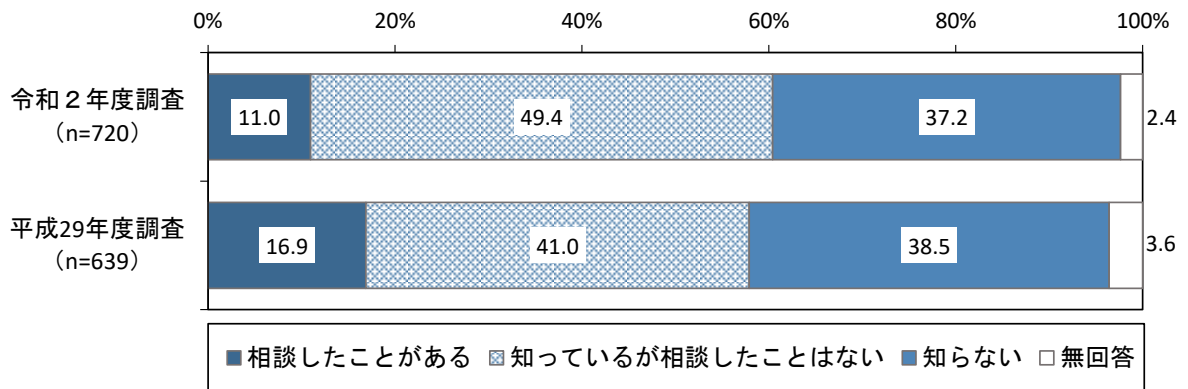
(1) 地域包括支援センターを知っているか

問9 (1)	高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」をご存じですか (1つに〇)
--------	--

地域包括支援センターを知っているかについては、「知っているが相談したことはない」が49.4%で最も高く、次いで「知らない」が37.2%、「相談したことがある」が11.0%となっており、認知度（「相談したことがある」と「知っているが相談したことはない」の合計）は60.4%となっています。

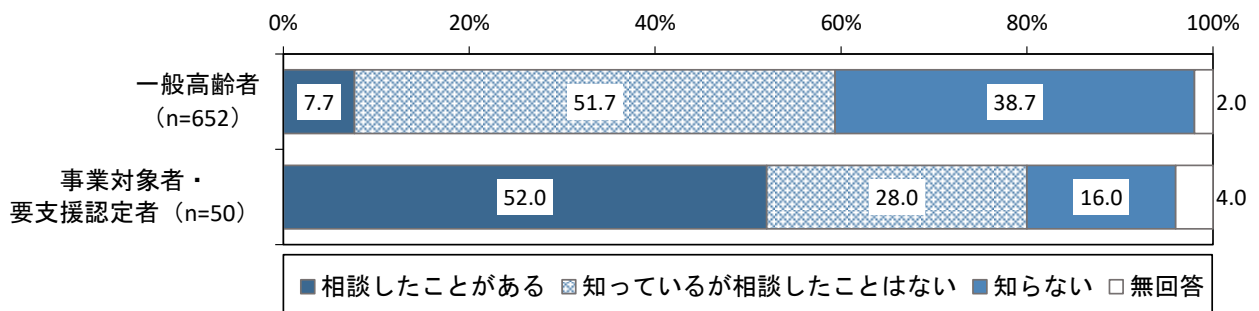
平成29年度調査と比較すると、「知っているが相談したことはない」（49.4%）が平成29年度調査（41.0%）よりも8.4ポイント増加しています。

図表 3-10-1 地域包括支援センターを知っているか



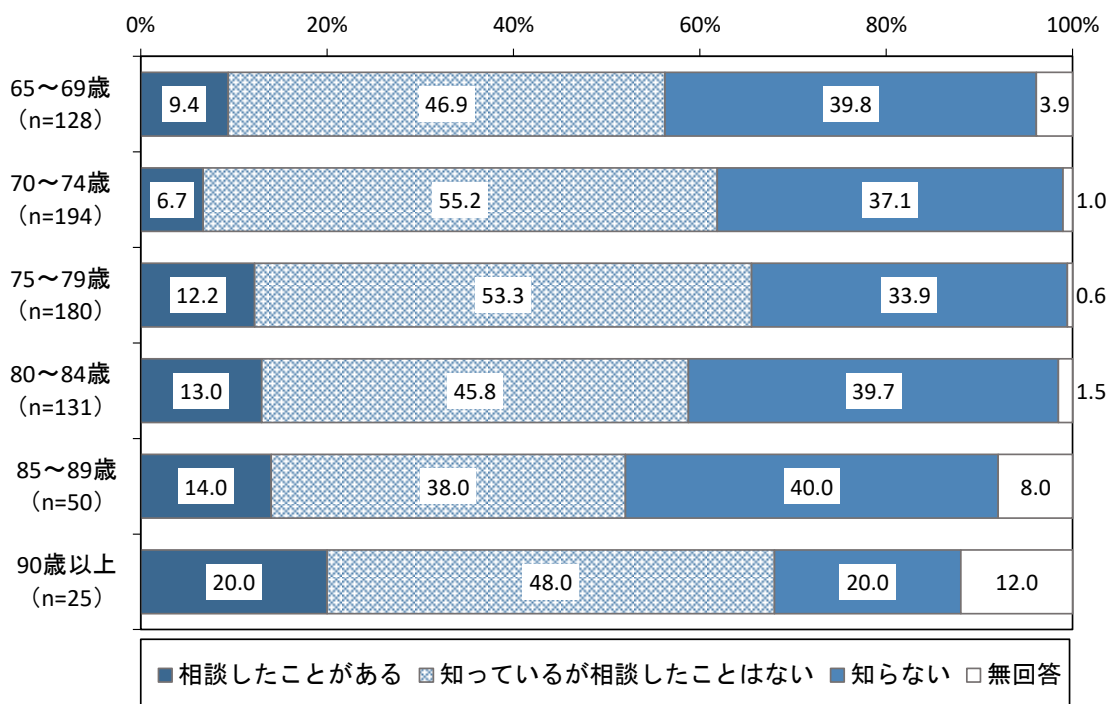
認定状況別で見ると、認知度では、一般高齢者が59.4%、事業対象者・要支援認定者が80.0%となっています。

図表 3-10-2 地域包括支援センターを知っているか 認定状況別



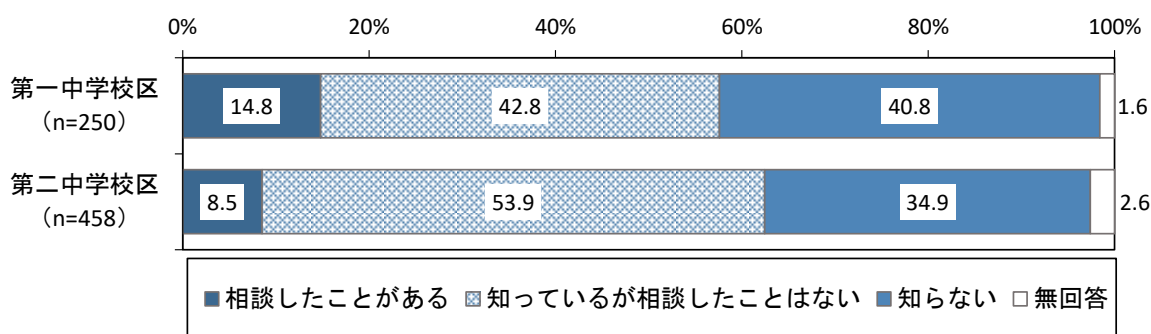
年齢別でみると、認知度では、90歳以上が68.0%で最も高くなっています。

図表 3-10-3 地域包括支援センターを知っているか 年齢別



中学校区別でみると、認知度では、第一中学校区が57.6%、第二中学校区が62.4%となっています。

図表 3-10-4 地域包括支援センターを知っているか 中学校区別



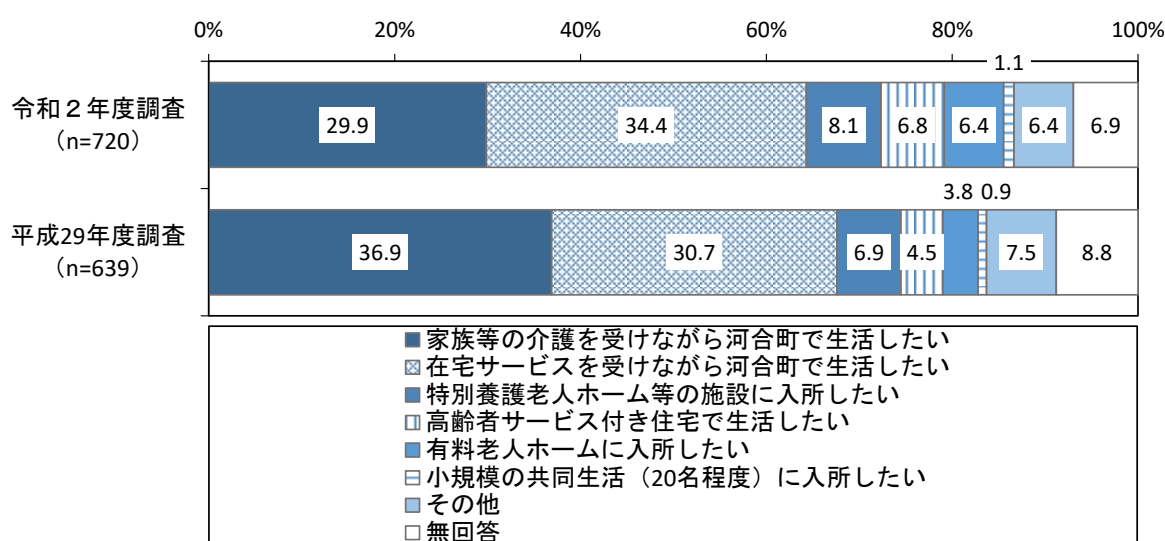
(2) 今後どこで、どのような生活を望むか

問9 (2)	今後の生活についておうかがいします。今後どこで、どのような生活を望みますか (1つに○)
--------	--

今後どこで、どのような生活を望むかについては、「在宅サービスを受けながら河合町で生活したい」が34.4%で最も高く、次いで「家族等の介護を受けながら河合町で生活したい」が29.9%、「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が8.1%と続いており、『河合町で生活したい』（「家族等の介護を受けながら河合町で生活したい」と「在宅サービスを受けながら河合町で生活したい」の合計）は64.3%となっています。

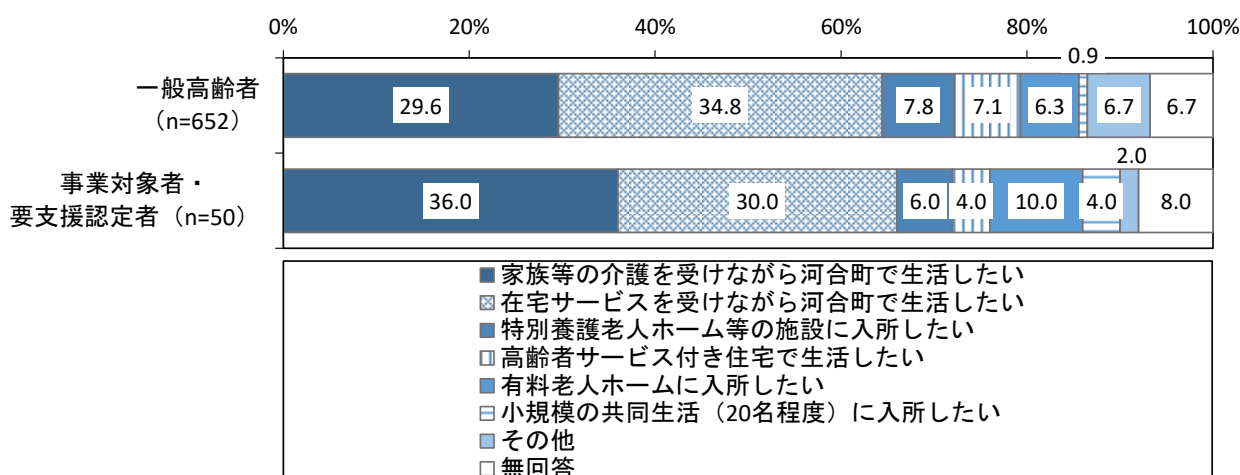
平成29年度調査と比較すると、『河合町で生活したい』（64.3%）が平成29年度調査（67.6%）よりも3.3ポイント減少しています。

図表 3-10-5 今後どこで、どのような生活を望むか



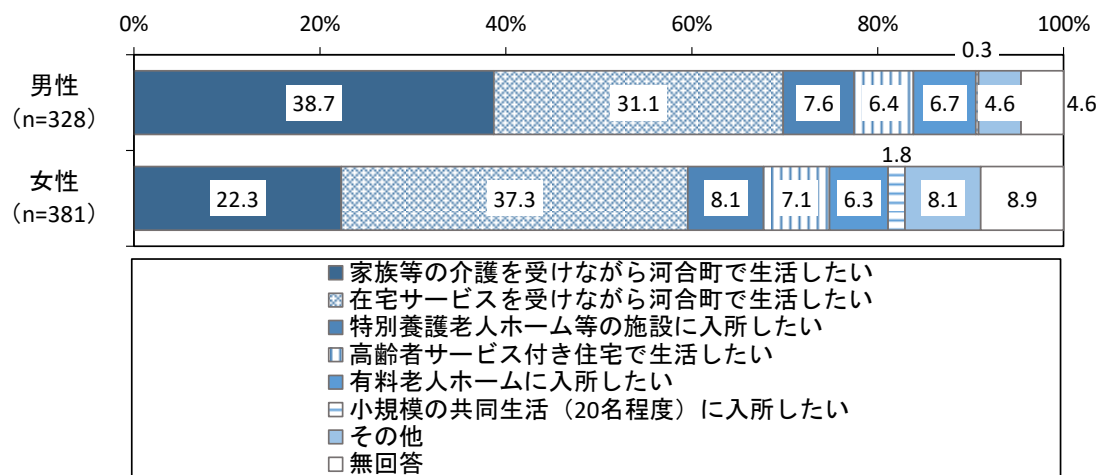
認定状況別でみると、一般高齢者では「在宅サービスを受けながら河合町で生活したい」が34.8%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「家族等の介護を受けながら河合町で生活したい」が36.0%で最も高くなっています。

図表 3-10-6 今後どこで、どのような生活を望むか 認定状況別



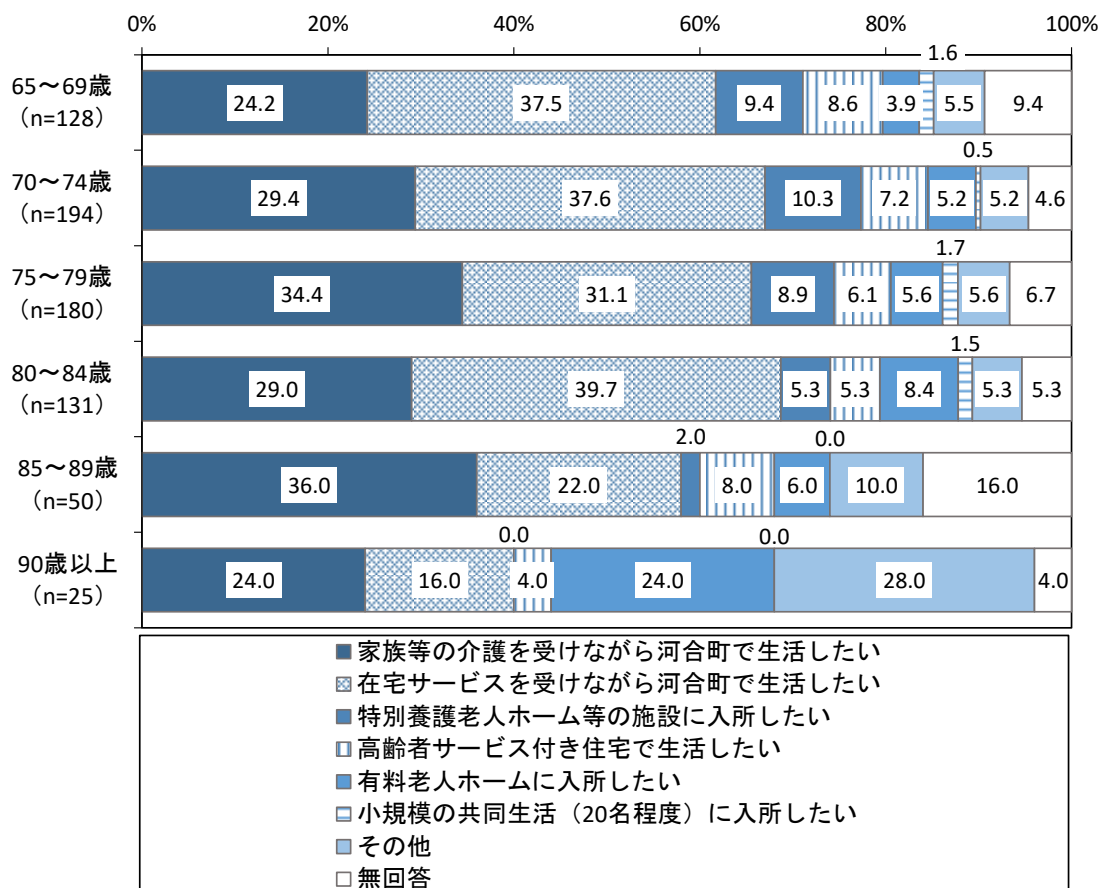
性別でみると、男性では「家族等の介護を受けながら河合町で生活したい」が38.7%で最も高く、女性では「在宅サービスを受けながら河合町で生活したい」が37.3%で最も高くなっています。

図表 3-10-7 今後どこで、どのような生活を望むか 性別



年齢別でみると、『河合町で生活したい』では、80～84歳が68.7%で最も高くなっています。

図表 3-10-8 今後どこで、どのような生活を望むか 年齢別



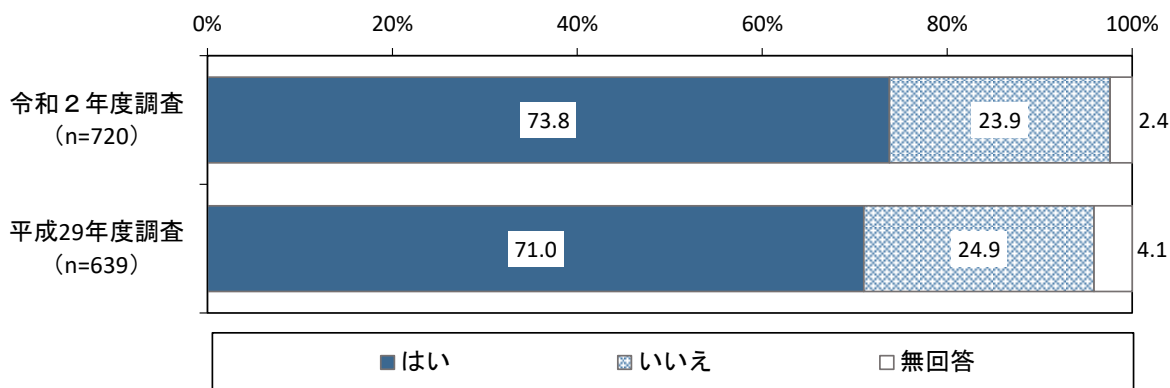
(3) 高齢者の死に立ち会った経験があるか

問9 (3) 高齢者の死に立ち会った経験がありますか (1つに○)

高齢者の死に立ち会った経験があるかについては、「はい」が73.8%、「いいえ」が23.9%となっています。

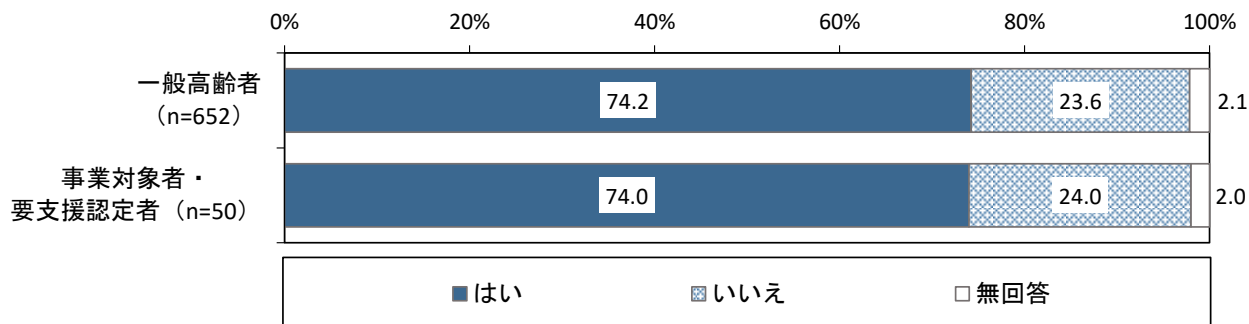
平成29年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-10-9 高齢者の死に立ち会った経験があるか



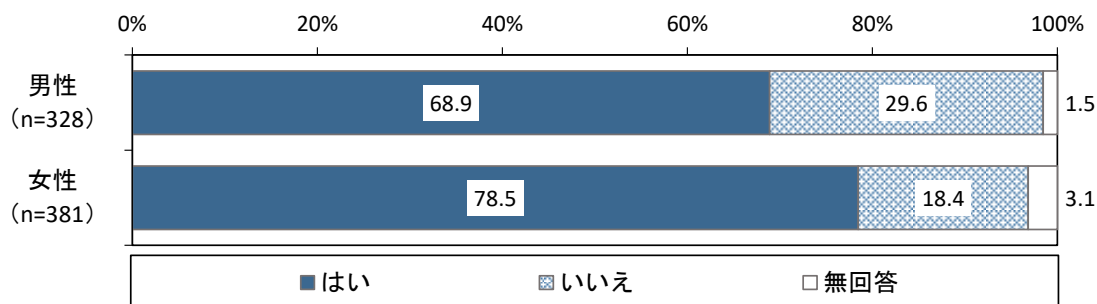
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が74.2%、事業対象者・要支援認定者が74.0%となっています。

図表 3-10-10 高齢者の死に立ち会った経験があるか 認定状況別



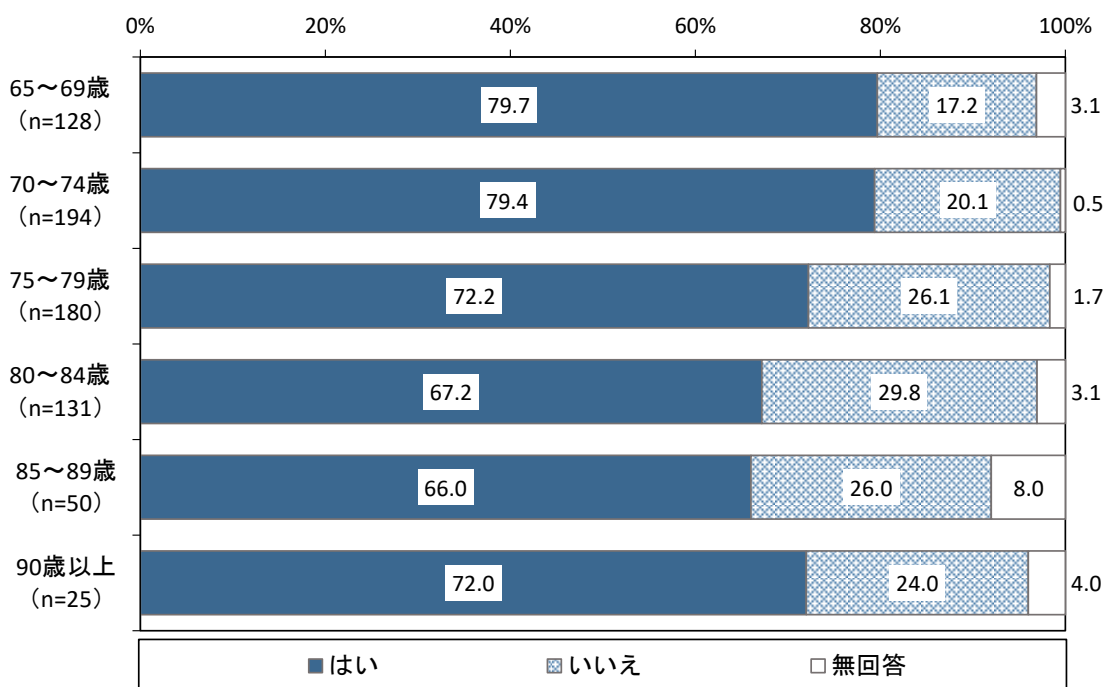
性別でみると、「はい」では、男性が68.9%、女性が78.5%となっています。

図表 3-10-11 高齢者の死に立ち会った経験があるか 性別



年齢別でみると、「はい」では、89歳以下で年齢が上がるにつれて割合が低くなっており、65～69歳が79.7%で最も高くなっています。

図表 3-10-12 高齢者の死に立ち会った経験があるか 年齢別



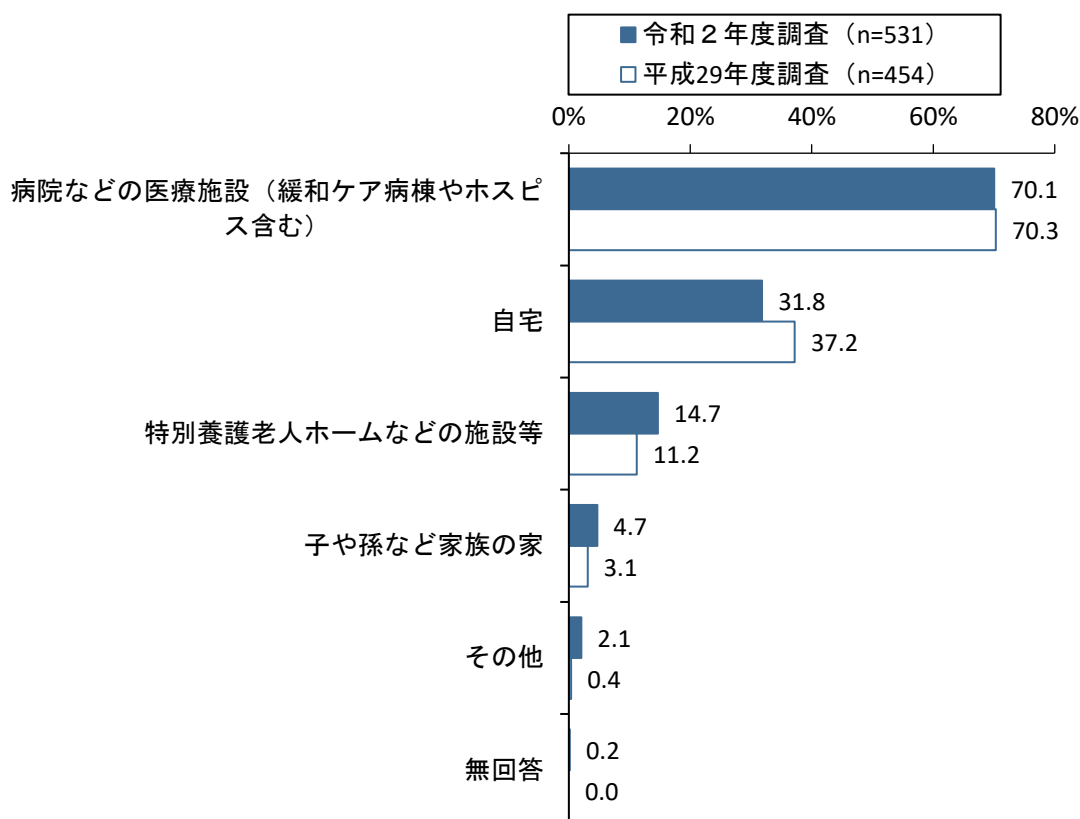
(4) 死に立ち会った高齢者がどこで人生の終末を迎えたか

問9 (3)	【問9 (3) で「はい」とお答えの方のみ】
①	①死に立ち会った高齢者はどこで人生の終末を迎えられましたか (いくつでも)

死に立ち会った高齢者がどこで人生の終末を迎えたかについては、「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」が70.1%で最も高く、次いで「自宅」が31.8%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が14.7%と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「自宅」(31.8%)が平成29年度調査(37.2%)よりも5.4ポイント減少しています。

図表 3-10-13 死に立ち会った高齢者がどこで人生の終末を迎えたか



認定状況別でみると、一般高齢者、事業対象者・要支援認定者いずれも「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」の割合が最も高く、「その他」を除く全ての項目で事業対象者・要支援認定者の割合が一般高齢者よりも高くなっています。

性別でみると、男性、女性いずれも「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」の割合が最も高く、女性が72.2%で、男性（67.3%）よりも4.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全ての年齢階層で「病院などの医療施設（緩和ケア病棟やホスピス含む）」の割合が最も高く、65～69歳が74.5%で最も高くなっています。

図表 3-10-14 死に立ち会った高齢者がどこで人生の終末を迎えたか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	ケ ア 病 院 な ど の 医 療 施 設 （ 緩 和 ケ ア 病 棟 や ホ ス ピ ス 含 む ）	自 宅	施 設 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム な ど の	子 や 孫 な ど 家 族 の 家	そ の 他	無 回 答
全体		531	70.1	31.8	14.7	4.7	2.1	0.2
平成29年度調査		454	70.3	37.2	11.2	3.1	0.4	0.0
認 定 別	一般高齢者	484	70.0	30.4	14.9	4.3	2.3	0.2
	事業対象者・要支援認定者	37	70.3	43.2	16.2	5.4	0.0	0.0
性 別	男性	226	67.3	31.9	14.2	4.9	2.7	0.4
	女性	299	72.2	31.8	15.4	4.3	1.7	0.0
年 齢 別	65～69歳	102	74.5	28.4	18.6	1.0	0.0	1.0
	70～74歳	154	65.6	29.2	15.6	7.1	3.2	0.0
	75～79歳	130	71.5	32.3	16.2	2.3	1.5	0.0
	80～84歳	88	72.7	36.4	8.0	6.8	0.0	0.0
	85～89歳	33	72.7	39.4	12.1	9.1	3.0	0.0
	90歳以上	18	55.6	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

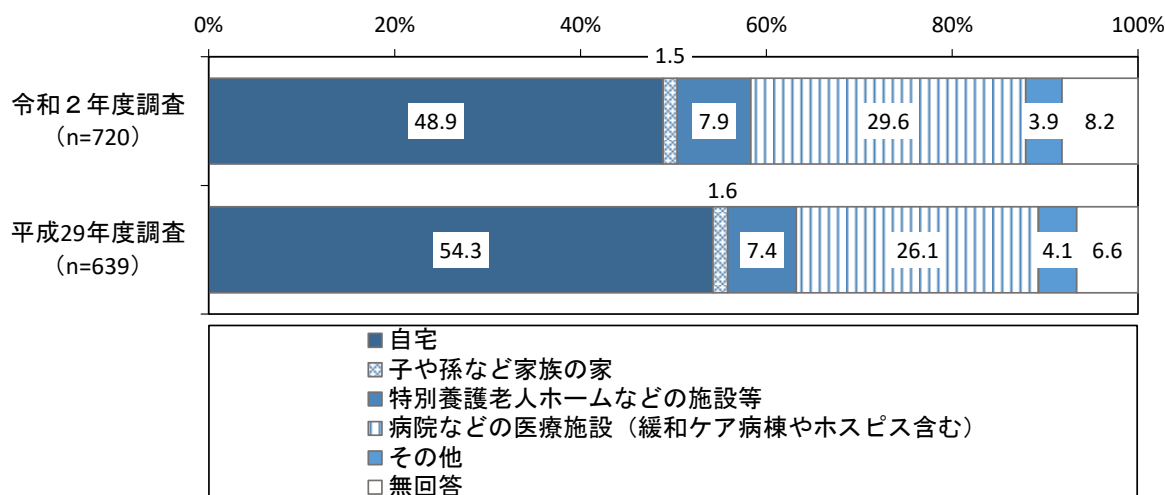
(5) どこで人生の終末を迎えたいか

問9(4) あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか(1つに○)

どこで人生の終末を迎えたいかについては、「自宅」が48.9%で最も高く、次いで「病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)」が29.6%、「特別養護老人ホームなどの施設等」が7.9%と続いています。

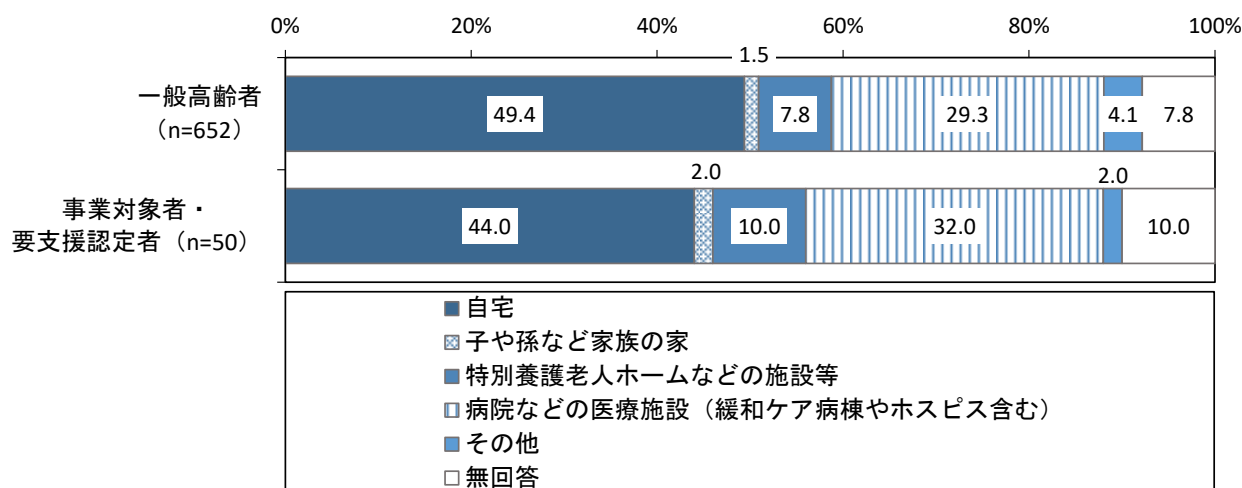
平成29年度調査と比較すると、「自宅」(48.9%)が平成29年度調査(54.3%)よりも5.4ポイント減少しています。

図表 3-10-15 どこで人生の終末を迎えたいか



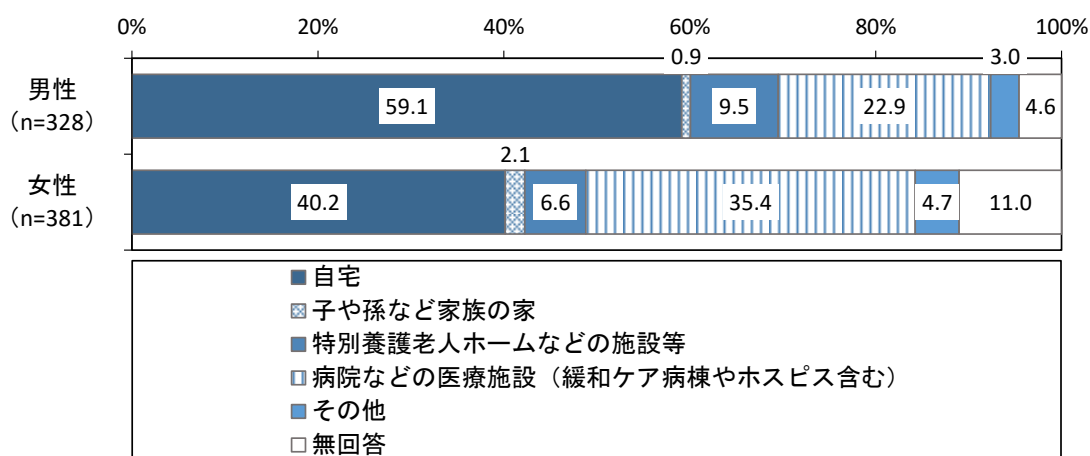
認定状況別でみると、「自宅」では、一般高齢者が49.4%、事業対象者・要支援認定者が44.0%となっています。

図表 3-10-16 どこで人生の終末を迎えたいか 認定状況別



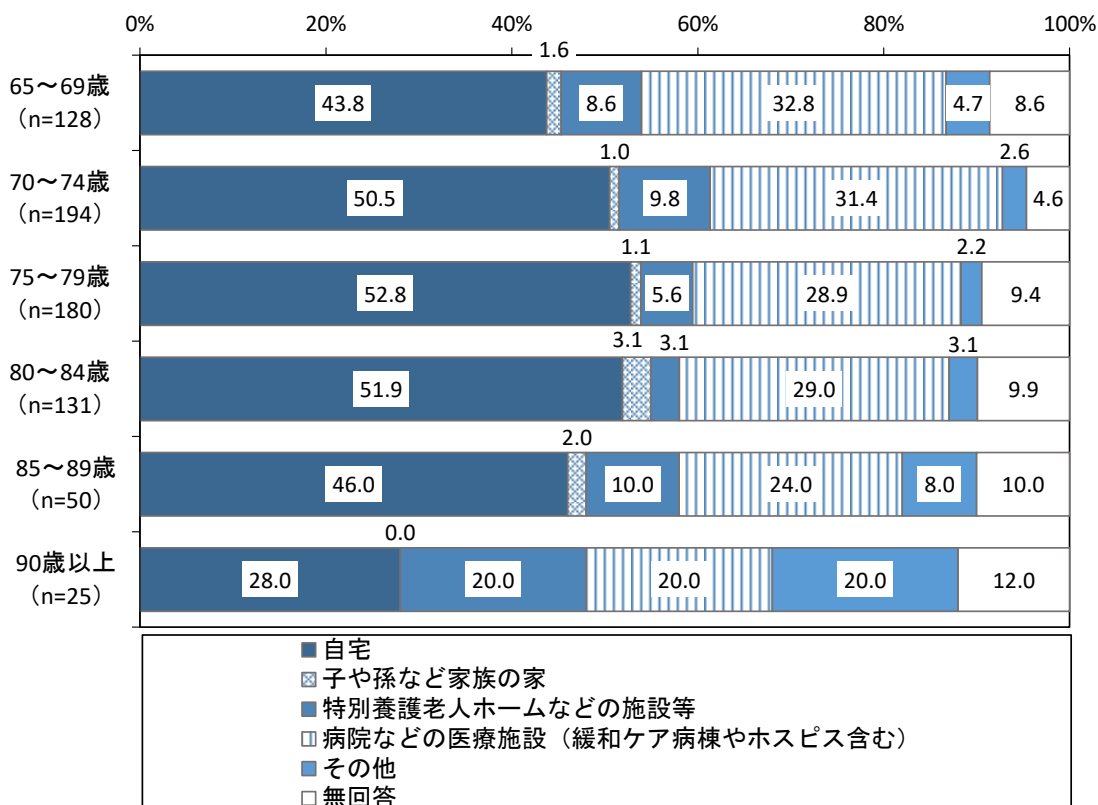
性別でみると、「自宅」では、男性が59.1%、女性が40.2%となっています。

図表 3-10-17 どこで人生の終末を迎えたいか 性別



年齢別でみると、「自宅」では、75～79歳が52.8%で最も高くなっています。

図表 3-10-18 どこで人生の終末を迎えたいか 年齢別

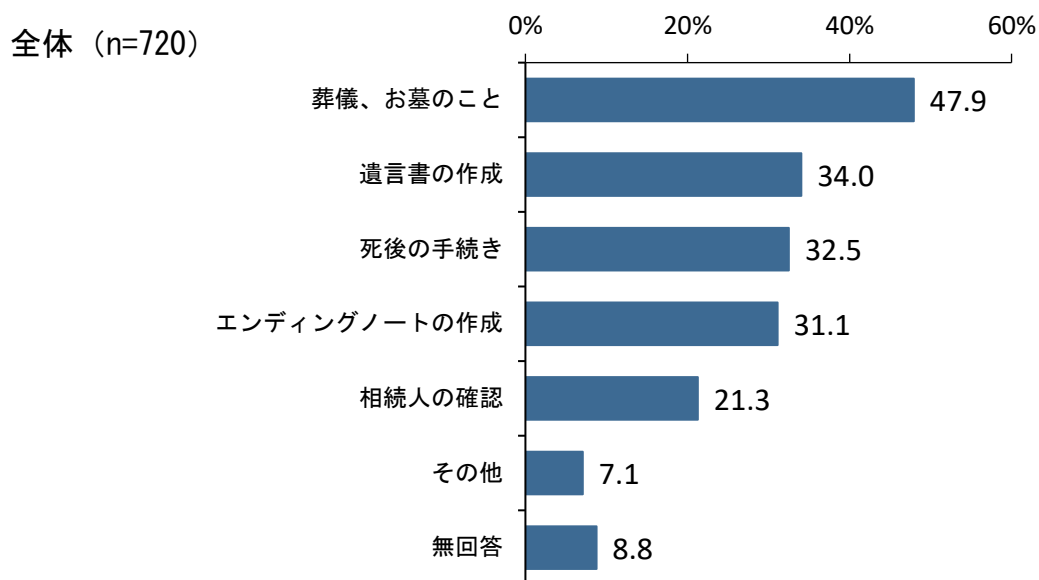


(6) 終活で事前に準備しておく必要があると思うもの

問9 (5)	終活について、どのようなことを事前に準備しておく必要があると思われますか (いくつでも)
--------	---

終活で事前に準備しておく必要があると思うものについては、「葬儀、お墓のこと」が47.9%で最も高く、次いで「遺言書の作成」が34.0%、「死後の手続き」が32.5%と続いています。

図表 3-10-19 終活で事前に準備しておく必要があると思うもの



認定状況別で見ると、一般高齢者では「葬儀、お墓のこと」が48.8%で最も高く、事業対象者・要支援認定者では「葬儀、お墓のこと」、「遺言書の作成」がいずれも40.0%で最も高くなっています。

性別で見ると、男性、女性いずれも「葬儀、お墓のこと」の割合が最も高く、男性では次いで「遺言書の作成」の割合が高く、女性では次いで「エンディングノートの作成」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、65～84歳では「葬儀、お墓のこと」の割合が最も高く、85歳以上では「遺言書の作成」の割合が最も高くなっています。

図表 3-10-20 終活で事前に準備しておく必要があると思うもの 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	葬儀、お墓のこと	遺言書の作成	死後の手続き	エンディングノートの作成	相続人の確認	その他	無回答
全体		720	47.9	34.0	32.5	31.1	21.3	7.1	8.8
別認定	一般高齢者	652	48.8	34.2	33.3	32.4	21.2	7.1	7.7
	事業対象者・要支援認定者	50	40.0	40.0	30.0	22.0	16.0	6.0	18.0
性別	男性	328	47.9	39.3	35.7	26.2	22.9	5.8	6.4
	女性	381	47.8	29.7	30.2	36.0	19.4	7.9	11.0
年齢別	65～69歳	128	53.9	28.9	34.4	38.3	21.9	4.7	3.1
	70～74歳	194	54.1	29.9	35.6	30.4	22.2	7.2	5.7
	75～79歳	180	45.0	33.9	32.8	31.1	22.8	6.7	10.0
	80～84歳	131	42.7	40.5	26.0	30.5	17.6	8.4	12.2
	85～89歳	50	40.0	44.0	32.0	24.0	20.0	8.0	16.0
	90歳以上	25	32.0	48.0	40.0	24.0	16.0	8.0	16.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

第4章 資料

1. 調査票

河合町 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

平素は、河合町の高齢者福祉及び介護保険事業にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本町では、3年に一度「高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の見直しを行い、高齢者福祉施策や介護保険事業の推進に取り組んでおります。

このたび、本町にお住まいの65歳以上の方（要支援1・2の方、事業対象者（介護予防・生活支援サービス事業対象者）、及び、要介護認定を受けていない方）から無作為に選んだ皆様を対象に、現在の心身の状況や、介護保険制度・高齢者福祉サービスに対するお考えをお聞かせいただくため、健康や日常生活に関する調査を実施します。これは、老人福祉法の目的である高齢者の健康の保持と生活の安定のために必要な施策により高齢者の福祉を図り、また、介護保険法の理念に掲げられている「自立支援（単に介護を要する高齢者の身の回りの世話をすることを超えて、高齢者の自立を支援すること）」を目的としています。

調査結果は、令和2年度に策定する「河合町高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画」の基礎資料として活用させていただきます。

本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

河合町 福祉部 高齢福祉課

お問い合わせ
(平日8:30~17:15)

TEL 0745-57-0200
内線188・189

記入に際してのお願い

- ご回答にあたっては封筒のあて名ご本人様にお答えいただきますが、ご家族等が記入される場合は、できる限りご本人様の意向をお聞きの上、記入してください。
また、お一人で回答が難しい場合などは河合町役場高齢福祉課にご相談ください。
- この調査は無記名回答方式ですので、名前を記入いただく必要はありません。また、記入いただいた内容は、すべて統計的に処理し、本調査以外の目的に使用いたしません。
- ご回答にあたっては質問をよく読んでいただき、該当する番号を○で囲んでください。数字を記入する欄は右詰め（例 kg）でご記入ください。
- 選択肢の1つに○をつけてください。「いくつでも」等の表記があれば、その内容にしたがって○をつけてください。
- 調査票記入後は同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、9月30日(水)までに投函してください。また、河合町役場高齢福祉課に直接提出して頂いても構いません。

○以下、記入をお願いします。

記 入 日	令和 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入(あて名のご本人からみた続柄 _____)	
3. その他 (_____)	

○あて名のご本人様の情報 を記入してください(それぞれ1つに○)

○ あて名のご本人様の性別をお答えください。

1. 男	2. 女
------	------

○ あて名のご本人様の年齢をお答えください。

1. 65歳～69歳	2. 70歳～74歳	3. 75歳～79歳
4. 80歳～84歳	5. 85歳～89歳	6. 90歳以上

○ あて名のご本人様の要介護認定の有無をお答えください。

1. 要支援1	2. 要支援2	3. 事業対象者※
4. 認定を受けていない		

※ 事業対象者:介護予防・生活支援サービス事業対象者

○ あて名のご本人様のお住いの地区をお答えください。

1. 池部地区	2. 穴間地区	3. 長楽地区
4. 川合地区	5. 西穴間地区	6. 城内地区
7. 大輪田地区	8. 薬井地区	9. 山坊地区
10. 佐味田地区	11. 泉台地区	12. 星和台地区
13. 広瀬台地区	14. 中山台地区	15. 高塚台地区
16. 久美ヶ丘地区	17. 西山台地区	18. 彩りの杜地区

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください(1つに○)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上) |
| 3. 夫婦2人暮らし(配偶者 64 歳以下) | 4. 息子・娘との2世帯 |
| 5. その他 | |

【(1)において「1. 1人暮らし」以外の方(家族など同居されている方)のみ】

① 日中、一人になることがありますか(1つに○)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. ない |
|---------|----------|-------|

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(1つに○)

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1. 介護・介助は必要ない | 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない |
| 3. 現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む) | |

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

- | | | |
|---|--|--|
| 1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)
<small>のうそっちゅう のうしゅつけつ・のうこうそく
はいきしゅ</small> | 2. 心臓病 | 3. がん(悪性新生物)
<small>にんちしょう</small> |
| 4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等) | 5. 関節の病気(リウマチ等)
<small>とうにようびょう</small> | 6. 認知症(アルツハイマー病等)
<small>じんしつかん</small> |
| 7. パーキンソン病
<small>しかく ちょうかくしやうがい</small> | 8. 糖尿病
<small>こっせつ てんとう</small> | 9. 腎疾患(透析)
<small>せきついそんしょう</small> |
| 10. 視覚・聴覚障害
<small>すいじやく</small> | 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他() | 15. 不明 |

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

② 主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

- | | | |
|----------------|-----------|----------|
| 1. 配偶者(夫・妻) | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他() | |

(3) もし、あなた自身に介護が必要になった場合、あなたはどこで介護を受けたいですか (1つに○)		
1. できるかぎり最後まで、自宅で介護を受けたい	}	(3) - ① へ
2. できるかぎり自宅で介護を受け、最終的には施設等に入所したい		
3. 早めに自宅以外の介護を受けられる施設や住まいに移り、介護を受けたい	}	(4) へ
4. その他 (具体的に: _____)		
【(3) において「1.」「2.」(自宅で介護を受けたい) の方のみ】		
① どのような介護を希望しますか (1つに○) (現在何らかの介護を受けている方は、希望するものを選んでください)		
1. 家族中心に介護を受けたい		
2. 家族の介護と外部の介護サービスを組み合わせて介護を受けたい		
3. 外部の介護サービスを中心に介護を受けたい		
4. その他 (具体的に: _____)		
(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (1つに○)		
1. 持家 (一戸建て) <small>みんかんちんたいじゅうたく</small>	2. 持家 (集合住宅) <small>みんかんちんたいじゅうたく</small>	3. 公営賃貸住宅 <small>こうえいちんたいじゅうたく</small>
4. 民間賃貸住宅 (一戸建て) <small>しやくや</small>	5. 民間賃貸住宅 (集合住宅)	
6. 借家	7. その他	
【(4) において「1. 持家 (一戸建て)」の方のみ】		
① 持家の相続については、次のどれにあたりますか (1つに○)		
1. 相続する者がいる	2. 相続する者がいない	
(5) 年金の種類は次のどれですか (1つに○)		
1. 国民年金	2. 厚生年金 (企業年金あり)	3. 厚生年金 (企業年金なし)
4. 共済年金	5. 無年金	6. その他
(6) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (1つに○)		
1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (1つに○)			
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (1つに○)			
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
(3) 15分位続けて歩いていますか (1つに○)			
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	
(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (1つに○)			
1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない	
(5) 転倒に対する不安は大きいですか (1つに○)			
1. とても不安である	2. やや不安である	3. あまり不安でない	4. 不安でない
(6) 週に1回以上は外出していますか (1つに○)			
1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2～4回	4. 週5回以上
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (1つに○)			
1. とても減っている	2. 減っている		
3. あまり減っていない	4. 減っていない		
(8) 外出を控えていますか (1つに○) (新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛前の状況をご回答ください)			
1. はい	2. いいえ		
【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】			
① 外出を控えている理由は、次のどれですか (いくつでも)			
1. 病気	しょうがい のうそっちゅう こういしょう 2. 障害 (脳卒中の後遺症など)		
3. 足腰などの痛み	4. トイレの心配 (失禁など)		
5. 耳の障害 (聞こえの問題など)	6. 目の障害		
7. 外での楽しみがない	8. 経済的に出られない		
9. 交通手段がない	10. その他 ()		

(9) 外出する際の移動手段は何ですか (いくつでも)		
1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク
4. 自動車 (自分で運転)	5. 自動車 (人に乗せてもらう)	6. 電車
7. 路線バス	8. 病院や施設のバス	9. 車いす
10. 電動車いす (カート)	11. 歩行器・シルバーカー	
12. タクシー	13. その他 ()	

問3	食べることについて				
(1) 身長・体重 (数値を記入)					
身長	<table border="1"> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> cm				
	<table border="1"> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> kg				
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				
(3) お茶や汁物等でむせることがありますか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				
(4) 口の渇きが気になりますか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				
(5) 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日1回以上はしていますか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				
(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (1つに○) (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)					
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし				
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし				
① 噛み合わせは良いですか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				
【(6)で「1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】					
② 毎日入れ歯の手入れをしていますか (1つに○)					
1. はい	2. いいえ				

(7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(8) どなたかと食事をとにする機会がありますか(1つに○)		
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない	

問4	毎日の生活について	
(1) 物忘れが多いと感じますか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(4) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)(1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか(1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6) 自分で食事の用意をしていますか(1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(7) 自分で請求書の支払いをしていますか(1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか(1つに○)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(10) 新聞を読んでいますか(1つに○)		
1. はい	2. いいえ	

(11) 本や雑誌を読んでいますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(12) パソコンや携帯電話、スマートフォンで、インターネットを使っていますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
【(12)で「1. はい」(インターネットを使っている)の方のみ】	
① インターネットで情報収集していますか (携帯電話、スマートフォンを含む) (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
【(12)で「1. はい」(インターネットを使っている)の方のみ】	
② インターネットで情報を発信していますか (携帯電話、スマートフォンを含む) (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(14) 友人の家を訪ねていますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(15) 家族や友人の相談にのっていますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(16) 病人を見舞うことができますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか (1つに○)	
1. はい	2. いいえ
(18) 趣味はありますか (1つに○)	
1. 趣味あり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	
(19) 生きがいがありますか (1つに○)	
1. 生きがいあり	→ (具体的に:)
2. 思いつかない	

(20) 日常生活の中で、助けてほしいことはありますか (いくつでも)			
1. 買い物	2. ゴミ出し	3. 電球の交換	4. 病院の付き添い
5. 布団ほし	6. 重たい物の移動	7. 外出の付き添い	8. 大字での食事会
9. 大字での話し相手	10. 簡単な大工仕事	11. 家電製品の利用方法	
12. 公共、企業からの書類の確認、記載	13. 庭木の手入れ	14. 溝掃除	
15. 自治会活動	16. 特にない		

問5	地域での活動について	
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか (新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛前の状況をご回答ください)		
① ボランティアのグループ (1つに○)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
② スポーツ関係のグループやクラブ (1つに○)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
③ 趣味関係のグループ (1つに○)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
④ 学習・教養サークル (1つに○)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない
⑤ (しゃきっと教室など) 介護予防のための通いの場 (1つに○)		
1. 週4回以上	2. 週2~3回	3. 週1回
4. 月1~3回	5. 年に数回	6. 参加していない

⑥ 老人クラブ（1つに○）			
1. 週4回以上	2. 週2～3回	3. 週1回	
4. 月1～3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
⑦ 町内会・自治会（1つに○）			
1. 週4回以上	2. 週2～3回	3. 週1回	
4. 月1～3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
⑧ 収入のある仕事（1つに○）			
1. 週4回以上	2. 週2～3回	3. 週1回	
4. 月1～3回	5. 年に数回	6. 参加していない	
<p>(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に<u>参加者として</u>参加してみたいと思いますか（1つに○）</p>			
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している
<p>(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に<u>企画・運営（お世話役）として</u>参加してみたいと思いますか（1つに○）</p>			
1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 既に参加している

(4) 参加、利用したことがある事業や知っている事業等があれば○をつけてください。

※① - ⑨それぞれに回答してください

	利用している	知っているが 利用していない	知らないし 利用していない
【記入例】	①	2	3
① 家族介護教室	1	2	3
② 認知症無料相談	1	2	3
③ 認知症サポーター養成講座	1	2	3
④ 介護予防教室（しゃきっと教室）	1	2	3
⑤ いきいきサロン	1	2	3
⑥ 地域包括出前講座	1	2	3
⑦ 福祉有償運送事業	1	2	3
⑧ 配食サービス	1	2	3
⑨ 傾聴ボランティア	1	2	3

問6 たすけあいについて	
あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします	
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)	
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)	
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)	
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない
(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)	
1. 配偶者	2. 同居の子ども
3. 別居の子ども	4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫
5. 近隣	6. 友人
7. その他()	8. そのような人はいない
(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)	
1. 自治会・町内会・老人クラブ	2. 社会福祉協議会・民生委員
3. ケアマネジャー	4. 医師・歯科医師・看護師
5. 地域包括支援センター・市役所	6. その他
7. そのような人はいない	
(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか(1つに○)	
1. 毎日ある	2. 週に何度かある
3. 月に何度かある	4. 年に何度かある
5. ほとんどない	
(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします(1つに○)	
1. 0人(いない)	2. 1~2人
3. 3~5人	4. 6~9人
5. 10人以上	

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (いくつでも)		
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事での同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人	6. ボランティア等の活動での友人
7. その他	8. いない	
(9) あなたが、お手伝いできることはありますか (いくつでも)		
1. 買い物	2. ゴミ出し	3. 電球の交換
4. 通院の付き添い	5. 布団ほし	6. 重たいものの移動
7. 外出の付き添い	8. 大字での食事会	9. 大字でのお話会
10. 自宅での話し相手	11. 簡単な大工仕事	12. 家電製品の利用方法
13. 公共、企業からの書類の確認、記載		
14. 庭木の手入れ	15. 溝掃除	16. 自治会活動
17. その他 ()	18. 特にない	
(10) 地域社会でのお手伝いに参加するとしたら、どういうことができると思いますか (いくつでも)		
1. NPO法人やボランティア団体等を立ち上げ地域社会に貢献できる		
2. NPO法人やボランティア団体等に所属して地域社会に貢献できる		
3. 町が主宰する教室等の運営補助をできる		
4. ご近所同士の関係でお手伝いができる		
5. その他 (具体的に:)		
6. 特にない		
(11) あなたがお手伝いをする際の条件等がありますか (いくつでも)		
1. 報酬 ⇒ (11)-①へ	2. 団体等を設立する際の手続きの補助	
3. 運営ノウハウ等の提供	4. リーダーの派遣	
5. 活動拠点の確保	6. 設立に伴う備品の購入補助	
7. その他 (具体的に:)		
8. 特にない		
【(11)において「1. 報酬」と答えた方のみ】		
①「報酬」はどの程度が妥当だと考えますか (数値を記入)		
1回 (_____ 円) もしくは 月 (_____ 円) 程度		
その他意見 (具体的に:)		
(12) 地域活動の相談窓口である社会福祉協議会をご存じですか (1つに○)		
1. 相談したことがある	2. 知っているが相談したことはない	3. 知らない

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (1つに○)

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

- | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----------|
| とても
不幸 | | | | | | | | | | | とても
幸せ |
| 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | 4点 | 5点 | 6点 | 7点 | 8点 | 9点 | 10点 | |

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (1つに○)

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (1つに○)

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか (1つに○)

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか (1つに○)

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

- | | | |
|----------------------|--------------------------|-------------------|
| 1. ない | 2. 高血圧 | 3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等) |
| 4. 心臓病 | 5. 糖尿病 | 6. 高脂血症 (脂質異常) |
| 7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等) | 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | |
| 9. 腎臓・前立腺の病気 | 10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等) | |
| 11. 外傷 (転倒・骨折等) | 12. がん (悪性新生物) | 13. 血液・免疫の病気 |
| 14. うつ病 | 15. 認知症 (アルツハイマー病等) | 16. パーキンソン病 |
| 17. 目の病気 | 18. 耳の病気 | 19. その他 () |

(8) 健康や病気のことについて気軽に相談できる「かかりつけ医」などがいますか (1つに○)

1. 町内の診療所にかかりつけ医がいる 2. 町外の診療所にかかりつけ医がいる
3. 病院にかかりつけ医がいる 4. いない

(9) かかりつけ薬局はありますか (1つに○)	
1. ある	2. ない
(10) 介護予防についておうかがいします。ご自身が取り組んでみたい項目に○をつけてください。(いくつでも)	
1. 体力・筋力の低下を予防する取り組みをしてみたい	
2. 口腔機能や肺炎予防のための取り組みをしてみたい	
3. 栄養改善と体力改善のための取り組みをしてみたい	
4. 認知症予防のための脳機能を高める取り組みをしてみたい	
5. 仲間づくりをして気の合った友達と楽しく生活したい	
6. 介護保険制度、サービスの利用について知りたい	
7. 自分ができるお手伝いをしたい	

問8	認知症にかかる相談窓口の把握について	
(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (1つに○)		
1. はい	2. いいえ	
(3) 認知症の人が偏見を持って見られる傾向にあると思われませんか (1つに○)		
1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない	5. わからない	
(4) 認知症の人が生活するために地域住民の協力が必要だと思いませんか (1つに○)		
1. 家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う		
2. 家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う		
3. 介護保険を利用すればよいので、必要だと思わない		
4. 家族が支えればよいので、必要だと思わない		
5. その他 (具体的に: _____)		

問9 その他高齢者福祉施策などについて

(1) 高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センター」をご存じですか(1つに○)

1. 相談したことがある 2. 知っているが相談したことはない 3. 知らない

(2) 今後の生活についておうかがいします。今後どこで、どのような生活を望みますか(1つに○)

1. 家族等の介護を受けながら河合町で生活したい 2. 在宅サービスを受けながら河合町で生活したい
3. 特別養護老人ホーム等の施設に入所したい 4. 高齢者サービス付き住宅で生活したい
5. 有料老人ホームに入所したい 6. 小規模の共同生活(20名程度)に入所したい
7. その他(具体的に: _____)

(3) 高齢者の死に立ち会った経験がありますか(1つに○)

1. はい ⇒ (3)-①へ 2. いいえ ⇒ (4)へ

【(3)で「1. はい」とお答えの方のみ】

① 死に立ち会った高齢者はどこで人生の終末を迎えられましたか(いくつでも)

1. 自宅 2. 子や孫など家族の家
3. 特別養護老人ホームなどの施設等 4. 病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)
5. その他(具体的に: _____)

(4) あなたは、どこで人生の終末を迎えたいですか(1つに○)

1. 自宅 2. 子や孫など家族の家
3. 特別養護老人ホームなどの施設等 4. 病院などの医療施設(緩和ケア病棟やホスピス含む)
5. その他(具体的に: _____)

(5) 終活について、どのようなことを事前に準備しておく必要があると思われますか(いくつでも)

1. 遺言書の作成 2. エンディングノートの作成
3. 葬儀、お墓のこと 4. 相続人の確認
5. 死後の手続き
6. その他(具体的に: _____)

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

- ・長時間のご協力ありがとうございました。記入もれがないか、再度お確かめください。
- ・記入した調査票は切り離すことなく、同封した返信用封筒に入れて、**9月30日(水)**までに投函してください
- ・返信用封筒に、この調査票のみを入れてご投函ください

河合町
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書

令和3年3月

発行：河合町役場 福祉部 高齢福祉課

所在地：〒636-8501

奈良県北葛城郡河合町池部1丁目1番1号

電話：0745-57-0200

FAX：0745-58-2010
